

酒々井町総合計画等策定に係る
基礎調査報告書

酒々井町
令和3年3月

目 次

序章 調査の概要	1
I. 町民意識調査	17
II. 地域別・分野別アンケート	29
1. 地域別アンケート	30
2. 分野別アンケート	49
III. 中学生アンケート・懇談会	69
1. 中学生アンケート	70
2. 中学生懇談会	79
IV. 職員意識調査	85
V. 若手職員ワークショップ	129
VI. 議員ヒアリング	143
VII. 外部環境の整理	157
1. 酒々井町を取りまく時代の潮流	158
2. 国・千葉県の動向	162
VIII. 人口フレームの検討	165
IX. 社会指標分析	173

序章 調査の概要

1. 調査の趣旨

令和4年度（2022年度）からスタートする「第6次酒々井町総合計画」「第2期酒々井町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作成するにあたって、各種取組の実施を通して、町の現状と課題を明らかにするとともに、今後の方向性等についても検討を行い、計画等の策定の基礎資料とするもの。

2. 取組の内容

本基礎調査では、酒々井町に関係する個人、事業者、団体などさまざまな層を対象として幅広く意見を聴取するとともに、統計データ等を用いて、酒々井町を取り巻く外部環境・内部環境を、客観的な事実として明らかにする。

意見を聴取する取組としては「町民・町内団体の意見の把握」「職員・議員の意見の把握」があり、具体的には以下のⅠ～Ⅵを行う。一方、客観的な事実を明らかにする取組としては「外部環境の把握」「内部環境の把握」があり、具体的には以下のⅦ～Ⅸを行う。

◇4つの切り口別 基礎調査における取組の内容

○町民・町内団体の意見等の把握

Ⅰ.町民意識調査	○町の現状と課題、将来の方向性等について、町民の意識や考え方の全体的な傾向を統計的手法により把握するためのアンケート調査 【対象】20歳以上の町民2,000人、回答率：48.9% ※詳細は別冊「報告書」あり
Ⅱ.地域別・分野別アンケート	①地域別アンケート ○町内の各地域における現況や課題、その解決策などについて、意見を聴取するためのアンケート調査 【対象】町内各地域の地区長・自治会長：41先、回答率：78.0%
	②分野別アンケート ○各分野で中心的な活動を行っている事業者・団体を対象に、その分野における現況や課題、解決策などについて、意見を聴取するためのアンケート調査 【対象】町内各分野の事業者・団体等：55先、回答率：63.6%
Ⅲ.中学生アンケート・懇談会	①中学生アンケート ○酒々井町の将来を担う中学生の、今後のまちづくりについての全体的な考え方の傾向を把握するためのアンケート調査 【対象】酒々井中学校2年生の全生徒 182名（調査当日出席生徒）
	②中学生懇談会 ○酒々井町の将来を担う中学生の、今後のまちづくりについてのより具体的な意見を詳細に聴取するための町長を囲んでの懇談会 【対象】酒々井中学校 生徒会役員 7名

（注）「Ⅱ」は、当初は懇談会形式にて実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、郵送によるアンケート調査により実施した。

○職員・議員の意見等の把握

IV.職員意識調査	○町職員の課題認識等について把握するためのアンケート調査。町民意識調査の結果との比較も行い、両者の意識の差異も明らかにする 【対象】特別職及び会計年度任用職員を除く一般職の全職員 177名
V.若手職員ワークショップ	○町の若手職員の柔軟な発想によるまちづくりに関する意見を引き出すとともに、町の将来を担う層の町政に関する意識の高揚・育成を図るためのワークショップ 【対象】35歳以下の若手職員 18名
VI.議員ヒアリング	○酒々井町に関して豊かな知見を有する町議会議員から、町の課題や将来の方向性等について、意見をうかがう 【対象】町議会議員 16名

○外部環境の把握

VII.外部環境の整理	○総合計画、総合戦略の策定にあたって、今後の酒々井町に影響を与える「時代の潮流」、及び国、千葉県の方角性について整理
-------------	--

○内部環境の把握

VIII.人口フレームの検討	○過去の人口動向を整理するとともに、その背景について分析を行うあわせて、現在入手できるデータに基づいた仮定の将来推計を行う（令和3年度に国勢調査結果が公表された後に、再度本推計を行う）
IX.社会指標分析	○周辺自治体と比較して、酒々井町がどのような水準にあるのか、各種統計データから客観的に分析（＝酒々井町の強みと課題の明確化）

（注）本報告書のデータ分析においては、四捨五入や按分計算等の処理を行っていることにより、個々のデータの合計の数値と全体の数値、また個々のデータの比率の合計と全体である100%とが一致しない場合がある。

■調査結果のポイントの整理

(1) 健康・福祉分野

取組項目	把握する内容	①子育て支援	②健康づくり	
【データの整理】				
I	町民意識調査 (「順位」は25分野の中の順位、以降同様)	満足度重要度 ・満足度指数：3.10 ・重要度指数：4.01 ○不満度：17位、重要度：8位 ⇒総合優先度：12位	満足度指数：2.98 ・重要度指数：3.93 ○不満度：12位、重要度：12位 ⇒総合優先度：10位	
IV	職員意識調査	達成度 ○達成度指数：3.29 ⇒未達成：12位/25分野	○達成度指数：3.27 ⇒未達成：11位/25分野	
IX	社会指標分析 (近隣10自治体の中での偏差値、以降同様)	強みと課題 ○合計特殊出生率：40.5 ○年少人口比率：47.8 ○人口あたり保育所定員数：41.8	—	
【意見の整理等】				
II	地域別アンケート	課題	○公園が少なく子どもの遊び場所がない ○若い世代が少なく、保育、通学する児童が少ない。すなわち次の世代が少ない	—
		町に期待する取組	○子どもが自由に遊べる広場の整備 ○若いファミリー層が住める環境整備 ○子育て環境の整備に加え、経済的支援を含めた町独自の差別化した対策の実施	—
	分野別アンケート	酒々井町が優れている点	○町が保育所及び学童保育の開所に努めている ○町内の待機児童が少ない	—
		課題と町に期待する取組	○こども園での保護者負担の軽減	○健康増進のための運動の場が不足
III	中学生懇談会	改善してほしいこと ○子どもが遊べる場所を増やして欲しい	—	
V	若手職員ワークショップ	今後5年間で重視すべき取組(◎は特に重視すべき取組) ◎子育て支援施設見学ツアーの実施 ◎出産・子育ていろは講座の開催 ◎曜日ごとのクラブ活動運営 ○保育体制の充実	【子育て支援つづき】 ○待機児童の少なさのPR ○妊婦検診・出産費用補助の拡充 ○保育施設や交友施設等の利用条件のさらなる見直し	
VI	議員ヒアリング	町の課題	○「あいあい」での子育て相談サービス内容の吸い上げ ○切れ目のない子育て支援の実施	○町と県が連携した重層的支援体制確立に向けた取組の実施
		今後5年間で重視すべき取組	○待機児童ゼロの実現 ○子どもが遊べるような施設の充実	—
VII	影響する外部環境の変化(社会環境、住民意識、地方自治、コロナ禍等)	—	—	

③高齢者福祉	④障がい者（児）福祉	⑤医療体制
<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.90 重要度指数：4.15 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.90 重要度指数：3.92 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.83 重要度指数：4.32
○不満度：8位、重要度：3位 ⇒総合優先度：2位	○不満度：7位、重要度：13位 ⇒総合優先度：7位	○不満度：4位、重要度：1位 ⇒総合優先度：1位
○達成度指数：3.36 ⇒未達成：14位／25分野	○達成度指数：3.06 ⇒未達成：5位／25分野	○達成度指数：3.40 ⇒未達成：18位／25分野
○老年人口比率：47.7 ○高齢者単身世帯数比率：52.4 ○老年化指数（年少人口／老年人口）：48.3	—	○人口あたり病院数：34.8 ○人口あたり一般診療所数：41.4 （注）入手可能な2018年データにて算出

○単身・高齢者の増加への対策 ○（町の施策とは別次元での）高齢者の自助による連帯	【高齢者福祉つづき】 ○免許返納以降、買物や通院等が難しくなった。高齢でも家に閉じ籠りたくない	○医療施設が町の中心部に集中 ○かかりつけ医となる医療機関がない ○千葉しやすい病院のほかに、大学病院のような総合病院がもう一つあると良い
○いつでも気軽に高齢者が集まって食事し、ゆっくり出来る場所があると良い ○安心して入れる福祉施設が多くほしい	【高齢者福祉つづき】 ○草刈りなどの行事への支援（高齢者だけでは対応できない）	○地方部への医院の誘致 ○内科や小児科を増やしてほしい ○病院数は増えているが更なるサービスの充実を図って欲しい ○コロナ禍で医療機関への受入体制整備
○各団体が永続的に活動している ○高齢化は進んでいるが、何らかの地域活動に関わる元気な高齢者も多い ○担当課が高齢者を把握しているので相談がしやすい	—	—
○介護予防の活動の場づくりへの協力 ○増加する独居高齢者や老々介護世帯の見守りと生活支援 ○グループホームに対する町の考え方の提示 ○地域福祉活動の拠点となる総合的な施設の設置	○町の特養老人ホームの一部の、障害者用へ施設への転換 ○障がい者向け相談員の増員（担当職員が少ない）	○高齢化に対応した医療体制の充実
—	—	—
—	—	—
○介護施設設置への支援 ○地域包括ケアの充実 ○一人ひとりに応じた高齢者向けサービスの実施	○町全体のバリアフリー化	○在宅医療の充実
○高齢者向け施設・サービスの充実 ○介護への重点投資 ○在宅介護支援の充実	—	○地域医療の充実（開業医の減少対策・かかりつけ医の推進）
○加速する少子高齢化 ○多様性を受容する社会	○多様性を受容する社会	—

(2) 教育・文化分野

取組項目	把握する内容	①生涯学習	②幼児教育	
【データの整理】				
I	町民意識調査	満足度重要度 <ul style="list-style-type: none"> ・満足度指数：3.03 ・重要度指数：3.59 ○不満度：15位、重要度：25位 ⇒総合優先度：24位	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度指数：3.03 ・重要度指数：3.73 ○不満度：18位、重要度：19位 ⇒総合優先度：23位	
IV	職員意識調査	達成度 ○達成度指数：3.43 ⇒未達成：20位/25分野	○達成度指数：3.43 ⇒未達成：19位/25分野	
IX	社会指標分析	強みと課題 ○人口あたり公民館数：48.4 ○人口あたり図書館数：55.1	—	
【意見の整理等】				
II	地域別アンケート	課題	—	—
		町に期待する取組	○図書館の活性化や企画展示の実施 ○生涯学習など高齢者でも参加しやすい講座や環境を整えて欲しい	—
	分野別アンケート	酒々井町が優れている点	○青樹堂、おもてなしカレッジ、自然観察など、社会教育が充実している ○中学生国際交流派遣（ドイツ・オーストラリア）事業がある	—
		課題と町に期待する取組	○ボランティア版しすい青樹堂の開校（ボランティアに関する勉強の場提供） ○生涯学習の場の提供（まちづくりに貢献する人材の育成）	—
III	中学生懇談会	改善してほしいこと	—	—
V	若手職員ワークショップ	今後5年間で重視すべき取組	—	—
VI	議員ヒアリング	町の課題	○酒々井学を通じた郷土愛の醸成	○保育園での教育支援
		今後5年間で重視すべき取組	—	—
VII	影響する外部環境の変化（社会環境、住民意識、地方自治、コロナ禍等）	—	—	○加速する少子高齢化

③学校教育	④スポーツ	⑤文化・芸術
-------	-------	--------

<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.22 重要度指数：3.88 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.88 重要度指数：3.62 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.03 重要度指数：3.65
○不満度：22位、重要度：14位 ⇒総合優先度：21位	○不満度：6位、重要度：23位 ⇒総合優先度：15位	○不満度：20位、重要度：21位 ⇒総合優先度：25位
○達成度指数：3.64 ⇒未達成度：23位/25分野	○達成度指数：3.19 ⇒未達成度：10位/25分野	○達成度指数：3.61 ⇒未達成度：22位/25分野
○人口あたり小学校学級数：37.6 ○人口あたり中学校学級数：53.2	○人口あたり公立社会体育施設数：43.5	○人口あたり公共文化施設数：53.6

—	○気軽に立ち寄って運動できる場の設置	○住民による歴史・文化財の継承
○小中学校へのカウンセラー配属の強化 (子どものケアに加え教員への指導も)	○パークゴルフ等施設が欲しい ○町内にスポーツ施設を建て活性化を	○祇園祭等地域伝統行事への参加の促進 ○本佐倉城跡周辺地域の大型乗用車等の 駐車場整備 ○町内の史跡の調査整備
○iPadが各校で活用されるなど、ICT の環境整備が進みつつある ○グラウンドの改築が行われ、運動に適 した環境が整っている	—	○本佐倉城跡・墨古沢遺跡(ともに国史 跡)の存在 ○旧跡(旧街道、旧河岸、道標など)が 多い
○教育のICT化に向けた早期の環境整 備と授業の実施 ○学校における働き方改革 ○給食センターの作業環境の改善	○町体育館の改修復活	○本佐倉城跡等を活かした観光対策の推 進 ○文化遺産公開施設(資料館)の設置と 学芸員(キュレーター)の配置
○学校の設備を新しくしてほしい	—	—
—	—	◎町の歴史に関する行事の開催
○教育の質の向上のための学校の人員配 置等の検討 ○給食センターの老朽化	○町民体育館の設置	○本佐倉城跡全体の国史跡追加指定
○子育て世代の負担軽減(給食費の無償 化等)	—	—
○加速する少子高齢化	—	—

(3) 生活環境分野

取組項目	把握する内容	①循環型社会・自然保全	②防災・消防	
【データの整理】				
I	町民意識調査	満足度重要度 <ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.21 重要度指数：3.86 ○不満度：21位、重要度：15位 ⇒総合優先度：22位	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.20 重要度指数：4.09 ○不満度：19位、重要度：6位 ⇒総合優先度：11位	
IV	職員意識調査	達成度 ○達成度指数：3.07 ⇒未達成：6位/25分野	○達成度指数：3.32 ⇒未達成：13位/25分野	
IX	社会指標分析	強みと課題 ○人口あたりごみ排出量：53.9 総面積に占める林野面積比率：59.9	○人口あたり出火件数：56.7	
【意見の整理等】				
II	地域別アンケート	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○谷津の手入れが不十分 ○山野が切り開かれ、違法な残土放置で自然が崩壊しつつある ○宗吾車両基地の拡大計画で買収された田は雑草が伸び放題。のどかで豊かな田園風景は失われてしまった ○自然崩壊により野生動物の増加、道路上へのごみのポイ捨てがひどい ○粗大ごみの回収日が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ○土砂災害警戒区域内において町道側面急斜地に亀裂が発生 ○岩橋保育園が水害の危険性が高い
		町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○町ボランティアによる谷津周りの道と湧水の整備の仕組みづくり ○里山の斜面に放置してある廃材の処理 ○お金をかけずに、極力自然を残すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害発生した際のシミュレーションの実施 ○土砂災害警戒区域に密生している巨木の剪定について県印旛土木事務所と協議
	分野別アンケート	酒々井町が優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ○自然環境に恵まれている ○ボランティア活動で街並みをきれいにしようという活動がある 	—
		課題と町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○粗大ゴミ不法投棄防止対策（ネットの配置等への助成金） ○エコミュージアム構想の実現 	○防災に対する定期的な研修会の開催（防災意識の高揚）
III	中学生懇談会	改善してほしいこと	—	—
V	若手職員ワークショップ	今後5年間で重視すべき取組	—	<ul style="list-style-type: none"> ◎自助、共助、公助の取組強化のための講座、訓練の実施 ◎防災知識を学ぶ防災謎解き講座の開催
VI	議員ヒアリング	町の課題	—	<ul style="list-style-type: none"> ○防災計画の改善 ○停電対策
		今後5年間で重視すべき取組	<ul style="list-style-type: none"> ○自然環境を活かしたまちづくり ○残土の違法廃棄対策の強化 	○非常時対策の充実（井戸の設置、家庭のソーラー発電設置への支援）
VII	影響する外部環境の変化（社会環境、住民意識、地方自治、コロナ禍等）	<ul style="list-style-type: none"> ○地球環境問題の深刻化 ○持続可能な社会の実現（SDGs意識の高まり） 	○安全・安心意識の高まり	

③防犯・交通安全	④日常買物利便性（公共交通含む）	⑤通勤通学利便性
<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.97 重要度指数：4.23 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.40 重要度指数：4.11 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.35 重要度指数：3.93
○不満度：11位、重要度：2位 ⇒総合優先度：3位	○不満度：25位、重要度：5位 ⇒総合優先度：16位	○不満度：23位、重要度：11位 ⇒総合優先度：20位
○達成度指数：3.38 ⇒未達成：17位/25分野	○達成度指数：3.48 ⇒未達成：21位/25分野	○達成度指数：3.64 ⇒未達成：24位/25分野
○人口あたり刑法犯認知件数：45.7 ○人口あたり交通事故発生件数：32.7	○人口あたり小売事業所数：64.7	—

○街灯が少なく暗い所が多い ○通学路の安全性に欠ける （実際に歩いて感じてほしい）	○近くにスーパーが無い ○移動スーパーも来ているが車を利用しないと買い物難しい ○高齢者の一人暮らしで、自由に買い物できない ○高齢者が免許返納した後の交通手段	—
○小中学校の通学時の安全対策	○ふれ愛タクシーを増やしてほしい ○ふれ愛タクシーの送迎範囲の拡大 ○タクシー券の配布等、交通弱者対策の充実を図る ○簡単に安い運賃で乗降できるバス、車があると良い	○宗吾参道駅の利便性の向上と乗降客増加についての方策検討（ちびっこ天国跡地の利用を含めて）
○防犯に対する町民危機意識が高い ○町の担当課と防犯団体との連携が良い ○交通安全協会の支部員の活動が活発 ○監視員と担当部署が共同でパトロールしている	○ふれ愛タクシーの存在	○鉄道と国道、高速道路が町内を通過しており、交通の便が良い ○交通のアクセスが良い（電車、道路）
○定期的な防犯活動研修会の実施 ○ボランティア活動手当金の増額 ○防犯活動参加人員の確保のための広報誌への募集広告の掲載 ○振込詐欺対策の強化	○JR、京成酒々井駅周辺の商業集積が十分でない ○高齢者の日常生活のための足の確保（ふれ愛タクシー、循環バスの運行等）	○駅周辺の無料駐車場整備 ○鉄道、高速道路などの交通の利便性を活かした取組
○街灯が少ないため、夜の道が暗くて危険を感じる ○交通事故が起こらないよう事故の防止を心掛けてほしい	—	—
◎見守りパトロールの強化 ◎街灯探索ウォークラリーの開催	○病院受診時用のタクシー利用券の配布	—
○通学路の安全確保	—	—
○防犯カメラの設置 ○防犯活動団体の高齢化への対応	○ふれ愛タクシーの充実	—
○安全・安心意識の高まり	—	—

(4) 都市基盤分野

取組項目	把握する内容	①都市計画・都市基盤	②道路	
【データの整理】				
I	町民意識調査	満足度重要度 <ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.02 重要度指数：3.96 ○不満足：14位、重要度：10位 ⇒総合優先度：9位	満足度指数：2.94 重要度指数：3.96 ○不満足：9位、重要度：4位 ⇒総合優先度：4位	
IV	職員意識調査	達成度 ○達成度指数：3.38 ⇒未達成：16位/25分野	達成度指数：3.37 ⇒未達成：15位/25分野	
IX	社会指標分析	強みと課題 ○人口密度：58.0 ○可住地人口密度：59.6 ○人口あたり新設住宅着工戸数：53.9	—	
【意見の整理等】				
II	地域別アンケート	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○京成酒々井駅周辺地域の活性化 ○JR南酒々井駅付近の整備 ○若い世代の移住を促進する計画の立案や投資がない 	(道路つづき) ○県道につながる箇所への信号の設置 ○国道や県道が交わる道路の渋滞の多さ ○県道の交通量が多すぎて騒音がひどい ○印西市方面⇄国道51号⇄国道296号(酒々井IC)へのスムーズな行き来が出来ない ○JR殿田踏切での車の渋滞や車のすれ違いでのトラブルが多発 ○中央台と東酒々井を結ぶ跨線橋の整備
		町に期待する取組	○駅周辺の区画整理計画等の進捗状況等の住民への説明 ○信頼できるデベロッパー業者のもと、駅付近の開発と並進し宅地開発を推進	○消防署から296号までの町道整備 ○JR殿田踏切部の改善。大型車両の通行止め。補修場所の本舗装工事の実施 ○着手できる所から先行して施工する
	分野別アンケート	酒々井町が優れている点	○住宅地と中心市街地との距離が近い ○立地の割に地価が割安である	—
		課題と町に期待する取組	○調整区域等の有効活用(地区計画や開発許可の補助) ○公的施設の公設民営化の推進 ○町が保有する遊休の建物や空き家等の活用(大学や不動産業者の活用)	○中央台と東酒々井との間の道路の接続
III	中学生懇談会	改善してほしいこと	—	○町内の歩道が狭い ○酒々井小近くの道路には歩道がない ○舗装されていない道路が多いので自転車で乗っていて危なく感じる
V	若手職員ワークショップ	今後5年間で重視すべき取組	◎JR・京成酒々井駅周辺の整備 ○施設誘致(企業、商業施設、学校等) ○複合施設誘致を検討するサークル設置 ○南酒々井駅・宗吾参道駅周辺土地活用	(都市計画・都市基盤つづき) ○活用できていない土地へのマンション等の誘致
VI	議員ヒアリング	町の課題	○JR・京成酒々井駅周辺の開発 ○JR南酒々井駅周辺の開発 ○京成宗吾参道駅周辺の開発 ○ちびっこ天国の活用方法	○中央台と東酒々井地区を結ぶ都市計画道路の整備 ○国道から本佐倉城跡までの道路整備 ○既存の生活道路の整備の推進 ○道路の無電柱化
		今後5年間で重視すべき取組	○中長期的ビジョンの作成 ○生活に必要な施設の設置 ○京成宗吾参道駅前整備の実施 ○遊休地の有効活用(プリミエール酒々井隣接地)	○生活道路の計画的な整備(舗装・維持補修) ○通学路の安全対策 ○県道における右折レーンの設置 ○道路計画への柔軟な発想の取入れ
VII	影響する外部環境の変化(社会環境、住民意識、地方自治、コロナ禍等)	—	—	○地方財政のひっ迫化

③河川・公園	④上下水道	⑤街並み・景観（空き家も含む）
<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.96 重要度指数：3.96 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.38 重要度指数：4.02 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.07 重要度指数：3.83
○不満度：10位、重要度：9位 ⇒総合優先度：6位	○不満度：24位、重要度：7位 ⇒総合優先度：17位	○不満度：16位、重要度：17位 ⇒総合優先度：18位
○達成度指数：3.16 ⇒未達成：8位／25分野	○達成度指数：3.88 ⇒未達成：25位／25分野	○達成度指数：3.17 ⇒未達成：9位／25分野
○人口あたり都市公園数：60.9	○上水道普及率：56.9 ○下水道普及率：60.7	—

<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年の台風や大雨で浸水した住宅があり、河川整備と排水が問題 ○中川の治水対策 ○中川でのごみの堆積 ○印旛沼への排水は中川だけに頼っている。大水の度に心配している ○馬橋川の開運団地から高崎川に至る箇所が未整備。近年多発しているゲリラ豪雨などで家屋の浸水の恐れがある 	○上下水道が、町内全域に整備されていない	○空き家が増えてきており、火災の心配や治安が悪くなっていかないか心配
○河川整備について、一部は改善されているが、肝心の暗渠管は不備のまま。予算を確保し、早急に安心できる状態に	○下水道未整備区域と水道未整備区域の解消	○空き地の有効活用 ○景観のための町による空き家の買い取り（集会所を作ってほしい）
—	○町固有の上水道がある	○町固有の景観がある
○公園にアスレチックや大型遊具の設置を希望	—	—
○公園には、よくゴミが落ちているので、きれいにしてほしい ○空き地や公園にたくさん雑草が生えているので掃除してほしい	—	○犬猫の放し飼いされているのをよく見る。ポスターなどで周知してほしい
—	—	—
○中川の治水対策の早期実現 ○馬橋川の残土問題	○上下水道の普及率100%達成	○空き家対策の推進（空き家バンク、専門部署の設置等）
○中川の治水対策の強化	○上下水道の更なる充実	○空き家対策の官民連携 ○町内の無電柱化
○地方財政のひっ迫化	○地方財政のひっ迫化	—

(5) 産業・経済分野

取組項目	把握する内容	①農業	②商工業
------	--------	-----	------

【データの整理】

I	町民意識調査	満足度重要度	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：3.01 重要度指数：3.67 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.83 重要度指数：3.80
			<ul style="list-style-type: none"> ○不満足：13位、重要度：20位 ⇒総合優先度：19位 	<ul style="list-style-type: none"> ○不満足：2位、重要度：18位 ⇒総合優先度：8位
IV	職員意識調査	達成度	<ul style="list-style-type: none"> ○達成度指数：3.07 ⇒未達成度：7位/25分野 	<ul style="list-style-type: none"> ○達成度指数：2.89 ⇒未達成度：4位/25分野
IX	社会指標分析	強みと課題	○販売農家数あたり農業産出額：38.4	<ul style="list-style-type: none"> ○製造業事業所あたり出荷額：45.9 ○小売業事業所あたり販売額：49.2

【意見の整理等】

II	地域別アンケート	課題	<ul style="list-style-type: none"> ○後継者不足による農地の荒廃 ○農業振興策が不十分 	—
		町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○集団営農対策 ○東酒々井地区での朝市の開催、週末の農産物の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ○飲食店を含む商店街の活性化 ○JR南酒々井駅周辺地域の活用 ○京成酒々井駅前に店舗等が一切ないので、開発してほしい
	分野別アンケート	酒々井町が優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ○担当課の職員の対応が迅速 ○生産技術が向上してきた 	○アウトレットが町内にあること
		課題と町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> ○農産物特産品の開発 ○農業後継者の育成支援 ○遊休農地を活用した取組の推進 ○酒々井町を代表するブランド商品やB級グルメの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業資金融資制度、利子補給制度の改訂（利用しやすい制度に） ○空き店舗対策と事業承継の支援
III	中学生懇談会	改善してほしいこと	—	○他の市町村と比較すると商業施設が少ない。イオンモールなどがあればいい
V	若手職員ワークショップ	今後5年間で重視すべき取組	—	—
VI	議員ヒアリング	町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○小規模農業への支援 ○一年を通して農産物の生育が可能な割に農業振興策が無いように思われる ○後継者不足により、耕作放棄地・荒地が増加 	—
		今後5年間で重視すべき取組	<ul style="list-style-type: none"> ○農業経営体の法人化・組織化の支援 ○特産品開発の推進 ○他自治体との連携による販路の拡大 ○農業のICT化の促進 	—
VII	影響する外部環境の変化（社会環境、住民意識、地方自治、コロナ禍等）		<ul style="list-style-type: none"> ○加速する少子高齢化 ○経済環境の悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ○高度な科学技術の発展 ○経済環境の悪化

③観光	④雇用	⑤起業（企業誘致含む）
<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.87 重要度指数：3.64 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.80 重要度指数：3.86 	<ul style="list-style-type: none"> 満足度指数：2.83 重要度指数：3.60
○不満度：5位、重要度：22位 ⇒総合優先度：13位	○不満度：1位、重要度：16位 ⇒総合優先度：5位	○不満度：3位、重要度：24位 ⇒総合優先度：14位
○達成度指数：2.79 ⇒未達成度：3位/25分野	○達成度指数：2.77 ⇒未達成度：2位/25分野	○達成度指数：2.66 ⇒未達成度：1位/25分野
人口あたり観光入込客数：76.6 人口あたり宿泊客数：45.7	○生産年齢人口比率：48.7 ○人口あたり事業所数：47.9	—

○本佐倉城跡周辺道路の整備	○酒々井町で育った成人の定着を図るための雇用機会の確保	—
○本佐倉周辺の駐車場整備による住民への配慮	—	○アウトレット周辺地域への企業誘致
—	—	○IT活用販路開拓支援事業のように、国の施策を酒々井町のサイズに落とし込み活用する力がある
○会社や個人商店を巻き込んだ観光事業の創設 ○観光対策に専門的に取り組む観光協会の設立 ○文化遺産公開施設の整備	—	○酒々井IC周辺への事業者の呼び込み ○IT活用販路開拓支援事業の継続
—	—	—
—	—	—
○本佐倉城跡整備の推進 ○国史跡墨古沢遺跡の活用 ○古民家の戦略的な活用 ○観光客を町内に呼び込むランドマークの設置	—	○町内の起業支援
○2つの国史跡を活用した観光の推進	—	○墨工業団地への企業誘致 ○酒々井IC周辺への企業誘致 ○印旛郡を商業エリアとする事業者に対する企業誘致
○経済環境の悪化	○新たな社会像・社会的価値観への希求	○高度な科学技術の発展

(6) 地域社会・行財政分野

【データの整理】

項目	町民意識調査	職員意識調査
行財政改革で重要なこと	①デジタル化の推進：35.2% ②歳入確保の取組：32.7% ③人材育成・働き方改革：31.0% (④人件費削減：25.4%)	①組織・職員配置の適正化：42.8% ②デジタル化の推進：39.3% ③人材育成・働き方改革：35.3%
デジタル化で重要なこと	①行政手続きのオンライン化：56.3% ②行政事務の電子化：33.4% ③マイナンバーの活用：28.0%	①行政手続きのオンライン化：72.8% ②行政事務の電子化：56.1% ③教育のデジタル化：25.4%
まちづくり活動等への参加	・参加したい：64.3% ・参加したくない：35.6%	(町民が・・・) ・参加したいと考えている：64.1% ・参加したくないと考えている：35.9%

【意見の整理等】 ～地域別・分野別アンケート、議員ヒアリング、若手職員ワークショップより

	課題	対応策・要望
自治会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進みこれからの自治会の活動が心配 ・自治会活動が低調。住民の高齢化で活力が衰えてきている ・集落ごとに住民の年代差があり、根本的に考え方の違いがある ・外国人が多くなり、町自治会の運営が成り立たなくなりつつある 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会運営維持の支援 ・町民交流の場の充実（施設・機会） ・共助の柱である自治会活動を、住民だけでなく、町が主導する施策啓蒙が必要 ・外国人も含んだこれからの自治体のあり方を考えてほしい
コミュニティ・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事に参加する人数が少ない ・各種ボランティア団体の高齢化により、人的な確保が難しくなっている ・ボランティア対象者を拡大し活動を充実させたいが、予算が少ないため活動に限界がある ・町民やまちづくり団体、自治会等の活用がうまく出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録制度の実施 ・地域住民が楽しく集えるコミュニティの形成
広報・広聴 情報化	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村との連携に課題がある ・まちづくりの将来展望が町民に周知できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で直接町の情勢が分かりづらい。分かるような広報の充実を ・オンライン申請システムの充実 ・多様な情報ツールの整備 ・情報発信専門部署の設置
行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・酒々井町役場の各部署の職員数に歪み ・町が保有する遊休の建物や空き家等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の職務権限が限定的。権限移譲が必要 ・まちづくりにおける民間業者との連携強化 ・国に頼らない自主財源の増加（企業誘致等） ・町が管理・運営を行っている公的施設のうち、民営化可能な施設の民営化を進める ・前年踏襲、現状維持ではなく、時代に合った行政運営を
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村との連携に課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・他自治体とのシステムの共通化 ・JR南酒々井駅前活性化は、線路西側において佐倉市に接していることから佐倉市と協議することも有効

(7) まちづくり全体に関すること

【データの整理】

項目	町民意識調査	職員意識調査・中学生アンケート
酒々井町の住みごころ	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい：61.5% ・どちらともいえない：30.3% ・住みにくい：8.1% 	【中学生】 <ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい：72.4% ・どちらともいえない：21.5% ・住みにくい：6.1%
酒々井町への今後の居住意向 (無回答分は按分済)	<ul style="list-style-type: none"> ・住み続けたい：78.7% ・どちらともいえない：14.1% ・住み続けたくない：7.2% 	【中学生】 <ul style="list-style-type: none"> ・住み続けたい：31.3% ・どちらともいえない：46.7% ・住み続けたくない：22.0%
酒々井町の強み	<ul style="list-style-type: none"> ①鉄道などの利便性：49.2% ②アウトレット：46.6% ③豊かな自然環境：44.3% 	【職員】 <ul style="list-style-type: none"> ①鉄道などの利便性：62.4% ②まちのコンパクトさ：42.2% ③アウトレット：38.7%
将来の酒々井町を あらわすキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ①緑豊かな：42.3% ②便利な：35.9% ③安らぎのある：35.7% 	【職員】 <ul style="list-style-type: none"> ①便利な：40.5% ②緑豊かな：39.3% ③伝統ある：36.4%
将来の酒々井町に 望むイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ①健康づくり・福祉が充実したまち：49.7% ②安全安心・快適なまち：39.1% ③子育てしやすいまち：37.6% 	【職員】 <ul style="list-style-type: none"> ①子育てしやすいまち：48.6% ②安全安心・快適なまち：44.5% ③都市・自然・歴史文化が調和したまち：30.1%
若い世代の定住促進に 必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援施策の充実：66.3% ②働く場の拡充：38.7% ③保育サービスの充実：29.3% 	【職員】 <ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援施策の充実：67.1% ②働く場の拡充：28.9% ③住宅の供給：28.3%
今後のまちづくりの方向性 (無回答は按分済)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増を目指すべき：22.1% ・人口減はやむなし。 ・持続可能なまちづくりを：74.0% ・縮小均衡も許容：4.0% 	【職員】 <ul style="list-style-type: none"> ・人口増を目指すべき：8.7% ・人口減はやむなし。 ・持続可能なまちづくりを：78.0% ・縮小均衡も許容：13.3% 【参考・議員】 <ul style="list-style-type: none"> ・人口維持・増加を：9人(56.3%) ・持続的まちづくりを：7人(43.8%) ・縮小均衡も容認：0人
人口の見通し (仮推計の結果)	○10年後の 2029年 の町の人口は 18,923人 。10年間で1,818人減少する(減少率：8.8%) ○この間、高齢化率は31.8%から33.0%へ上昇する	

【意見の整理等】 ～若手職員ワークショップより

<p>将来都市像 (職員WSでの検討結果)</p>	<p>【Aグループ】 ○「先進的で暮らしやすい 日本一古いまち しすい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に町を発展させ、人を呼び込むためには、先進的で便利である事が必要 ・「日本で一番古いまち」という町の独自色を出し差別化を図り、日本一古い町でありながら先進的という対比を用いた 	<p>【Bグループ】 ○「豊かな日常と未来を大切にすまち ～家族で住んでしすいネ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活を安全、安心に何事もなく穏やかに過ごせることが豊かな日常 ・“子育て”というワードではありきたり → “未来”という単語に想いを込める ・親しみを込めた“しすいネ”
<p>項目</p>	<p>Aグループ</p>	<p>Bグループ</p>
<p>人口対策① (出生率の向上対策)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎子育て世代向けマンションの建設 ◎会社や学校等の施設誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ◎0円で出産できる制度の充実 ◎ママ友のコミュニティづくり (母親同志で話ができるコミュニティの設定) ・子育て手当の拡充 ・妊婦者向けの家事代行サービス(負担軽減)
<p>人口対策② (転入促進対策)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎待機児童の少なさをPR ◎交友スペースの整備 ◎利便性を活かしたコワーキングスペースへの市街地開発 ・出産祝い金の贈呈 ・双子以上への政策 ・子育て家庭への支援充実 ・ベビーシッターや家政婦を格安で提供 ・産婦人科誘致 ・継続的な労働環境の改善を求めている 	<ul style="list-style-type: none"> ◎空き家バンク制度の充実 ◎魅力的な商業施設の誘致 ◎近隣自治体への就職口の斡旋要請 (成田空港関連事業所等) ・起業家への支援 ・土地利用区分における市街化区域化の促進 ・千葉しすい病院との連携による町民サービスの充実

I. 町民意識調査

■ 取組の概要

1. 趣旨

酒々井町の現状と課題、将来の方向性等について、町民の意識や考え方の全体的な傾向、また年齢別、地域別の傾向などを把握するために、多くの町民を対象としたアンケート調査を行う

2. 調査時期 令和2年9月30日～10月20日

3. 調査手法 郵送による配布・回収

4. 調査対象 住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の町民2,000人

5. 回答状況 回答数：978 回答率：48.9%

※設問のうち、特に重要と考えられるものの結果の概要を掲示。詳細は別冊報告書を参照

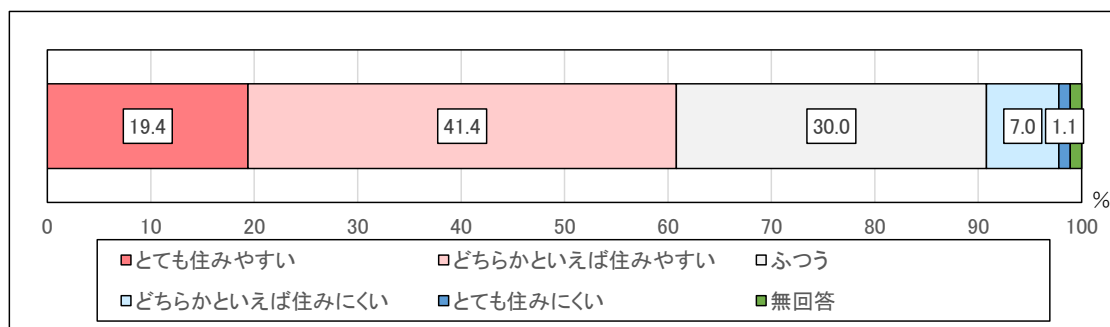
(参考)

- 本文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。
 - ・「SA」(Single Answer)：単一回答形式（選択肢の中から1つを選択してもらう設問）
 - ・「MA」(Multiple Answer)：複数回答形式（選択肢の中から複数を選択してもらう設問）
- 集計結果の比率は、各設問の標本数を100%とした百分比(%)で表示した。原則として小数点第2位を四捨五入してある。その結果として「SA」(単一回答形式)では、この比率の合計が100%にならないこともある。
- 見やすさに配慮するため、本文中のグラフ・表中の選択肢標記の語句の簡略化を行っている。

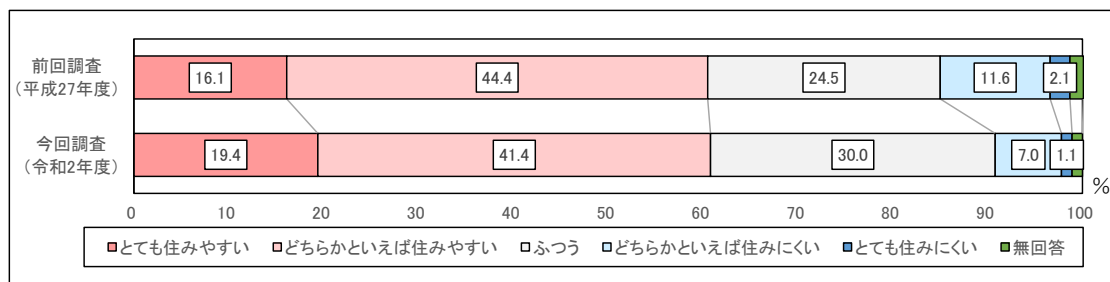
1. 酒々井町の「住みごころ」(SA)

○「住みやすい(「とても」「どちらかといえば」の合計)」の比率は6割を超えており、「住みにくい(同)」の8.1%を大きく上回っている。

○前回調査より「とても住みやすい」の比率が3.3%上昇、「住みにくい(同)」の比率は5.6%低下している。



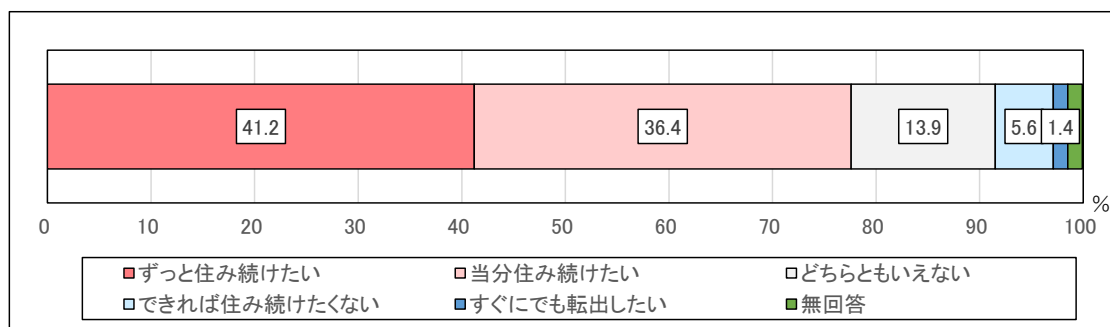
【前回調査との比較】



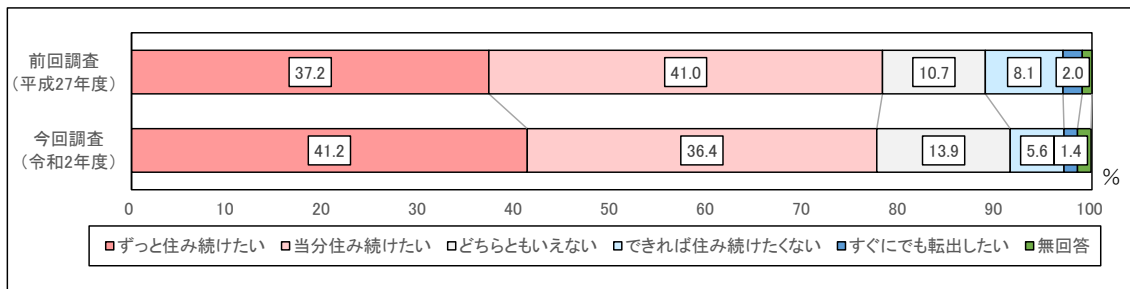
2. 今後の居留意向 (SA)

○「住み続けたい(「ずっと」「当分」の合計)」の比率は77.6%で、前問の「住みやすい」比率より高い。「転出したい(「できれば」「すぐにでも」の合計)」は7.0%にとどまっている。

○前回調査より「ずっと住み続けたい」の比率が4.0%上昇、「転出したい(同)」の比率が3.1%低下している。

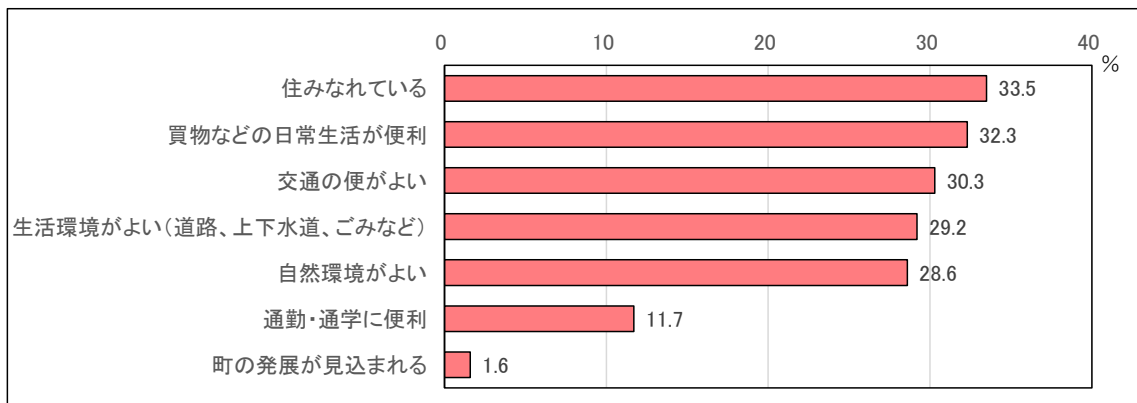


【前回調査との比較】

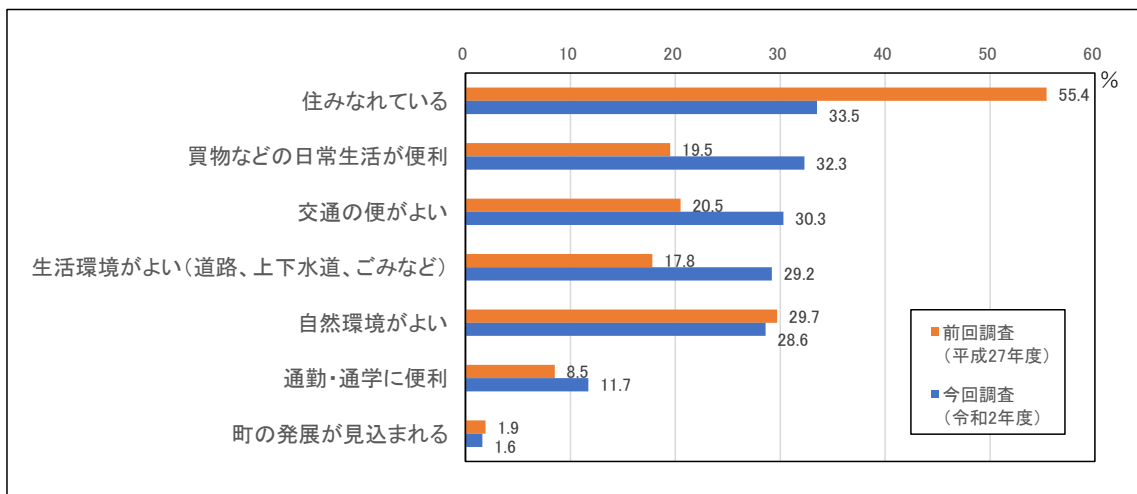


3. 「住みたい」理由 (MA)

- 「住みなれている」「買物などの日常生活が便利」「交通の便がよい」「生活環境がよい」「自然環境がよい」の比率が30%前後でほぼ並んでいる。
- 「住みなれている」との回答は33.5%で前回調査の55.4%から大きく低下。一方で「買物などの日常生活が便利」「交通の便がよい」「生活環境がよい」の比率が大きく上昇した。「住みなれているから」という漠然とした抽象的な理由ではなく、多くの町民が生活環境の利便性など、具体的な項目を認識して「住みたい」と感じようになっていることがわかる。



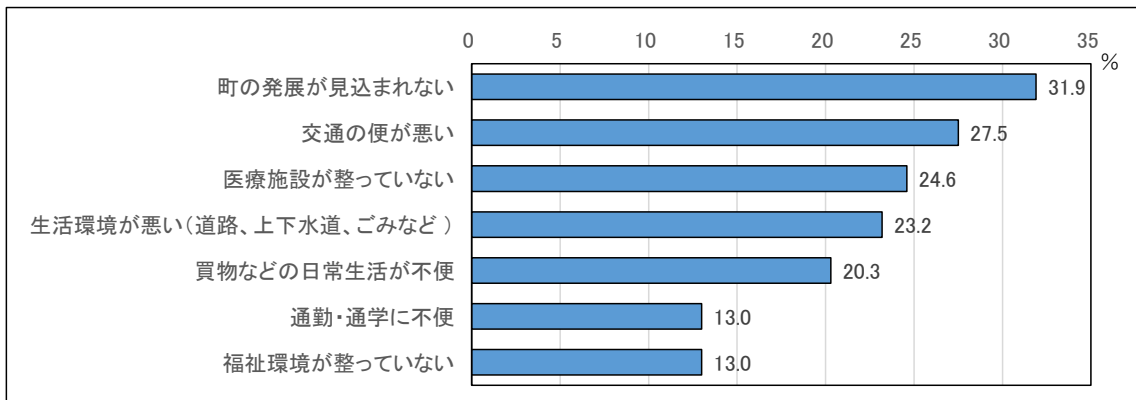
【前回調査との比較】



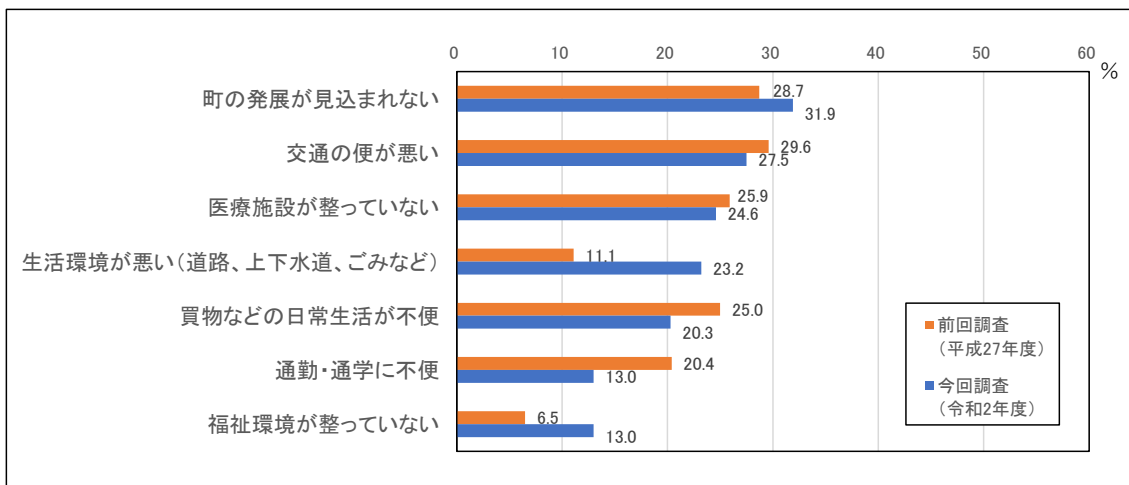
4. 「住み続けたくない」理由（MA）

○「町の発展が見込めない」（31.9%）、「交通の便が悪い」（27.5%）の順で多くなっている。ただし「住み続けたくない」はもともと少数意見（978人中69人、7.0%）であり、最も多い「町の発展が見込まれない」でも、回答者数は22人（母数を978とすると2.2%）である。

○「住み続けたくない」理由を前回調査と比較すると、「町の発展が見込まれない」「生活環境が悪い」「福祉環境が整っていない」などの比率が上昇、「買物等の日常生活が不便」「通勤・通学に不便」などの比率が低下している。

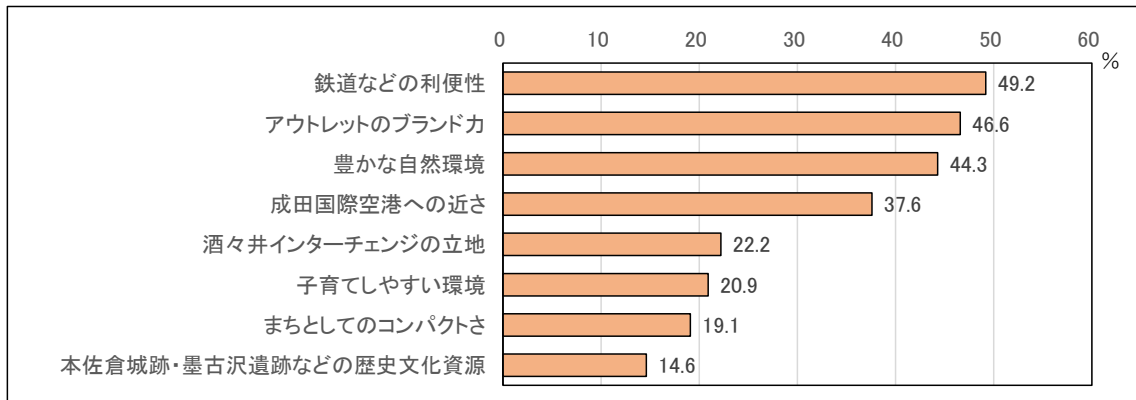


【前回調査との比較】

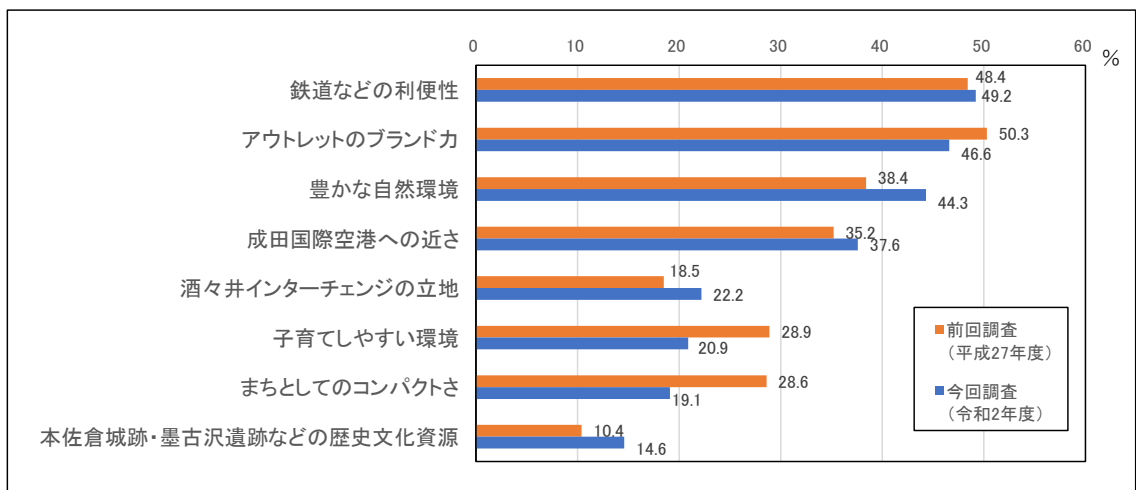


5. 酒々井町の強み（MA）

- 「鉄道などの利便性」「アウトレットのブランド力」「豊かな自然環境」を酒々井町の強みとしてあげる回答が多い。
- 前回調査より「豊かな自然環境」などの比率が上昇し、「子育てしやすい環境」「まちとしてのコンパクトさ」などの比率が低下している。



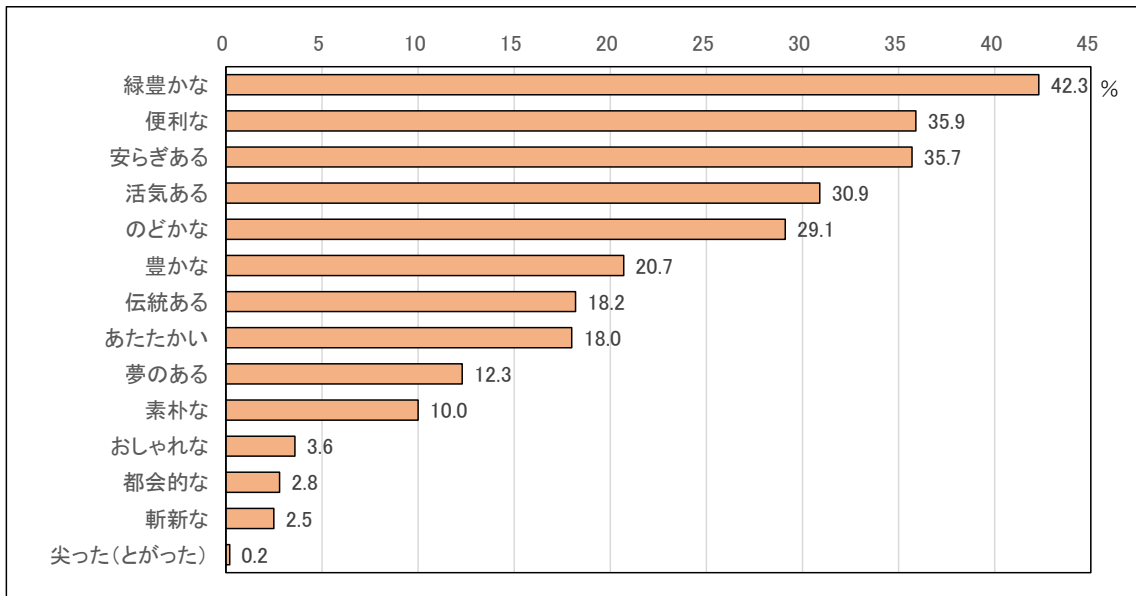
【前回調査との比較】



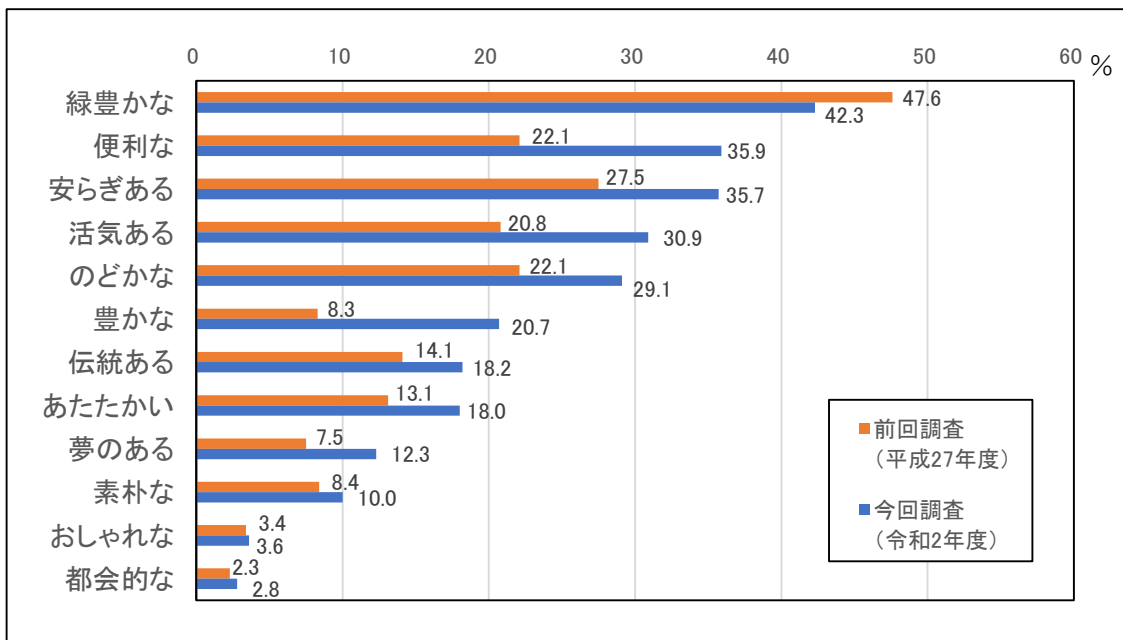
6. 将来の酒々井町をあらわすキーワード（MA）

- 「緑豊かな」が42.3%で最も多く、「便利な」(35.9%)、「安らぎがある」(35.7%)、「活気がある」(30.9%)、「のどかな」(29.1%)の順で多くなっている。
- 「緑豊かな」の比率は前回調査より低下、一方「便利な」「安らぎある」「活気ある」「のどかな」「豊かな」など多くの項目で比率は上昇している。

(注)「斬新な」「尖った」は、今回調査で新たに追加した選択肢

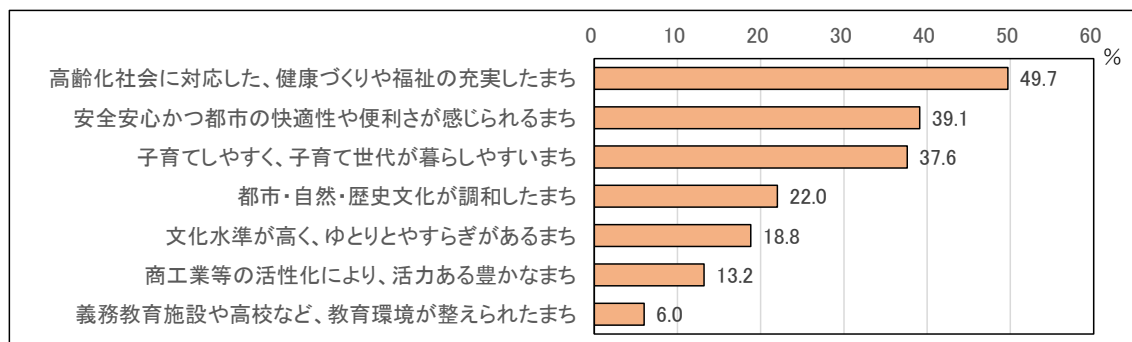


【前回調査との比較】

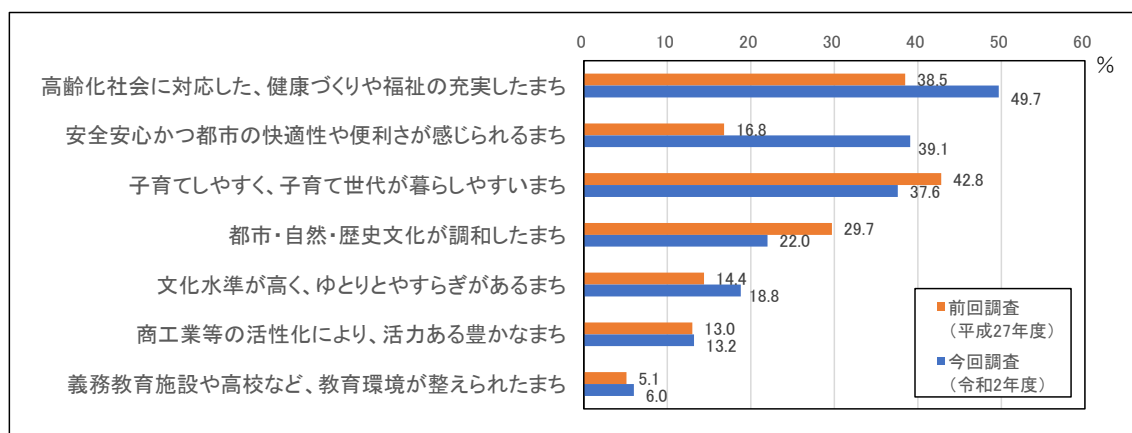


7. 将来の酒々井町に望むイメージ（MA）

- 「健康づくり・福祉の充実」「安全安心・快適性」「子育て重視」の3つの方向性が、将来の方向性として、より強く求められている。
- 「健康づくり・福祉の充実」と「安全安心・快適性」、特に後者の比率が大きく上昇していることが目立つ。



【前回調査との比較】

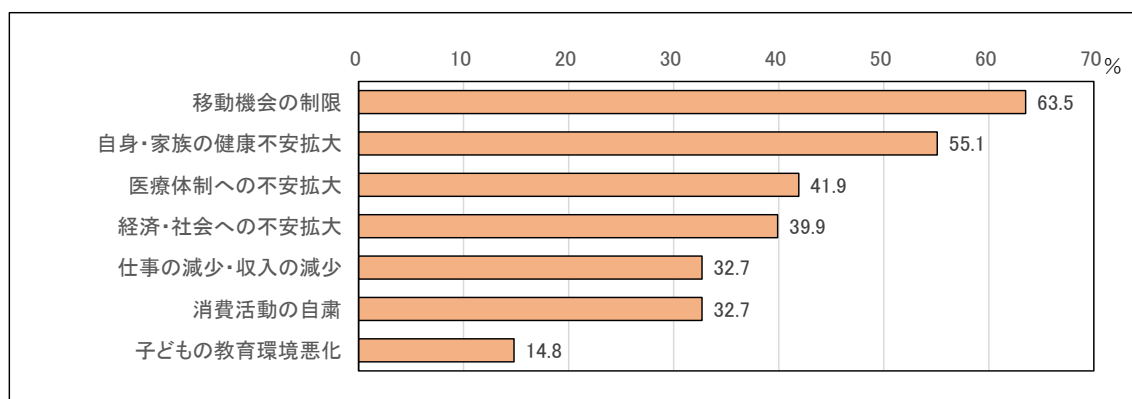
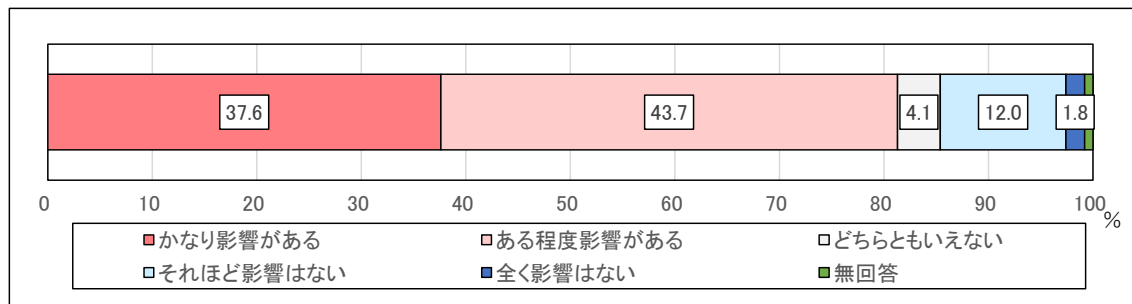


※以下は、今回のアンケートで新たに追加した設問で、前回との比較はない。

8. コロナウイルスによる生活への影響度合いと具体的影響（SA）

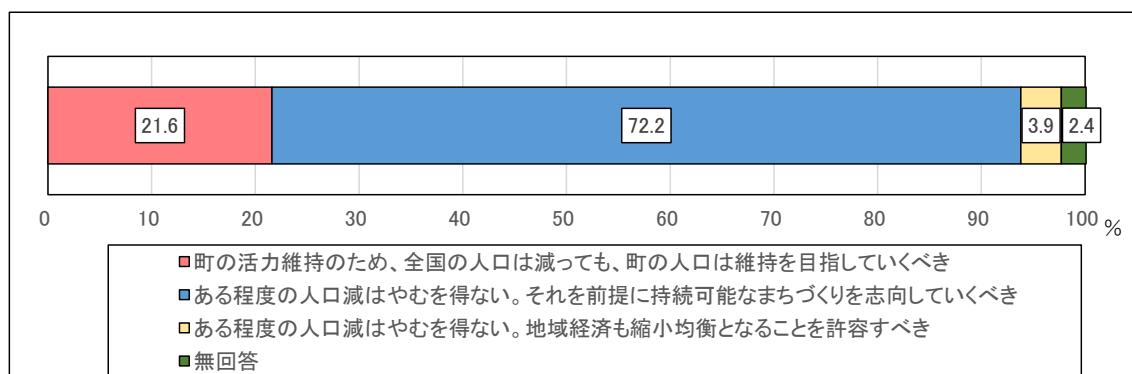
○「かなり」と「ある程度」を合わせて、8割以上が「生活に影響がある」と回答している。

○具体的な影響としては、63.5%が「移動機会の制限」、55.1%が「自身・家族の健康不安拡大」をあげている。



9. 今後のまちづくりの方向性（SA、n=978）

○「ある程度の人口減はやむを得ない。それを前提に持続可能なまちづくりを志向していくべき」が72.2%を占めている。町民は現実的に、人口減少を受け止めようでのまちづくりを望んでいることがわかる。



9. 5分類別・分野別の「重要度」と「満足度」に関する意識 ～優先度の検討材料

・5つの大分類、各分類の個別分野別について、アンケートで回答された町民が考えている「現在における満足度」と「今後の重要度」を、以下の算式により指数化しグラフ上で「見える化」する。

$$\text{○「満足要度指数」} = \text{「満足」} \times 5 + \text{「やや満足」} \times 4 + \text{「どちらともいえない」} \times 3 + \text{「やや不満」} \times 2 + \text{「不満」} \times 1$$

$$\text{○「重要度指数」} = \text{「重要」} \times 5 + \text{「やや重要」} \times 4 + \text{「どちらともいえない」} \times 3 + \text{「あまり重要でない」} \times 2 + \text{「不満」} \times 1$$

・相対的にみて、「満足度が低く、重要度が高い項目」ほど優先度合いが高く、「満足度が高く、重要度が低い項目」ほど優先度合いが低いと考えられる。町の経営資源には限界があることを踏まえて、この結果を取組の優先度合いを考えていくうえでの材料とする。

・ただしこの結果は、町民の意向としての1つのデータであり、社会情勢、町の方針、財政状況など、これ以外の要素も当然考慮していく必要があるといえる。

◇「満足度」「重要度」と「優先度」の考え方

	満足度	重要度	優先度
①	低い	高い	A
②	低い	低い	B
③	高い	高い	B
④	高い	低い	C

◇「5つの大分類」「個別分野」の項目一覧

大分類	1.生活環境	2.福祉・健康づくり	3.教育・文化
個別分野	日常の買い物利便性	子育て環境の整備	小中学校の教育環境の充実
	通勤・通学の交通の便	高齢者福祉サービス	幼稚園の充実
	防災・消防体制の充実	障がい者福祉の充実	スポーツ・レクリエーション環境の充実
	防犯体制の充実	医療体制の充実	生涯学習体制の充実
	自然環境保全・循環型社会実現	健康づくり体制の充実	史跡保存・伝統文化の継承

大分類	4.都市基盤	5.産業経済
個別分野	道路の整備	観光の振興
	市街地の整備	商工業の振興
	上・下水道の整備	農業の振興
	公園・河川の整備	起業環境の整備
	街並み・景観の整備	雇用機会の拡充

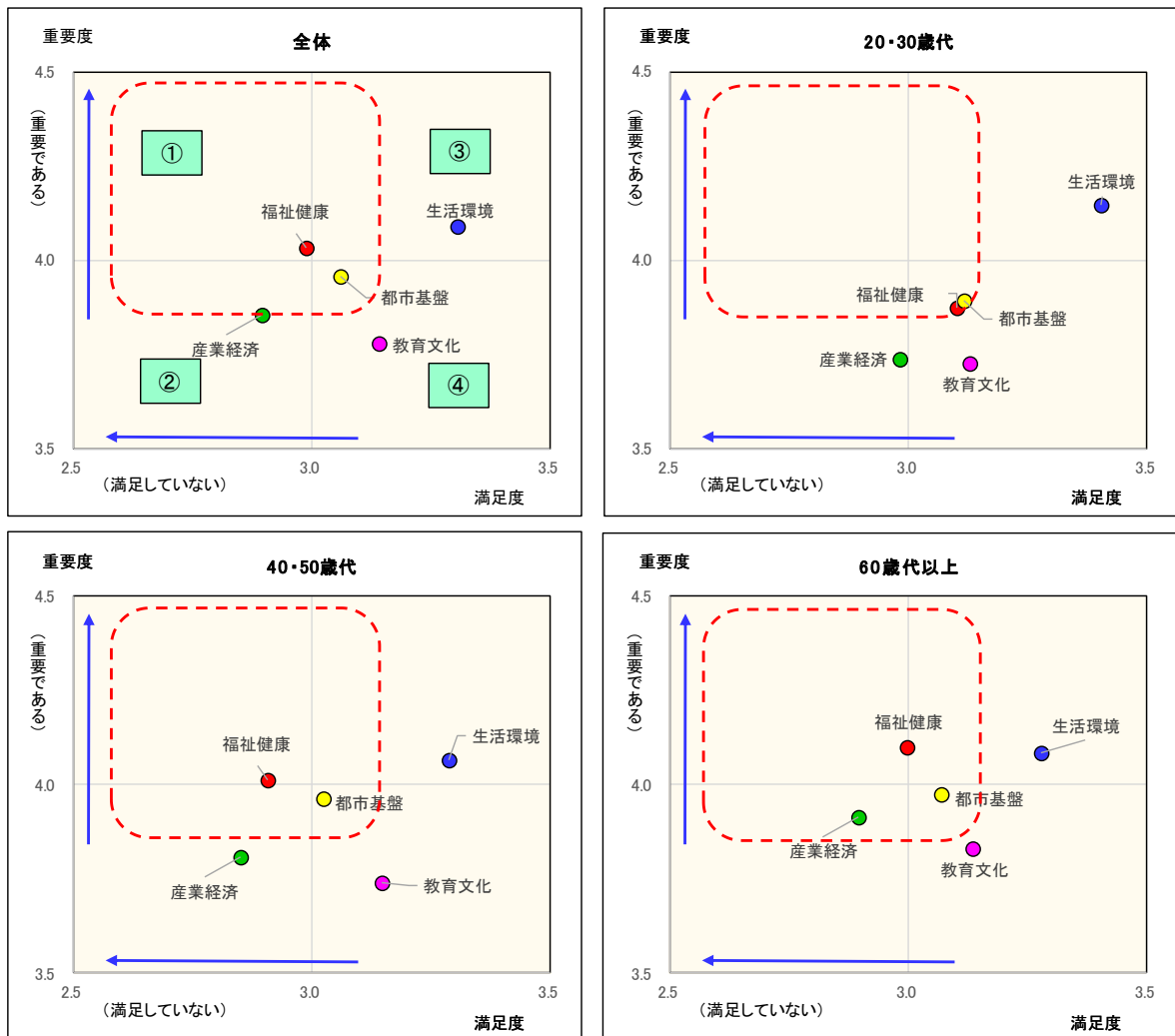
(1) 5分類別

○5つの大分類別では、相対的にみて最も「満足度が高く重要度が高い」（＝優先度が高い）と町民に意識されているのは福祉・健康づくり分類で、都市基盤分類が続く。

○年代別にみると、「福祉・健康づくり分類」は60歳代以上で重要度が高く、40・50歳代で満足度が低いと意識されている。

○なお20・30歳代は、「生活全般分類」をはじめとして、全体的に「不満」とする回答が少ない傾向がみられる。

◇5分類別「満足度」と「重要度」のマトリックス

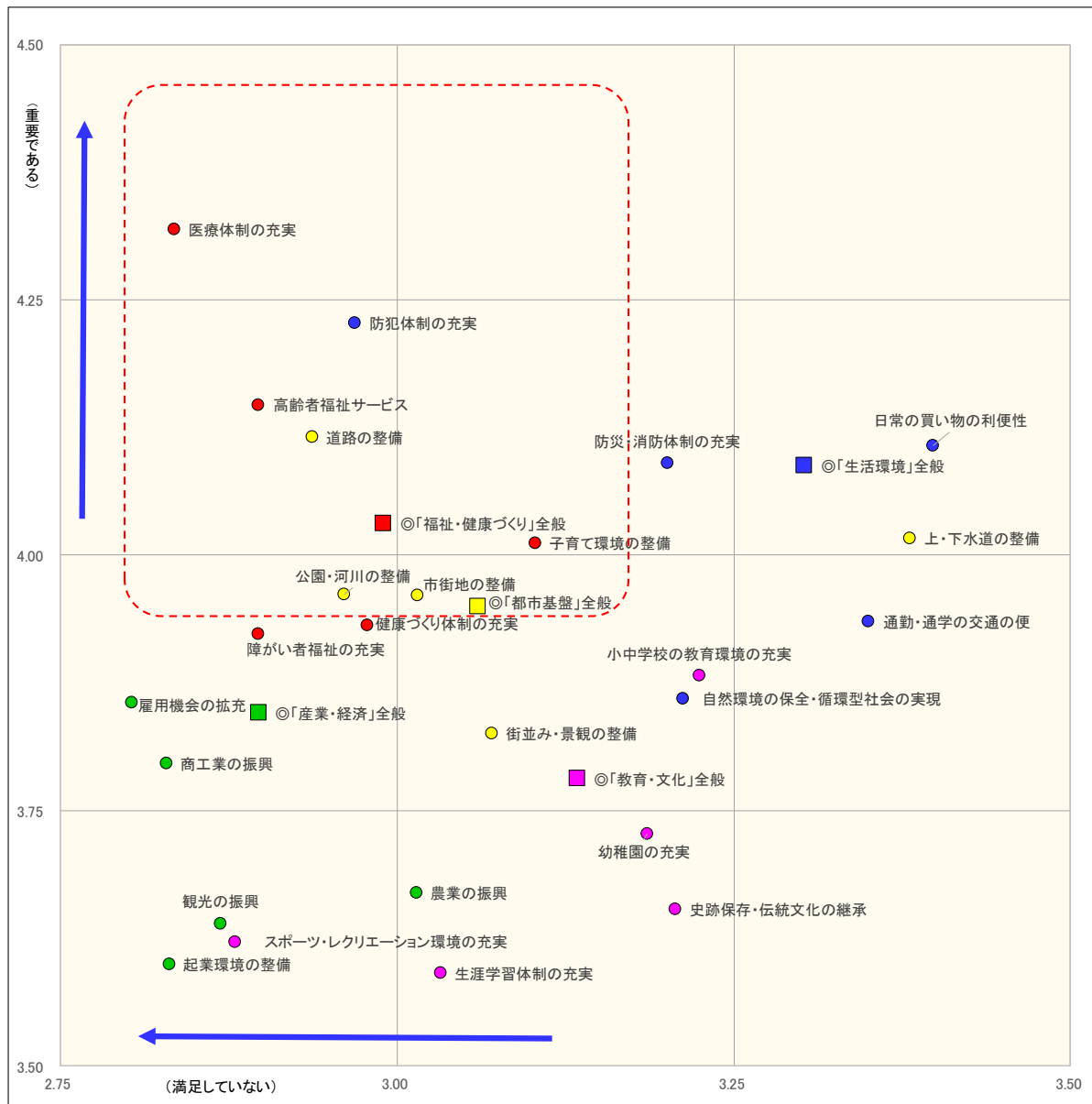


(2) 個別分野別

○ 町民の優先度合いが最も高い分野は「医療体制の充実」。その他では「防犯体制の充実」、「高齢者福祉サービスの充実」、「道路の整備」などの優先度合いが高くなっている。

○ 全体的にみると、赤色の「福祉・健康づくり分類」が、グラフの左上にある傾向がみられる。ピンク色の「教育・文化分類」は、全体的に右下にある傾向がみられるが、これは満足度の視点からみると、町民に満足されていると捉えることができる。

■ 個別分野別 重要度と満足度のマトリックス



◇満足度（不満度）指数、重要度指数、総合指数の一覧

順位	満足度	指数	不満度 順位 (A)	順位 (B)	重要度	指数	順位	総合	A+B
1	日常の買い物の 利便性	3.40	25	1	医療体制の充実	4.32	1	医療体制の充実	5
2	上・下水道の整備	3.38	24	2	防犯体制の充実	4.23	2	高齢者福祉サービス	11
3	通勤・通学の 交通の便	3.35	23	3	高齢者福祉サービス	4.15	3	防犯体制の充実	13
4	小中学校の教育環境 の充実	3.22	22	4	道路の整備	4.12	4	道路の整備	13
5	自然環境保全・循環 型社会実現	3.21	21	5	日常の買い物の 利便性	4.11	5	雇用機会の拡充	17
6	史跡保存・伝統文化 の継承	3.21	20	6	防災・消防体制の 充実	4.09	6	公園・河川の整備	19
7	防災・消防体制の 充実	3.20	19	7	上・下水道の整備	4.02	7	障がい者福祉の充実	20
8	幼稚園の充実	3.19	18	8	子育て環境の整備	4.01	8	商工業の振興	20
9	子育て環境の整備	3.10	17	9	公園・河川の整備	3.96	9	市街地の整備	24
10	街並み・景観の整備	3.07	16	10	市街地の整備	3.96	10	健康づくり体制の 充実	24
11	生涯学習体制の充実	3.03	15	11	通勤・通学の 交通の便	3.93	11	防災・消防体制の 充実	25
12	市街地の整備	3.02	14	12	健康づくり体制の 充実	3.93	12	子育て環境の整備	25
13	農業の振興	3.01	13	13	障がい者福祉の充実	3.92	13	観光の振興	27
14	健康づくり体制の 充実	2.98	12	14	小中学校の教育環境 の充実	3.88	14	起業環境の整備	27
15	防犯体制の充実	2.97	11	15	自然環境保全・循環 型社会実現	3.86	15	スポーツ・レクリエーション 環境の充実	29
16	公園・河川の整備	2.96	10	16	雇用機会の拡充	3.86	16	日常の買い物の 利便性	30
17	道路の整備	2.94	9	17	街並み・景観の整備	3.83	17	上・下水道の整備	31
18	高齢者福祉サービス	2.90	8	18	商工業の振興	3.80	18	街並み・景観の整備	33
19	障がい者福祉の充実	2.90	7	19	幼稚園の充実	3.73	19	農業の振興	33
20	スポーツ・レクリエーション 環境の充実	2.88	6	20	農業の振興	3.67	20	通勤・通学の 交通の便	34
21	観光の振興	2.87	5	21	史跡保存・伝統文化 の継承	3.65	21	小中学校の教育環境 の充実	36
22	医療体制の充実	2.83	4	22	観光の振興	3.64	22	自然環境保全・循環 型社会実現	36
23	起業環境の整備	2.83	3	23	スポーツ・レクリエーション 環境の充実	3.62	23	幼稚園の充実	37
24	商工業の振興	2.83	2	24	起業環境の整備	3.60	24	生涯学習体制の充実	40
25	雇用機会の拡充	2.80	1	25	生涯学習体制の充実	3.59	25	史跡保存・伝統文化 の継承	41

※「総合指数」は「不満度順位」と「重要度順位」の絶対値の合計を順に並べたもの。

Ⅱ. 地域別・分野別アンケート

■取組の概要

1. 趣旨

町内の各地域・各分野における現況やそれぞれの課題、その解決策などについて、対象を限定してアンケート調査を行う

※当初、懇談会形式を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、郵送によるアンケート調査により実施

2. 調査時期 令和2年12月3日～令和3年1月8日

3. 調査手法 郵送による配布・回収

4. 調査対象 【地域別】町内各地域の地区長・自治会長：41先
【分野別】各分野で中心的な活動をしている事業者等：55先

5. 回答状況 【地域別】回答数：32 回答率：78.0%
【分野別】回答数：35 回答率：63.6%

1. 地域別アンケート

【質問項目】

1. 地域であった、最近の5年間で感じている変化（プラス・マイナスの変化）
2. 地域の好きなところ・自慢できるところ
3. 地域の嫌いなところ・改めたいところ
4. 地域・地区で特に課題となっている項目と、その具体的な内容
5. 地域・地区に対し、町に期待する取組
6. その他まちづくりに関する意見

※回答の記入が無かった項目は、記載を省略した。

【回答地区名】

地域	No.	地区名・自治会名
中部	1	酒々井区
	2	上宿地区
	3	下宿地区
	4	新堀地区
	5	下台・横町地区
	6	上本佐倉自治会
	7	本佐倉区
	8	中川区
	9	上岩橋区
	10	上郷自治会
	11	大鷲自治会
	12	トヶ崎自治会
	13	ヘルシータウン酒々井自治会
	14	東しすい2丁目自治会
	15	東しすい4・5丁目自治会
	16	ふじき野一丁目自治会
	17	ふじき野二丁目自治会
	18	中央台1丁目自治会

地域	No.	地区名・自治会名
中部	19	中央台2丁目自治会
	20	県営酒々井中央台自治会
	21	中央台ハイツ自治会
	22	中央台4丁目自治会

地域	No.	地区名・自治会名
北部	1	柏木区
	2	下岩橋区
	3	伊篠区
	4	伊篠新田区
	5	いしの台自治会
	6	伊篠B

地域	No.	地区名・自治会名
南部	1	馬橋区
	2	ネオボリス自治会
	3	墨区
	4	飯積区

(1) 中部地域

①酒々井区

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	・地域内にアパートが建った
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	・周辺地域から見られているように感じる ・火災が心配だ
	・目に緑が飛び込んでくるほど、自然に囲まれている

②上宿地区

3.嫌い/改めたい	・地域内での地域貢献を目的とした自治活動への理解が不足
4.課題	【交通の便】
	・旧道は大型車両規制となっているが、未認可車両の通行が多いように感じる。ガードレールもなく、通学する小学生が事故にあうリスクが高い
5.町に期待する取組	【道路整備】
	・区長として、役場のさまざまな課とやり取りしたが、対応の遅さや、一般企業では考えられないほどの、担当者を除いた最終責任者の無責任さを感じた
	【小中学校の環境】
	・カウンセラーを週に数回は各学校に配属して、子供のケアに加え、教員への指導等も行い、子供達のかかえている問題を共有できるように指導をしてもらいたい
	【その他】
	・集落ごとに住民の年代差があり、根本的な考え方の違いがある。役場にお役所的対応をされると、解決までに時間ばかりかかり、問題解決が遅れる

③下宿地区

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	・新築戸建やアパートが増え、人口が増加している
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	・顔の知らない住民も多くなり不安になっている ・地区内を通る車が多くなったことで、道路はポコポコになった。また道幅が狭いため、車がU字溝の上を走行するので騒音が大きい
3.嫌い/改めたい	・地区内に学校があり、子ども達の声が聞こえてにぎやかで良い ・地区内に史跡があり、散歩コースになっていてうれしい
4.課題	・宅地開発により、のどかな所が次第に減少している
	【交通の便】
	・住民が免許返納した後の交通手段
	【道路整備】
	・雪などが降った日の通学路等除雪などの道路舗装整備 ・県道につながる場所に信号を設置してほしい。朝などは、通行量が多くなかなか出られない

④新堀地区

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・アパートやマンションが建ち、住人が増えた ・酒々井町から一度出て行った次世代の家族も少しずつ戻ってきている
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・住人増加に伴い、ごみの出し方の徹底がされていないなどの問題が出ている ・住民の高齢化が進み、今後の自治会の運営が不安
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り、ボランティアなど皆が参加してくれる ・何十年も住んでいる人ばかりで安心できる
4.課題	【高年齢福祉】
	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の草刈りや清掃など、高齢者の体力的に無理な行事が多く今後どのように実施していくのか
5.町に期待する取組	【防災】
	<ul style="list-style-type: none"> ・規模が大きい台風が発生した際、地区内の高齢者を助けられるか
5.町に期待する取組	【道路の整備】
	<ul style="list-style-type: none"> ・車を手放したあとに知ったことだが、歩くのが危険な道路が多すぎる
5.町に期待する取組	【高年齢福祉】
	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈りなどの行事は、有料でも良いのでシルバー人材派遣センターから派遣もしくは、専門の草刈りスタッフをお願いしたい
5.町に期待する取組	【防災】
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの方や歩けない人を対象に災害が発生した際のシミュレーションをしてもらい、必要に応じ役場からのスタッフをお願いしたい
5.町に期待する取組	【道路の整備】
	<ul style="list-style-type: none"> ・役場の方に実際に歩いてもらい、高齢者が歩くには危険な場所が多いので見てもらいたい

⑤下台・横町地区

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・横町本通りの無電柱化、歩道の整備が進んだ ・栗ノ洲住宅など子育て家族の入居世帯が増えた
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・週末は、横町下台の本通りが酒々井プレミアム・アウトレットに向かう車等で、慢性的な渋滞となっている ・町史跡（地藏堂）の祠が台風で全壊した
2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> ・麻賀多神社、東光寺、地藏堂外史跡の集中した町 ・下台下の八津と芝山街道の自然豊かな景観
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学路としては危険な下台本通り ・国道51号側道の土砂と雑草、ゴミの吹溜りが多い
4.課題	【子育て環境整備】
	<ul style="list-style-type: none"> ・栗ノ洲地区などに子育て世代の入居世帯が増えたため、道路で遊ぶ子供の安全性の確保が必要だ。子どもが自由に遊べる広場の整備等、子育て世代の入居を促す環境の整備がより一層必要だ
4.課題	【自然環境の保全】
	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津は町をとりまく自然環境景観の基本的要素であり、生物多様な環境であるが、農家の人手不足により谷津の手入れが行き届いていない

	<p>【歴史文化の活用の継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町では歴史的な文化材として酒々井宿の街並み整備を進めているが、住民によって活用継承されなければならない。分散している5つの集落による伝統行事の復活を期待したい
5.町に期待する取組	<p>【子育て環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 後追いの環境整備では、新しい入居家族の増加は望めない。子育ての環境の整備にプラスして、経済的支援を含めた町独自の差別化した少子化対策を望む <p>【自然環境の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全是全町の課題であるため、谷津周りの道と湧水の整備を全町ボランティアによる地区の農業者団体と協力し、自然環境の保全に向けた体制を構築してほしい <p>【歴史文化の活用の継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域本通りや街並み整備完成の機会に、祇園祭等地域伝統行事の参加を促し、住民による歴史と伝統文化の継承の動機づけを図ってほしい
6.その他意見	<p>①歴史文化基本構想と景観計画に加え連携構想のエコミュージアム構想（住民団体との協働が前提）の推進には庁内組織を横断的に統轄する町長直轄のコーディネーター（副町長が其の任務だと思うが）が必要だと思う</p> <p>②環境系先端技術開発、ベンチャー企業の積極的な誘致といった、酒々井町で育った成人の定着を図るため雇用機会の確保</p>

⑥上本佐倉自治会

1.最近5年間の変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本佐倉城跡周辺の道路改修 夜間街灯が充実してきた
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通勤時間帯をはじめとした国道296号と同旧街道の交通渋滞の発生
2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> 上本佐倉周辺の商業施設（トライアル等） 道路上にゴミが少ない
4.課題	<p>【医療体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療施設が町の中心地に集中しており、上本佐倉、本佐倉、成城台周辺住民が、身近に医療を受ける状況になっていない <p>【観光の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本佐倉城跡への道路整備により今後交通量が増加すると思われる、住民の生活環境に変化があると思われる
5.町に期待する取組	<p>【医療体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が増加しているため、医院の誘致 <p>【観光の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本佐倉城跡の周辺地域に大型乗用車等の駐車場整備
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 歴史と自然がとても良い本佐倉城跡。買い物を楽しめるアウトレット。1年中親子が楽しめる町、人の交流が出来る町づくりを希望する

⑦本佐倉区

2.好き/自慢できる	・人と人の付き合いが密である
3.嫌い/改めたい	・人と人の付き合いが密である
4.課題	【医療体制の整備】 ・地区の近くに家庭医となるような医療機関がない
6.その他意見	・「第5次酒々井町総合計画」とは？住民からは話題にもなっていません ・行政が何をしようとしているのか我々には伝わって来ません

⑧中川区

1.最近5年間の 変化	【プラス】 ・マンション、アパートが年々増えて戸数が多くなった ・アウトレットにより、京成酒々井駅の乗降客数が増えた
	【マイナス】 ・ゴミや粗大物の不法投棄が多くなった ・深夜などに車や人などの騒音が多い
2.好き/自慢できる	・京成酒々井駅による地域発展が素晴らしい ・歴史ある神社がある
3.嫌い/改めたい	・商店が少ない ・事業所等が少ない
4.課題	【医療体制の整備】 ・病院施設などの医院数の増加とサービスの質向上 【市街地住宅地整備】 ・京成酒々井駅西口、東口周辺が閑散とした状態であり、活性化してほしい 【河川の整備】 ・昨年の台風や大雨で浸水した住宅があり、河川整備と排水が問題
5.町に期待する取組	【医療体制の整備】 ・周辺の病院数は増えているがサービスの充実と向上をさせてほしい 【市街地住宅地整備】 ・駅周辺の区画整理のプランなど計画があると思うが、計画の進捗状況が住民に周知されていない 【河川の整備】 ・昨年の台風や大雨について、町に被害状況を提出しましたが、その後の工事の進み具合がわからない。早急に対応してほしい
6.その他意見	・大規模な災害発生時に対応するために必要な対策を増やしてもらい、早急な対応を地域住民が多く願っている

⑨上岩橋区

1.最近5年間の 変化	【プラス】 ・車や人の往来が増えた ・古い住宅が減って新しい住宅が増えている ・学生用のアパートが増えたためか地域に若者が多いように感じる ・周りにアパートがたくさんできた ・近所に建物やアパートがふえた
----------------	---

	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道が狭いなど、道路状態が悪い ・道路が劣化している ・通学の子供の数が減った ・若者が少ない ・老人が多くなってきた ・地域の高齢化 ・独居老人世帯が増えた ・空き家が増えるなど、世帯数の減少 ・抜け道になる道路があるため、交通量が増えた
2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい ・自然が豊かであること ・水がおいしい ・空気がきれいで夜空もきれいだ ・雑音なし 静かな環境 ・買い物に便利（スーパー、薬局が近くにある） ・印旛沼が近い（筑波山が見える景観） ・獅子舞 ・大鷲神社 ・鉄道や道路等交通の便が良いこと ・私鉄とJRの駅があるので便利
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・中川や道路周辺にごみが多い ・狭い道でも交通量が多い ・道が狭い ・道路や空き地に雑草が生え、管理が行き届いてない ・雨水の排水が悪い
4.課題	<p>【医療体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在「千葉しやすい病院」があるが、大学病院のような総合病院がもう一つあると良い <p>【日常の買物の利便性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らしで車もない為、自由に買い物ができない <p>【交通の便】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道や県道が交わる道路での渋滞の多さ <p>【自然環境の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路脇の草木がやたら多く、草木の手入れが必要 ・京成電鉄による宗吾車両基地の拡大計画が予定されているが、周辺住民への説明がないままに計画が進められようとしている。買収された田んぼは雑草が伸び放題。のどかで豊かな田園風景は失われてしまった <p>【道路の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の凸凹や穴あきがそのままの箇所が多い ・道が狭く車が交差出来ない ・信号のない道路、道がせまい、夜は暗い、国道への通りぬけで朝夕特に車が多い <p>【河川の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨で氾濫する ・住宅地からの生活排水が流れ、田んぼの間に排水路がない ・中川では、ヘドロやごみが川の中に落ち、溜まっている。川を綺麗にしてほしい

	<ul style="list-style-type: none"> ・印旛沼への排水は中川だけに頼っている。大水の度に心配している。緊急の課題として対応すべきだ ・雨水用の川（溝）が民家との間にあり川（溝）の中に根ごと取れない草花があり、ごみがたまってしまう <p>【上下水道の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨の時に雨水が溢れてしまい、民家に流れ込んでしまう。道路の下をぬける土管の点検 ・私の地区には上下水道、ガス等の整備出来てない <p>【地域コミュニティ、自治会組織の破壊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒々井町に限らないが、自治会への入会拒否、退会、役員拒否等、自治会活動あり方そのものが問われている
5.町に期待する取組	<p>【高齢者福祉の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも気軽に老人達が集まって食事し、ゆっくり出来る場所があると良い <p>【子育て環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の市の人が集まっている所について研究をし、良い所を真似して実行してほしい <p>【日常の買物の利便性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれ愛タクシーを増やしてほしい <p>【交通の便】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に安い運賃で乗降できるバス、車があると良い ・印西市方面から成田空港方面への抜け道となっている。印西市方面⇄国道51号⇄国道296号（酒々井IC）へのスムーズな行き来が出来る様にして欲しい <p>【自然環境の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町から京成電鉄に対しての要望～雑草の草刈り等、買収した土地の保管理は、しっかり行って欲しい <p>【道路の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地へ多くの車が進入して来るため、道路の痛みが激しい。もっと修繕を多くして欲しい。でなければバイパス道路を作って欲しい。小中学校への通学路は歩道も狭く、危険が多い ・交差出来る場所を二、三カ所確保・整備する <p>【河川の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氾濫しない様に整備してほしい ・川（溝）が広がったり曲がったりしないような側溝のようなものを作ってほしい <p>【上下水道の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道、ガス等整備を望む <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京成酒々井駅前に店舗等が一切ないので、開発してほしい
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な災害発生時に対応するために必要な対策を増やしてもらい、早急な対応を地域住民が多く願っている

⑩上郷自治会

1.最近5年間の変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによる町道のゴミ拾い活動 <p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒々井ICや酒々井プレミアム・アウトレット行きの交通量の増加 ・町道でゴミのポイ捨てや不法投棄が増加している
------------	---

2.好き/自慢できる	・近所付き合い
3.嫌い/改めたい	・ゴミ捨てのマナー ・常会の出席率が低下している
4.課題	【交通の便】 ・朝と夕方に JR 殿辺田踏切で車の渋滞やすれ違いでのトラブルが多発している。また、大型車両の進入がある 【道路の整備】 ・簡易舗装修理がすぐはがれる。農道に凸凹ができています。すれちがい困難となっている場所の改良 【町の開発計画】 ・町のまちづくり方針が示されない。民間業者動向（ファームジャパン、白鳳建築設計）について行政はノーコメントとなっている
5.町に期待する取組	【交通の便】 ・消防署から国道 296 号までの町道整備 【道路の整備】 ・JR 殿辺田踏切部の改善。幅員が狭いすれちがい困難の場所をなくす。大型車両の通行止め。簡易舗装による補修場所の本舗装工事を進める 【町の開発計画】 ・町のまちづくり方針（構想）の実施。住民、地主への明確な説明会
6.その他意見	・消防署から国道 296 号までの町道は、中学生の通学路となっているが、ごみのポイ捨てが頻発している。防犯カメラも設置しているが、ほかに何か対策できないか。ポイ捨てが頻発している道路を通学する中学生が「こんな大人にはなりたくない」と思ってくれることを祈っている

⑪大鷲自治会

1.最近5年間の 変化	【プラス】 ・アパートや一戸建ての増加 【マイナス】 ・千葉しやすい病院ができたが、小児科等の病院が少ない
2.好き/自慢できる	・スーパー等の店が数件あって便利である
3.嫌い/改めたい	・防犯関係で、街灯が少なく暗い所も多い ・通学路の安全に欠ける（実際に歩いて感じてほしい）
4.課題	・通学路

⑫トヶ崎自治会

1.最近5年間の 変化	【プラス】 ・治水対策に動き出した事 【マイナス】 ・会長を始めとした自治会役員を積極的にする人が減った ・独居老人の増加により、班長もできない老人が増えた
2.好き/自慢できる	・利便性が良い ・交通の便が良い
4.課題	【子育て環境の整備】 ・公園が少なく、子供の遊び場所がない

	<p>【河川の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中川治水対策
5.町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会助成補助金の予算を増やしてほしい。予算が多ければ有効に活用できることが多々ある。防犯灯玉切れ交換時の煩雑な手続きを減らし、即LEDに交換できるようなシステムを作って欲しい。申請後1年なんて、時間がかかり過ぎている

⑬ヘルシータウン酒々井自治会

1.最近5年間の変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近辺の道路が改修され、便利できれいになった
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タウン内の道路の傷みが激しい ・里山の斜面に放置してある廃材にいつも危険を感じている
2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の田園風景が良い ・騒音も少なく静かさが良い
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・となりの空き家が見苦しい ・自治会として集会所が欲しい
4.課題	<p>【高齢者の福祉充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進みパークゴルフ等施設が欲しい
	<p>【防災体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の高齢化が進んだことで、現在の避難所（東京学館）は遠いと思われる
	<p>【タウン内の道路整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の傷みが激しい
5.町に期待する取組	<p>【34号棟の空き家整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何十年も空き家では景観が損なわれる。町が地主から買い取ってもらい、集会所でも作っていただきたい
	<p>【タウン内道路の痛み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・至急、道路の改修をお願いしたい
	<p>【自然環境の保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山の斜面に放置してある廃材の処理を至急お願いしたい

⑭東しすい2丁目自治会

1.最近5年間の変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゾーン30」導入で歩きやすくなった
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゾーン30」導入で路上にポールが立ち、近くの脇道から出にくくなった ・ゴミ箱の清掃管理が不十分
2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> ・静かな住宅街で周りに田園風景が広がっており、住みやすい ・交通の便が良く、移動しやすい
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動が低調である。住民の高齢化で活力が衰えてきている ・住民サービスが特に成田に比べて見劣りする
4.課題	<p>【道路の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央台2丁目と東酒々井5丁目を結ぶJR跨線橋の道路整備
	<p>【歴史伝統文化の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の史跡の調査整備

	<p>【商工業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東酒々井地区（例えばAコープ跡地）での朝市の開催。週末の農産物の販売
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 共助の柱である自治会活動が低調である。自治会不要と思っているが止む無く加入している人が多い。特にアパートの住民については、戸建ての住民との交流がほとんどないので、住民だけでなく町が主導する施策啓蒙が必要と思われる

⑮ 東しすい 4・5 丁目自治会

1.最近5年間 での変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防犯ボックスの設置で、犯罪が減ったように思う
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園の整理について、行政が実施していると思えない程手入れができていない
2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> 治安が良くなっている
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> 郡という名称でなく、市として成り立つような行政改革をしてほしい
4.課題	<p>【子育て環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 若いファミリー層が住めるような環境になってないと思うので、若い世代が住めるような環境整備が必要
	<p>【道路の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道51号線を完全2車線にする事で渋滞緩和につながると思う
	<p>【商工業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトレットの付近にまだ空地があり、他業態の出店を推進する
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナウイルスの影響で行政連絡会議他すべての行事が中止となり、町の情勢が分かりづらい。日常は会社員として東京に出勤しているため、町としてそのような人たちに分かるよう広報を充実してほしい

⑯ ふじき野一丁目自治会

4.課題	<p>【道路】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨が降れば、京成酒々井駅から順天堂大学のキャンパスの前までつづく一本道が水没する。一本道は毎朝混雑する
	<p>【雇用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事がない
	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人宅の植木が電線に絡んでいるのに行政指導をしていない。台風がきたら電線がきれることの重大性をいつになっても認識しない。回覧板で正式な文書として周知して、更に個別で指導する。 上記具体例として、しまむらの横のT字路では、民家から伸びた枝が車やトラックなどにあたって折れて、下にいる人にあたるリスクがある。このようなリスクがあるのに、なぜ放置するのか町としての回答がききたい。法律的に個人には注意出来ないのか
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 設問が面白くない。町民の意見をうけての対応ではなく、町として主体的に改革する気持ちがあるのかどうか。公務員的な仕事では意味がない。それが「地方創生」

⑰ふじき野二丁目自治会

1.最近5年間の での変化	【プラス】
	・酒々井中学校に行く通学路が、一部広く整備された ・防災意識の高まりにより自主防災組織が出来た
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	・千葉しすい病院の診療科目が少ない ・中央台と東酒々井をつなぐ「くすりの福太郎」前の踏切が渋滞するところ
3.嫌い/改めたい	・JR酒々井駅前周辺に食事をする場所などが少ない ・高齢者が運動する場所がない
4.課題	【高齢者福祉の充実】
	・高齢者が運動する施設（スポーツジム） ・気軽に立ち寄って運動できる場所
5.町に期待する取組	【日常の買物の利便性】
	・東酒々井側から酒々井町役場側に行くJRを越す道路の整備
	【市街地・住宅地の整備】
	・公園の草刈りやベンチの設置
	【高齢者福祉の充実】
	・高齢者活動支援センターの充実
	【日常の買物の利便性】
	・路線橋の活用や見直し
	【市街地・住宅地の整備】
	・公園が地域と人をつなぐ場所となるように、住民と一緒に作る公園の整備を期待したい

⑱中央台1丁目自治会

1.最近5年間の での変化	【マイナス】
	・高齢化が進み活気が減ってきた ・子供が少なくなってきた、自治会（子供会）の参加が出来なくなってきた
2.好き/自慢できる	・みんな協力的だ ・子供達が年齢関係なく仲が良い
	・偏った意見を強く言う人が多い ・防犯に対しての設備がない
3.嫌い/改めたい	【子育て環境の整備】
	・親同士の情報共有や助け合い、子供たちが安全に遊べる環境（防犯・時計）
4.課題	【医療体制の整備】
	・内科や小児科（外科）などを増やしてほしい
	【小中学校の環境の充実】
	・コロナなどで学校に行かなくても授業ができる通信環境

⑱中央台 2 丁目自治会

1.最近5年間の での変化	【プラス】 ・千葉しずい病院や、しずいホームクリニックが新設されたこと
4.課題	【自然環境の保全】 ・京成酒々井駅前の楠の大木が切られてしまいがっかりだ。初夏から秋にかけての散歩コースで日射しを遮ってくれて、一息入れるのに格好のスポットでした。また、温暖化防止の観点から貴重な緑はできる限り残すべきでしょう
5.町に期待する取組	【自然環境の保全】 ・楽しい散歩は老人の健康維持・向上につながり、結果として医療費圧縮になると思う。私の場合の楽しみは、四季折々の小さな草花を見ること・秋は虫の声を聞くこと。残念ながら、現状は公園等の緑地の草は時季を問わず、土が露われるほどにショートカットされていて、楽しみはめっきり減ってしまった
6.その他意見	・お金をかける必要はありません。できるだけ自然を残すべき

⑳県営酒々井中央台自治会

5.町に期待する取組	【市街地・住宅地の整備】 ・県営住宅の入居者に外国人が多くなり、町自治会の運営が成り立たなくなり、掲示板や回覧板が役に立たなくなった。例えば、駐車場の白線のぬりかえをしましたが、その件での張り紙が役立たない
6.その他意見	【医療体制の整備】 ・中央台側に個人病院が無い為、高齢者の通院が大変 ・県営住宅の中で役員を各棟から順番に回っているが、外国人も含んだこれからの自治体の有り方を考えてほしい

㉑中央台ハイツ自治会

1.最近5年間の での変化	【プラス】 ・プリミエール酒々井の改修 ・酒々井ICができたこと
2.好き/自慢できる	【マイナス】 ・気候条件が良すぎるためか、農業の活力を感じない ・ホテルやスポーツ施設がない ・田園の四季が感じられるところ ・JRや京成の駅や国・県道・高速インターがあり、交通機関の利便性が高い
3.嫌い/改めたい	・土産物の種類が少ない ・成田空港が近い割に国際色を感じられない。外国人が少ない
4.課題	【河川の整備】 ・氾濫や冠水が多い 【農業の振興】 ・一年を通して農産物の生育が可能な割に農業振興策が無いように思われる。年1回の産業祭だけでは無策のように思う 【その他】 ・岩橋保育園の立地が水害の危険性が高い

5.町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> • 農業の振興、活性化 • 町内にスポーツ施設を建て、住民の活性化。外国人を多く入町させて国際化へ • 図書館の活性化や企画展示の実施。予算をプラスし、飲食を含む商店街の活性化
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> • 交通網にめぐまれた条件、四季を通じての農産物の収穫、成田国際空港が近いなど好条件を備えているのにそれぞれの利点をもっと生かしたまちづくりが出来ないのは日常が平和だからでしょうか

②中央台 4 丁目自治会

1.最近5年間の 変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 静謐であり、犯罪も少ない
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高齢化が進んでいる。66 歳以上 53.32%、80 歳以上 9.8% • 単身世帯が増えている。1 世帯当たり 1.99 人
4.課題	<p>【高齢者福祉の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単身・高齢者の増加に対する対策。現在の町の施策とは別次元での高齢者の自助による連帯について <p>【市街地・住宅地の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自治会役員の担い手が減少している。当自治会では「80 歳以上の会員は役員を免除することができる」との規定があり、80 歳以上の世帯は 1 割となっている

(2) 北部地域

① 柏木区

1.最近5年間 での変化	【マイナス】 ・区民が減った ・交通量が大変多くなった
4.課題	【上下水道の整備】 ・区域全域に整備されていない

② 下岩橋区

1.最近5年間 での変化	【プラス】 ・人口の増加 【マイナス】 ・独居高齢者の増加 ・地縁社会の関係性が希薄化
2.好き/自慢できる	・駅に近い点
4.課題	【防災・防災体制の充実】 ・土砂災害警戒区域内において町道側面急斜地に亀裂が発生（町で確認済） 【上下水道の整備】 ・下水道未整備区域と水道未整備区域の解消 【京成宗吾参道駅のバリアフリー化】 ・高齢化が進む中、京成宗吾参道駅の利用に不便を感じる
5.町に期待する取組	【防災・防災体制の充実】 ・土砂災害警戒区域に密生している巨木の剪定について千葉県印旛土木事務所と協議 【上下水道の整備】 ・感染症等防止の観点から下水道の整備、また京成電鉄軌道東側住宅地への水道敷設の検討（対策を京成と協議） 【京成宗吾参道駅のバリアフリー化】 ・京成電鉄宗吾参道駅の利便性の向上と乗降客増加について方策検討（ちびっこ天国跡地の利用を含めて）

③ 伊籾区

4.課題	【日常の買物の利便性】 ・近くにスーパーが無い 【交通の便】 ・駅まで遠いし、バスなどの公共の乗り物がない 【道路の整備】 ・国道51号を渡るのが大変
------	--

④ 伊籾新田区

1.最近5年間 での変化	【マイナス】 ・車の通行量が多くなった
4.課題	・路肩がガタガタになっている。農耕車両が町内を走るため、バイパス道路の整備が必要

⑤いしの台自治会

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	・駅前がきれいになった ・町中に案内板がついた
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	・いしの台高齢化 ・空き家がある
3.嫌い/改めたい	・歴史の有る町
4.課題	・田、畑が荒れている
	【福祉】 ・高齢者が多くなっている 【都市基盤】 ・道路でヒビや穴が見られる
5.町に期待する取組	・若い人が多く住みやすい町に出来ないか

⑥伊籾B

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	・新家工業や蛭雪学園の外灯が多く明るくなった
2.好き/自慢できる	【マイナス】
	・山が荒れてきている ・宅地造成が進んでいて、新しい住宅が増えることが不安
3.嫌い/改めたい	・四季を感じる自然が多い
	・学園の子供達の元気な声や姿を見ることや、先生達の声かけがうれしい
4.課題	・伊籾B地区は、町内の離れ小島みたいになっている
	・粗大ごみの回収日が少ない
6.その他意見	【高齢者福祉の充実】 ・安心して入れる福祉施設が多くほしい
	【医療体制の整備】 ・コロナ禍で町の受け入れ体制 【自然環境の保全】 ・自然を活かした公園
6.その他意見	・コロナ禍で職員の皆様、御苦労様です。大変ですがこれからも少ない世帯お世話になりますのでよろしく申し上げます

(3) 南部地域

①馬橋区

<p>1.最近5年間の変化</p>	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セブンイレブン馬橋店の開店や移動販売車「とくし丸」の開業により、高齢者の買い物が楽になった ・コンビニが出来て道路が幅広くなった ・地元企業が施設整備やイベント等を行い、地域の活性化が図られている ・南酒々井駅前広場が明るく広くなった ・南酒々井駅前にロータリーが出来、朝晩の交通状態は良くなった <p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化のため若年層が地域を離れるため、地域住民が高齢化している ・耕作放棄地や荒地が目につくようになる。野生動物による被害も増えている ・野良猫が多く、えさを与える人が多くなり衛生面で心配だ ・人が来るが増えたので、車の通行量が多くなり歩行する際の危険が増した ・道路に消火栓が出来てきて大型トラック、自動車を通るたび地響きがひどい ・アウトレットまでの間の歩道が整備されていない ・開運団地北側の再生土搬入に起因する水路閉塞が、平成28年9月に問題発生以降4年を経過するが未だに解決していない ・自動車解体業者のヤードが5箇所あり、自治会で掌握できない状態となっている。防犯上も好ましくない ・空き家が多くなって防災上の心配
<p>2.好き/自慢できる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの共助や繋がりが多少は残っている ・獅子舞等では、地区を出た人も戻ってきており、団結心がすごい ・酒屋があって、駅があって、伝統的な祭があってよい ・豊かな自然環境 ・JR南酒々井駅があること
<p>3.嫌い/改めたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県道（酒々井～成東線）の大カーブ部分は歩道が無く、歩行及び自転車走行に危険、車上からのゴミ投棄が多く美観が悪い ・県道の道路の交通量が多すぎて騒音がひどすぎる ・道路の痛みで振動が大きい ・山野が切り開かれ、違法な残土放置で自然が崩壊しつつある ・自然崩壊により野生動物の増加、道路上へのごみのポイ捨てがひどい
<p>4.課題</p>	<p>【高齢者福祉の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区でも高齢化率が高くなってきており、独居世帯も増えてきている ・自動車免許を返納以降、日常の買い物や通院等が難しくなる。高齢となっても家に閉じ籠りたくない <p>【子育て環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多く、若い世帯が少なく、保育、通学する児童がいない。次の世代がいない <p>【交通の便】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に購買施設、医療施設及び公益施設等が無く、自家用車等が使用出来なければ利用が困難

	<p>【道路の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県道、町道等の歩道が雑草等のため円滑に利用できない ・南酒々井駅から開運団地までの道路はJR用地も入っているため幅員が約3mと狭く問題が多い。南酒々井駅～駅入り口交差点及びネオポリス団地までの道路は狭く歩道もない。樹木が街灯の明かりを塞いでいる <p>【市街地、住宅地の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み若い世帯の移住を促進する計画の立案や投資がない <p>【河川の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬橋川の開運団地から高崎川に至る水の流れが整備されておらず、近年多発しているゲリラ豪雨などで家屋の浸水の恐れがある。昨年には実被害があった。本年度の工事では、肝心の暗良渠管の開通が完全ではないため不安は解消できない ・馬橋川（準用河川）の2回の土砂崩落による増水を体験済、昨今の異常気象多発を思い恒久的構造の河川を望む <p>【農業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多くなり後継者もなく保全もできず、今後さらに荒地化していく。耕作できる人がいない。荒地が増えると犯罪等も多くなる ・後継者がいなく、だんだんと土地が荒れてしまう <p>【商工業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR南酒々井駅付近の整備。ネオポリス住民の利便や駅の有効利用をしていかないのはもったいない <p>【空き家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家も増えてきており、火災の心配や治安が悪くなっていかないか心配 <p>【コロナ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のコロナ対策が、インターネット以外で情報を入手することが出来ない
5.町に期待する取組	<p>【高齢者福祉の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれ愛タクシーの送迎範囲の拡大。生涯学習など高齢者でも参加しやすい講座や環境を整えて欲しい <p>【子育て環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世帯や子供たちが住みたくなるような町づくり地域づくりが必要 <p>【交通の便】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふれ愛タクシー」をより利用しやすくするとともに、タクシー券の配布等、交通弱者対策の充実を図ること <p>【道路の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による整備には限界があり、もっとこまめに管理整備すること ・現在の道路に民地及びJRの道路敷地境界があり、道路整備が難しいと思うが、境界整理・調整から町主導で取り組んで欲しい <p>【市街地、住宅地の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解体業者だけが進出しているが、ちゃんとしたデベロッパー業者の元、駅付近の開発と並進し、宅地開発を推進する <p>【河川の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度において、河川の整備の一部は改善されるが、肝心の暗渠管は不備のままで根本的な改善がされない。補正予算もしくは来年度以降も予算建てをし、早急に安心できる状態にする

	<ul style="list-style-type: none"> ・異常気象が多発しているため、馬橋川（準用河川）を恒久的な河川として買いたい 【農業の振興】 ・農地が荒れていかなないように対策が必要。企業又は集団営農対策が必要と思う 【商工業の振興】 ・JR 南酒々井駅付近に民間業者と町が開発計画や資本投資をする。駅ネオポリス側を整備し、直接ネオポリス住民が駅に降りられる道を作る 【その他】 ・インターネットのほかに、これまでの広報手段に限らない有効な周知方法を総合的に構築すること
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・JR南酒々井駅を活用する ・放置された空き家や耕作放棄地について、地主と有効活用に向けた取り組みを希望する。 ・JR 南酒々井駅前活性化は、線路西側において佐倉市に接していることから佐倉市と協議することも有効だと思う。接する佐倉市の八木地区には、京成電鉄の所有地があり、住宅建設等でJR南酒々井駅の乗降客増員に繋がる ・自然豊かで活気がある又特長のある町を目指して成長していければ最高だと思う ・地域活性化のためには、都市計画も必要ですが、JR南酒々井駅も無人の為、防犯上を考えるとそのまま静かなままで良い

②ネオポリス自治会

2.好き/自慢できる	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に恵まれている
3.嫌い/改めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・夜道が暗く感じる部分
4.課題	<ul style="list-style-type: none"> 【高齢者福祉の充実】 ・近所や地域の方に高齢者が多く、地域の方が利用する施設があると良い 【日常の買物の利便性】 ・移動スーパーも来ているが、買い物へ行くには車を利用しないと難しい 【道路の設備】 ・道路がへこんでいる所がある
5.町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> 【道路の設備】 ・整備してほしい
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響もあり、町内清掃の中止、町内イベントも難しく活動できない年でした

③墨区

1.最近5年間の 変化	【マイナス】 ・交通量（大型車）が多いが、歩道が無い所がある ・不法投棄が多い
2.好き/自慢できる	・豊かな自然
3.嫌い/改めたい	・路上駐車
4.課題	【子育て環境の整備】 ・公園が無い、子供の遊べる広場がない 【日常の買い物の利便性】 ・近くにスーパー等がなく、車で行くしかない 【道路の整備】 ・県道にも歩道が無く危険、雑草樹木がのびて歩きづらい
5.町に期待する取組	・空き地の有効活用 ・実際に歩いてもらい、どんなに危ないか高齢者には歩けない場所が多いので見てもらいたい

④飯積区

1.最近5年間の 変化	【プラス】 ・企業が進出し、活性化している
	【マイナス】 ・交通量の増加
2.好き/自慢できる	・自然が豊かだ
3.嫌い/改めたい	・車なしでは買い物に行けない
4.課題	【道路の整備】 ・地区内の町道の拡幅
5.町に期待する取組	【道路の整備】 ・着手できる所から先行して施工することを期待する
6.その他意見	・正月三が日の午後は、伊豆神社前から飯積橋の方までアウトレットに行く車で渋滞する。この期間駐車場を増設することをお願いしたい

2. 分野別アンケート

【質問項目】

1. 各団体で関わっている分野で最近の5年間で感じている変化（プラス・マイナスの変化）
2. 酒々井町の優れている点
3. 酒々井町の課題点
4. 各団体で関わっている分野で感じている課題と具体的事例
5. 課題に対して町に期待する取組
6. その他まちづくりに関する意見

※回答の記入が無かった項目は、記載を省略した。

【回答団体名】

《商業・工業分野代表者》
酒々井町商工会商業部会
酒々井町商工会青年部
酒々井町商工会女性部
酒々井町商工会事務局
株式会社 エム・アンドビー・フローラ
千葉銀行酒々井支店
京葉銀行酒々井支店

《農業分野代表者》
J A成田市酒々井支所
酒々井町農業委員会
酒々井町農産物等直売組合
酒々井町自然薯生産組合

《教育・文化分野代表者》
酒々井町教育委員会
酒々井町社会教育委員会兼酒々井町生涯学習推進会議
酒々井町青少年相談員連絡協議会
酒々井町文化財審議会
酒々井町文化協会
酒々井町郷土研究会
酒々井町ふるさとガイドの会兼NPO法人輝け酒々井まちづくり研究会
本佐倉城跡管理組合
昭苑こども園保護者会
酒々井町立大室台小学校（酒々井町人権教育推進協議会）

《保健・福祉・医療分野代表者》
酒々井町健康推進協議会
酒々井町民生委員・児童委員協議会
酒々井町人権擁護委員
酒々井町ボランティア協議会
児童養護施設 蛭雪学園
酒々井町手をつなぐ親の会
岩橋保育園保護者会
酒々井町社会福祉協議会
地域包括支援センター

《生活環境分野代表者》
酒々井町不法投棄等監視員連絡協議会
酒々井町消防団
酒々井町上下水道事業運営審議会
しずい防犯パトロール「フルドックス」
佐倉交通安全協会酒々井支部

(1) 商業・工業分野

①酒々井町商工会商業部会

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	・小規模事業者向け補助金の種類が増加している ・酒々井町内での創業が増加している
2.優れている点	【マイナス】
	・消費税の増税 ・インボイス制度の開始が近い
3.町の課題	・酒々井プレミアム・アウトレットが町内にあること ・一部を除き、交通の便が良い ・住宅地と中心市街地との距離が近い
4.分野における課題	・駅周辺の無料駐車場整備 ・中央台と東酒々井との接続道が現状1か所のみとなっている ・移住者向けの補助金
5.町に期待する取組	【駅周辺の無料駐車場整備】
	・車を停める際、駅周辺には有料駐車場しかなく、店舗によっては路上駐車をよく見る
6.その他意見	【中央台と東酒々井との接続】
	・両地域はJR酒々井駅をはさみ、接続する道が「くすりの福太郎」付近のみとなっている
5.町に期待する取組	【移住者向けの補助金】
	・移住者向けの補助金がないために、町への移住促進力が弱い
5.町に期待する取組	【駅周辺の無料駐車場整備】
	・町で駐車場を整備することを期待する ・基本は有料として、周辺協力店舗に無料券を配布して買い物客の利便性を高める
5.町に期待する取組	【中央台と東酒々井との接続】
	・現在歩道橋として活用している部分を、道路として使用するための再検討を期待する
5.町に期待する取組	【移住者向けの補助金】
	・町内の移住者が増えることで商業活動が活性化することが予測される。また、新築需要やリフォーム需要を期待できるため、町内の景気に好循環が生まれると考える
6.その他意見	・商業の活性化には、住民の増加と中心市街地の回遊性向上が必須。町外からお客様を迎えるにあたって、回遊性の向上は重要と考えている

②酒々井町商工会青年部

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	・小規模事業者持続化補助金等の比較的利用しやすい補助金の増加
2.優れている点	【マイナス】
	・消費税の増税 ・台風等の自然災害の増加
3.町の課題	・酒々井プレミアム・アウトレットの存在 ・交通の便（鉄道、国道、高速道路）
	・本佐倉城跡等を活かした観光対策 ・JR酒々井駅、京成酒々井駅周辺の商業集積

4.分野における課題	<p>【本佐倉城跡等を活かした観光対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本佐倉城跡までの道路整備は少しずつ進んでいるようだが、本佐倉城跡が「行ってみたい」と思われる場所になっているか疑問 <p>【JR、京成酒々井駅周辺の商業集積】</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトレット利用者の市街地への誘導がうまくいっていない。魅力的な市街地の形成が必要
5.町に期待する取組	<p>【本佐倉城跡等を活かした観光対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光対策に専門的に取り組む「観光協会」の設立を検討してはどうか <p>【JR、京成酒々井駅周辺の商業集積】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さな店舗が点在しているだけでは、市街地の活性化は難しい。人を呼び込むには商業施設を誘致し、そこに地元の事業者（または創業者）が優先的に出店できるような仕組みを作る
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 青年部では、教育委員会と「キャリア教育事業」を行っており、子どもたちの仕事観の醸成に寄与していると自負している。その子どもたちが、将来「酒々井で創業したい」と思えるまちづくりを期待している

③酒々井町商工会女性部

1.最近5年間の変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅を営業店舗としない店舗が増加している 若年層の事業者が酒々井町に進出してきている
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> 町内が静かで穏やかである
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> 集客拠点が小規模で点在しているため、中途半端である 酒々井町には人を呼び込むための資源が不足している
4.分野における課題	<p>【通信販売】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の名産をPRするだけでなく、商工会が通信販売で売っていく時代となっている <p>【運送業界】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信販売を支える物流が課題
5.町に期待する取組	<p>【運送業界】</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒々井ICがあるので、プラットフォーム・サテライト・デポ等を作って業者を呼び込む
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器が顧客にとって身近なものとなっている。顧客から「説明に来なくていい」、「品物を見なくていい」という声が多くなっており、今後、商店が生き残る道はあるのかと感じている

④酒々井町商工会事務局

1.最近5年間の変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町が産業競争力強化法に関わる創業支援事業の認定を受けたこと 酒々井町産業振興基本条例が制定されたこと
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒々井町の事業主が高齢化しており、廃業が多くなっている 消費税の増税とインボイス制度
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> 酒々井プレミアム・アウトレットが町内にあること 町内に駅4つ、国道2つ、酒々井ICがあり、交通の利便性が良い IT活用販路開拓支援事業のように、国の施策を酒々井町のサイズに落とし込み、活用する力がある

3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業資金融資の運用等が課題 ・まるごとしすいの特産品開発の支援 ・移住促進に関すること（生産年齢人口の増加）
4.分野における課題	<p>【酒々井町中小企業資金融資条例及び利子補給条例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のHPに本資金を案内するページが見つけれない ・申し込みに至る流れがわからず、利用しにくい <p>【IT活用販路開拓支援事業の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年以降の実施が未定である ・創業支援の一翼を担っており、現在申請中の経営発達支援計画（令和3年～令和7年）が承認されない場合、本事業がなければ創業支援の実施が困難となる <p>【空き店舗対策と事業承継】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地への来町者誘導やコンパクトシティ実現のために空き店舗対策は必須といえるが、町にそのような施策がないように感じる ・町のHPに紹介されている事業承継が、酒々井町独自の内容ではない
5.町に期待する取組	<p>【酒々井町中小企業資金融資条例及び利子補給条例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・融資実績次第だが、本預託融資制度を廃止し、利子補給に特化したものとする ・対象となる企業規模や金融商品（千葉銀行・京葉銀行・公庫の企業向け融資）は財源と補給率等によって精査を要する ・このような取組が、町内の中小企業及び小規模事業者の経営力強化に資すると思われる <p>【IT活用販路開拓支援事業の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は創業者支援とITを活用した販路開拓支援の2本立てで実施されており、そのどちらも今後の小規模事業者に必要なものといえるため、継続を期待する。 ・本事業の継続が困難な場合「まるごとしすい」の中小企業支援面を強化し本事業の代替とするなど、創業者支援に穴をあけないよう期待する <p>【空き店舗対策と事業承継】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化のために空き店舗対策は必要と考えており、一定期間空き店舗であった場合「月額〇万円の賃料を補填する」などの補助金等の対策を期待する ・事業承継は空き店舗を出さないためにも必要だが、事業承継の需要は発見することが難しい。町の事業承継対策に補助金等の特色があれば、掘り起こせるものと期待する
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・墨古沢遺跡、本佐倉城跡、酒々井宿等、旧石器時代から現代まで人が営みを続けて来たこの地域の歴史をまちづくりに活かしてほしい ・酒々井町を生産年齢人口を増加させる手段として、雇用を生み出す企業誘致も重要。ただ、それだけでは従業者は転入してこないと考えられるため、移住対策とセットで取り込めたらと考えている

⑤株式会社 エム・アンドビー・フローラ

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により、花壇用花苗の売上減少が予想されたが、ステイホームの励行により、予想ほど減少しなかった ・ここ近年は第一次産業の求人が集まりにくかったが、今年は比較的集まっている
4.分野における課題	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントが減少したことにより、花束や贈答用の売上が激減した ・人口の高齢化により産業が縮小傾向にある
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道が充実されると墨地区までの自転車や歩行の通勤者が増えるかもしれない

⑥千葉銀行酒々井支店

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・人手不足に対応するため、デジタル化や効率化が進んでいる
2.優れている点	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に比べ来店客数が減少している
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着である ・住民の高齢化が進んでいる ・企業誘致 ・若者を取り込む施策
4.分野における課題	【来店客の減少】
	<ul style="list-style-type: none"> ・IT化が進み、主に若年層が店舗に来ないで、スマホやパソコンで購買活動を行う傾向が進んでいる
5.町に期待する取組	【顧客の高齢化】
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進むにつれ、振込詐欺に対する対応が必要となってくる。時間や労力を必要とし、今後更なる増加が見込まれる
	【振込詐欺対応】
	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や市町村もさらに連携して対応策を考えていただきたい（アウンスだけでなく）

⑦京葉銀行酒々井支店

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・資金借入の低金利が継続し、事業者の資金調達に有利となっている
2.優れている点	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大による売上減少など、マイナス影響がある
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・立地（成田駅から1駅、アウトレット有り、空港に近い）に対し、土地が割安である ・調整区域の有効活用等の土地の有効活用
4.分野における課題	【建築できる土地がない】
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な業種・用途で酒々井町に進出を検討するが、建築できる土地がなく諦めてしまうケースがある
5.町に期待する取組	【調整区域等の有効活用】
	<ul style="list-style-type: none"> ・印旛郡栄町のように、町が先頭に立ち、地区計画、開発許可の補助をしてもらいたい

(2) 農業分野

① J A成田市酒々井支所

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業機械の大型化により、農業従事者 1 人あたりの耕作面積が拡大したこと ・金融、保険分野において、低リスク商品が人気化している
2.優れている点	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の高齢化により従事者が減少している ・金融、保険分野において、預貸金の利鞘が縮小している
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町職員の対応が迅速である
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県から示された、経営面積の拡大、担い手優先等の農業政策も大切だと思うが、小規模農家を大切にしたい施策を実施して欲しい

②酒々井町農業委員会

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手への農地の集積・集約が少しずつではあるが進んでいる
4.分野における課題	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の高齢化で、従事者が減少している ・耕作放棄地の解消が難しい
4.分野における課題	【相続に伴う耕作放棄地の増加】
	<ul style="list-style-type: none"> ・相続人に農業経験がないため、土地を他者に賃貸・売却しようにも、進展しない
	【農業従事者の高齢化に伴う離農者の増加】
	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層の認定農業者を増加させたいが、対象者が少ない

③酒々井町農産物等直売組合

1.最近5年間 での変化	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、後継者不足 ・耕作放棄地や遊休農地の拡大
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者育成支援
4.分野における課題	【後継者不足】
	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者を増やすためにも農業収入の安定や向上が必要
5.町に期待する取組	【耕作放棄地の拡大】
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の高齢化や後継者不足が課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品の開発 ・遊休農地を活用した取組 ・鉄道、高速道路が整備されているので、それを活かした取組

④酒々井町自然薯生産組合

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消など生産者直売が周知されるようになった ・農作物のブランド化の取組が少し広まった
1.最近5年間 での変化	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化により自然薯生産組合員が減少していること ・会社や個人における歳暮等が少なくなってきたことにより、売上が減少している

2.優れている点	・生産技術が組合員に行きわたることで、生産性が向上してきた
3.町の課題	・生産者や生産数の確保
4.分野における課題	【販売】 ・農作物販売について販売場所の確保や販売量の増加、農作物の質の向上が必要
5.町に期待する取組	【販売】 ・道の駅など、通年販売できる場所の設置

(3) 教育・文化分野

①酒々井町教育委員会

1.最近5年間の変化	【プラス】 ・学校施設整備が進んでいる（大室台小及び酒々井小のグリーンサンドによるグラウンド整備完了、酒々井中学校のグラウンド拡張テニスコート新設の進行） ・しずい青樹堂の青樹堂師範塾復活やこども青樹堂が開校されたこと 【マイナス】 ・酒々井小学校用地公有化の残存借地が15%となっている ・町民体育館改修事業が長期停止中である
2.優れている点	・文化財の保護と活用、国史跡本佐倉城跡・墨古沢遺跡の保存整備 ・中学生国際交流派遣（ドイツ・オーストラリア）事業がある ・人権同和教育事業の実施や人権教育セミナーの定期的開催
3.町の課題	・学校施設整備としてICT化が遅れている ・統合型校務支援システム整備の遅れ ・屋内運動施設である町体育館が、老朽化により利用不可になっている
4.分野における課題	【教育のICT化に向けた早期の環境整備と授業の実施】 ・コンピューター授業の拡大（GIGAスクールの構築） ・小学校におけるプログラミング教育 【学校における働き方改革】 ・長時間勤務の抑制、健康維持のための教職員の総労働時間の短縮 【町体育館の改修復活】 ・墨地区のコミュニティプラザのみ稼働しているなど、健康増進のための運動の場が不足している
5.町に期待する取組	【教育のICT化に向けた早期の環境整備と授業の実施】 ・小中学校GIGAスクール構想に向け備品購入予算が可決。来年度スタートに向けICT支援員の増員 【学校における働き方改革】 ・統合型教育支援システムが来年度本格的にスタート。事務負担の軽減、支援員、指導員の人材支援雇用を図る 【町体育館の改修復活】 ・町民がいつでも屋内スポーツを楽しむ環境づくりのためにも、国やその他の援助を活用し、ぜひとも実現してほしい
6.その他意見	・高まる教育ニーズに対応するため、事業計画や予算編成を執行するにあたり、引き続き行政からの力添え・協力をお願いしたい

②酒々井町社会教育委員会兼酒々井町生涯学習推進会議

1.最近5年間の での変化	【プラス】 ・社会教育委員会において、現状の報告を受け、綿密に各事業の目標を定め、活動を実施している ・将来的なまちづくりを模索し、多方面から検討を行ったうえで、実践している
2.優れている点	・自治体と密接に連携が保たれている
3.町の課題	・委員として各事業へ参画できる環境が少ない ・地域づくりに関して、子どもたちが参加するサークルが少ない
4.分野における課題	【生涯学習等の強化】 ・生涯学習の場の提供を推進し、まちづくりに貢献する人材確保を図る
5.町に期待する取組	【まちづくりに貢献する人材育成の不足】 ・社会教育機関として、町民にまちづくりに関する貢献への理解を深め、同級生や元PTA役員などを利用して、人材の確保に努めてほしい

③酒々井町青少年相談員連絡協議会

1.最近5年間の での変化	【マイナス】 ・酒々井町の小学校の児童数が減少している ・町内の子ども会が減少している
2.優れている点	・年間に行なう行事が多い
3.町の課題	・各行事に参加する人数が少ない
4.分野における課題	【行事内容】 ・子ども会ごとに行事への参加者にバラつきがある ・子ども会が減少しているため、行事への参加者数が少なすぎる
5.町に期待する取組	【行事への参加】 ・行事への参加案内を、広報ニューすいでの告知や小中学校に伝えているが、より周知できる参加者募集方法を考えていただきたい
6.その他意見	・町道の歩道拡張工事（横町地区）が中途半端のようになっているが、計画は中止になったのか。計画は最後まで実行してほしい

④酒々井町文化財審議会

1.最近5年間の での変化	【プラス】 ・町の認知度が向上した
	【マイナス】 ・教育施設の担当職員の業務が増加している
2.優れている点	・本佐倉城跡・墨古沢遺跡（ともに国史跡）の所在
3.町の課題	・文化遺産公開施設の整備
4.分野における課題	【文化遺産公開施設の充実】 ・（酒々井町特有の課題ではないが）考古遺物・歴史資料等の保存、活用施設の不足
5.町に期待する取組	【文化遺産公開施設の充実】 ・博物館（資料館）の設置と学芸員（キュレーター）の配置

⑤酒々井町文化協会

1.最近5年間の 変化	<ul style="list-style-type: none"> ・町外の印旛都市文化団体との交流が密になった ・会員の高齢化により、会員数が減少している
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・町が小さいので、行事もまとめて1か所で行える
4.分野における課題	<ul style="list-style-type: none"> 【文化祭】 ・舞台部門の開催期間が長過ぎる ・展示部門は長期間が良い
5.町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> 【文化祭】 ・小中学生の作品も一緒に展示して欲しい
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・酒々井プレミアム・アウトレット近辺や運動公園にギャラリーがあると良い ・ミニバスの町内巡回があると良い

⑥酒々井町郷土研究会

1.最近5年間の 変化	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・集会所が町内各地にある ・社会教育が充実している（青樹堂、おもてなしカレッジ、自然観察） ・町内に博物館や資料館がない ・町内には、地区集会所など有効に活用されていない場所がある
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・青樹堂、おもてなしカレッジなど、社会教育が充実している ・旧跡（旧街道、旧河岸、道標など）が多い ・石仏群がある
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・青樹堂、おもてなしカレッジ、自然観察などに参加する受講生が減少している ・旧跡の案内表示が少ない ・遊歩道の整備が必要
4.分野における課題	<ul style="list-style-type: none"> 【歴史の路である旧街道の案内標示の整備】 ・旧成田街道、芝山道、千葉道、宗吾道、岩名道、常磐道などの案内標識の整備 【旧印旛沼にあった河岸跡の標示】 ・新堀河岸、中川の渡し、大崎河岸、柏木河岸の案内標示の整備 【B29の墜落の件】 ・墜落地に事跡標示が必要
5.町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> 【酒々井小学校に置かれた旧陸軍指令部の件】 ・詳細な説明案内の標示 【JR下台トンネル】 ・明治30年ごろ掘られたものであり、文化財的な価値があると思われるが、見学するための道がない 【旧街道の案内標】 ・できるだけ多く整備してほしい
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道の整備 ・JR下台トンネルの活用については、民間会社のものであるため困難が伴うと思うが、期待したい

⑦酒々井町ふるさとガイドの会兼NPO法人輝け 酒々井まちづくり研究会

<p>1.最近5年間の 変化</p>	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本佐倉城跡のインフラ整備が進み、ガイド活動が容易になった ・本佐倉城跡が日本城郭教会の続 100 名城に認定され来城者が増加した ・NPO 法人の知名度が向上し、活動内容が町内外の方に理解されたことにより、行事に参加する人やボランティアが増加した ・行政の援助があり、協働での取組がしやすくなった <p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本佐倉城跡の踏み荒らしが増加した ・一部の曲輪にて、台風による倒木があるため、本佐倉城跡内でガイドができない場所がある ・会員の高齢化が進み、体力が低下したことで経費の負担が増加した ・補助金等の減少及び新型コロナウイルス感染拡大により、資金不足が大きな問題となっている
<p>2.優れている点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の担当部署の対応が良い ・ガイド体制が確立されており、ガイドに参加する方々の生涯学習の楽しさと生きがいづくりに貢献している ・酒々井町を紹介する説明資料が充実 ・行政との協働ができるようになった ・行政区が小さいため、行政の考えが町民に伝わりやすい。ある程度情報共有が出来るようになった ・住民活動を育成するためのセミナーや講演会の開催が、実施されるようになった
<p>3.町の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の神社・寺院などの歴史遺産を表示する施設の整備が十分でない ・歩道の整備が遅れている ・本佐倉城跡の各曲輪内の表示等の整備が遅れている ・酒々井町の良さを広報する力が弱い ・職員の職務権限の委譲が十分でない。権限移譲が必要 ・空き家の活用、公共施設の活用が十分ではない ・宿泊施設が町内にない ・町民やまちづくり団体、自治会等の活用がうまくできていない ・まちづくりの将来展望が町民に周知できていない
<p>4.分野における課題</p>	<p>【本佐倉城跡の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲輪の建物跡の表示ができていない ・台風被害の修復整備 <p>【動植物などの自然保護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県内でも希少植物に指定された山野草が自生しており、植物の保護が必要 <p>【町民の郷土愛の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酒々井町に古くから居住している人が減少し、町の歴史を知らない世代が増加してきた。また、高度成長期に移住してきた新住民が多く、町を愛する心が希薄な住民が多い。郷土愛を醸成する必要がある <p>【補助金の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり活動団体の活動には、利益を生まない活動が多く、運営に必要な資金調達をすることが難しい <p>【民間団体への業務委託】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間活動団体ができる業務には、予算を付けて業務委託を行うことが望ましい。この業務委託によって団体に活力が生まれる

	<p>【元気な高齢者の中から人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の方々が生きがいを持って暮らすには、ボランティア活動等に従事し社会貢献を行い、社会と関わりを持って暮らすことが重要。このことは、長寿社会に向かう中で健康年齢を平均寿命に近づける効果があり、引きこもり高齢者をなくす有効な対策となる。このような活動が出来る指導者を育成し活躍できる場所を提供する
5.町に期待する取組	<p>【エコミュージアム構想の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 町の自然、歴史、文化や景観を丸ごと博物館に見立て、これを活用したまちづくりを行い、集客を図ることで町を活性化させる。来訪者が町に留まる時間が長くなるほど、酒々井町にお金が落ちることを考慮したまちづくりが必要 <p>【ブランド商品の開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ガイド活動を行っている中で、「酒々井町の美味しい食べ物は？」「お土産は？」と尋ねる訪問者が多くいるが、これに応えられる具体的な推奨品がない • 数年前に酒々井町のブランド商品開発するプロジェクトを商工会内に設け検討したが、酒々井町を代表する（象徴となる）商品の開発に至らなかった。町を代表するブランド商品やB級グルメの開発が必要。町内の商店や企業とタイアップし、町を代表する商品開発ができないか <p>【観光事業の創設】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会社や個人商店を巻き込んだ観光開発が必要。酒々井町の自然・歴史を織り込んだストーリーをつくり、町ぐるみで観光事業を推進する <p>【公設民営化（住民及び住民団体の活用）】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 酒々井町が管理・運営を行っている公的施設のうち、民営化が可能な施設については、民営化を進める。民営化によって人件費の削減を図り、削減した人材を有効活用する <p>【空き家の活用（学識者や大学の活用）】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 町が保有する遊休の建物や空き家等の活用問題は、もはや避けて通れない問題となっている • 町が中心となって空き家所有者の実状調査や賃貸条件・売却条件等の調査を行い、将来の町並みを構想し、SNS や HP 等で公募し、望ましい職種や人材をはめ込んだまちづくりを行う（大学や不動産業者を活用） <p>【コミュニティ（自治会）のあり方の再検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数年後には団塊の世代が後期高齢者になり、高齢化率が更に進むことで、高齢者が安心して住み続けることが難しくなる • この解決には、コミュニティ活動の充実が不可欠。地域の方々が楽しく、集えるコミュニティの形成が急務となっている
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> • 酒々井町では、公民館活動を含め様々なまちづくり活動を試みているが、その多くはその場限りで、将来を見据えた持続性のあるまちづくり活動が行われていない。将来の目標を持った活動には、補助金を出し持続性を持った団体を育成することが望ましい • JR 酒々井駅西口周辺の整備を進める。①バス停にアーケードを設置するとともに、TV にフードを着け見やすくする ②使用していないタクシーの駐車スペースを見直し、有効活用する ③中央台と東酒々井を結ぶ道路の早期実現を図り、不可能な場合は有料駐車など有効活用を図る

⑧本佐倉城跡管理組合

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	【マイナス】
2.優れている点	
3.町の課題	
4.分野における課題	
5.町に期待する取組	
6.その他意見	

⑨昭苑こども園保護者会

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	【マイナス】
2.優れている点	

⑩酒々井町立大室台小学校（酒々井町人権教育推進協議会）

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	【マイナス】
2.優れている点	
3.町の課題	
4.分野における課題	
5.町に期待する取組	

(4) 保険・福祉・医療分野

①酒々井町健康推進協議会

1.最近5年間 での変化	【プラス】 ・高齢者で自分自身の健康を考える人が多くなった ・以前と比較して、幼児が検診によくきてくれるようになった
2.優れている点	【マイナス】 ・推進員が手伝うとき、決めてあることしか手伝わないようになった
3.町の課題	・推進員が平均的に手伝いをする ・推進員たちだけの事業が少ない ・県の会合に参加してくれる人が少ない

②酒々井町民生委員・児童委員協議会

1.最近5年間 での変化	【マイナス】 ・高齢化により孤立する高齢者や認知症の高齢者が増加している ・8050問題が身近な問題になっている ・町内で空き家が目立つようになった
2.優れている点	・高齢化は進んでいるが、何らかの地域活動に関わる元気な高齢者も多いように感じる ・ボランティア活動で街並みをきれいにしようという活動がある
3.町の課題	・高齢化の進行と人口減少により、町に今一つ活気がないように感じる ・今後の更なる高齢化に対応した医療・日常生活支援・生きがい支援
4.分野における課題	【独居高齢者や老々介護世帯の増加に対する見守りと生活支援】 ・地域の自治会などに協力を呼び掛けているが、福祉に関する活動に対してそもそも関心がない自治会が多い 【住民の交流の機会の減少】 ・少子高齢化による祭りの中止や、コロナ禍の影響により住民の地域交流の機会が、ますます減っている 【高齢者の日常生活のための足の確保】 ・町内移動交通手段はふれ愛タクシーのみとなっており、車両数も少ない
5.町に期待する取組	【独居高齢者や老々介護世帯の増加に対する見守りと生活支援】 ・町から自治会に対して、高齢化に伴う福祉活動の重要性を周知してもらうよう働きかける ・自治会員と福祉関係者との交流の機会や場所を設け、住民同士の「支えあい」の醸成に繋げる 【住民の交流の機会が減っている】 ・地域での交流サロン等の運営者への場所の提供や経済的支援 【高齢者の日常生活のための足の確保】 ・ふれ愛タクシーの充実・町内循環バスの運行等
6.その他意見	・コンパクトシティという意味では一応合格点だと思うが、インパクトのある町のイメージがない。「歴史もあり、自然が残されている」、「住みやすい」というプラス要因をうまく活用し、外に発信すべき ・今後若い世代の人たちが、住んでみたい・住んで良かったと思うような町のイメージづくりのために、町の玄関である京成酒々井駅とJR酒々井駅の間の街並みの大幅なイメージ（センス）アップが必要

③酒々井町人権擁護委員

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・5年程前から、毎年各学校において人権教室を実施。学校の協力もあり円滑に推進している ・子どもたちの人権意識の高まりが感じられる
2.優れている点	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、人権相談が思うようにできていない ・人権教室の実施にあたり、人権推進室、学校教育課、学校との連携が図られており、とてもスムーズである ・人権ポスター作成において、学校現場がとても協力的
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の中での差別や偏見を、同和問題と結びつけるのは難しいため、学校同和と社会同和との兼ね合いは、大変難しい。 ・人権セミナー等を通して、様々な研修を更に充実させていく必要がある（毎年人権セミナーを実施していただいていることに感謝している）。意識を高めるためには、こつこつと着実に推進していくことが大切

④酒々井町ボランティア協議会

1.最近5年間 での変化	【プラス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災後、酒々井町の防災について継続的に考えるために講座を開催しており、参加者も定期的に勉強している ・自身のサークル活動に役立てるために、他市町の講座に参加し学んだことを活かしながらボランティア活動を行っている
2.優れている点	【マイナス】
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、高齢者向けが多いボランティア活動が休止状態であること ・各団体は公共施設での活動が多いことから、コロナ禍の影響で利用できず活動ができていない
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体が主事業をもち、永続的に活動している ・町内の各団体が幅広い知識と多くの経験をもっている ・会員の高齢化が進んでいる ・新規会員が入会せず、会員数の維持が難しい ・新規会員の勧誘について、有効な手立てがない
4.分野における課題	【体系的な知識】
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の所属団体を通してボランティアのことは理解しているが、体系的な知識を得る勉強の場がない
5.町に期待する取組	【高齢化と新規会員】
	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化と新規会員の獲得ができないことから、ボランティア活動の縮小が懸念される
5.町に期待する取組	【予算】
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア対象者を拡大し、深く厚く良い活動をしたいが、予算が少ないため活動に限界がある
5.町に期待する取組	【体系的な知識】
	<ul style="list-style-type: none"> ・しすい青樹堂のしすい学（生涯学習）からボランティア活動に導いていくのも良いが、ボランティア版のしすい青樹堂を開校し、現在のボランティア団体の勉強の場を提供して欲しい
5.町に期待する取組	【予算】
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に対し、予算を付けてほしい

⑤児童養護施設 蛭雪学園

2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・町役場、社会福祉協議会、教育委員会、学校等のきめ細かい配慮により、当園に入所してくる子どもたちが健やかに成長することができている
4.分野における課題	<ul style="list-style-type: none"> 【職員の確保】 ・保育士不足による職員の確保が難しい 【施設の小規模化】 ・国が推進する、児童養護施設の小規模化を急速に進める施策に対し、現場は戸惑っている。子どもの安全安心を確保し、財源や人材を確保するのが大きな課題
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より当園の事業に対して理解と沢山の支援を賜り、感謝している。また、昨年10月に完成した新園舎の建設に対し、多大な協力をいただいた。園児は広くて綺麗な園舎で、快適な生活を送っている ・新型コロナウイルスの状況は予断を許さない状況だが、職員と園児が協力して頑張っているので、今後とも支援をお願いしたい

⑥酒々井町手をつなぐ親の会

1.最近5年間での変化	<ul style="list-style-type: none"> 【マイナス】 ・コロナ禍で大変な中で、活動のために部屋を使用することを躊躇してしまう（お互い気を遣いながら良い関係を保っていると思うが）
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・小回りの利くまちづくりができる
4.分野における課題	<ul style="list-style-type: none"> 【重度障がい者のグループホーム】 ・親が高齢になってきているので、夜間も世話人がいるグループホームがあるとよい 【ショートステイ】 ・親が急病などで困っている時に使えるショートステイが町内にほしい 【相談支援】 ・障がい者にとって、「かなえ」が担っている支援を町内で受けられるのはとてもありがたいが、相談員が少ない
5.町に期待する取組	<ul style="list-style-type: none"> 【重度障がい者のグループホーム】 ・グループホームに対する町の方針を示してもらい、その方針に対して、親の会が関われることを模索していきたい 【ショートステイ】 ・町には特養老人ホームもあるので、その一室を障がい者用にできないか 【相談支援】 ・「かなえ」は町内の障がい者支援を担えるのではないか。町からも支援してもらい、大きくしてほしい

⑦岩橋保育園保護者会

2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・町が保育所及び学童保育の開所に努めているところ
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・病児保育をお願いできる施設がない ・図書館の規模・配架してある絵本や本、雑誌、DVDが十分でない ・カフェを併設して本と一緒に楽しめたら嬉しい ・公園の遊具がつまらない
4.分野における課題	<p>【保護者の負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルタイムの共働き家庭が増えており、3歳児以上の主食や水筒の持参等の保護者負担が大きいと感じることがある
5.町に期待する取組	<p>【保護者負担、3歳児以上の主食の持参をなくす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成田市では持参しておらず、市の負担になっていると思われる（昭苑こども園では、主食代金を払うことで主食を提供していた） ・子どもの持ち物を少なくするため、主食代金集金のうえ、主食の提供をお願いしたい。最低でも、持参したご飯は保温機で温めて頂きたい。冬場でも冷たいご飯を食べているのが現状だ
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・前例踏襲、現状維持ではなく、時代に合った行政運営をお願いしたい ・町にある公園に、たくさんの木製アスレチックや大型遊具の設置を希望する。町民以外の子連れ家族が町に来るきっかけになると思う

⑧酒々井町社会福祉協議会

1.最近5年間 での変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会が町役場内に移転したことにより、各関係機関との連携が強化され、サービスの向上が図れた
	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢等の変化により、困りごとのニーズが増えている一方で、福祉サービスが現状と合っていない部分もあり、制度面の見直しが必要
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・人口規模が小さいため、丁寧な対応ができる ・事務所が役場に移転したことにより、各関係機関との連携強化に繋がり、情報共有がしやすい
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等のバリアフリー化が進んでいない ・各種ボランティア団体や福祉関係団体（身障福祉会等）等の高齢化が進んでいる
4.分野における課題	<p>【福祉関係サービス利用者の利便性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの内容によっては、庁内のそれぞれの担当部署が異なる場合があり、高齢者や身体の不自由な方の案内に苦慮する <p>【高齢者社会への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の増加に伴い、福祉サービスの需要が高まる一方で、各種ボランティアも高齢化しており、見守りなどの制度的な見直しや人的な確保が困難となっている
5.町に期待する取組	<p>【福祉関係サービス利用者の利便性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動の拠点となり、一体的な福祉サービスを提供できるような総合的な施設を設置し、福祉施策の推進を図る <p>【高齢化社会への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層に対する福祉サービス等の啓発活動により、協働に対する意識の高揚を図る
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略など様々な計画を基本とし、明確なビジョンを持ってまちづくりを進めることが望ましいと考える

⑨地域包括支援センター

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	・千葉しすい病院や虎の門クリニック等ができ、町内の医療や介護サービスを提供できる施設が増えた ・介護保険が酒々井町の住民に周知されてきた
2.優れている点	【マイナス】
	・一人暮らしや身寄りのない高齢者が増えている ・介護職の人材がさらに不足してきた
3.町の課題	・他の自治体に比べて、高齢者を担当する部署の職員が少ない ・介護保険外のサービスが不足している
4.分野における課題	【住民が主体となった介護予防の場が少ない】 ・介護予防の活動の場は行政がつくり、住民はそこに参加するだけという意識が強い。住民に介護予防の活動への場づくりを呼びかけても、手をあげる人がいない
5.町に期待する取組	【住民が主体となった介護予防の場が少ない】 ・介護予防の活動の場づくりを、町も協力して行ってほしい

(5) 生活環境分野

①酒々井町不法投棄等監視員連絡協議会

1.最近5年間の 変化	【プラス】 ・ポイ捨てゴミが非常に減少している
2.優れている点	・監視員と担当部署が共同でパトロールしている
3.町の課題	・私有地への粗大ゴミの不法投棄の防止対策
4.分野における課題	【粗大ごみ不法投棄防止】 ・私有地の粗大ごみ不法投棄の防止を行うために、ネットの配置等への助成金を検討する
5.町に期待する取組	【粗大ゴミ不法投棄防止】 ・現地調査が大変だと思うが、町民に申告をしてもらい、役場が町内を巡視して調査することが必要

②酒々井町消防団

1.最近5年間の 変化	【プラス】
	・消防訓練により、機具類の操作能力が向上した
4.分野における課題	【マイナス】
	・消防団に加入する人が少なくなっている
5.町に期待する取組	【活動手当】
	・消防団の活動手当が二市一町の中で一番低い
5.町に期待する取組	【新入団員の確保】
	・各自治会等への働きかけをお願いしたい
5.町に期待する取組	【活動手当】
	・活動手当金を増額いただきたい。入団員の確保にもつながる

③酒々井町上下水道事業運営審議会

1.最近5年間の 変化	<p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の現状に満足している町民が多くなったためか、町の現状に無関心な町民が増えたように感じる ・時には町側から課題を提起することで活性化を図ることも必要かもしれない
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・町固有の上水道があること ・交通のアクセスが良い（電車、道路） ・自然環境に恵まれている
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・どの自治体にも共通している課題だが、今後更に増加すると思われる外国人の受入体制を整備すること
4.分野における課題	<p>【町の給食センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物、設備の老朽化が目立つ。毎日内部で作業する人から、作業環境の改善を求める声がある
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人間に人格があるように都市（町）にも格がある。これからの酒々井町を発展（主張）させるためには、①町固有の歴史（おいたち）と文化の蓄積、②固有の景観（たたずまい）、③近場に発信できる情報、という3要素を組み込んで施策を展開したら良いのではないか

④しすい防犯パトロール「ブルドックス」

1.最近5年間の 変化	<p>【プラス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の防犯体制の取組強化により、犯罪発生件数が年々減少傾向にある ・JR 酒々井駅東口に設置された防犯 BOX により、今まで手薄だった地域の防犯も強化された ・犯罪発生件数の中で多くを占めていた「自転車盗」防止のために、効果のある駅前駐輪場を管理型にしたことで、今後の成果が期待される <p>【マイナス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪件数は減少しているが、人口あたりの発生率はここ数年ワースト10を続けており、昨年はワースト1の不名誉な記録を残してしまった ・新型コロナウイルス感染拡大により、活動が一部ストップせざるを得なくなっている
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯BOXの設置、駅前駐輪場の管理型への移行等、町の防犯に対する意識が高い ・防犯に対する町民危機意識が高く、県下でも数少ないボランティア団体による活動を実施している ・毎月会議を開催して意思疎通を図っており、町の危機管理室と防犯団体との連携が良い
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口のわりに、アウトレット等大規模商業施設があるため、非侵入窃盗、いわゆる万引の割合が多い。防犯団体としては手を出しにくい犯罪で、もどかしい思いをしている ・防犯パトロールや防犯啓発活動等の予防型活動に重きをおくべき ・「町の顔」的な場所である JR 酒々井駅跨線通路階段の照明が薄暗い

4.分野における課題	<p>【活動参加人員の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーの高齢化が進み、後を継ぐ人が入会してこない現状をみていると、活動継続の危機を感じている <p>【独居老人の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防犯パトロール中のほか、それ以外の日常生活の中でも独居老人の見守りに心を注ぎ、不幸の発生を食い止めることを会員に啓蒙している <p>【防犯に対する心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模震災が、いつきてもおかしくない状況にあるため、専門家を呼んで研修会を開いたり、毎年一回消防署に依頼して救急救命訓練を実施している
5.町へ期待する取組	<p>【活動参加人員の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、町の広報誌に募集広告を掲載してもらっているが、今後も定期的にお願したい <p>【独居老人の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の問題があり、あまり立ち入ることのできない分野であるので、細かい対策は町にお願したい <p>【防犯に対する心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地震・土砂災害・洪水ハザードマップ」等は町で作成し、各戸に配布済であるが、見ていない、理解していない、しまい込んで忘れている等の事例が考えられる。定期的に町で研修会を開催するなど、周知する必要がある。救急救命訓練についても同様
6.その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 日本全体で人口が減少する時代に人口を増加させる施策を進めてもらいたい。 コロナ騒動で東京を脱出する人も増えており、その受入先として、歴史と自然と交通に恵まれたコンパクトシティである「酒々井町」を売り出すよいチャンスだと思う。「酒々井に住むと健康寿命が10年延びる」をキャッチフレーズにしてはどうか

⑤佐倉交通安全協会酒々井支部

1.最近5年間での変化	<ul style="list-style-type: none"> 以前と比べ、交通ルールを守る車が増えた 子どもたちが元気に登校する姿が見られるようになった 消防署の先の踏切が子どもの通学路として狭く感じる 消防署の先の踏切の場所を、抜け道として使う車が多い
2.優れている点	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全協会の支部員の活動が活発である 子どもたちがよくあいさつをする
3.町の課題	<ul style="list-style-type: none"> 下台の交差点、上本佐倉交差点の渋滞 違法駐車がなくなる
4.分野における課題	<p>【人員不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全週間の活動に、出席できる人員が不足している
5.町に期待する取組	<p>【人員不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全協会の活動を周知し、協力してくれる人員の確保

Ⅲ. 中学生アンケート・懇談会

■取組の概要

1. 趣旨

酒々井町の将来を担う中学生の、今後のまちづくりについての考え方を把握するために、アンケート調査・懇談会を行うもの

2. 概要

○アンケート

【調査時期】 令和2年11月12日

【調査手法】 学校にて調査票を記入してもらい回収

【調査対象】 酒々井中学校2年生の生徒 182名（調査当日出席生徒）

○懇談会

【調査時期】 令和2年11月18日

【調査手法】 テーマごとに生徒から意見を聞き、それに対して町長が回答していく形式

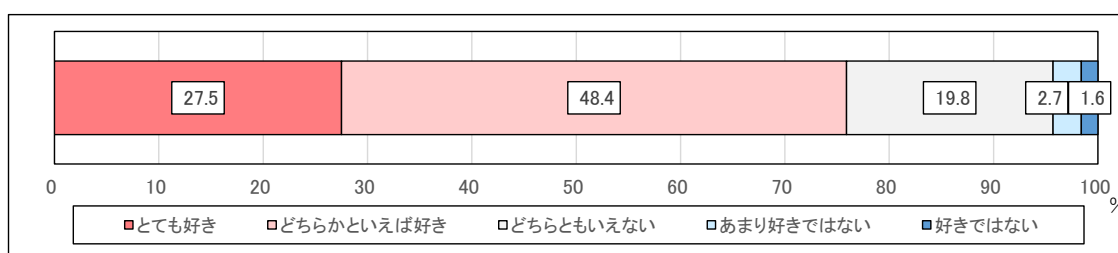
【調査対象】 酒々井中学校 生徒会役員 7名

1. 中学生アンケート

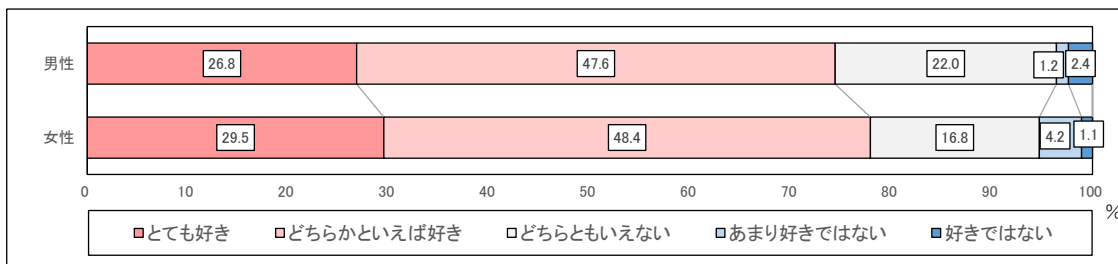
(1) 酒々井町への愛着について

問. あなたは酒々井町のことが好きですか (SA、n=182)

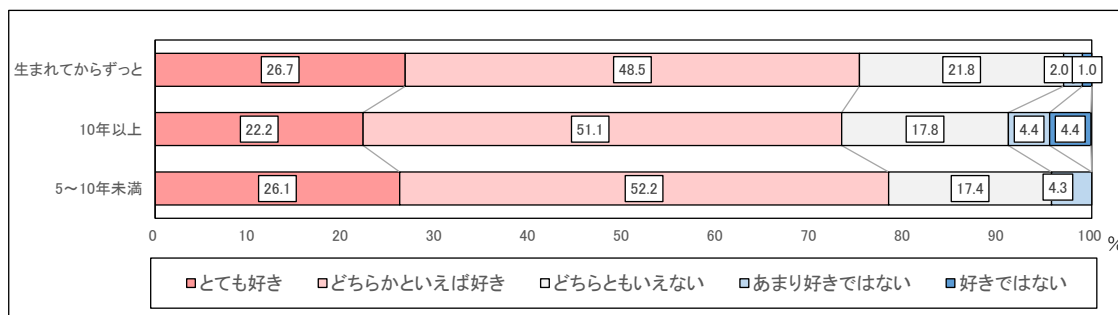
⇒「好き(『とても』、『どちらかといえば』の合計)」の比率は7割を超えており、「好きではない(『あまり』、『好きではない』の合計)」の4.3%を大きく上回っている。



□男女別



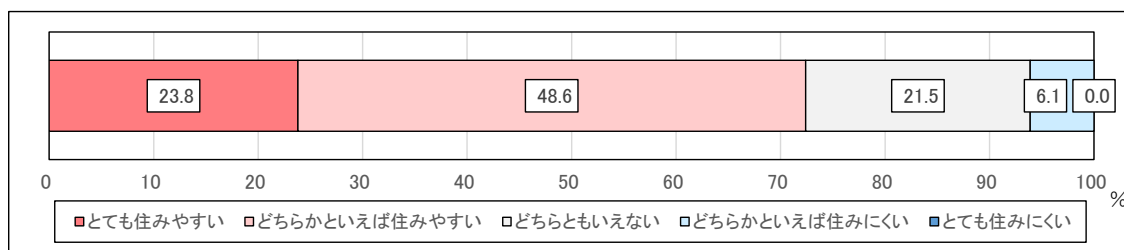
□居住年数別 (5年未満は、件数が7件と少数であったため掲載していない。以降の設問も同様)



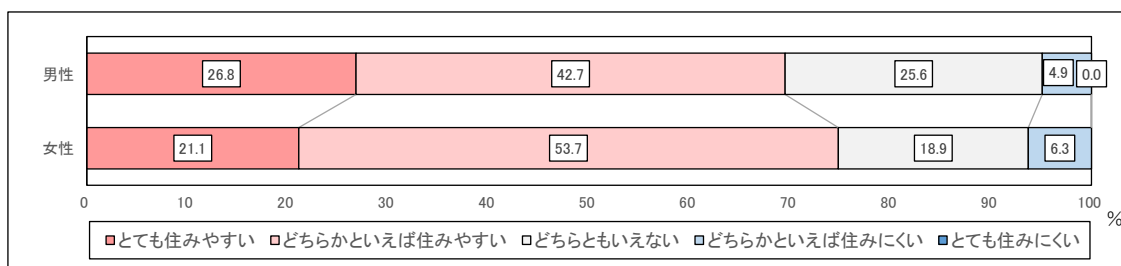
(2) 酒々井町の住みごちについて

問. あなたにとって現在の酒々井町は、住みやすい町だと思いますか (SA、n=181)

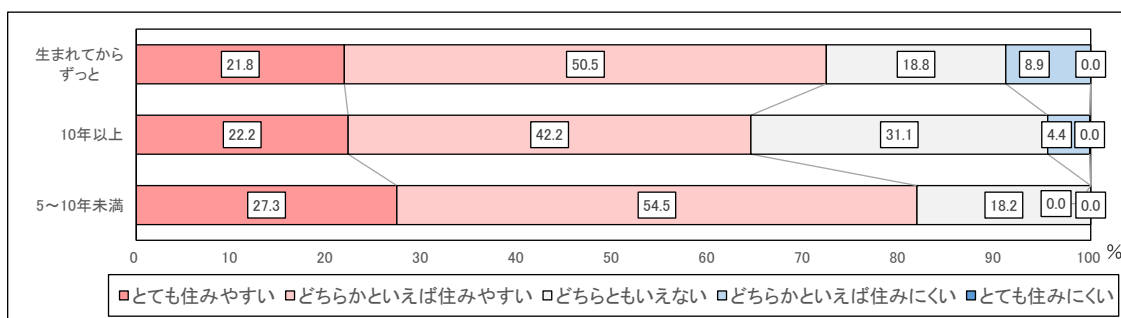
⇒「住みやすい(『とても』、『どちらかといえば』の合計)」の比率は7割を超えており、「住みにくい」の6.1%を大きく上回っている。また、「とても住みにくい」と回答した人はいなかった。



□男女別

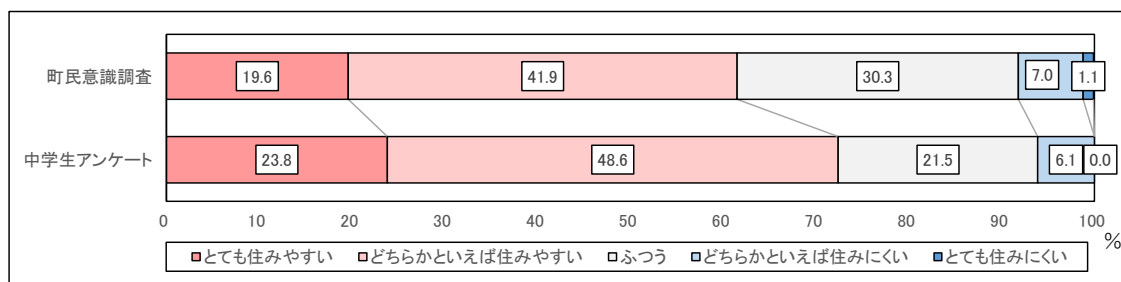


□居住年数別



【町民意識調査との比較】

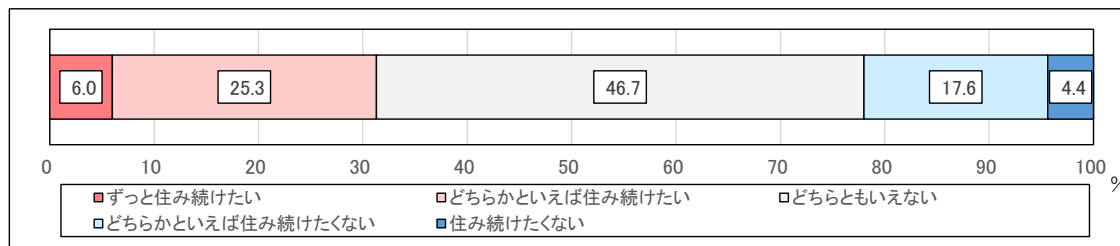
- 町民意識調査より「住みやすい(同)」の比率が10.9ポイント高く、「住みにくい(同)」の比率は2.0ポイント低い。



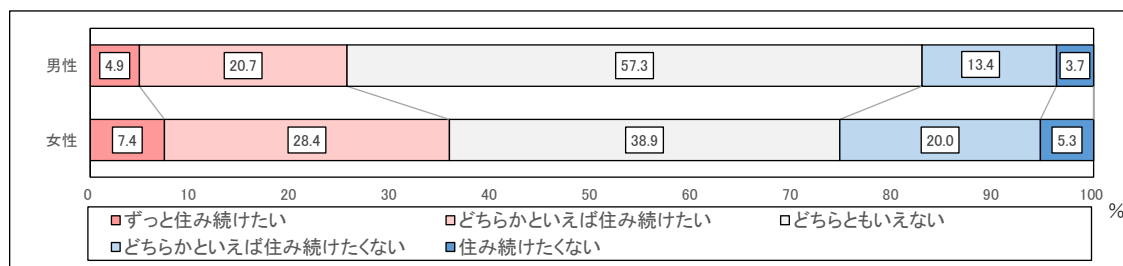
(3) 今後の居留意向について

問. あなたは、これからも酒々井町に住み続けたいと思いますか (SA、n=182)

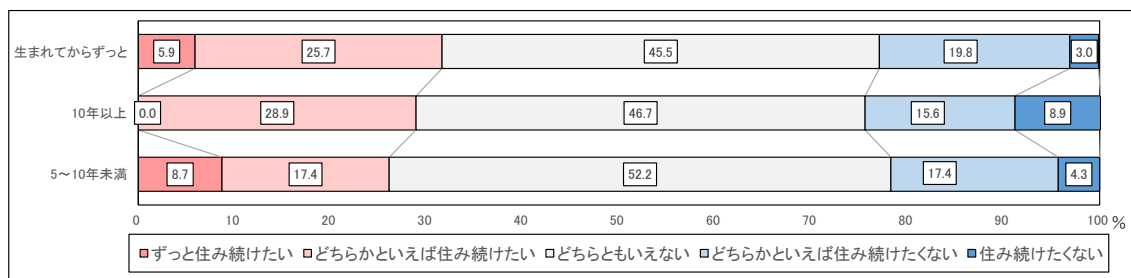
⇒「どちらともいえない」が46.7%と最も高く、「住み続けたい (『ずっと』『どちらかといえば』の合計)」の比率は3割程度と低水準となっている。「住み続けたくない (『どちらかといえば』、『住み続けたくない』の合計)」は2割を超えている。



□男女別

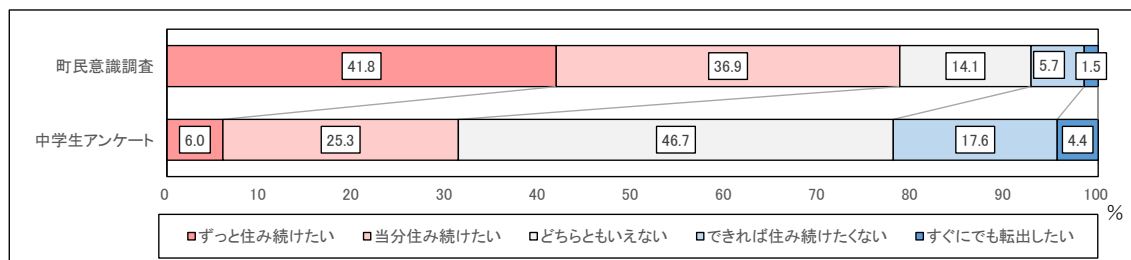


□居住年数別



【町民意識調査との比較】

- ・町民意識調査より「どちらともいえない」の比率が3倍超となっており、「住み続けたい (同)」の比率は47.4ポイント低く、半分以下となっている。

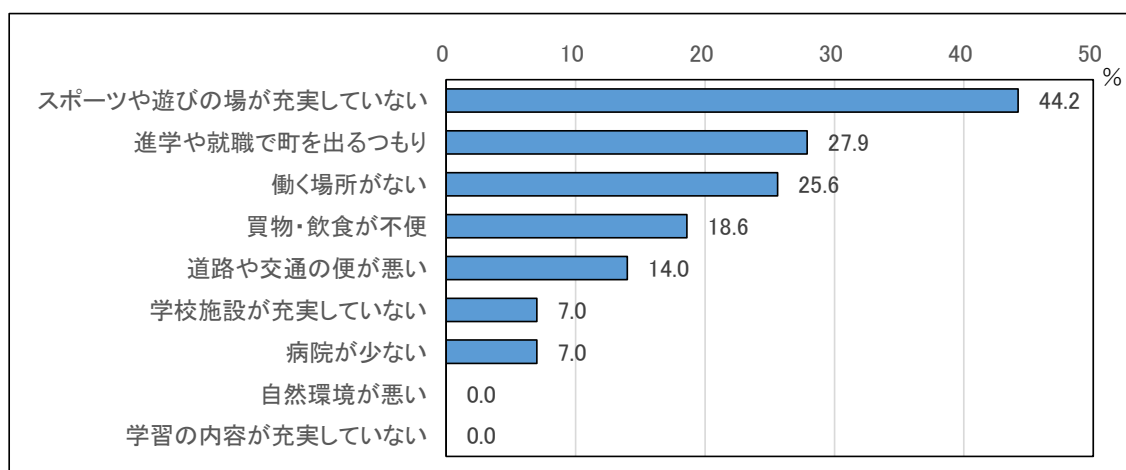


(4) 住み続けたくない理由について

問. 「住み続けたくない」と思う理由をお答えください (MA、n=43)

※対象：(3) で『どちらかといえば住み続けたくない』、『住み続けたくない』と回答した人のみ

⇒「スポーツや遊びの場が充実していない」が44.2%と最も高く、「進学や就職で町を出るつもり」(27.9%)、「働く場所がない」(25.6%)となっている。



□属性別

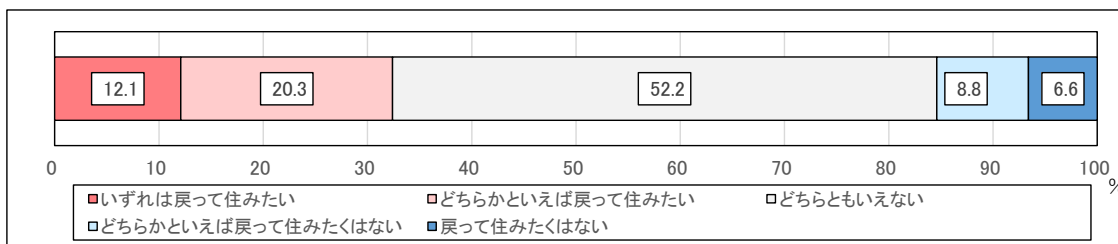
< % >

カテゴリ	男女別		居住年数別		
	男性	女性	5～10年未満	10年以上	生まれてからずっと
スポーツや遊びの場が充実していない	56.3	36.0	75.0	42.9	41.7
働く場所がない	25.0	28.0	0.0	28.6	29.2
進学や就職で町を出るつもり	25.0	28.0	25.0	35.7	25.0
買物・飲食が不便	12.5	24.0	0.0	21.4	16.7
道路や交通の便が悪い	12.5	16.0	50.0	21.4	0.0
学校施設が充実していない	12.5	4.0	0.0	0.0	12.5
病院が少ない	0.0	8.0	0.0	7.1	8.3
自然環境が悪い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
学習の内容が充実していない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

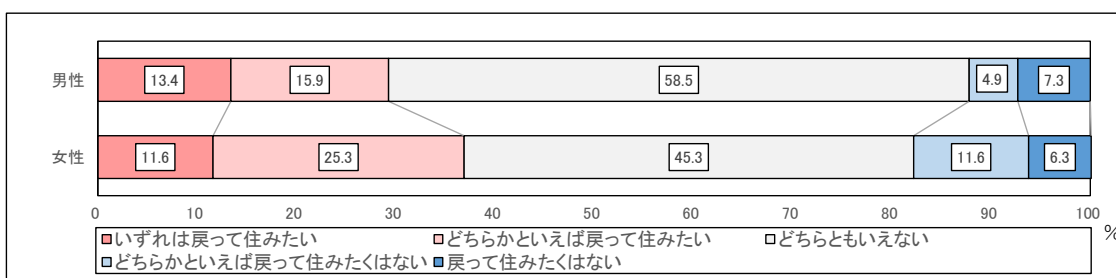
(5) 将来の酒々井町への帰郷意向について

問. 進学や就職などの事情でいったん酒々井町を離れても、いずれは酒々井町に戻って住みたいですか (SA、n=182)

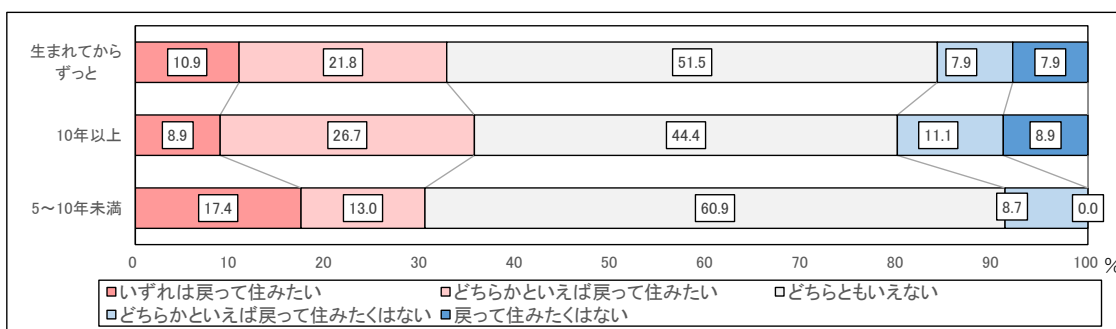
⇒「どちらともいえない」が約半数を占めており、「戻って住みたい(『いずれは』『どちらかといえば』の合計)」の比率は3割程度となっている。



□男女別



□居住年数別

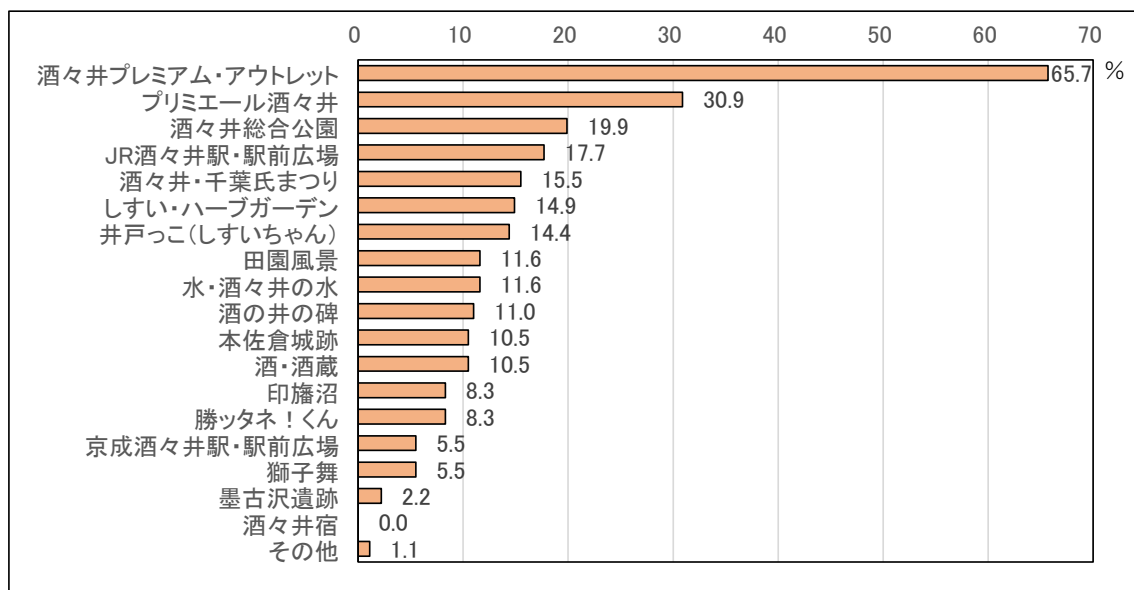


(6) 酒々井らしさを感じる・酒々井町の好きなところについて

問. あなたにとって「酒々井らしさ」を感じさせるもの、「酒々井で好きなところ」を、次の中から選んでください (MA、n=181)

⇒「酒々井プレミアム・アウトレット」が65.7%と他に比べて突出して高く、次いで「プリミエール酒々井」(30.9%)となっている。

□属性別



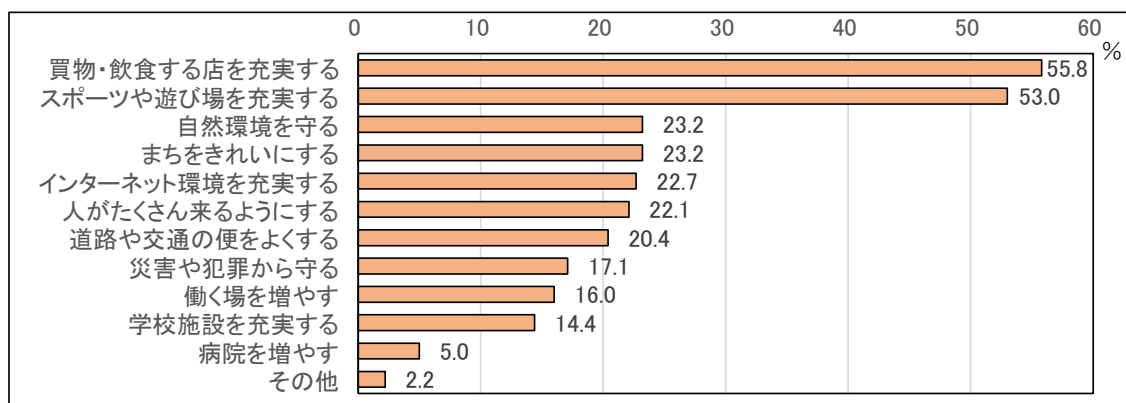
< % >

カテゴリ	男女別		居住年数別		
	男性	女性	5～10年未満	10年以上	生まれてからずっと
酒々井プレミアム・アウトレット	61.0	70.2	47.8	66.7	69.3
プリミエール酒々井	34.1	26.6	34.8	20.0	32.7
酒々井総合公園	24.4	16.0	34.8	22.2	16.8
JR酒々井駅・駅前広場	17.1	17.0	30.4	17.8	14.9
しすい・ハーブガーデン	8.5	20.2	8.7	15.6	16.8
酒々井・千葉氏まつり	9.8	20.2	13.0	13.3	18.8
井戸っこ(しすいちゃん)	15.9	13.8	17.4	15.6	13.9
田園風景	13.4	10.6	4.3	20.0	7.9
水・酒々井の水	11.0	12.8	8.7	11.1	11.9
酒の井の碑	12.2	10.6	17.4	15.6	8.9
本佐倉城跡	9.8	10.6	13.0	17.8	7.9
酒・酒蔵	11.0	10.6	8.7	13.3	9.9
印旛沼	12.2	5.3	13.0	2.2	8.9
勝ッタネ!くん	8.5	7.4	13.0	2.2	8.9
京成酒々井駅・駅前広場	6.1	5.3	8.7	6.7	4.0
獅子舞	3.7	7.4	4.3	2.2	5.9
墨古沢遺跡	3.7	1.1	0.0	8.9	0.0
酒々井宿	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	2.1	4.3	0.0	1.0

(7) 今後のまちづくりで力を入れてほしいことについて

問. あなたは今後のまちづくりで、特にどんなところに力を入れてほしいと思いますか。次の中から選んでください（MA、n=181）

⇒「買い物・飲食する店を充実する」、「スポーツや遊び場を充実する」の比率が、ともに半数を超えており、他の回答より突出して高い。



□属性別

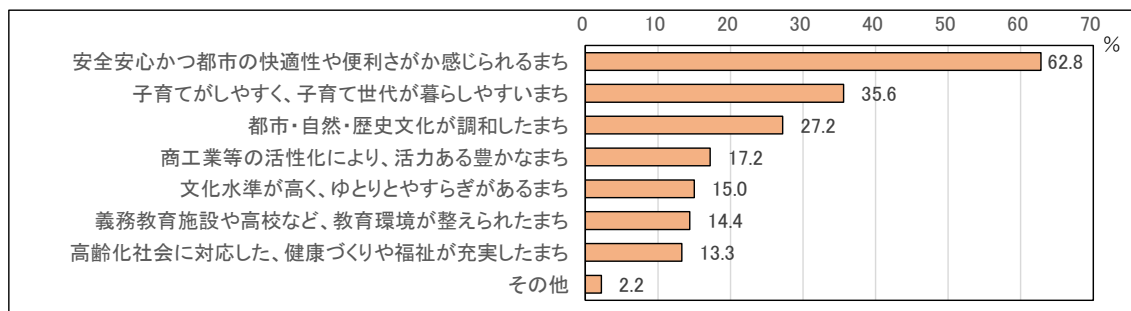
< % >

カテゴリ	男女別		居住年数別		
	男性	女性	5～10年未満	10年以上	生まれてからずっと
買い物・飲食する店を充実する	42.7	68.1	34.8	57.8	58.4
スポーツや遊び場を充実する	54.9	51.1	56.5	51.1	54.5
自然環境を守る	30.5	18.1	34.8	22.2	18.8
まちをきれいにする	25.6	21.3	17.4	20.0	26.7
インターネット環境を充実する	22.0	23.4	34.8	22.2	20.8
人がたくさん来るようにする	20.7	22.3	17.4	26.7	20.8
道路や交通の便をよくする	23.2	18.1	26.1	17.8	18.8
災害や犯罪から守る	13.4	21.3	13.0	22.2	14.9
働く場を増やす	22.0	10.6	8.7	11.1	19.8
学校施設を充実する	12.2	16.0	17.4	15.6	14.9
病院を増やす	3.7	5.3	13.0	6.7	3.0
その他	2.4	1.1	0.0	0.0	4.0

(8) 将来の酒々井町がどのようなまちになってほしいかについて

問. あなたは、酒々井町がどのようなまちになってほしいと思いますか。次の中から選んでください (MA、n=180)

⇒「安全安心・快適性」の比率が 62.8%と突出して高く、次いで「子育て重視」(35.6%)、「都市・自然・歴史文化」(27.2%)となっている。



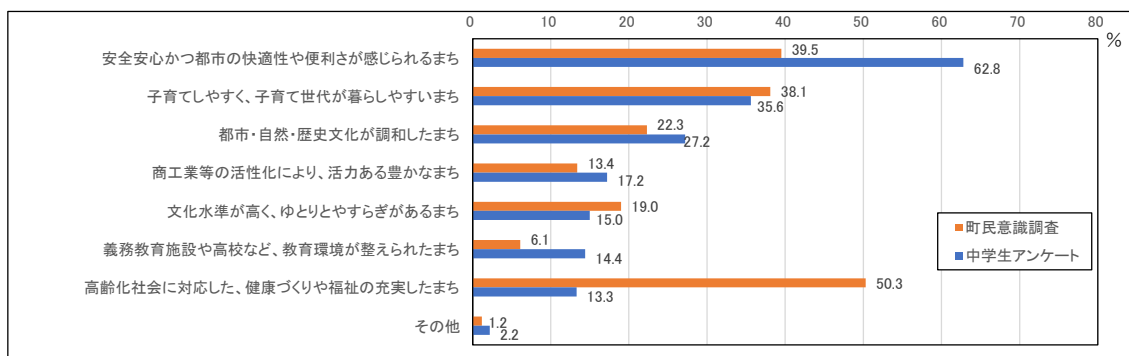
□属性別

< % >

カテゴリ	男女別		居住年数別		
	男性	女性	5~10年未満	10年以上	生まれてからずっと
安全安心かつ都市の快適性や便利さが感じられるまち	61.7	61.7	65.2	47.7	70.3
子育てがしやすく、子育て世代が暮らしやすいまち	33.3	37.2	43.5	36.4	34.7
都市・自然・歴史文化が調和したまち	32.1	24.5	34.8	43.2	17.8
商工業等の活性化により、活力ある豊かなまち	11.1	22.3	13.0	13.6	19.8
文化水準が高く、ゆとりとやすらぎがあるまち	16.0	14.9	8.7	13.6	14.9
義務教育施設や高校など、教育環境が整えられたまち	16.0	12.8	13.0	11.4	13.9
高齢化社会に対応した、健康づくりや福祉が充実したまち	16.0	10.6	13.0	15.9	13.9
その他	0.0	4.3	4.3	2.3	2.0

【町民意識調査との比較】

- ・町民意識調査より「安全安心・快適性」が 23.3 ポイント高く、「健康づくり・福祉の充実」は 37.0 ポイント低い。回答順位をみると、町民意識調査で回答比率が最も高い「健康づくり・福祉の充実」が、中学生アンケートでは最も低くなっている。



(9) 自由意見

問. その他、町への意見等ありましたらご記入ください (FA、n=41)

⇒総合計画の分野別にみると、「都市基盤」が11件と最も多く、次いで「産業・経済」(8件)となっている。

自由意見をカテゴリー別に整理したところ、右表のようになった。

カテゴリ	件数
都市基盤	11
産業・経済	8
生活環境	7
教育・文化	7
福祉・健康づくり	1

主な意見は以下の通り。

①都市基盤 (11件)

性別	居住年数	意見内容
男性	生まれてからずっと	道路を広くしてください。
男性	5～10年未満	自然が豊かなのはいいところですが、ガードレールがある道の端に草がたくさん生えていると通りにくいので手入れをしてもらいたと思います(草の量や長さなど)。
女性	10年以上	歩道が狭すぎる所があります。事故が起こりかねないので早く直して欲しいです。
女性	生まれてからずっと	草をどうにかして欲しい 電灯をもうすこし増やしてほしい。

②産業・経済 (8件)

性別	居住年数	意見内容
女性	生まれてからずっと	千葉氏まつりのように、もっと沢山のイベントをやしてほしい。
女性	生まれてからずっと	ちび天が営業しなくなり、とても残念に思います。けれども、そのまま残すのではなく、新しくリフォームしたりして、何かに役立てることはできませんか。
女性	生まれてからずっと	大型の書店、または文具店があってほしいです。

③生活環境 (7件)

性別	居住年数	意見内容
男性	生まれてからずっと	酒々井プレミアム・アウトレットは年齢層が高すぎる。もうちょっと若年層を重視した店をつくってほしい。
女性	生まれてからずっと	もっと中学生とかが行きたくなるような店がほしい。
男性	生まれてからずっと	最近不審者がよくでているから、町内の見回り人数を増やす。

④教育・文化 (7件)

性別	居住年数	意見内容
女性	10年以上	総合公園のテニスコートに電気をつけてもらいたいです。
男性	生まれてからずっと	プールなどを作ってほしい。
女性	10年以上	酒々井中吹奏楽部の定期演奏会を増やしてほしい。

⑤福祉・健康づくり (1件)

性別	居住年数	意見内容
その他	生まれてからずっと	精神科を作って心を病んでいる人が相談できる場所を作ってほしい。

2. 中学生懇談会

(1) 懇談会での意見

【テーマ①】酒々井町の好きなところ

- 日本一古い町で自然が豊かであるところと、京成酒々井駅、JR 酒々井駅、スーパー、プリミエール酒々井など、施設がたくさんあって住みやすいところ。
- 自然が豊かで、落ち着いた町並みがあるところ。酒々井町に住んでいると、心が落ち着き、静かで過ごしやすい。
- 自然が多く、田舎でもなく都会でもないの、ちょうど良く住みやすいところ。酒々井町は、田舎と都会が調和していて、住むのにちょうど良い。
- 自然が豊かで、小学校のグラウンドが大きいところ。子どもたちの活動が活発になっている。
- 町の歴史が古く、伝説があることや、町内に自然があり、木の実がとれ、自然とふれあえるところ。歴史や伝説があることで、酒々井町のことをより知ることができる。
- 生活できる環境が整っていて、緑がたくさんあるところ。酒々井町はスーパー、駅、コンビニなどの施設が整っていて、自然があり、住みやすい。
- スーパーや図書館などの施設が揃っており生活に困らないところ。高速道路があるので、他の場所に移動しやすいところ。また、日本一古い町として町制施行 130 年であるところ。

【テーマ②】酒々井町の改善して欲しいところ

- 酒々井小学校近くの道路には歩道がないことや、町内の歩道が狭いこと。また、脇道に入ると、街灯が少なくて夜に通るときに危険を感じる。
- 夜の道が暗くて、危ないところ。塾に通うのに JR 南酒々井駅をよく利用するが、無人駅なので夜は暗くて怖い。
- 去年など千葉県で台風が多かったので、その対策としても学校の設備を新しくしてほしい。町内の公園には、よく食べ物のゴミが落ちているので、きれいにしてほしい。
- 道が暗い所があるので、街灯を増やして欲しい。子供が遊べる場所を増して欲しい。町にはゲームセンターや公園などがあるが、他の市町村と比較すると少ない。イオンモールなどがあればいいと思う。
- 交通事故が起こらないよう事故の防止を心掛けてほしい。酒々井町には信号がなく、左右が見えなくて事故がおこってしまうことがあると思う。犬猫の放し飼いされているのをよく見るので、ポスターなどで周知してほしい。
- 鳩のふんが、酒々井駅によく落ちており、清掃員の人が「掃除をしても、きりが無い」と言っていたので改善してほしい。空き地や公園に沢山雑草が生えているので掃除してほしい。

○街灯が少なく、道が舗装されていない場所が多いので自転車に乗っていて危なく感じる。また街灯が無いので不審者が出てくるかもしれないので怖い。

【テーマ③】 将来酒々井町に住み続けたいか、住み続けるために必要なこと

○大学に行く時に町を出ると思う。ただ仕事を退職したら戻ってきたい。

- ・住み続けるためには、酒々井町にある職場を今以上に増やせばいいと考える。子供が遊べる場所が少ないと思うので、大人と子どもが遊べる場所、例えば公園やバuntingセンターなどがあれば良いと思う。酒々井町にしかない遊ぶ場所が欲しい。

○住み続けたい。

- ・自然豊かであることは、将来子どもを育てるのに良い環境だと思う。街灯などを増やしたり、歩道をもう少し広くしたりして小さい子どもも安心して住める町にして欲しい。自然を残してもらい、安心して暮らせる町になってほしい。

○都会に出てみたい。酒々井町には、夢が叶ったあとに戻ってきたい。

- ・子どもを預けられる施設や、室内アスレチックなど小さな子でも遊べる施設を作り、お店を増やすことで、酒々井町に住んでいる人は酒々井町から出て行かなくなると思う。

○住み続けたい。

- ・酒々井町は自然豊かで、安心するので住み続けたい。また人が来るようにするために、服屋や雑貨屋、レストランなどのさまざまな店を増やしたり、道の整備をしたりすることが必要だ。

○住み続けたい。

- ・自然があるので、「大ちゃん山」にキャンプ場を作ればいいと思う。また、コンビニなどの買物施設や公共施設などを増やすことや、町内でゴミ0、事故0、いじめ0を目標とすることが必要。

○住み続けたい。

- ・酒々井町は緑があり、施設が整っている。公園でボールが使えるようになることや、学校の外装、内装をきれいにすれば、町外からの転入が増えるのではないかな。

○住み続けたい。

- ・夏や梅雨時期だと遊ぶ場所が限られてしまうので、遊ぶ場所として室内アスレチックが欲しい。学校の外観をきれいにすることで、酒々井中学校を良い学校だと思ってくれて町外からの転入が増えると思う。

【テーマ④】私が町長だったら

- 今までの町長の話聞いて、提案したことが簡単には出来ないとわかったが、遊べる施設を増やしたり、道をきれいにしたりしたい。
- ①、②の質問と同じ回答になるが、町内の街灯を増やし、歩道を広くしたい。
- 子どもだけでも遊べる室内施設があれば、子どもたちを集められると思う。InstagramなどのSNSを活用し、酒々井町のことを情報発信することで、観光客が集まると思うので、酒々井町にホテルを造りたい。
- 道路の整備をしたい。また小中学生は成長途中だと思うので、運動のできる所を増やしたい。
- 学校の活動などで酒々井町全体を使って動画を撮影することで、生徒一人ひとりが酒々井町のことを知ることができると思う。子供が遊べる場所を作りたい。
- 英検等の検定料を高校生の分も町が負担すれば、酒々井町にもたくさん学生がくると思う。コロナ禍が終了したら、プリエール酒々井に有名人を招待したい。
- 酒々井中学校の体操服のポケットを前2個にして、収納できる容量を増やしたい。環境に配慮して、町内で使っているストローを紙ストローにしたい。

(2) 懇談会実施後の「感想シート」

① 「好きなところ・自慢できるところ」と「改善してほしいところ」の意見交換について

Aさん	酒々井町の自然が豊かなところや、住みやすいというところを活かし、これからの酒々井町をどうしていけばよいか、町長と意見を交換できてよかった。
Bさん	街灯を増やしたり、歩道を広くするのは、想像よりもずっと大変な事だと分かった。
Cさん	酒々井町の、自分達の改善して欲しいところなどは、自分達が町に言えばできることが分かったので、どんどんそういうことをしていこうと思った。
Dさん	酒々井町には色々な良い所や、他には無い所があり、また、改善すれば、今以上に良い町になるけど、良い町にするためには、時間や資金などが多く必要ということが分かった。
Eさん	自慢できるところで、やっぱり自然がある所はいいなと思うし、改善して欲しい所で、電灯などの意見もあったけど、酒々井町は、いろいろと工夫しているし、お金の問題もあるかもしれないけど、これからの発展などについてくわしく分かった。
Fさん	改善の部分で、自らが頼めば出来るようになること。そして、直す部分でまだ時間はかかってしまうが、最終的には解決できるということで、とても安心した。さらに自然も残してもらえるということで、自分の好きなところをもっと好きになれたなと感じた。
Gさん	酒々井町の大事なところは自然豊かなところと生活に困らないこと。

② 「将来酒々井町への定住意向」の意見交換について

Aさん	町長の話聞いて、外に出てやりたいことを終えたときに、ふるさとである酒々井町に戻るのには良いなと思った。
Bさん	これからも住み続けたいので、この会で出た考えや沢山の案が、時を経て実現されると良いなと思った。
Cさん	小坂町長の話のように、自分は都会に出て自分の夢などが叶ったら、息抜きできるこの酒々井町に帰って来ようと思いました。
Dさん	酒々井町は良い所が多く、住み続けたいが、改善すれば今以上に人が集まるかもという可能性が出てきたのが分かった。
Eさん	町長の話聞き、改めて酒々井町に住み続けたいと思った。 (理由) 自然と触れ合えるし、これからの発展で、だんだんと進化してくのを見たいから。
Fさん	「住み続けはしたいが、少し足りない部分もある」と発言したが、酒々井町の予算内で、色々な所に気を配り、少しでも建造物を増やそう、酒々井町を発展させていこうという姿勢がとてもあり、感動した。自分が住んでいる町はこんなにも素晴らしい町だと思った。これからも酒々井町のことをもっと考えていきたい。
Gさん	皆、1度酒々井町を出ても、戻って暮らしたいと思っていた。

③「私が町長だったら・・・」の意見交換について

Aさん	私が町長だったら道をきれいにするとともに、酒々井町の自然を活かした企画をできればいいと思った。
Bさん	町長の意見を聞いて、これからもより良い酒々井町にしたいと思った。テーマパークなど自然を活用した物が増えると良いなと思った。
Cさん	僕たちが出した、室内アスレチックやホテルなど話に出ているようなので、ぜひ実現して欲しいと思った。しかし、それを造るには具体的に町の「予算」に合うか、など検討が必要で、願っただけでは造れないということが分かりました。
Dさん	小坂町長が常日頃から酒々井町民のことを考えて町づくりをしてくださっているのが、すごく伝わってきた。
Eさん	酒々井町全体を撮影していくことなどの意見があって、副会長が言った、ホテルの案もお金はかかるけど、“アウトレットプラン”もいいなと思った。
Fさん	「私が町長だったら」で、プリミエール酒々井に地域の有名人などと呼んでいることや、街灯などの設置については、自治会での話し合いの未決まるので、町長でなくても、自らが言えばできるかもしれないということが分かりました。プリミエール酒々井も増築して子供たちが遊べる場を増やしたと聞き、ゆっくりではあります。また一歩確実に、良い酒々井町になっていることを知り、とても誇りに思いました。
Gさん	質問1、2の意見をいかしているような意見をもっていた。

④その他

Aさん	今回の意見交換会で、町のことから予算のことまで、沢山のことが知れてよかった。
Bさん	本日、町長とお話ができ、とても嬉しかった。「町長」という仕事はとても大変な仕事で、酒々井町の事をよく考えて下さっているのが分かった。今日は本当に、ありがとうございました。
Cさん	テニスコートの話で、もし人口が減少しても学校は残り、社会人チームなどで使用できるなど、小坂町長は先の先まで考えているというのがとてもすごいと思った。
Dさん	この度はこんな素晴らしい会に参加させていただき、ありがとうございます。今回、お話しして下さったことを活かし、学校づくりにも貢献していきたいと思った。また、自分の出させていただいた意見が、今後の町づくりの力ぞえになれば嬉しい。
Eさん	町長は大変だということを新たに分かったし、この意見交換で私たちのことを考え、行動してくれているのが分かったので、私も酒々井中のために考え、行動しようと思った。また、色んなことが分かり、いい一日だった。
Fさん	千葉氏まつりでは内容をもっと具体的にチラシに書いてあれば「へえ～こんなことやっているんだ」と興味が湧くのもったいないと感じた。建造物を作ろうにも経済面での利益がなければ作ることが難しい。さらに、利益があってもそのままいいという人がいるため、これもまた難しいということが分かった。なので、作って欲しいなあではなく、自らが作って欲しいというところに参加すれば少しは変わるので、やはり、自らが動くということを目ざらなければならない。
Gさん	町長はこれからのことにしっかり意図や考えをもっている。

IV. 職員意識調査

■ 取組の概要

1. 趣旨
町職員の課題認識等について把握するとともに、個々の職員のまちづくりへの意識高揚を図る
2. 調査時期 令和2年11月5日～19日
3. 調査手法 庁内システム上での回答・回収方式
4. 調査対象 特別職及び会計年度任用職員を除く一般職の全職員 177名
5. 回答状況 回答数：173 回答率：97.7%

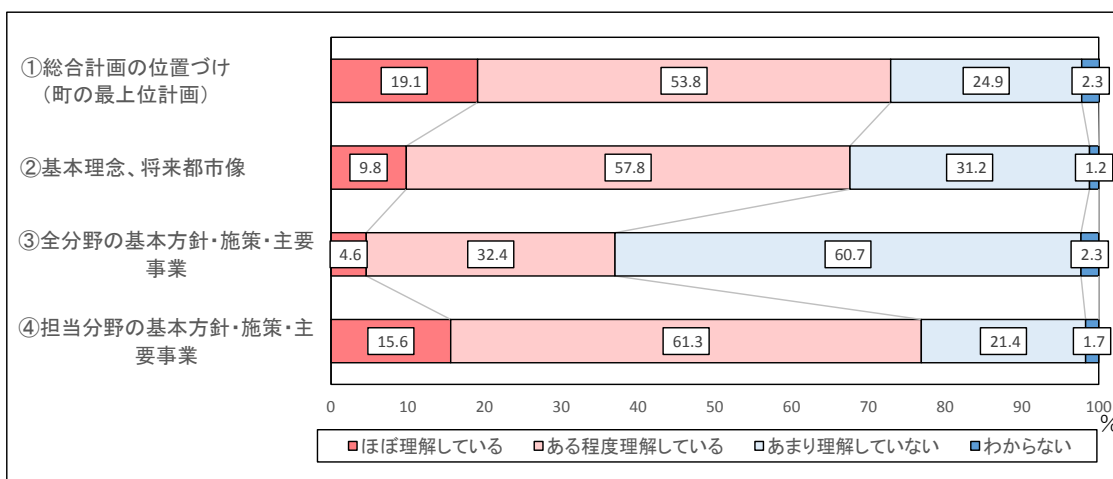
1. 第5次酒々井町総合計画と行政運営について

(1) 第5次酒々井町総合計画の理解度について

問. あなたは、第5次酒々井町総合計画の以下の項目についてどの程度知っていますか (SA、n=173)

- ①総合計画の位置づけ (町の最上位計画)
- ②基本理念、将来都市像
- ③全分野の基本方針・施策・主要事業
- ④担当分野の基本方針・施策・主要事業

⇒「理解している (『ほぼ』と『ある程度』の合計) は、「全分野の基本方針・施策・主要事業」では 37.0%にとどまった一方、それ以外の項目は7割程度となっている。

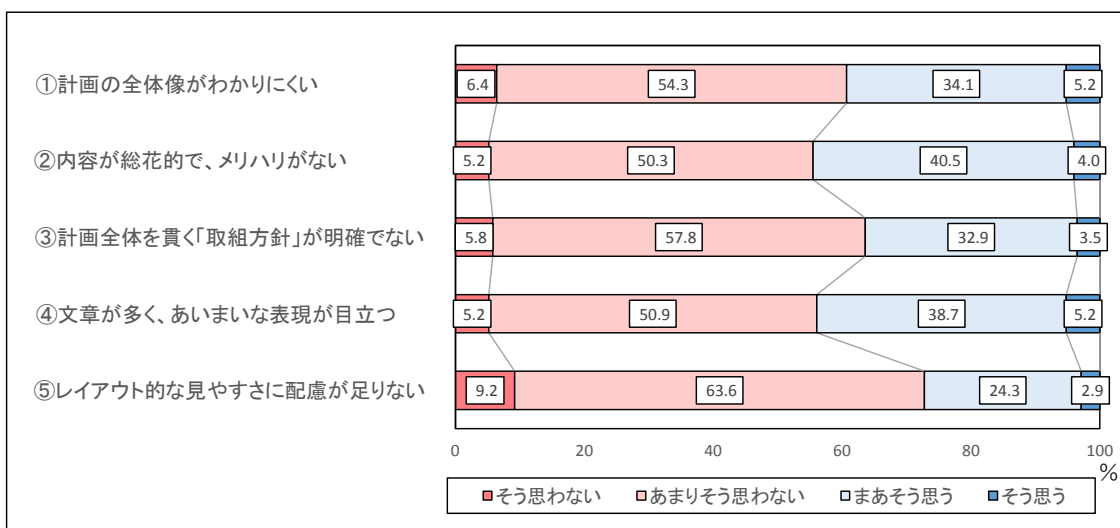


(2) 第5次酒々井町総合計画の評価について

問. あなたは、「第5次酒々井町総合計画」をみて、以下の点についてどう感じますか (SA、n=173)

- ①計画の全体像がわかりにくい
- ②内容が総花的で、メリハリがない
- ③計画全体を貫く「取組方針」が明確でない
- ④文章が多く、あいまいな表現が目立つ
- ⑤レイアウト的な見やすさに配慮が足りない

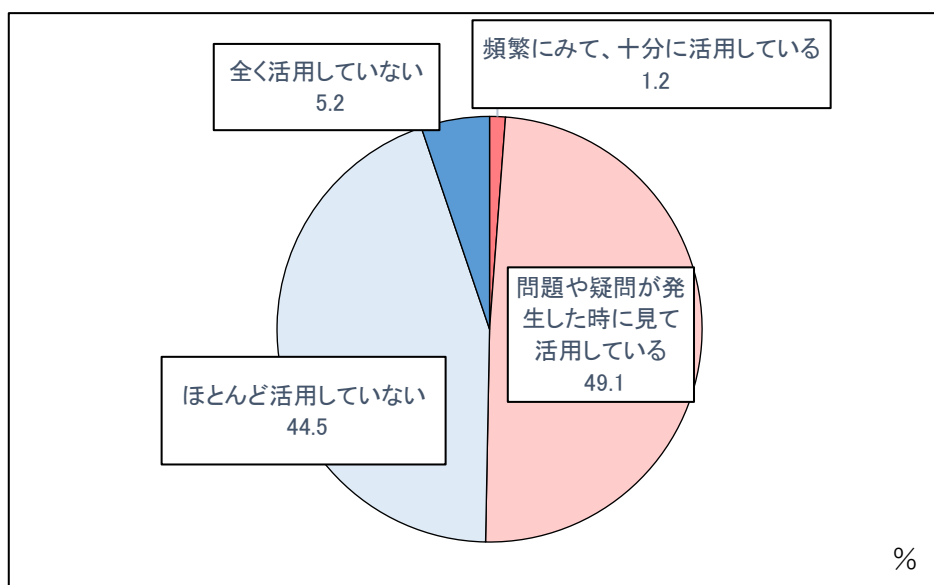
⇒「そう思わない (『そう思わない』と『あまり』の合計)」は、「レイアウト的な見やすさに配慮が足りない」が7割程度となっているが、それ以外の点は、5~6割となっている。すべての項目において、3~4割程度は改善の必要性があると感じている。



(3) 第5次酒々井町総合計画の活用について

問. あなたは日常業務を行う中で、総合計画をどの程度活用していますか (SA、n=173)

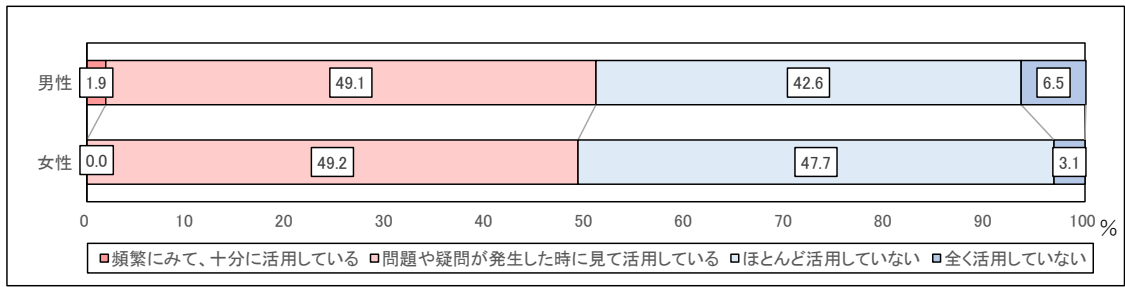
⇒「活用している (『十分に活用』と『問題や疑問発生時に活用』)」は約半数にとどまっており、ほぼ半数が総合計画を活用していないことがわかる。



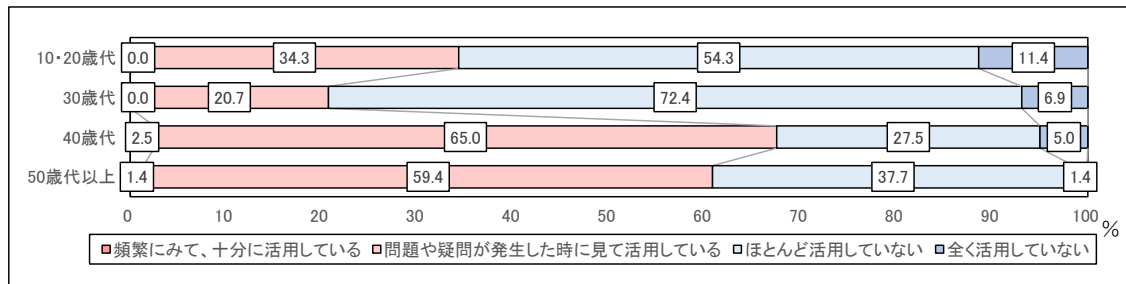
【属性別動向】

- 男女別では、大きな差は見られなかった。
- 年齢階層別では、「活用している (同)」の比率は、40 歳代と 50 歳代以上が 6 割超となっている一方、10・20 歳代と 30 歳代は 2~3 割程度となっている。
- 役職別では、「活用している (同)」の比率は、管理職が 69.6%と最も高く、役職が上がるにつれ高くなっている。

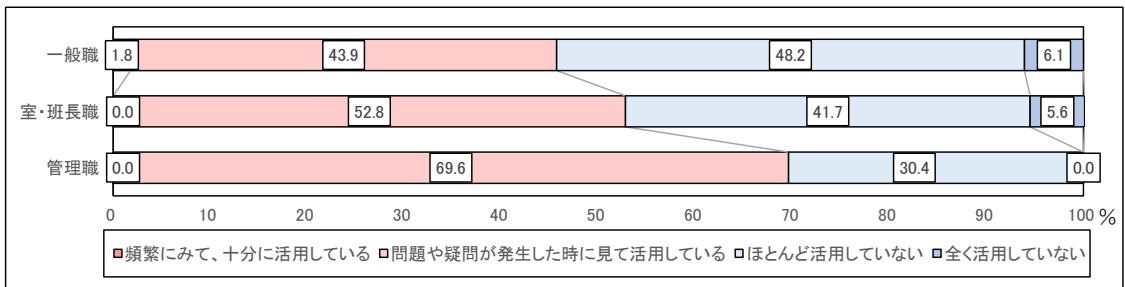
□男女別



□年齢階層別



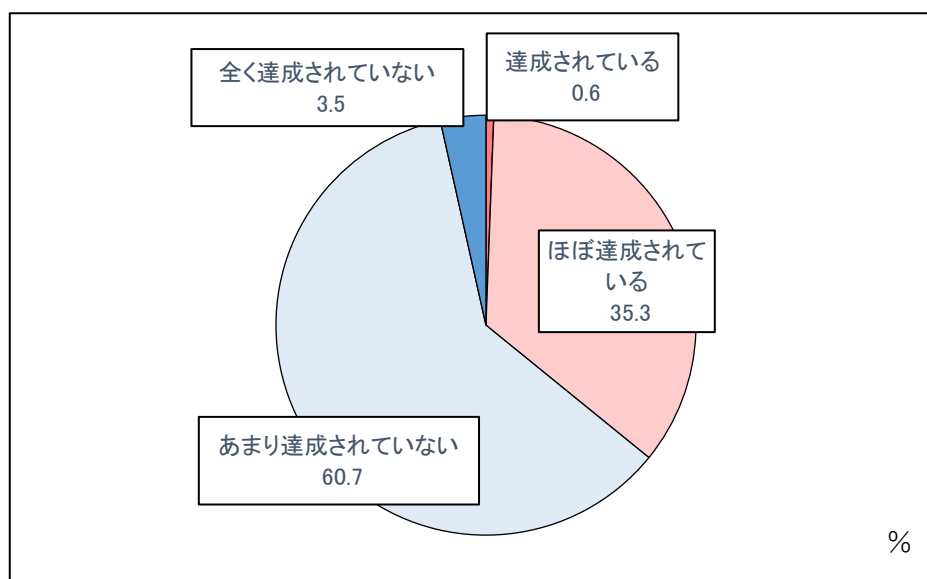
□役職別



(4) 第5次酒々井町総合計画の達成度について

問. あなたは現在の酒々井町をみて、第5次酒々井町総合計画に掲げられている将来都市像である「人 自然 歴史が調和した 活力あふれるまち 酒々井」が、どの程度達成されていると考えますか (SA、n=173)

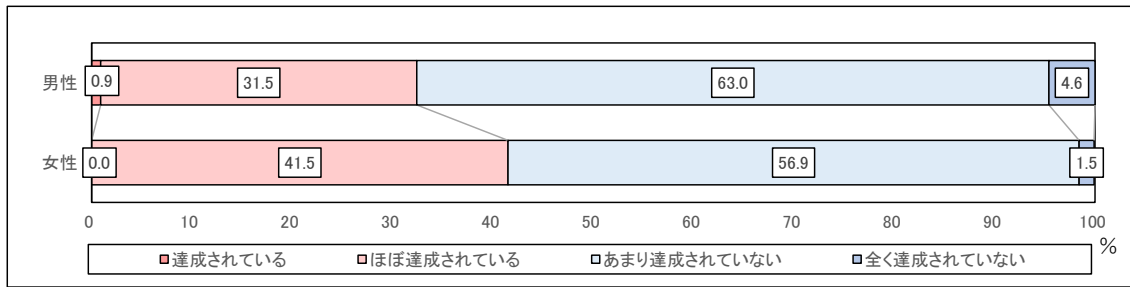
⇒「達成されている (『達成されている』と『ほぼ』の合計)」は 35.9%となっており、その中でも「達成されている」は 1%に満たない。6割超が「達成されていない (『あまり』と『全く』の合計)」と考えている。



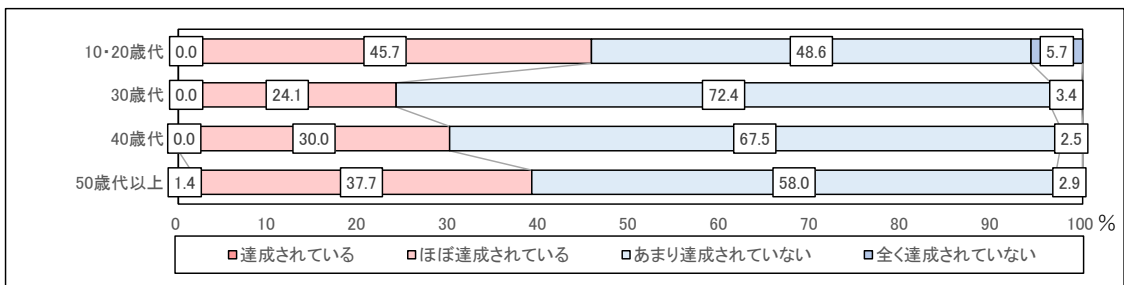
【属性別動向】

- 男女別では、「達成されている(同)」の比率は、女性(41.5%)のほうが男性(32.4%)より高い。
- 年齢階層別では、「達成されている(同)」の比率は、10・20歳代の比率が45.7%と最も高い。「達成されていない(同)」と回答した比率は、30歳代では75.8%に達している。
- 役職別では、「達成されている(同)」の比率は、管理職が56.5%と最も高く、その比率は、室・班長(22.2%)の2倍超となっている。

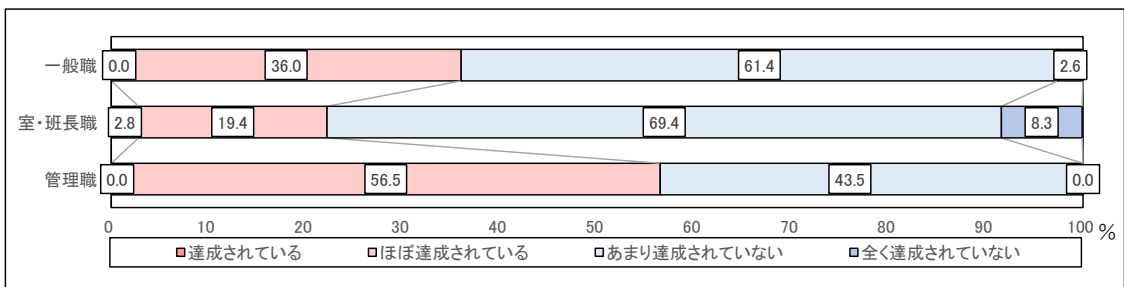
□男女別



□年齢階層別



□役職別

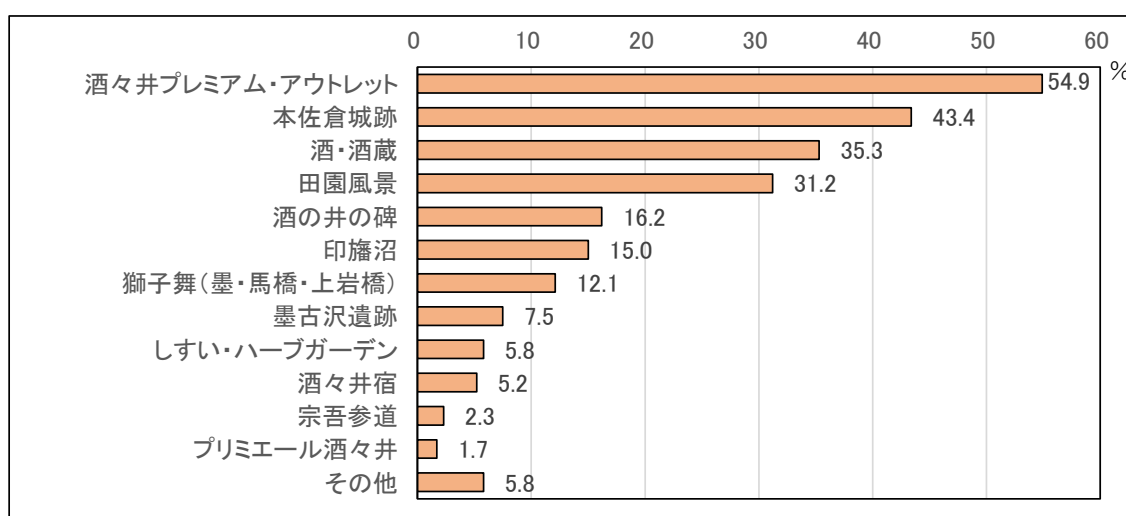


2. 酒々井町の特徴と将来について

(1) 酒々井らしさを感じる・酒々井町の好きなおところについて

問. あなたにとって「酒々井らしさ」を感じさせるもの、「酒々井で好きなおところ」を以下の中からお選びください (MA、n=173)

⇒「酒々井プレミアム・アウトレット」が 54.9%と最も高く、次いで「本佐倉城跡」(43.4%)、「酒・酒蔵」(35.3%)、「田園風景」(31.2%)となっている。



【属性別動向】

- ・男女別では、男女ともに「酒々井プレミアム・アウトレット」が 1 位となっており、2 位以降も「本佐倉城跡」、「酒・酒蔵」、「田園風景」と続いている。
- ・年齢階層別では、全ての年齢層で「酒々井プレミアム・アウトレット」が 1 位となっているが、その比率は 10・20 歳代で 77.1%となっている一方、50 歳代以上では 46.4%と 30 ポイント以上離れており、年齢層によって差が生じている。
- ・役職別では、全ての役職で「酒々井プレミアム・アウトレット」が 1 位となっている。しかし、2 位については、一般職と室・班長職では「本佐倉城跡」であるのに対し、管理職は「酒・酒蔵」となっている。

【町民意識調査との比較】

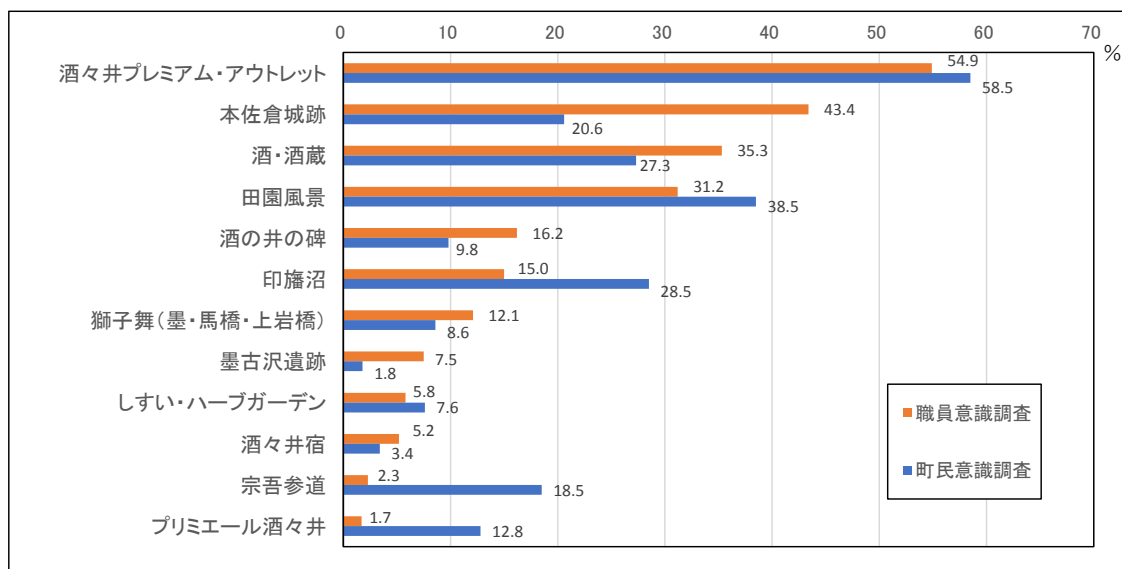
- ・町民意識調査と比較して、「酒々井プレミアム・アウトレット」が 1 位であることは変わらないが、「本佐倉城跡」では 20 ポイント以上高く、「印旛沼」、「宗吾参道」などでは 10 ポイント以上低い。

□属性別

< % >

カテゴリ	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
酒々井プレミアム・アウトレット	51.4	61.5	77.1	55.2	51.3	46.4	57.5	47.2	56.5
本佐倉城跡	42.1	46.2	54.3	31.0	46.2	42.0	44.2	44.4	39.1
酒・酒蔵	34.6	36.9	40.0	27.6	41.0	33.3	33.6	36.1	43.5
田園風景	29.9	33.8	14.3	34.5	43.6	31.9	31.0	30.6	34.8
酒の井の碑	14.0	20.0	11.4	17.2	10.3	21.7	15.0	16.7	21.7
印旛沼	21.5	4.6	8.6	6.9	12.8	23.2	13.3	19.4	17.4
獅子舞(墨・馬橋・上岩橋)	9.3	16.9	8.6	0.0	15.4	17.4	10.6	16.7	13.0
墨古沢遺跡	4.7	12.3	8.6	3.4	5.1	10.1	8.8	2.8	8.7
しすい・ハーブガーデン	5.6	6.2	5.7	6.9	12.8	1.4	8.0	0.0	4.3
酒々井宿	6.5	3.1	0.0	6.9	5.1	7.2	6.2	0.0	8.7
宗吾参道	2.8	1.5	0.0	3.4	5.1	1.4	2.7	0.0	4.3
プリミエール酒々井	0.0	4.6	5.7	3.4	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0
その他	5.6	6.2	5.7	6.9	5.1	5.8	6.2	2.8	8.7

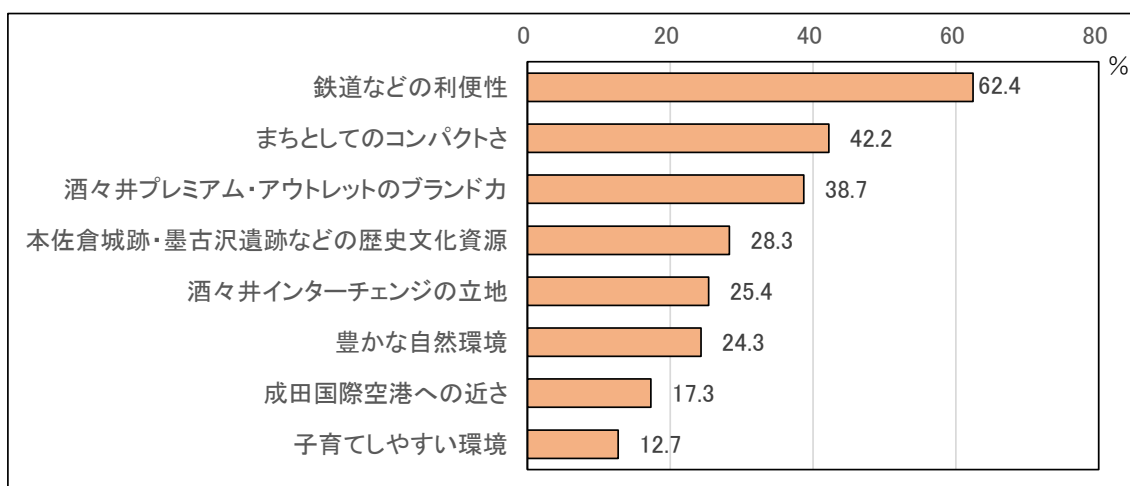
【町民意識調査との比較】



(2) 酒々井町の強みについて

問. あなたは、酒々井町を活性化させていくために活かしていくべき「強み」は何だと考えますか (MA、n=173)

⇒「鉄道などの利便性」が 62.4%と最も高く、次いで「まちのコンパクトさ」(42.2%)、「酒々井プレミアム・アウトレットのブランド力」(38.7%)となっている。



【属性別動向】

- 男女別では、「鉄道などの利便性」がともに 1 位であるが、「本佐倉城跡・墨古沢遺跡などの歴史文化資源」、「豊かな自然環境」、「子育てしやすい環境」の比率は、女性のほうが男性より 10 ポイント以上高い。「酒々井インターチェンジの立地」は、男性 (29.9%) のほうが女性 (18.5%) より 10 ポイント以上高い。
- 年齢階層別では、「鉄道などの利便性」の比率は、50 歳代以上が 69.6%と最も高く、年齢が上がるにつれ高くなっている。
- 役職別では、全ての役職で「鉄道などの利便性」が 1 位であり、その比率は管理職が 78.3%と最も高く、役職が上がるにつれ高くなっている。2 位については、一般職が「まちとしてのコンパクトさ」、室・班長職が「酒々井プレミアム・アウトレットのブランド力」、管理職が「本佐倉城跡・墨古沢遺跡などの歴史文化資源」となっている。

【町民意識調査との比較】

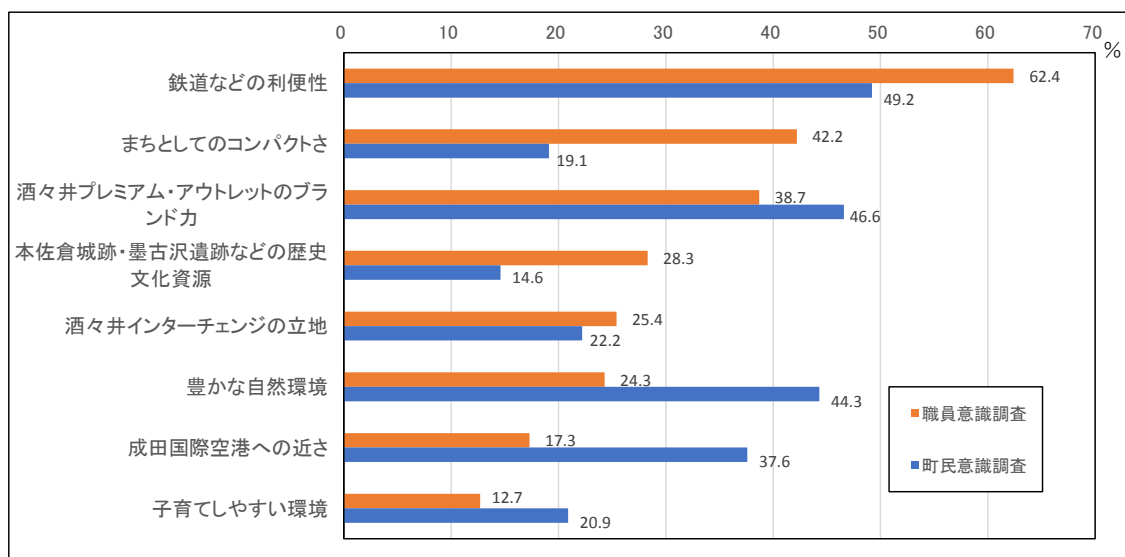
- 町民意識調査より、「鉄道などの利便性」、「まちとしてのコンパクトさ」が 10~20 ポイント程度高い。一方で「豊かな自然環境」、「成田国際空港への近さ」は、20 ポイント程度低い。

□属性別

< % >

	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
鉄道などの利便性	59.8	67.7	45.7	58.6	69.2	69.6	59.3	63.9	78.3
まちとしてのコンパクトさ	45.8	36.9	34.3	55.2	48.7	37.7	47.8	27.8	39.1
酒々井プレミアム・アウトレットのブランド力	39.3	38.5	45.7	24.1	43.6	39.1	36.3	47.2	39.1
本佐倉城跡・墨古沢遺跡などの歴史文化資源	24.3	35.4	42.9	10.3	20.5	33.3	28.3	19.4	43.5
酒々井インターチェンジの立地	29.9	18.5	22.9	17.2	30.8	27.5	25.7	27.8	21.7
豊かな自然環境	17.8	35.4	11.4	41.4	20.5	26.1	26.5	16.7	26.1
成田国際空港への近さ	20.6	12.3	20.0	17.2	7.7	21.7	15.0	25.0	17.4
子育てしやすい環境	8.4	20.0	20.0	13.8	17.9	5.8	14.2	13.9	4.3

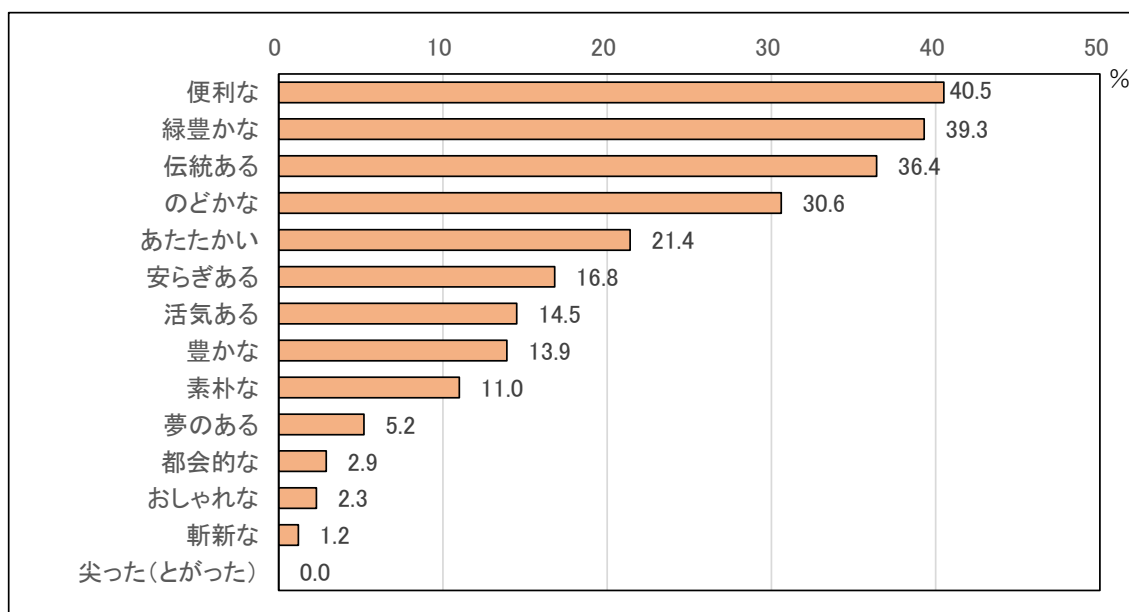
【町民意識調査との比較】



(3) 将来の酒々井町を表す「キーワード」について

問. あなたが望ましいと考える、将来の酒々井町を表す「キーワード」を以下の中からお選びください (MA、n=173)

⇒「便利な」が 40.5%で最も高く、次いで「緑豊かな」(39.3%)、「伝統ある」(36.4%)、「のどかな」(30.6%)となっている。



属性別動向】

- ・男女別では、「便利な」、「緑豊かな」、「伝統ある」、「あたたかい」などは、女性のほうが男性より高い。
- ・年齢階層別では、10・20 歳代においては「伝統ある」、30 歳代では「のどかな」、40 歳代では「便利な」、50 歳代以上では「緑豊かな」が最も高い。
- ・役職別では、「緑豊かな」、「伝統ある」などの比率は、管理職が最も高く、他役職と比較して 10 ポイント以上差が離れている。

【町民意識調査との比較】

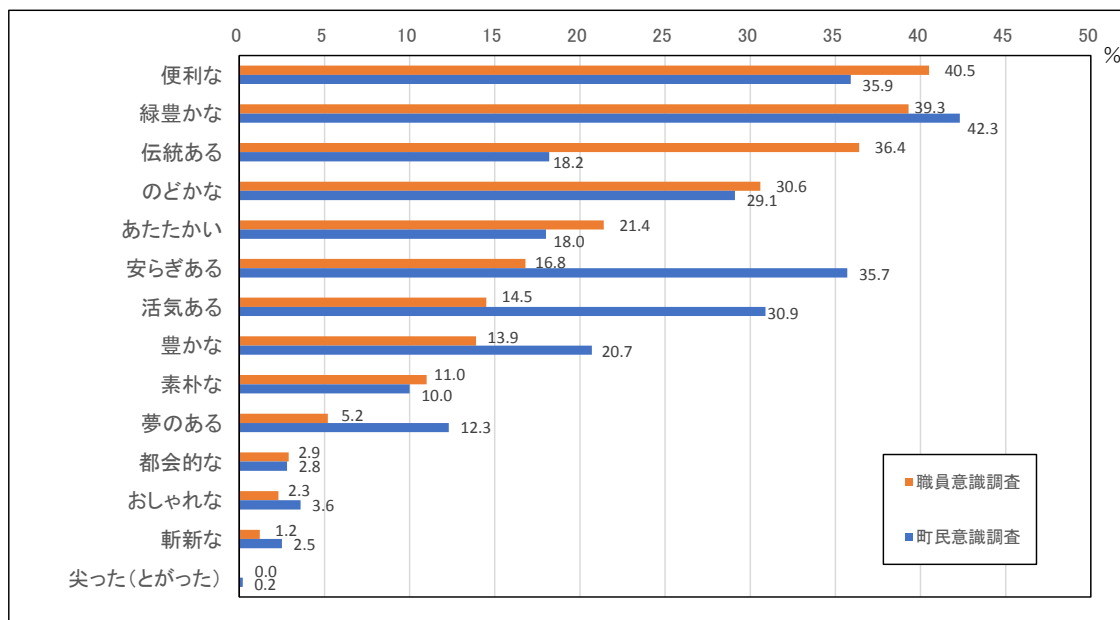
- ・「伝統ある」(36.4%) が町民意識調査 (18.2%) より、2 倍高い一方、「安らぎある」、「活気ある」では半分程度となっている。

□属性別

< % >

	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
便利な	38.0	44.6	42.9	37.9	50.0	34.8	40.4	41.7	39.1
緑豊かな	33.3	49.2	22.9	34.5	42.5	47.8	35.1	38.9	60.9
伝統ある	33.3	41.5	48.6	10.3	30.0	44.9	36.8	25.0	52.2
のどかな	30.6	30.8	37.1	48.3	22.5	24.6	33.3	19.4	34.8
あたたかい	16.7	29.2	20.0	27.6	27.5	15.9	21.9	19.4	21.7
安らぎある	17.6	15.4	5.7	17.2	12.5	24.6	14.9	22.2	17.4
活気ある	15.7	12.3	25.7	3.4	17.5	11.6	15.8	16.7	4.3
豊かな	12.0	16.9	20.0	10.3	15.0	11.6	16.7	8.3	8.7
素朴な	9.3	13.8	2.9	13.8	17.5	10.1	10.5	11.1	13.0
夢のある	7.4	1.5	2.9	0.0	5.0	8.7	5.3	2.8	8.7
都会的な	2.8	3.1	8.6	3.4	0.0	1.4	4.4	0.0	0.0
おしゃれな	3.7	0.0	2.9	0.0	2.5	2.9	3.5	0.0	0.0
斬新な	1.9	0.0	2.9	0.0	0.0	1.4	0.9	2.8	0.0
尖った(とがった)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

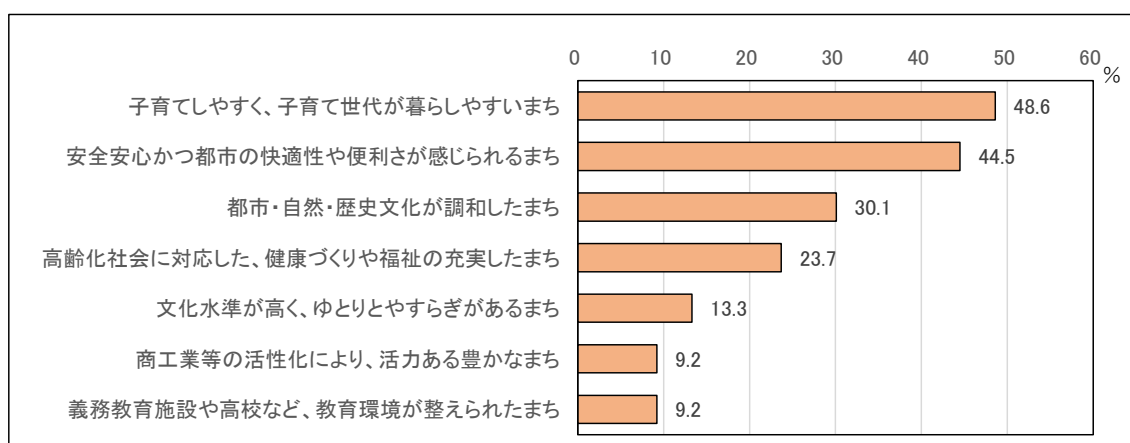
【町民意識調査との比較】



(4) 将来の酒々井町がどのようなまちになってほしいかについて

問. あなたは、将来の酒々井町がどのようなまちになることを望みますか。あなたのイメージに近いものをお選びください (MA、n=173)

⇒「子育て重視」、「安全安心・快適性」の2つが、将来の町の方向性として、強く考えられている。逆に「商工業の活性化」、「教育環境の整備」を将来の町の方向性として考える比率は、相対的に低くなっている。



【属性別動向】

- 男女別では、「子育て重視」、「健康づくり・福祉の充実」の比率は、女性のほうが、男性より 10 ポイント以上高い。
- 年齢階層別では、「子育て重視」の比率は、40 歳代が 61.5%と最も高く、他の年齢層と比較して 10 ポイント以上高い。
- 役職別では、一般職では「子育て重視」、室・班長職では、「子育て重視」、「安全安心・快適性」の二つ、管理職では、「安全安心・快適性」、「都市・自然・歴史の調和」の二つが、最も高くなっている。

【町民意識調査との比較】

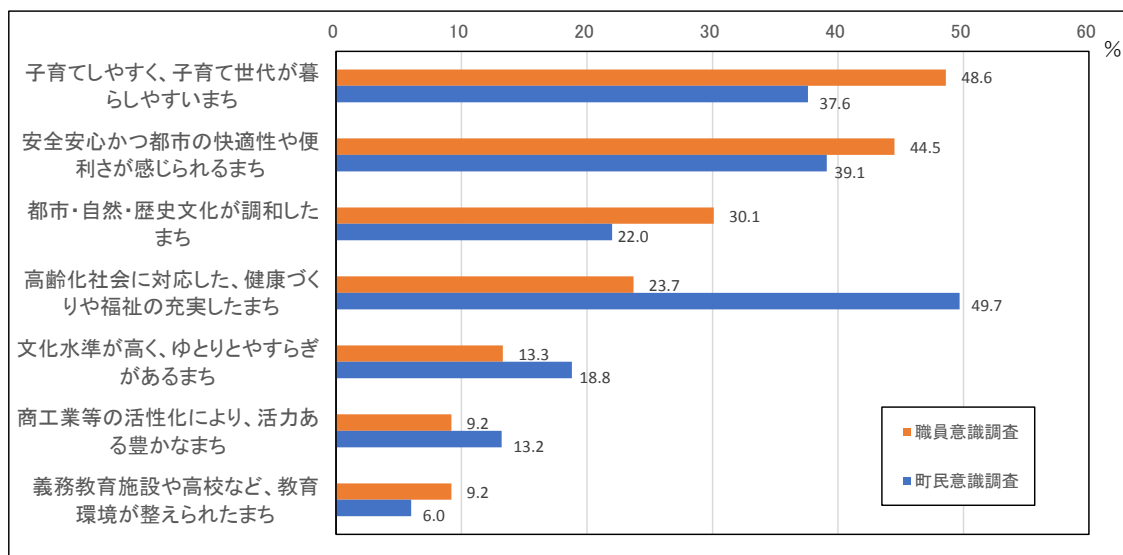
- 町民意識調査より、「子育て重視」、「安全安心・快適性」、「都市・自然・歴史の調和」などが高い一方、「健康づくり・福祉」、「高い文化水準」などが低い。町民意識調査で 1 位であった「健康づくり・福祉」は、職員意識調査では 4 位となっている。

□属性別

< % >

	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
子育てしやすく、子育て世代が暮らしやすいまち	44.3	56.9	48.6	44.8	61.5	44.1	51.8	44.4	43.5
安全安心かつ都市の快適性や便利さが感じられるまち	46.2	43.1	34.3	58.6	28.2	54.4	44.6	44.4	47.8
都市・自然・歴史文化が調和したまち	31.1	29.2	28.6	17.2	30.8	36.8	27.7	27.8	47.8
高齢化社会に対応した、健康づくりや福祉の充実したまち	17.9	33.8	17.1	27.6	17.9	29.4	22.3	22.2	34.8
文化水準が高く、ゆとりとやすらぎがあるまち	13.2	13.8	25.7	10.3	10.3	10.3	16.1	8.3	8.7
商工業等の活性化により、活力ある豊かなまち	7.5	12.3	22.9	6.9	15.4	0.0	12.5	5.6	0.0
義務教育施設や高校など、教育環境が整えられたまち	10.4	7.7	5.7	6.9	15.4	8.8	8.9	11.1	8.7

【町民意識調査との比較】



3. 町政について

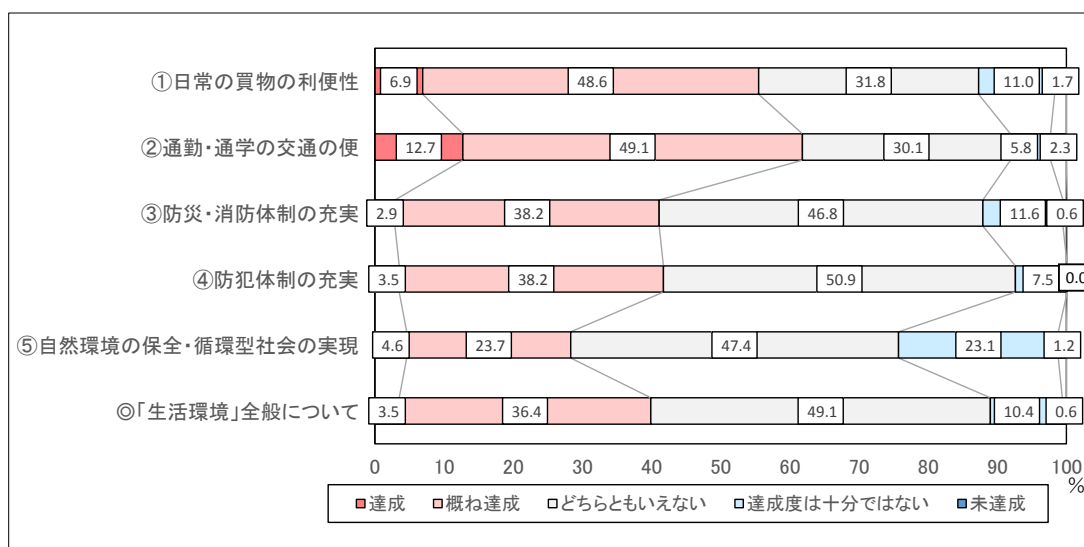
(1) 「生活環境」について

問. 「生活環境」について、あなたが感じている現在の「達成度」と、町が取り組む施策としての今後の「重要度」について、ご意見をお聞かせください
(SA、n=173)

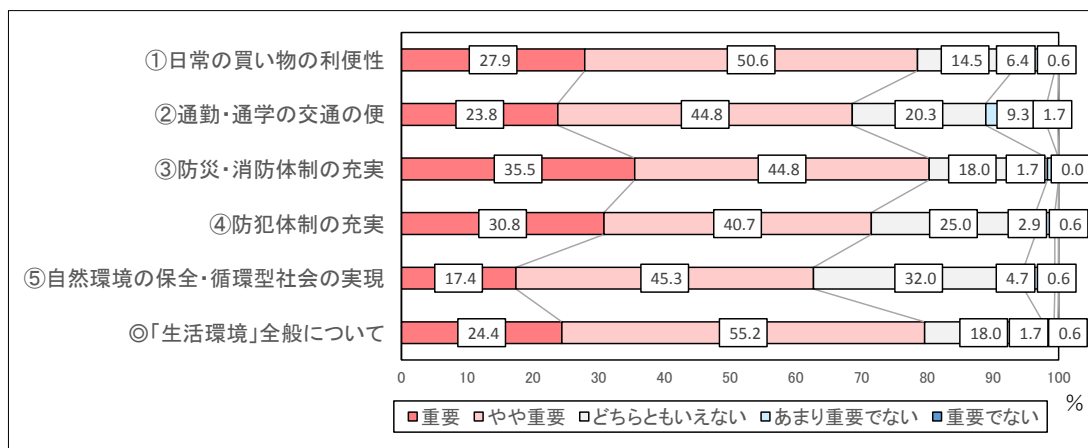
⇒「達成度」において、「達成（『達成』と『概ね達成』の合計）」では、「通勤・通学の交通の便」が61.8%と最も高い。「未達成（『十分ではない』と『未達成』の合計）」では、「自然環境の保全・循環型社会の実現」が24.3%と最も高い。

⇒「重要度」において、「重要（『重要』と『やや重要』の合計）」では、「防災・消防体制の充実」が80.3%と最も高い。

□ 達成度



□ 重要度

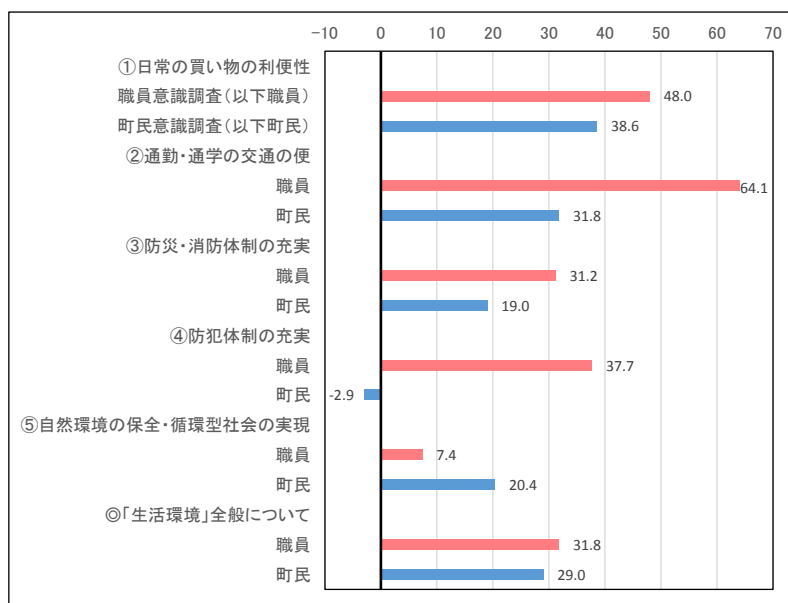


【参考】町民意識調査との比較 ～各項目を指数化～

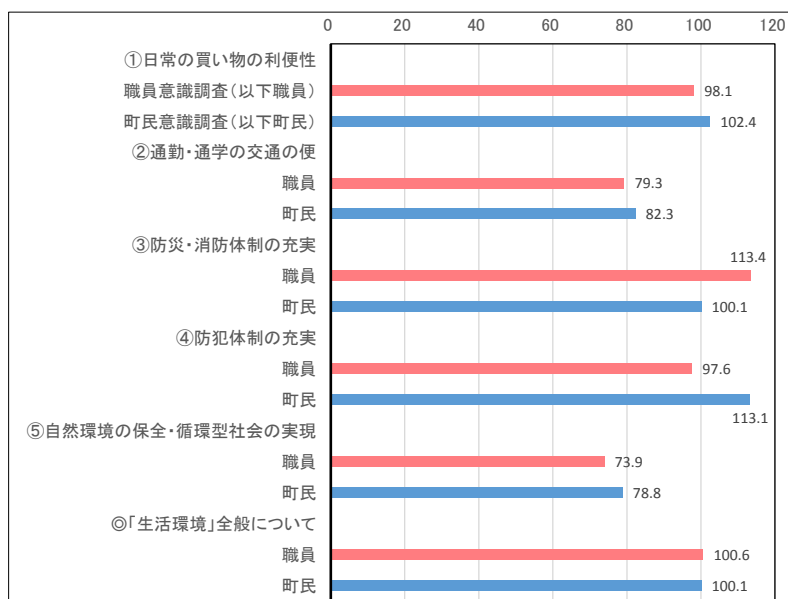
(注) 達成度・満足度、重要度のそれぞれの比率に、「達成・満足・満足」は×2、「概ね達成・やや満足・やや重要」は×1、「達成度は十分ではない・やや不満・あまり重要でない」は×(-1)、「未達成・不満・重要でない」は×(-2)を乗じた指数を算出。以下同様

- ・達成度・満足度では、「自然環境の保全・循環型社会の実現」を除く全ての項目で町民満足度は職員達成度を下回っている。中でも町民意識調査の「防犯体制の充実」は-2.9と不満の傾向にある。
- ・重要度では「防災・消防体制の充実」を除く全ての項目で、町民の重要度が職員の重要度を上回っており、町民のほうが職員より重要と考えていることがわかる。

◇達成度指数・満足度指数の比較 (赤：職員、青：町民 以下同様)



◇重要度指数の比較



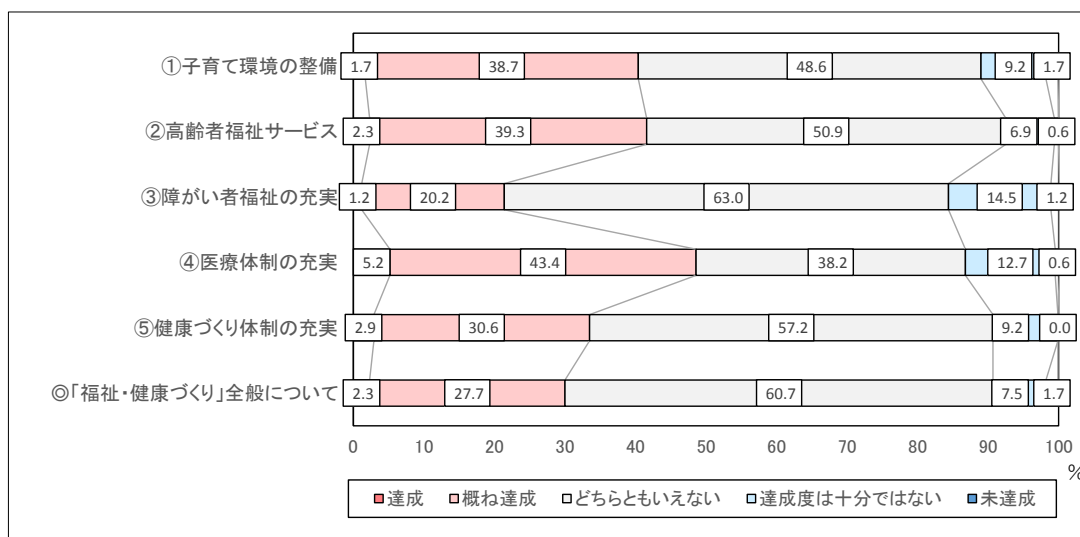
(2) 「福祉・健康づくり」について

問. 「福祉・健康づくり」について、あなたが感じている現在の「達成度」と、町が取り組む施策としての今後の「重要度」について、ご意見をお聞かせください (SA、n=173)

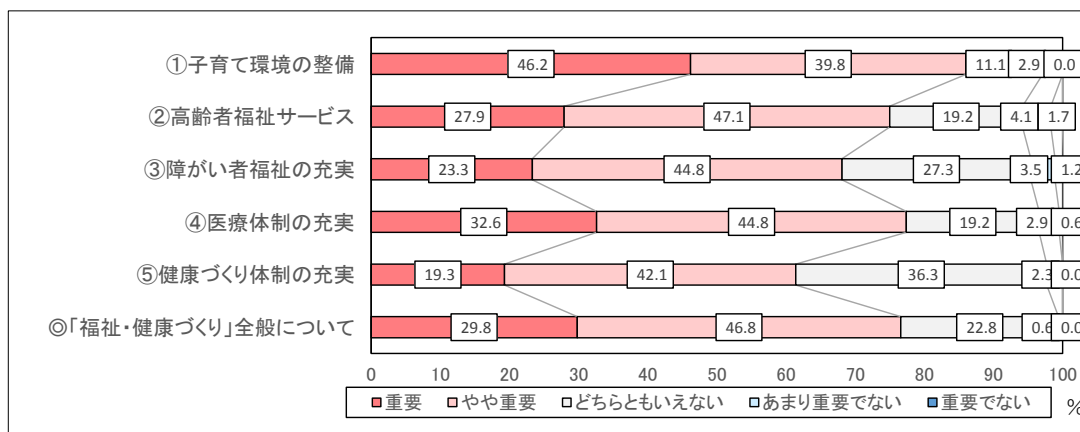
⇒ 「達成度」において、「達成 (『達成』と『概ね達成』の合計)」では、「医療体制の充実」が 48.6% と最も高い。「未達成 (『十分ではない』と『未達成』の合計)」では、「障がい者福祉の充実」が 15.7% と最も高い。

⇒ 「重要度」において、「重要 (『重要』と『やや重要』の合計)」では、「子育て環境の充実」が 86.0% と最も高い。

□ 達成度



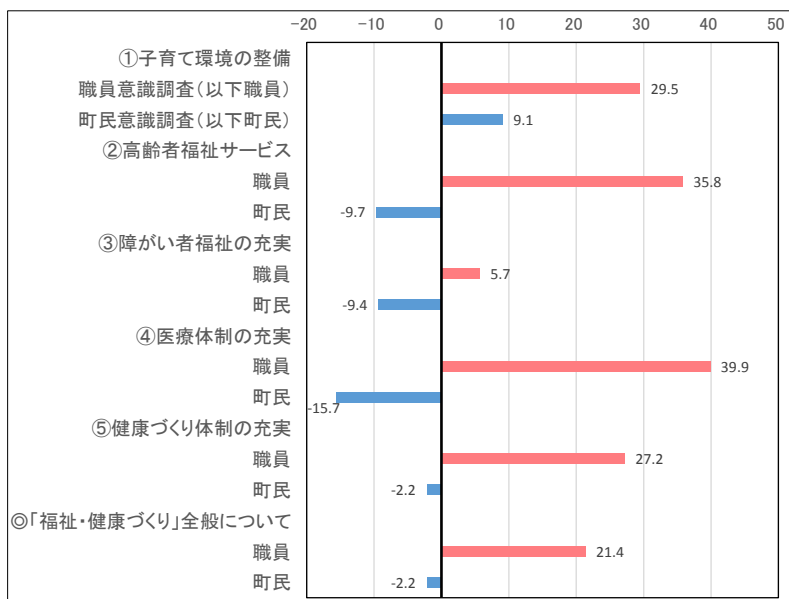
□ 重要度



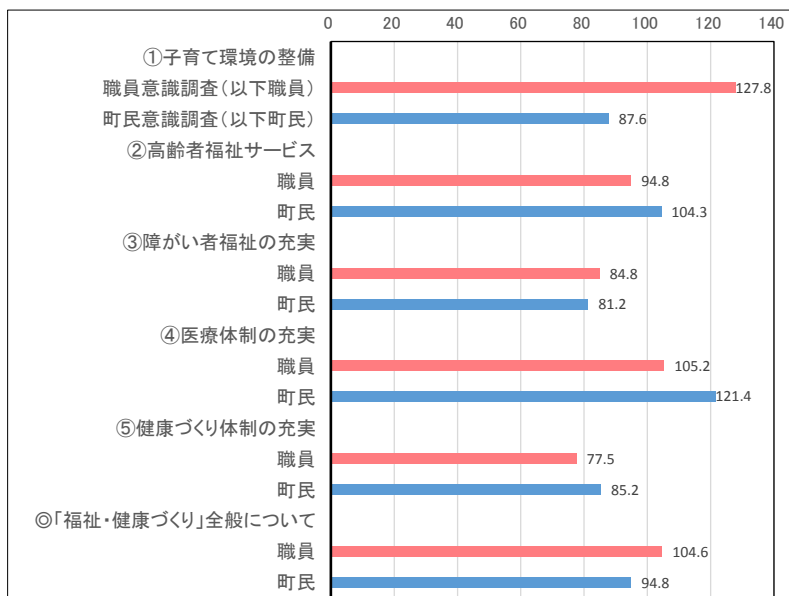
【参考】町民意識調査との比較 ～各項目を指数化～

- ・達成度・満足度では、職員達成度は全ての項目で「達成（同）」との傾向となっている一方、町民満足度は子育て環境の整備を除く全ての項目で、不満の傾向にある。
- ・重要度では「子育て環境の整備」は職員の重要度（127.8 ポイント）が町民の重要度（87.6 ポイント）を40ポイント程度上回っており、職員のほうが町民より重要と考えていることがわかる。

◇達成度指数・満足度指数の比較（赤：職員、青：町民 以下同様）



◇重要度指数の比較



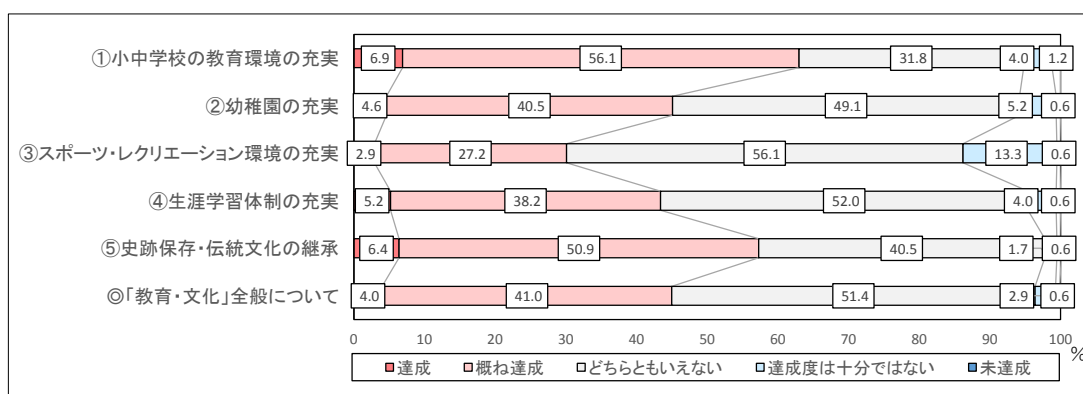
(3) 「教育・文化」について

問. 「教育・文化」について、あなたが感じている現在の「達成度」と、町が取り組む施策としての今後の「重要度」について、ご意見をお聞かせください
(SA、n=173)

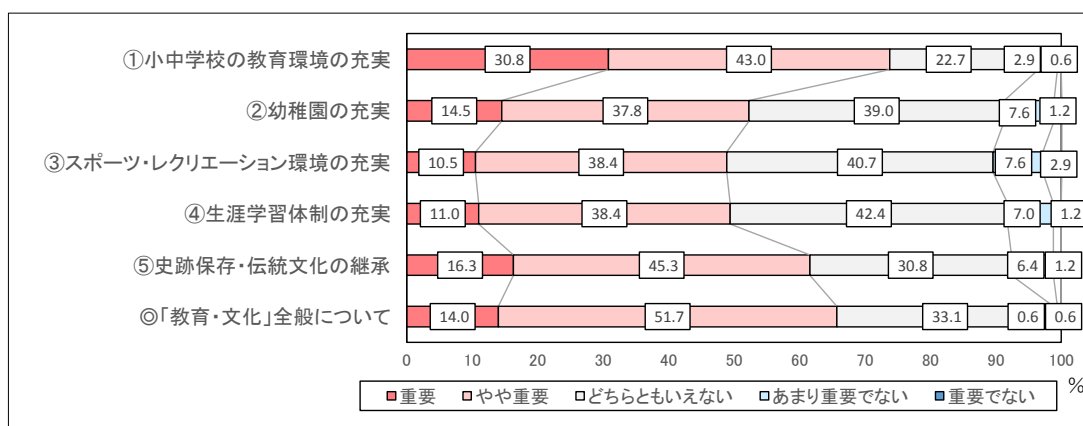
⇒「達成度」において、「達成（『達成』と『概ね達成』の合計）」では、「小中学校の教育環境の充実」が63.0%と最も高い。「未達成（『十分ではない』と『未達成』の合計）」では、「スポーツ・レクリエーション環境の充実」が13.9%と最も高い。

⇒「重要度」において、「重要（『重要』と『やや重要』の合計）」では、「小中学校の教育環境の充実」が73.8%と最も高い。

□ 達成度



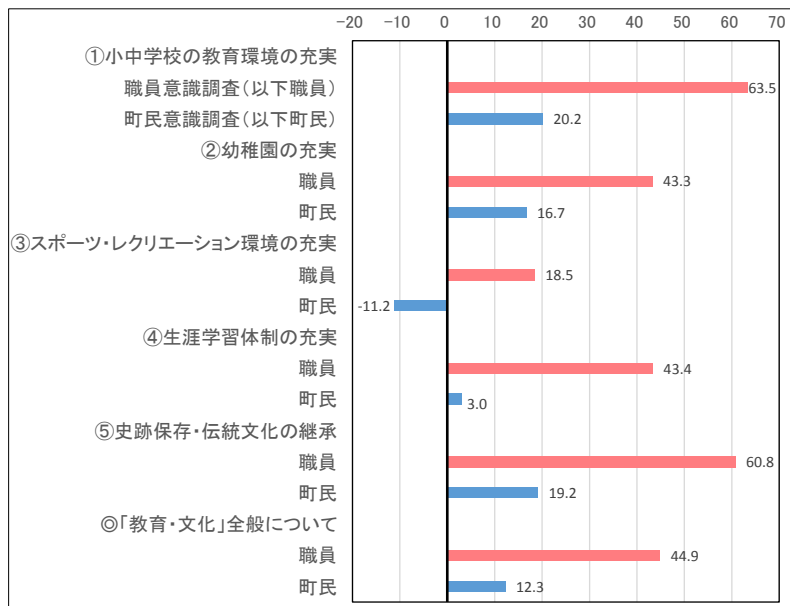
□ 重要度



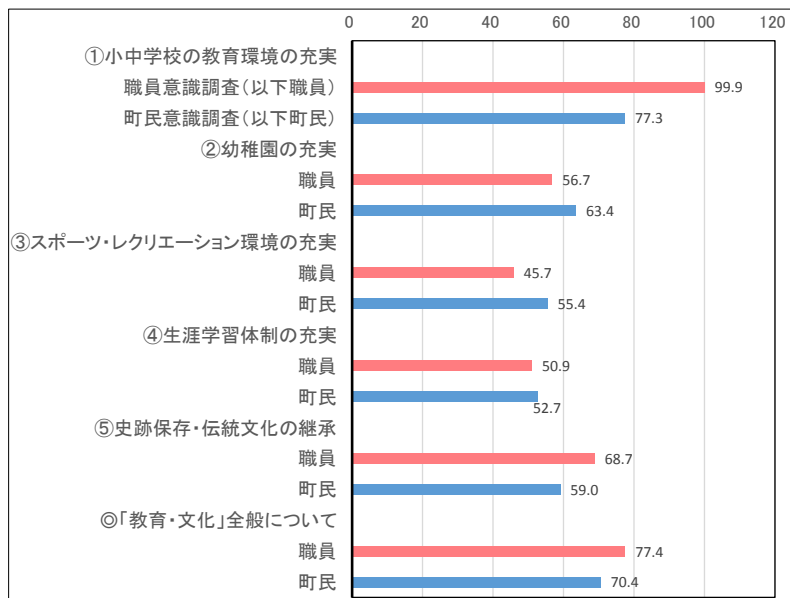
【参考】町民意識調査との比較 ～各項目を指数化～

- 達成度・満足度では、全ての項目で職員達成度が町民満足度を上回っており、その差は約 30 ポイント以上離れている。町民意識調査の「スポーツ・レクリエーション環境の充実」は-11.2 と不満傾向にある。
- 重要度では、「小中学校の教育環境の充実」は職員の重要度（99.9 ポイント）が町民の重要度（77.3 ポイント）を 20 ポイント以上、上回っており、職員のほうが町民より重要と考えていることがわかる。

◇達成度指数・満足度指数の比較（赤：職員、青：町民 以下同様）



◇重要度指数の比較



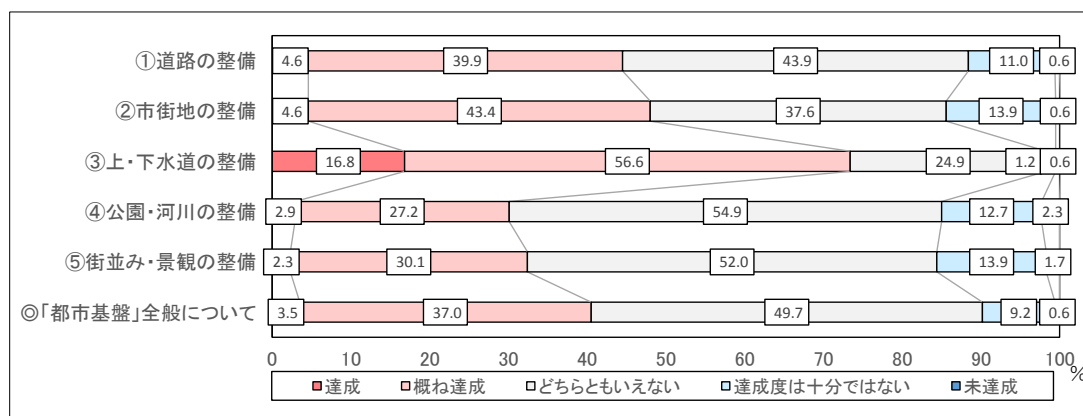
(4) 「都市基盤」について

問、「都市基盤」について、あなたが感じている現在の「達成度」と、町が取り組む施策としての今後の「重要度」について、ご意見をお聞かせください
(SA、n=173)

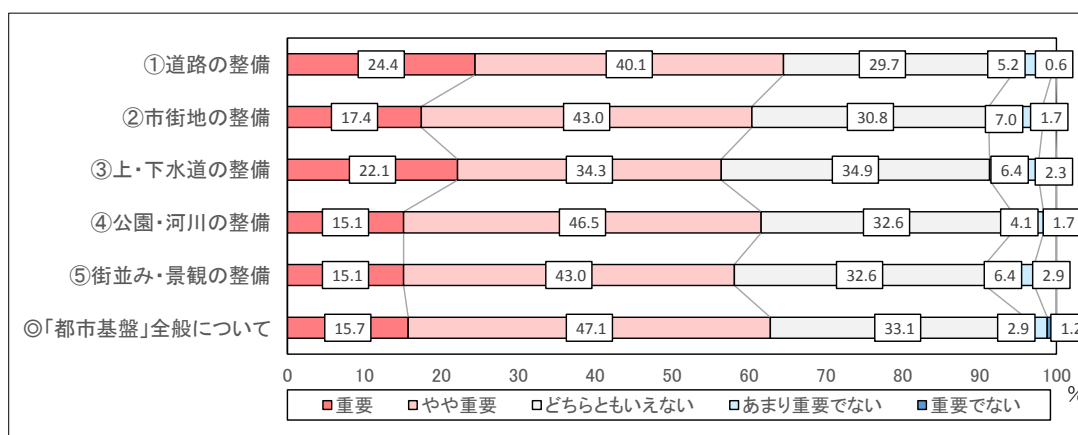
⇒「達成度」において、「達成（『達成』と『概ね達成』の合計）」では、「上・下水道の整備」が73.4%と突出して高い。「未達成（『十分ではない』と『未達成』の合計）」では、「街並み・景観の整備」が15.6%と最も高い。

⇒「重要度」において、「重要（『重要』と『やや重要』の合計）」では、「道路の整備」が64.5%と最も高い。

□ 達成度



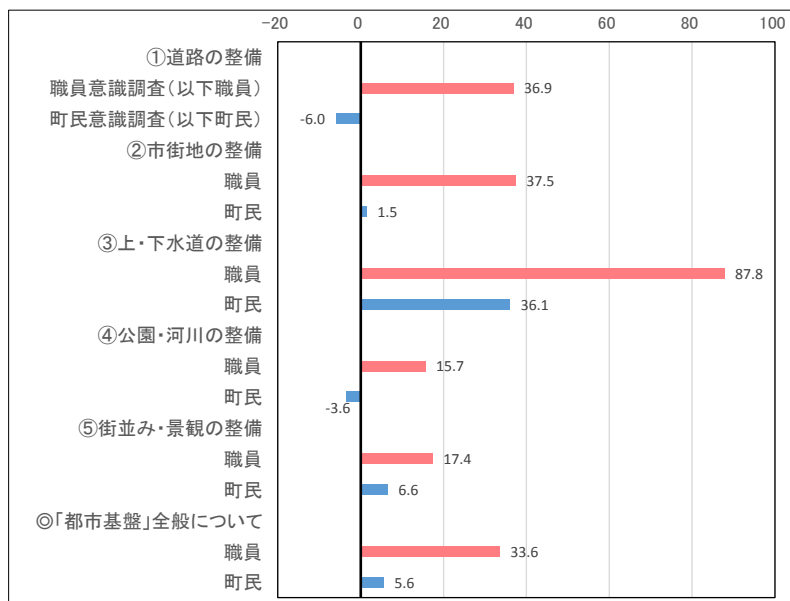
□ 重要度



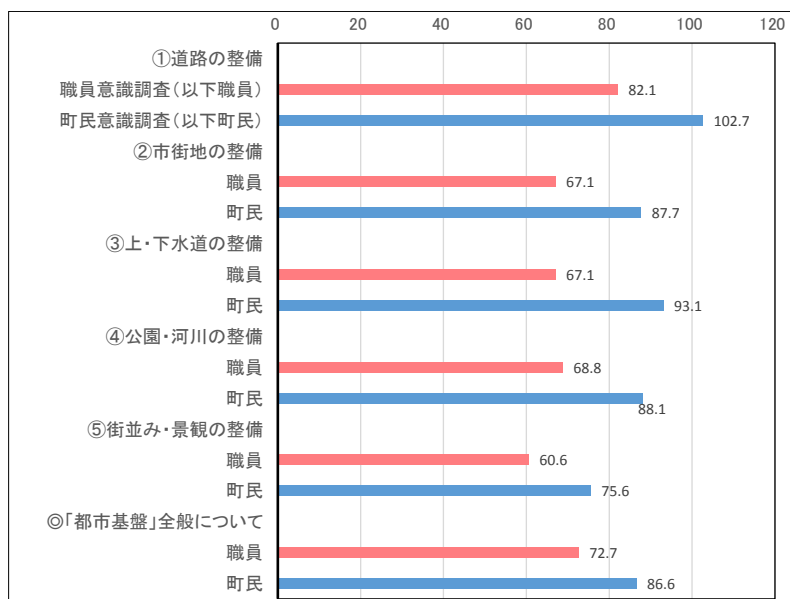
【参考】町民意識調査との比較 ～各項目を指数化～

- 達成度・満足度では、町民満足度が職員達成度を下回る中で、町民満足度の「道路の整備」、「公園・河川の整備」は、マイナスとなっており不満傾向にある。「上・下水道の整備」では職員の達成度と町民の満足度は、51.7ポイント離れている。
- 重要度では全ての項目で、町民の重要度が職員の重要度を上回っており、町民のほうが職員より重要と考えていることがわかる。

◇達成度指数・満足度指数の比較（赤：職員、青：町民 以下同様）



◇重要度指数の比較



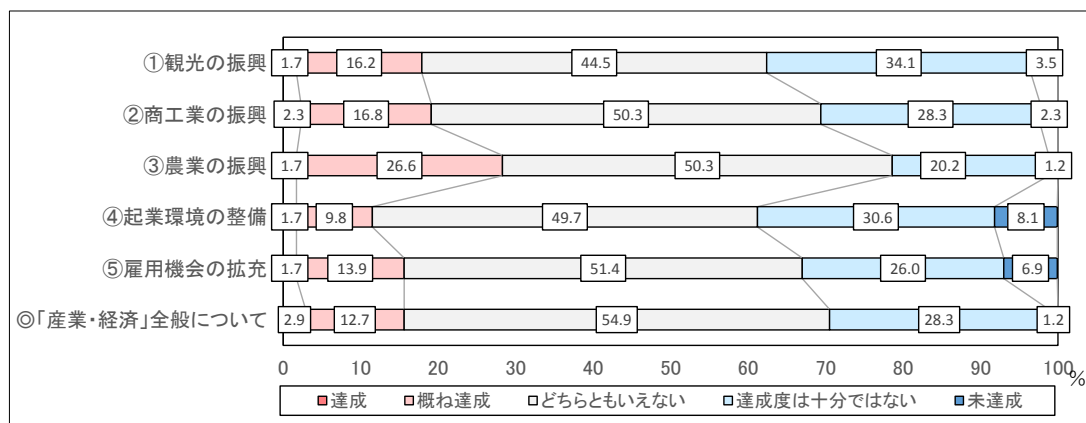
(5) 「産業・経済」について

問. 「産業・経済」について、あなたが感じている現在の「達成度」と、町が取り組む施策としての今後の「重要度」について、ご意見をお聞かせください (SA、n=173)

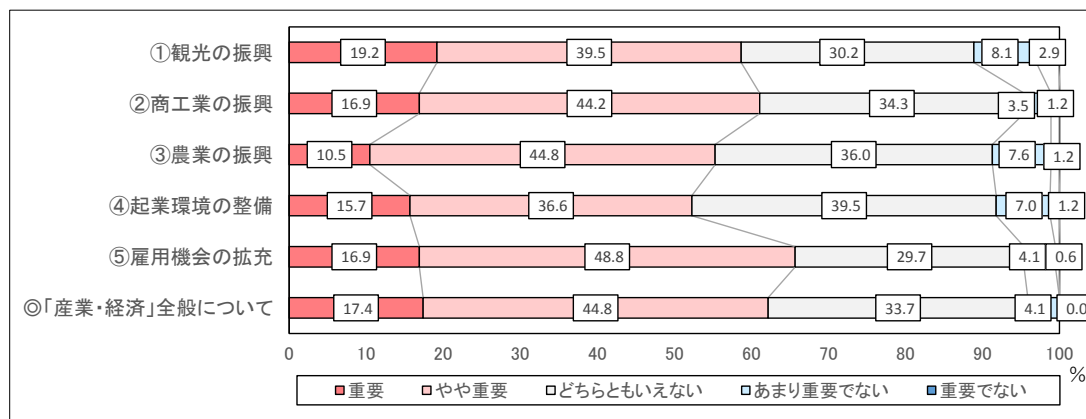
⇒「達成度」において、「達成(『達成』と『概ね達成』の合計)」では、「農業の振興」が28.3%と最も高いが、全ての項目で3割以下と低水準となっている。「未達成(『十分ではない』と『未達成』の合計)」では、「起業環境の整備」が38.7%と最も高い。

⇒「重要度」において、「重要(『重要』と『やや重要』の合計)」では、「雇用機会の拡充」が65.7%と最も高い。

□ 達成度



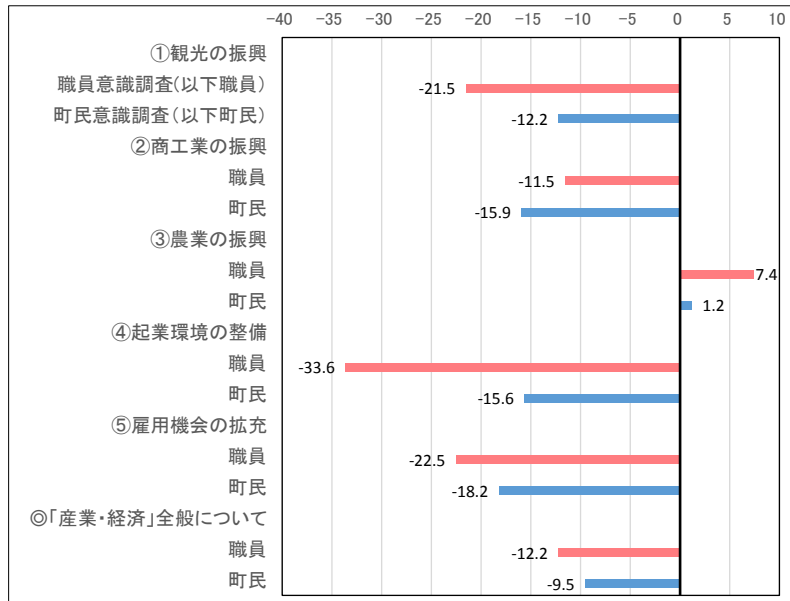
□ 重要度



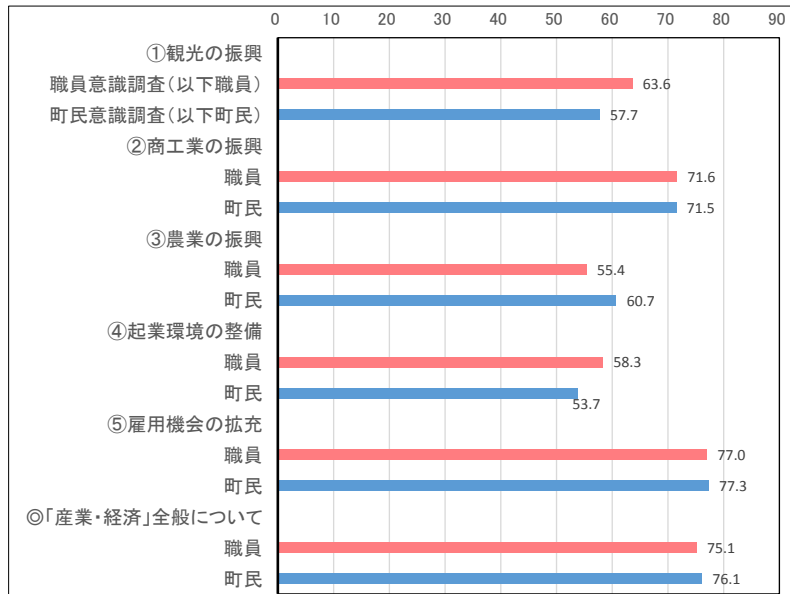
【参考】町民意識調査との比較 ～各項目を指数化～

- 達成度・満足度では、「農業の振興」は、ともにわずかにプラスとなっている一方、それ以外の全ての項目は、ともにマイナスとなっており、未達成・不満の傾向にある。
- 重要度では、職員の重要度、町民の重要度は全ての項目で同程度となっている。

◇達成度指数・満足度指数の比較（赤：職員、青：町民 以下同様）



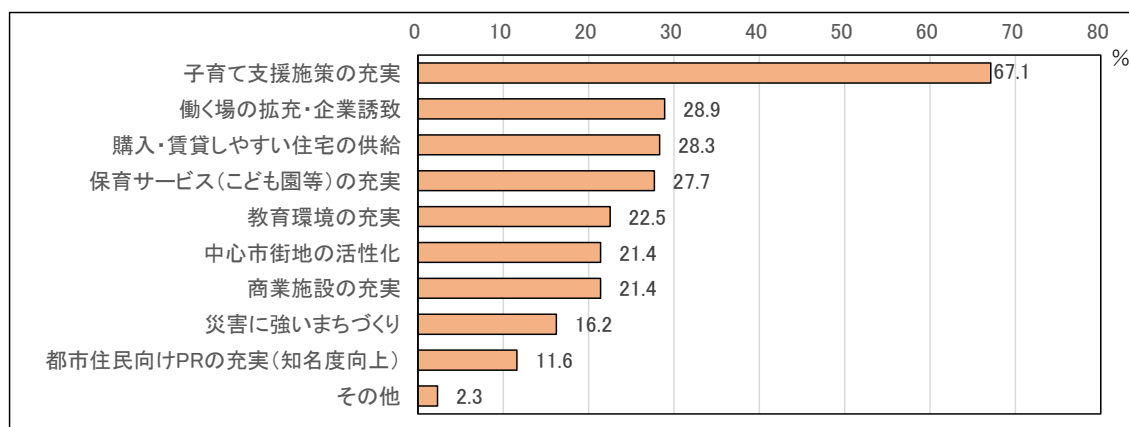
◇重要度指数の比較



(6) 若い世代の定住促進に必要なことについて

問. あなたは、将来的に酒々井町に若い世代の定住を促進していくためには、どのようなことが必要だと考えますか（MA、n=173）

⇒「子育て支援施策の充実」が67.1%と突出して高く、他の項目の2倍超となっている。



【属性別動向】

- 男女別では、「保育サービス(こども園等)の充実」、「商業施設の充実」の比率は、女性のほうが男性より10ポイント以上高い。「中心市街地の活性化」は男性のほうが女性より10ポイント以上高い。
- 年齢階層別では、どの年齢層でも「子育て支援施策の充実」が最も高いが、次いで高いのは、10・20歳代は「商業施設の充実」、30歳代は「購入・賃貸しやすい住宅の供給」、「保育サービス(こども園等)の充実」、40歳代は「購入・賃貸しやすい住宅の供給」、50歳代以上は「働く場の拡充・企業誘致」となっている。
- 役職別では、全ての役職で「子育て支援施策の充実」が最も高い。

【町民意識調査との比較】

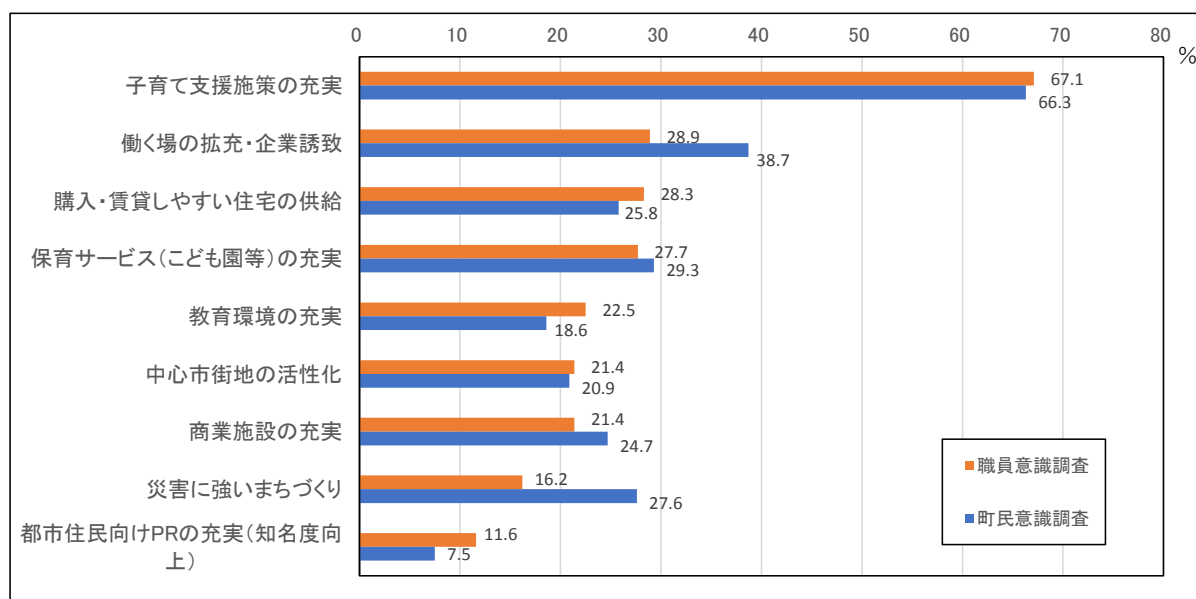
- 町民意識調査同様、「子育て支援施策の充実」が最も高くなっている。「働く場の拡充・企業誘致」、「災害に強いまちづくり」では、町民意識調査のほうが10ポイント程度高い。

□属性別

< % >

	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
子育て支援施策の充実	64.5	72.3	57.1	72.4	76.9	65.2	68.1	58.3	78.3
働く場の拡充・企業誘致	29.0	29.2	31.4	20.7	20.5	36.2	27.4	33.3	30.4
購入・賃貸しやすい住宅の供給	27.1	30.8	31.4	31.0	35.9	21.7	29.2	25.0	30.4
保育サービス（こども園等）の充実	22.4	36.9	20.0	31.0	33.3	27.5	26.5	30.6	30.4
教育環境の充実	25.2	18.5	17.1	24.1	28.2	21.7	23.9	19.4	21.7
中心市街地の活性化	28.0	10.8	28.6	17.2	17.9	21.7	23.9	13.9	21.7
商業施設の充実	15.9	30.8	42.9	6.9	12.8	21.7	23.9	19.4	13.0
災害に強いまちづくり	18.7	12.3	8.6	17.2	15.4	20.3	15.9	11.1	26.1
都市住民向けPRの充実（知名度向上）	10.3	13.8	17.1	6.9	7.7	13.0	9.7	16.7	13.0
その他	0.9	4.6	0.0	6.9	2.6	1.4	2.7	0.0	4.3

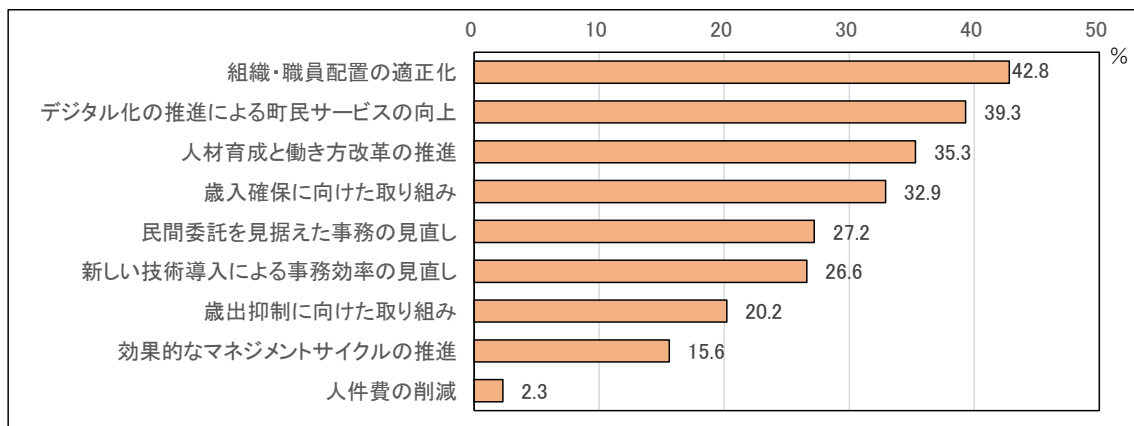
【町民意識調査との比較】



(7) 行財政改革の取組に対し、重要と考える取組について

問. 町が進めていくべき以下の行財政改革の取組のうち、あなたが特に重要だと考える項目をお選びください (MA、n=173)

⇒「組織・職員配置の適正化」が 42.8%と最も高く、次いで「デジタル化の推進による町民サービスの向上」(39.3%)、「人材育成と働き方改革の推進」(35.3%)となっている。



【属性別動向】

- ・男女別では、「デジタル化の推進による町民サービスの向上」、「人材育成と働き方の推進」などは、女性のほうが男性より高い。「歳入確保に向けた取り組み」などは男性のほうが女性より高い。
- ・年齢階層別では、10・20歳代は、「組織・職員配置の適正化」、「人材育成と働き方改革の推進」、30歳代は「デジタル化の推進による町民サービスの向上」、40歳代は、「歳入確保に向けた取り組み」、50歳代以上は、「組織・職員配置の適正化」、「デジタル化の推進による町民サービスの向上」が最も高い。「新しい技術の導入による事務効率の見直し」は、10・20歳代が42.9%と他年齢層と比べて突出して高い。
- ・役職別では、一般職は「組織・職員配置の適正化」、室・班長職は「デジタル化の推進による町民サービスの向上」、管理職は「民間委託を見据えた事務の見直し」が最も高くなっている。

【町民意識調査との比較】

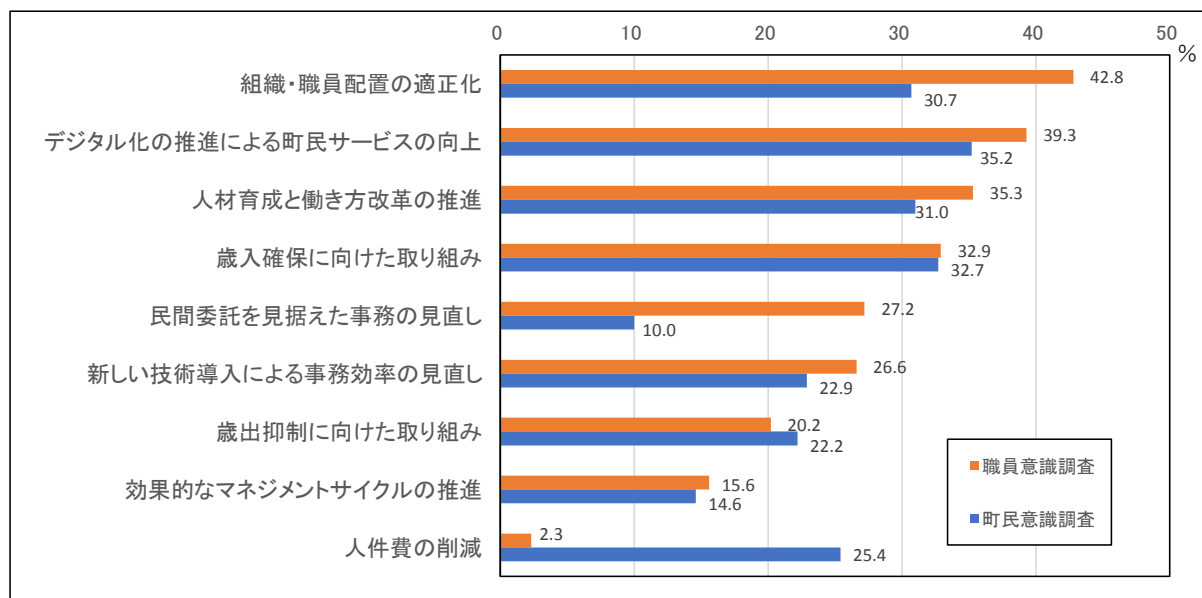
- ・町民意識調査より、「民間委託を見据えた事務の見直し」が17.2ポイント高い一方、「人件費の削減」は23.1ポイント低い。

□属性別

< % >

	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
組織・職員配置の適正化	42.6	43.1	51.4	44.8	37.5	40.6	43.9	38.9	43.5
デジタル化の推進による町民サービスの向上	35.2	46.2	37.1	48.3	32.5	40.6	34.2	55.6	39.1
人材育成と働き方改革の推進	32.4	40.0	51.4	24.1	22.5	39.1	34.2	36.1	39.1
歳入確保に向けた取り組み	35.2	29.2	22.9	34.5	45.0	30.4	36.0	25.0	30.4
民間委託を見据えた事務の見直し	27.8	26.2	22.9	24.1	35.0	26.1	26.3	16.7	47.8
新しい技術導入による事務効率の見直し	24.1	30.8	42.9	24.1	12.5	27.5	28.1	25.0	21.7
歳出抑制に向けた取り組み	24.1	13.8	8.6	20.7	27.5	21.7	18.4	30.6	13.0
効果的なマネジメントサイクルの推進	14.8	16.9	17.1	10.3	15.0	17.4	16.7	11.1	17.4
人件費の削減	1.9	3.1	0.0	3.4	5.0	1.4	2.6	0.0	4.3

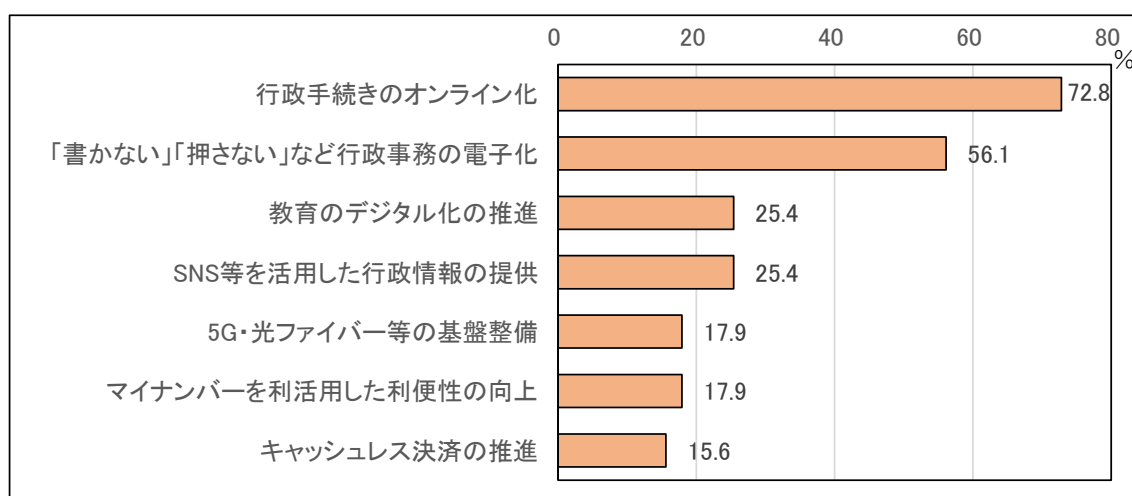
【町民意識調査との比較】



(8) デジタル化推進に向け、重要だと感じることについて

問. 国では地方行政のデジタル化を推進して行く方針であり、今後酒々井町でも今後積極的に取り組んでいく予定です。下記の項目の中で、あなたが特に重要と考えるものをお選びください (MA、n=173)

⇒「行政手続きのオンライン化」が72.8%と突出して高く、次いで「『書かない』『押さない』など行政事務の電子化」(56.1%)となっている。



【属性別動向】

- 男女別では、「教育のデジタル化の推進」は、女性(33.8%)のほうが男性(20.6%)より10ポイント以上高い。
- 年齢階層別では、全ての年齢層で「行政手続きのオンライン化」が最も高く、次いで「『書かない』『押さない』など行政事務の電子化」となっている。
- 役職別では、全ての役職で「行政手続きのオンライン化」が最も高く、次いで「『書かない』『押さない』など行政事務の電子化」となっている。

【町民意識調査との比較】

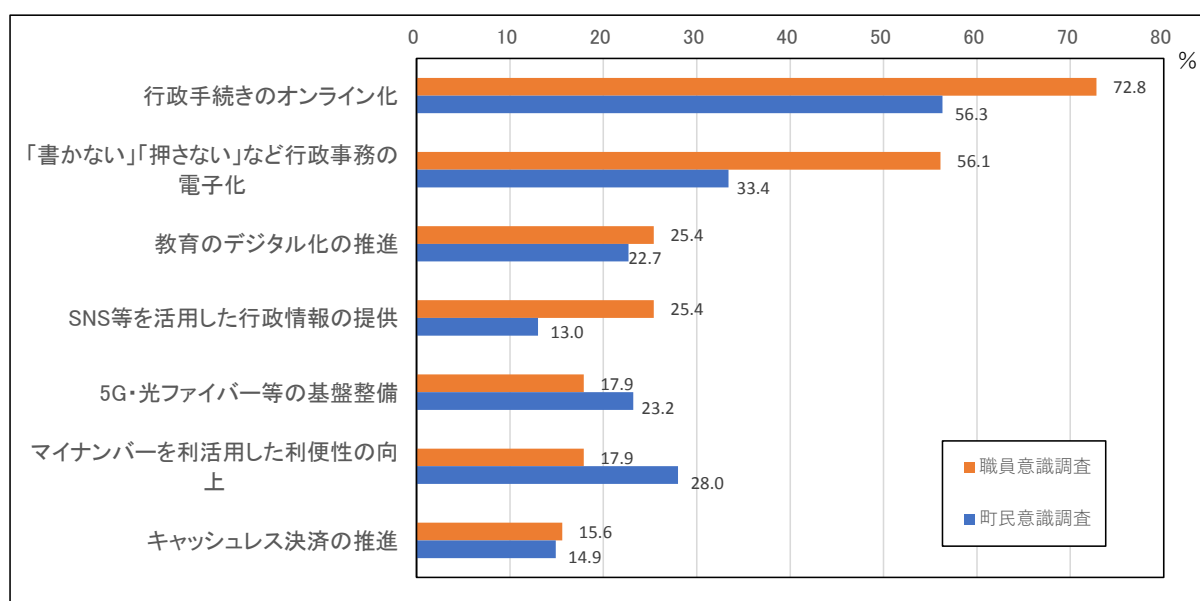
- 町民意識調査より、「行政手続きのオンライン化」、「『書かない』『押さない』など行政事務の電子化」、「SNS等を活用した行政情報の提供」が10ポイント以上高い。

□属性別

< % >

	男女別		年齢階層別				役職別		
	男性	女性	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	一般職	室・班長職	管理職
行政手続きのオンライン化	72.0	75.4	68.6	65.5	76.9	76.8	70.8	80.6	73.9
「書かない」「押さない」など行政事務の電子化	57.9	53.8	60.0	62.1	53.8	53.6	57.5	50.0	60.9
教育のデジタル化の推進	20.6	33.8	31.4	17.2	20.5	29.0	26.5	19.4	30.4
SNS等を活用した行政情報の提供	26.2	24.6	34.3	20.7	23.1	24.6	27.4	22.2	21.7
5G・光ファイバー等の基盤整備	15.9	21.5	17.1	34.5	12.8	14.5	20.4	8.3	21.7
マイナンバーを活用した利便性の向上	19.6	15.4	8.6	10.3	15.4	27.5	12.4	33.3	21.7
キャッシュレス決済の推進	15.0	16.9	17.1	13.8	25.6	10.1	16.8	5.6	26.1

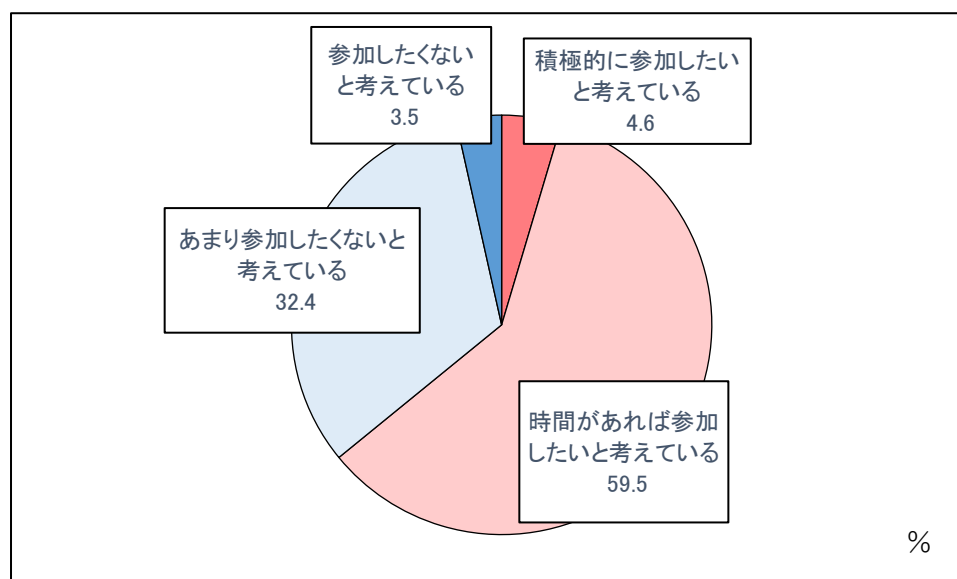
【町民意識調査との比較】



(9) 酒々井町の町民のまちづくり活動やボランティア活動への参加意向

問. あなたは、全体的にみて酒々井町の町民がまちづくり活動やボランティア活動への参加について、どのように考えていると思いますか (MA、n=173)

⇒町民が「参加したいと考えている」(『積極的』と『時間があれば』の合計) と思っているのは6割程度となっている。



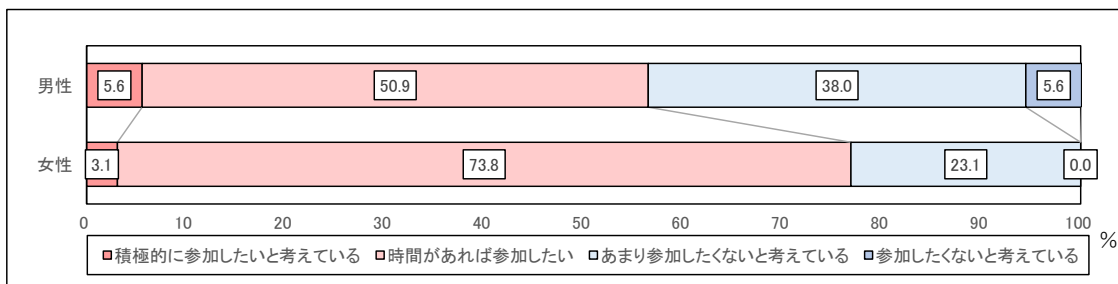
【属性別動向】

- 男女別では、「参加したい(同)」は、女性(76.9%)のほうが男性(56.5%)より高い。
- 年齢階層別では、「参加したい(同)」の比率は、10・20歳代の比率が74.3%と最も高く、40歳代が50.0%と最も低くなっている。
- 役職別では、「参加したい(同)」は、管理職が69.5%と最も高い。

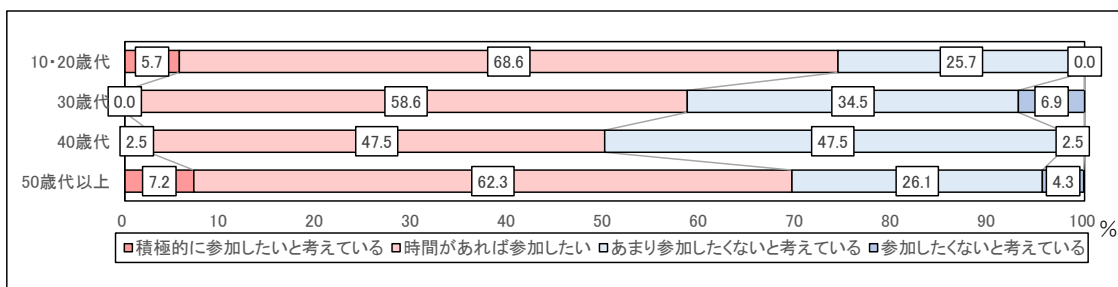
【町民意識調査との比較】

- 町民意識調査と比較して、大きな差はみられなかった。

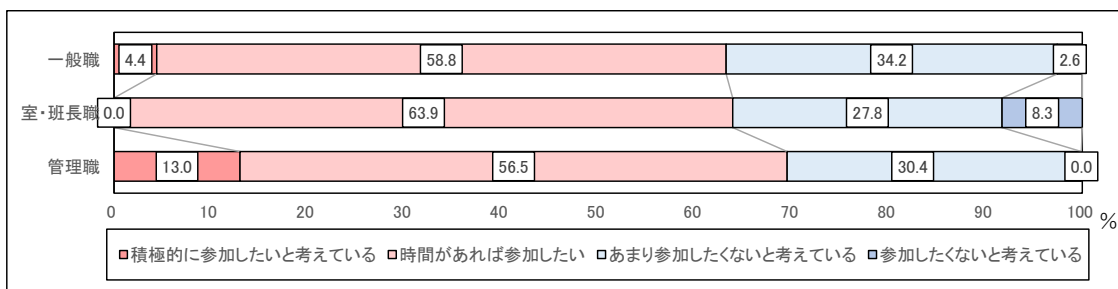
□男女別



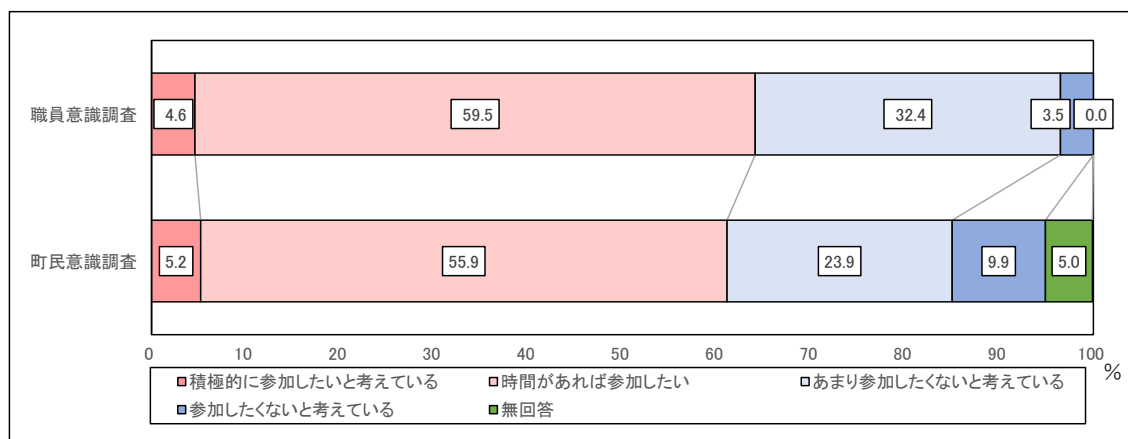
□年齢階層別



□役職別



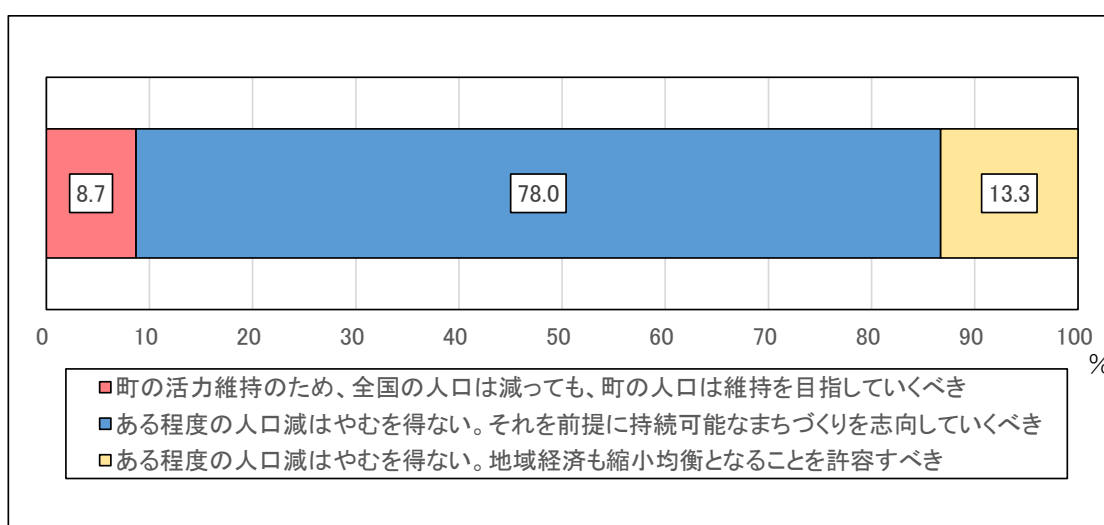
【町民意識調査との比較】



(10) 酒々井町のまちづくりの方向性について

問. 国内人口の減少が続く中で、酒々井町でも人口は既に緩やかな減少傾向にあり、国の推計でも将来も人口減少が続くと予想されています。こうした中でまちづくりの方向性として、あなたの考えに最も近いものを以下の中から選びください (SA、n=173)

⇒「ある程度の人口減はやむを得ない。それを前提に持続可能なまちづくりを志向していくべき (以下、持続可能なまちづくりを志向)」が 78.0%を占めている。



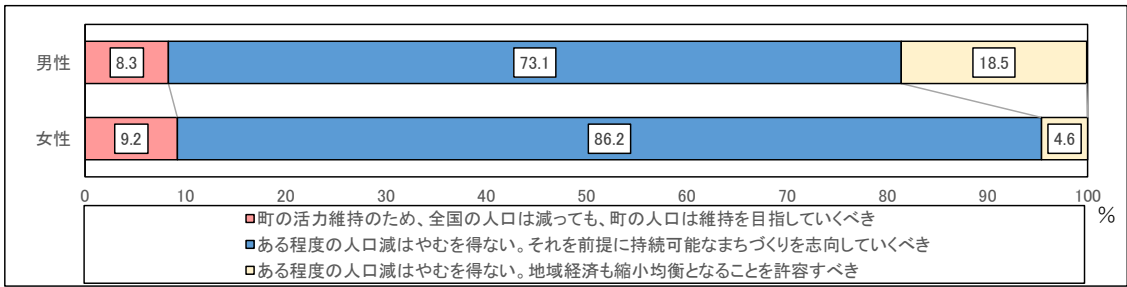
【属性別動向】

- 男女別で比較すると、「持続可能なまちづくりを志向」の比率は、女性 (86.2%) のほうが男性 (73.1%) より高い。一方で「ある程度の人口減はやむを得ない。地域経済も縮小均衡となることを許容すべき (以下、縮小均衡を許容)」は、男性 (18.5%) のほうが女性 (4.6%) より高い。
- 年齢別では、「町の活力維持のため、全国の人口は減っても、町の人口は維持を目指していくべき (以下、町の人口維持)」の比率は 10・20 歳代が 14.3%と最も高い。「縮小均衡を許容」は、40 歳代、50 歳代以上が 17%程度となっており、他の年齢層 (5~7%程度) と比べて高くなっている。
- 役職別では、「持続可能なまちづくりを志向」は一般職が 82.5%と最も高い。「縮小均衡を許容」は室・班長職が 27.8%と突出して高い。

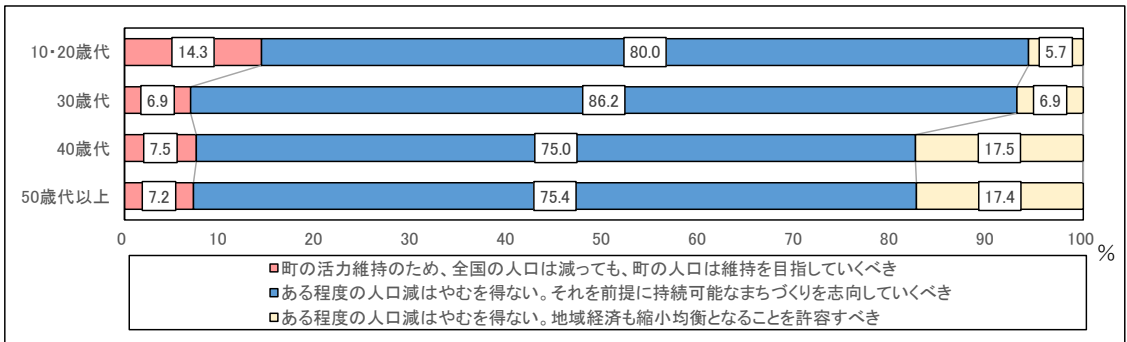
【町民意識調査との比較】

- 町民意識調査より、「町の人口維持」は 12.9 ポイント低い一方、「縮小均衡を許容」は 9.4 ポイント高い。

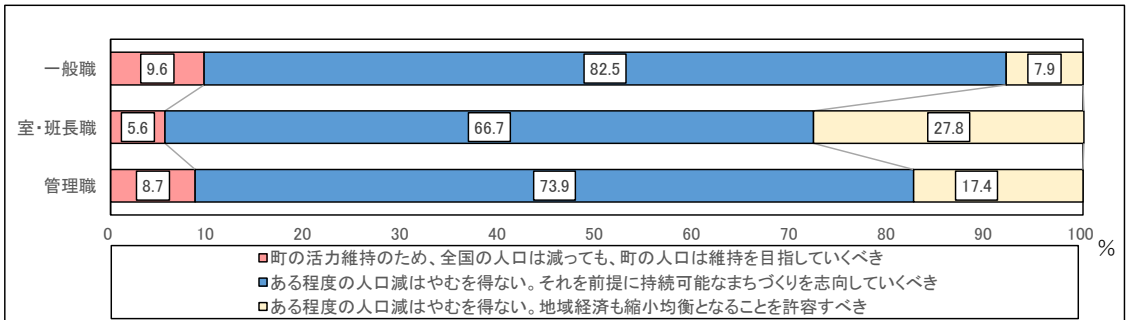
□男女別



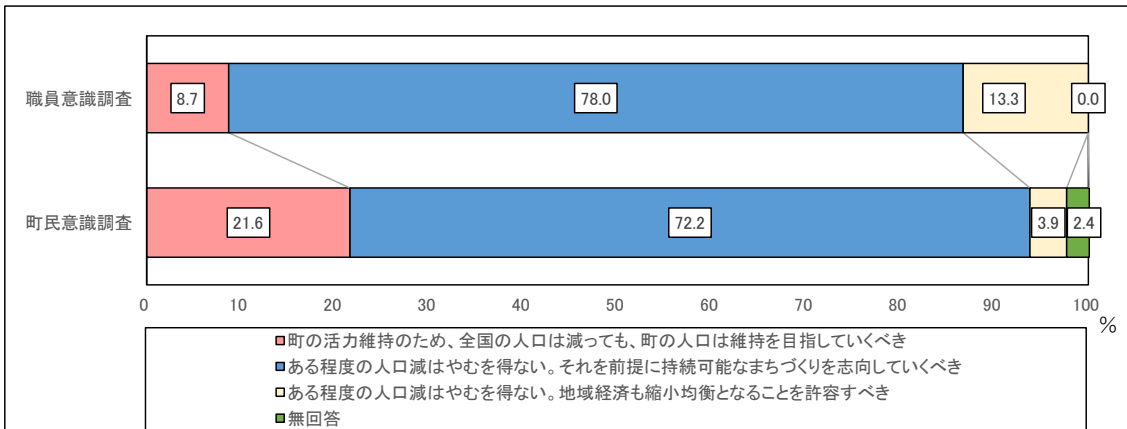
□年齢別



□役職別



【町民意識調査との比較】

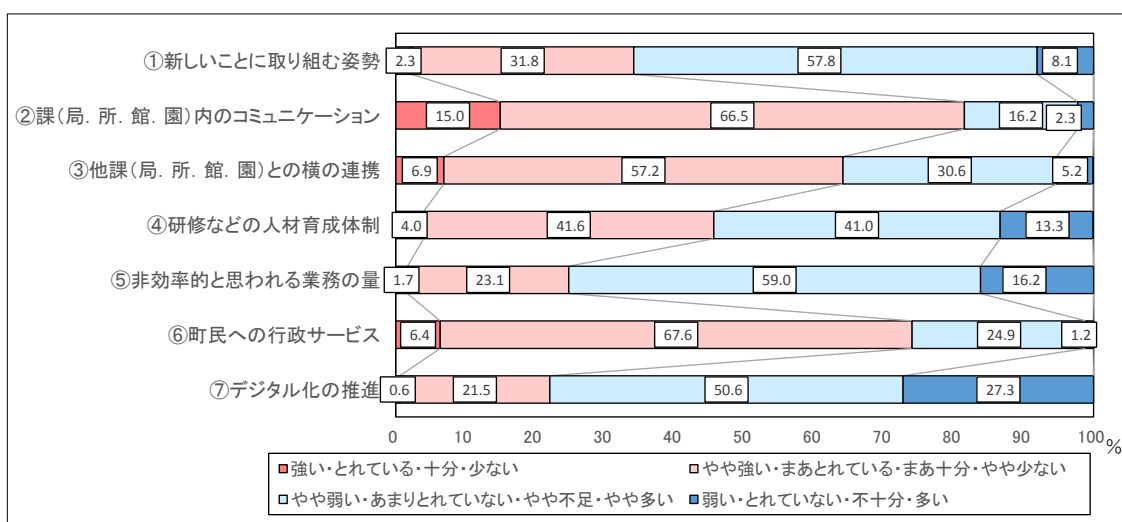


(11) 酒々井町の行政運営について

問. あなたは、酒々井町の行政運営に関する以下の点について、どのように感じていますか (SA、n=173)

⇒「良い (『強い・とれている・十分・少ない』と『やや強い・まあとれている・まあ十分・やや少ない』の合計)」では、「課内のコミュニケーション」が81.5%と最も高く、次いで「町民への行政サービス」(74.0%)となっている。

⇒「良くない (『やや弱い・あまりとれていない・やや不足・やや多い』と『弱い・とれていない・不十分・多い』の合計)」では、「デジタル化の推進」が77.9%と最も高く、次いで「非効率的と思われる業務の量」(75.2%)、「新しいことに取り組む姿勢」(65.9%)となっている。



4. 自由意見

(1) 町内への転入促進などについて

問. 町内への転入促進・町内からの転出抑制・出生率向上のための提案・アイデア (FA、n=56)

⇒住宅環境に関する意見が 11 件となっており、次いで教育環境に関する意見が 10 件となっている。

自由意見をカテゴリー別に整理したところ、回答が多かったカテゴリーは以下のようになった。

カテゴリー別	件数
住宅環境	11
教育環境	10
情報発信	9
補助制度	8
医療	4

カテゴリー別の主な意見は以下の通り。

①住宅環境 (11 件)

性別	年齢	意見内容
男性	50歳代以上	○高齢者世帯のための官民福祉サービスの充実 ○若年世帯層の転入促進のための中心市街地近郊の集合住宅と商業施設の誘致
男性	50歳代以上	空き家等を活用して、若い世代に安価に住居地を提供できれば、転入者の増加 (転出者の減少) につながると思います
男性	50歳代以上	①JR南酒々井駅・京成宗吾参道駅周辺の住宅開発 ②住宅団地内の空家、空地の解消
男性	50歳代以上	インターネット環境を備えた格安 (補助) 住宅の整備

②教育環境 (10 件)

性別	年齢	意見内容
男性	30歳代	産婦人科、小児科の充実による安心して出産・子育てができる環境の促進 公園やアウトレット等小さい子供でも安心して遊べる場所の充実
女性	40歳代	保育園、幼稚園等の入所が可能であること。子供が預けられれば働くこともでき、定住者も増える見込み 不動産関係から協力いただき、空き家情報の提供など
男性	50歳代	児童館の整備 (岩橋保育園周辺)

③情報発信（9件）

性別	年齢	意見内容
男性	30歳代	Twitter、Facebook、Instagram等のSNSを活用して積極的な情報発信をすること⇒民間やNPOに限らず、行政機関でもこれらの媒体を使うところは増えてきています。情報の鮮度も良く便利です。個人的には、オンライン、オフライン関係なく研修会や他市町村の取組等の情報はSNSからとっています
男性	40歳代	交通利便性や地価の安さ等をSNSやYouTube等でPRする
男性	50歳代以上	的を絞った町のブランド力の向上と町の魅力の発信

④補助制度（8件）

性別	年齢	意見内容
男性	10・20歳代	若い世代を対象にした子育て支援制度の充実
女性	40歳代	Uターン応援サービス…現金支給ではなく、町内で使う地域クーポン支給など
男性	50歳代以上	若年層の定住促進を図るため、住宅建築（修繕・購入）資金の補助や居住開始から3年目、5年目、10年目などに定住給付金の交付を行うとともに近隣自治体よりも手厚い出産祝金の交付を行う

⑤医療（4件）

性別	年齢	意見内容
女性	40歳代	酒々井町に小児科がないので、出産から子ども専用の病院、発達障害の子が通える施設を作り、子育ての利便性を図る
男性	50歳代以上	医療面での安全安心もアピール。PCR検査、ワクチン、特効薬の費用助成等

(2) 町活性化の施設設備等の提案・アイデアについて

問. 町を活性化させるための、施設整備等に関する提案・アイデア (FA、n=40)
 ⇒観光事業に関連する意見が 8 件となっており、次いで商業施設や既存施設に関する意見がともに 4 件となっている。

自由意見をカテゴリー別に整理したところ、回答が多かったカテゴリーは以下のようになった。

カテゴリー別	件数
観光事業	8
商業施設	4
既存施設	4
市民農園	2

カテゴリー別の主な意見は以下の通り。

①観光事業 (8 件)

性別	年齢	意見内容
女性	10・20歳代	清掃組合の熱エネルギーを使用しているの蓐狩りの運営 小さな観光スポットよりも、大きな、きちんと整備した観光スポットの整備に投資すべきでは
男性	30歳代	本佐倉城跡を観光地としてPRし国際的に町の知名度を上げる
男性	50歳代以上	現有的本佐倉城・墨古沢遺跡等の歴史的資産でVR等を活用して歴史的な体感や知識を得られる施設や豊かな自然環境を活用した新しいタイプのキャンプ場などの自然体験施設を整備する
男性	50歳代以上	古いものを生かす取組 (築山や本佐倉城跡の整備、印旛沼や山野を活用したアウトドアスポーツの導入)
女性	50歳代以上	アウトレット近くに道の駅をつくり、町の農産物や歴史など情報発信していく

②商業施設 (4 件)

性別	年齢	意見内容
男性	50歳代以上	高齢化社会においては、中心市街地に買い物・医療施設が充実する必要があることから、やはり空き地空き家を有効利用する必要があると思います
男性	40歳代	酒々井プレミアム・アウトレットは、税収等には寄与するものの、町の活性化には結びついていない。旧商店街のような場所があり、かつ、電子決済等に対応した店舗であればよりよい

③既存施設 (4 件)

性別	年齢	意見内容
男性	50歳代以上	整備の場合は既存施設のリノベーション (遊休施設を重点的に)。整備よりは施設の使用条件・活用方法の改善や稼働率の向上の方が重要
男性	50歳代以上	今後の人口減少に伴い、税収の減少、扶助費の増が考えられるので、新規施設整備事業よりも既存施設の維持・修繕にウェイトを移した方が良いと思われる

④市民農園 (2 件)

性別	年齢	意見内容
男性	50歳代以上	滞在型市民農園 (クラインガルテン) の整備

(3) 町活性化の人材・情報の活用手法の提案・アイデアなどについて

問. 町を活性化させるための、人材・情報の活用手法、町民意識の改革等に関する提案・アイデア (FA、n=30)

⇒情報発信に関する意見が 14 件となっており、次いで民間からの中途採用に関する意見が 4 件となっている。

自由意見をカテゴリー別に整理したところ、回答が多かったカテゴリーは以下のようになった。

カテゴリー別	件数
情報発信	14
民間からの中途採用強化	4

カテゴリー別の主な意見は以下の通り。

①情報発信 (14 件)

性別	年齢	意見内容
女性	10・20歳代	SNS等を利用しながら、年齢層に合わせて理解しやすい情報の活用等が出来るとういと思う
男性	10・20歳代	町のホームページ・SNSを充実させ、町民に分かりやすく情報を伝える
女性	30歳代	防災メールやSNS等での情報発信を定期的実施。回覧、広報以外でも情報を取得していくようにできるとよい
女性	40歳代	誰もが書き込める町の口コミや掲示板のような情報サイトの設置
男性	40歳代	駅前に巨大モニターを設置し、各種情報を流し続ける
男性	50歳代以上	オンラインを活用した情報発信の充実、オンライン申請、ホームページ・SNSの充実

②中途採用 (4 件)

性別	年齢	意見内容
女性	40歳代	専門職の民間経験者の採用
男性	50歳以上	専門性のある分野については国・県等のOBや民間企業経験者を採用し、職員の知識や技術の向上を図る

(4) その他

問. その他意見 (FA、n=25)

⇒町の活性化からSDGsへの取組、行政のデジタル化の推進など、多種多様な意見が挙がっている。

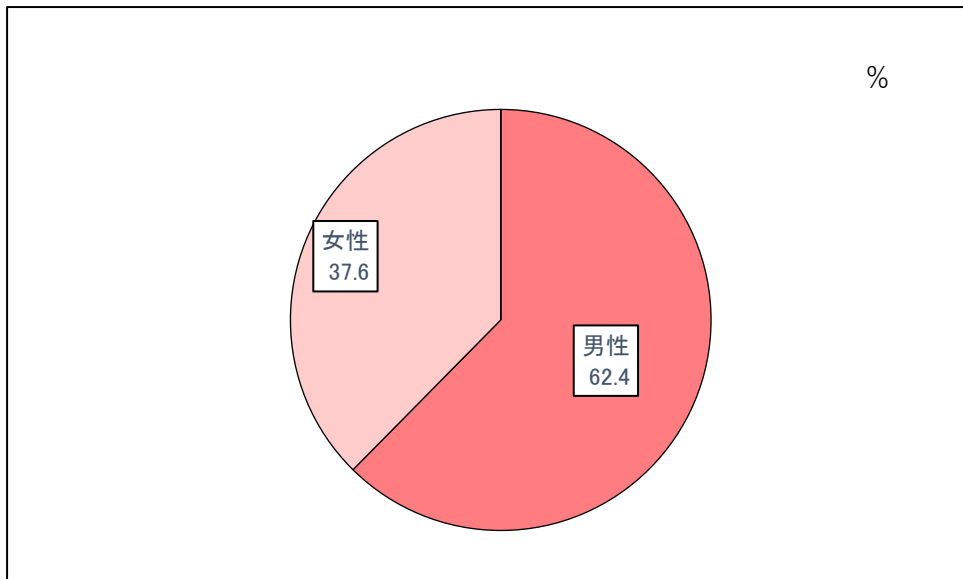
自由意見は以下ようになった。

性別	年齢	意見内容
女性	10・20歳代	町の人口は、あくまでも増加を目指していくべきでは。意識が低いとも思う。現状維持でこれから先、町は本当に大丈夫なのか。町民の前に、まずは職員から変わるべき。業務に対し、意欲のない職員が意欲のある職員を潰している。職員が変われば町も変わる
男性	30歳代	ちび天休園状態の解消
男性	30歳代	今後の10年から20年は「持続可能性」ということが世界的なキーワードになってくると考えます。総合計画策定の際にはSDGsの17の目標や169のターゲットとリンクさせて絡めてみては如何でしょうか。SDGsについては、少しだけわかるので、出来ることは個人的に協力します
女性	30歳代	「支援を受けたくても行政サービスまで繋がれない」という意見をSNSで見かけることが多々あるので、(1)③に書いたアウトリーチ型の福祉の充実は、子育て支援だけでなく、障がい者や高齢者支援のためにも今後必要になると思います。酒々井町は小さく人口も多くないので、他市町村と比べて強みになると思います。行政と町民が繋がりがやすくなることで、総合計画にあるボランティアの参加者や保健指導・検診の受診率の増加も見込めるのではないのでしょうか
女性	30歳代	町の知名度が低く、好感度イメージが少ないのではないかと。町のよいところを充実させアピールするのはどうか。また、廃墟や手入れされていない場所が多いとさびれている感じがし、新たに来る方は抵抗があると思われる
男性	40歳代	新型コロナの影響により新生活様式が提唱される中で、働き手の定住環境も今までの通勤を前提とした環境に加え「週に1~2回職場に通える環境」が大きく加わってくるものと推測できる。町の人口コントロール、活性化についても以上を前提に構築する必要があるものと思われる
男性	40歳代	電動・小型モビリティの活用
男性	40歳代	言い方は良くないが、役場もお金儲けをしなければ生き残れないと思います。当町で歴史や観光ではお金儲けはできません。浄水場の古い配水池は撤去して有料のフットサル場として利用し収入を得たい

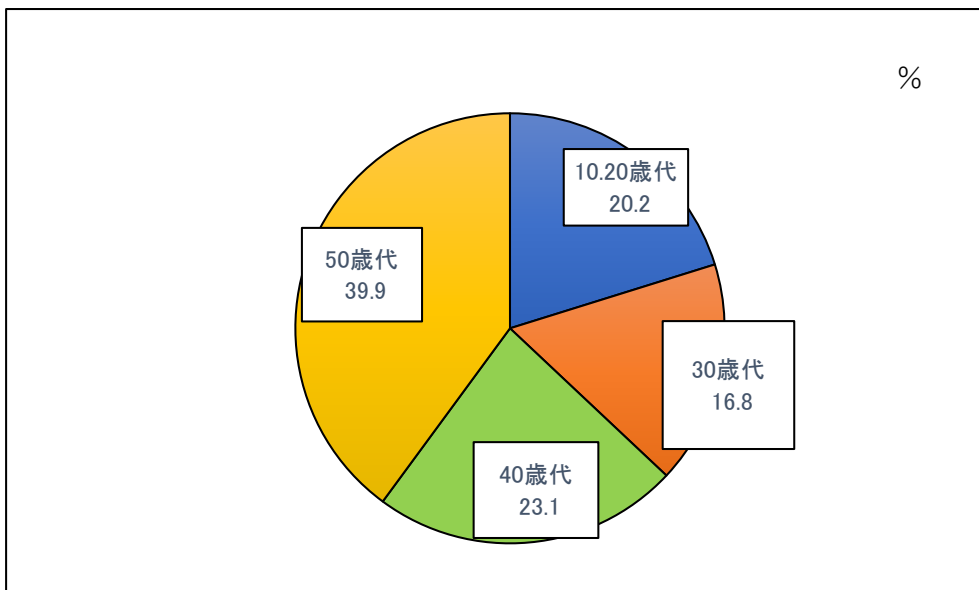
性別	年齢	意見内容
女性	40歳代	見やすい町ホームページの整備。誰もが必要な情報を取り出しやすいものとするこ とで、住民サービスの向上、電話や窓口対応の削減につながる。今のホームページはク リックだけで必要な情報にたどり着くのが困難です
女性	40歳代	交通の便もよく、穏やかで住みやすい町です。住んでいて不便と感じることはありません が、人口増についてはやはり保育の充実と感じます
男性	50歳代以上	歴史文化資源を学術的に保存するのか、観光地（幹線、駐車場、展示施設等）として整 備するのか方向性を決定
男性	50歳代以上	酒々井町の財政どのくらい財調があるのか
男性	50歳代以上	組織機構改革など含む行政改革の推進により業務と人の無駄を極力省き、行政課題に素 早く対応できる組織作りを行う。かつ適正な人員(数)配置と人材育成により、社会の变化 に柔軟かつ素早く対応できる創造的な体制を整備することにより、結果、町民志向の住 民サービスの向上につながるものとなる
男性	50歳代以上	総合計画等の町の方針を職員が活用するためには、サイボウズからすぐに確認できるよ うにしたほうが良いと思います
男性	50歳代以上	廃止すべき施設の取り壊し（ちび天・町体育館・旧東酒々井JA）
男性	50歳代以上	農地と山林が荒廃し、乱開発されることが危惧される。景観と環境保全、また土地所有 者が有効な土地活用を託せるよう、順次、土地利用計画を定めていくべきと考える
男性	50歳代以上	特産品（品物に限らず景観等も含め）を開発し、酒々井の知名度をさらにアップさせたい
男性	50歳代以上	新規業務の増や複雑化に反し、職員数は減少するため、職員1人当たりの業務量が増え ている。AIやICT技術を活用するとともに既存事業の軽量化や簡素化を進めていく必要 がある
男性	50歳代以上	オンラインで町民とやりとりできるようにして、直接役場に来られなかったり、来るの が大変な方にも、ある程度楽に手続きが可能にしたい
男性	50歳代以上	全国的にアピールされた子ども達が主体的にまちづくりについて考える町独自の主権者 教育の実践など、行政と学校と地域とが一体となった協働による町づくりが可能なコン パクトな酒々井町ならではの特色を十分に生かすことで、他自治体に負けない町づくり ができると思う
女性	50歳代以上	少子高齢化が進む中で、高齢者向け福祉サービスの事業が多いように思われます。高齢 者向けサービスの支出抑制なども考慮し、公共施設のバリアフリー化等への活用も必要 だと思います
女性	50歳代以上	保育士不足、保健師さんもなかなか集まらない状況ですが、他自治体は大学の就職課に 出向いて動いているという情報があります。応募があるように直接動いてはいかか でしょうか

【回答者属性】

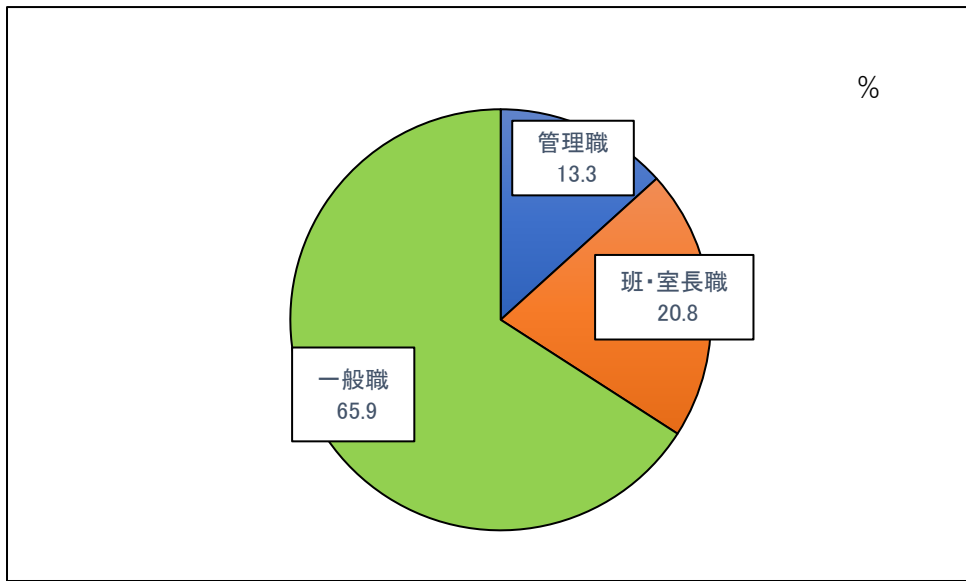
(1) 性別 (n=173)



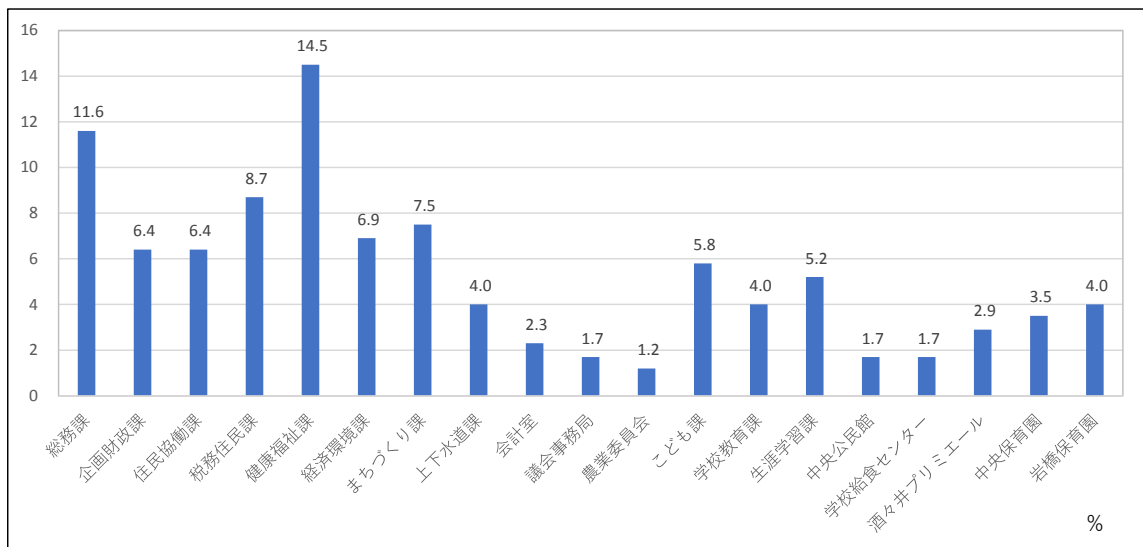
(2) 年齢 (n=173)



(3) 役職 (n=173)



(4) 部署 (n=173)



V. 若手職員ワークショップ

■ 取組の概要

1. 趣旨

若手職員の柔軟な発想によるまちづくりに関する意見を引き出すとともに、町の将来を担う層の町政に関する意識の高揚・育成を図る

2. 取組時期 令和2年10月～2月（発表会を含め計5回開催）

3. 手法 参加者が2グループに分かれて、テーマについて議論を展開

4. 対象 35歳以下の職員 18名

【テーマ】

第1回 「町の10年後のあるべき姿（将来都市像）を考える」

第2回 「人口減少によるデメリットと町がとるべき人口対策を考える」

第3回 「将来都市像実現に向けて重点的に推進すべき事業を考える」

※Aグループ、Bグループそれぞれの3回のワークショップの議論の結果を、次ページ以降に各回2ページ・合計6ページで整理。

■Aグループ 検討結果

第1回 「町の10年後のあるべき姿（将来都市像）を考える」

【検討テーマ】

1. 酒々井町が将来重視すべき方向性
2. 酒々井町の将来の姿をイメージさせるキーワード
3. 将来都市像

1. 酒々井町が将来重視すべき方向性

方向性	その根拠(主な意見)
子育てがしやすいまち	<ul style="list-style-type: none">・ファミリー層の居住地選びの選択肢に入るため・人口減少社会の中で現役世代を大事にする必要があると考えるため
安全・安心なまち	<ul style="list-style-type: none">・誰もが安全・安心なまちに住みたいと思うため・災害に強いまち、治安の良いまちが暮らしやすさに繋がるため
便利なまち	<ul style="list-style-type: none">・大きい自治体との差別化を図るため、小さいからこそ便利だと感じると思うから・便利などころには人が集まりやすいと考えているため
都市・自然・文化が調和するまち	<ul style="list-style-type: none">・酒々井町のイメージに合っているから
都会的なまち	<ul style="list-style-type: none">・都会的だと経済が回ると思うから
コンパクトなまち	<ul style="list-style-type: none">・面積が小さい町としてコンパクトシティは方向性として示しやすいため



【グループとしての結論】

○目指すべき方向性

安全・安心なまち
便利なまち
都市・自然・文化が調和するまち

2. 酒々井町の将来の姿をイメージさせるキーワード

方向性	キーワード	説明
安全・安心なまち	住みよい	・今いる人もこれから住む人も住んでよかったと思えるまち
	安心	・子育て世代及び高齢者が安心して暮らせるまち
便利なまち	利便性	・これまで以上にライフライン等利便性に優れていくべき
都市・自然 ・文化が 調和するまち	伝統	・日本一古い町であること
	緑豊かな	・町民がイメージしている割合が高い
	日本一古い町	・10年後も日本一古い町であると思うから
	先進的	・他自治体の施策等を踏襲することも必要だがコンパクトなまちならではの先進的な施策に取り組むため
	個性を活かす	・様々なライフステージに対応したまち
	コンパクト	・町全体がコンパクトであるから
	笑顔	・町民が笑顔だと町が明るくなる

【グループとしての結論】

方向性	⇒	キーワード
先進的であること	⇒	先進的で
便利、住みよい、安全安心であること	⇒	暮らしやすい
文化的・伝統的であること	⇒	日本一古いまち

3. 「1」「2」から導き出した将来都市像

先進的で暮らしやすい 日本一古いまち しすい

(説明)

- ・継続的に町を発展させ、人を呼び込む為には、**先進的で便利である事**が必要であると考えました。
- ・前例や他自治体の施策等にとらわれず、コンパクトな町ならではの先進的な施策に取り組むとともに、交通の利便性の向上や災害に強く、治安に恵まれるなど、高齢者から子育て世代と**幅広い世代が便利だと感じる町**である事、また、「**日本で一番古いまち**」という、**町独自色**を出し、町の文化、伝統をPRし**他自治体との差別化**を図り、**日本一古い町でありながら先進的という対比**を用いて親しみや興味を抱いてもらえる将来都市像としました。

第2回 「人口減少によるデメリットと町がとるべき人口対策を考える」

【検討テーマ】

1. 人口減少によるデメリット
2. 人口減少対策

1. 人口減少によるデメリット

対象	デメリット
「生産年齢人口」の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税収が減少し行政サービスが低下する ・ 町の活力が低下し地域の伝統的な行事を引き継ぐ人がいなくなる ・ 若者が減少し労働力不足・若者の負担が大きくなる
「老年人口」の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護が増える
「年少人口」の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のコミュニティがなくなる ・ 将来を担う人が少なくなる
「世帯数」の増加⇒減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅等が管理されなくなり空き家が増加する
「総人口」の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食施設や娯楽施設が減少し生活が不便になる ・ 町の産業が縮小する ・ 活気がなくなり人が寄り付かなくなる

2. 人口減少対策

(1) 「出生数増加」対策 (「◎」は特に重要と考えた対策)

経済的支援① 妊娠・出産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出産祝い金を贈呈する ・ 双子以上への政策
経済的支援② 子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て家庭への支援充実 ・ ベビーシッターや家政婦を格安で提供
施設サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科誘致 ◎待機児童の少なさをPR ◎交友スペースの整備
制度面からの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な労働環境の改善を求めていく

(2) 「転入数増加」対策 (「◎」は特に重要と考えた対策)

都市基盤整備 (住宅・中心市街地)	<ul style="list-style-type: none"> ◎施設誘致（企業や学校等） ◎子育て世代向けマンション建設 ◎市街地開発
広報活動 (シティプロモーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住への助成や体験等のシステム導入
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他市町村と比べて酒々井町で暮らしたいと思うようなまちづくり

(3)「転出数減少」対策

経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム補助金をたくさん出す ・在住年数に応じて補助金を出す
都市基盤整備・施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・交通利便性の向上 ・企業の誘致

■「1」「2」から導き出した、優先すべき人口減少阻止対策

- ・人口減少を阻止するためには、転入数の増加を重点的に対策すべきと考えました。出生数の増加と転入数の増加どちらを優先すべきかについては、出生数の増加には人口増加寄与に限界があり、出生による数人の人口増では人口減少を食い止めることができない点から、まず、子育て世代及び若者の転入数を優先して増やしその後出生数の増加に繋げていくべきという結論になりました。そのためには、子育て世代や若者の転入数増加のために、主な施策として、①子育て世代向けマンションの建設や、②交友スペースの整備、③待機児童の少なさのPR、④会社や学校等の施設誘致、⑤利便性を活かしたコンパクトシティへの市街地開発の5つを優先して実施すべきと考えました。

優先すべき対策	主な施策
転入数の増加	・子育て世代向けマンションの建設
	・交友スペースの整備
	・待機児童の少なさのPR
	・会社や学校等の施設誘致
	・利便性を活かしたコンパクトシティへの市街地開発



第3回「将来都市像実現に向けて重点的に推進すべき事業を考える」

【検討テーマ】

1. 将来都市像を実現するために重視する分野
2. 重点的に推進したい具体的な取組

1. 将来都市像を実現するために重視する分野

○都市計画・都市基盤 ○情報・通信 ○児童福祉 ○防災 ○文化・芸術

※左から重要度が高い

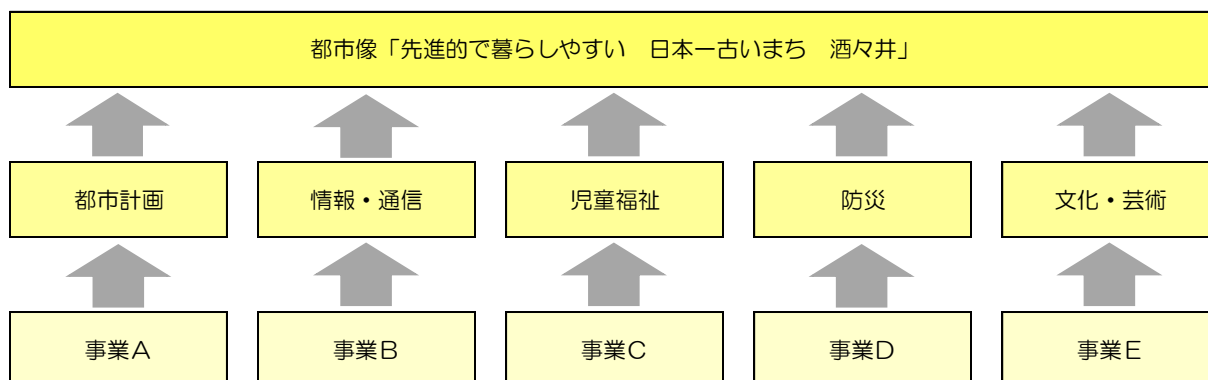
2. 重点的に推進したい具体的な取組 (「◎」は特に重要と考えた対策)

分野	取組
都市計画・都市基盤	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・施設誘致（企業、商業施設、学校等） ・南酒々井駅及び宗吾参道駅周辺の土地活用 ◎ JR 酒々井駅及び京成酒々井駅周辺の整備 ・活用できていない土地へのマンション等の誘致
情報・通信	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報ツールの整備 ◎ オンライン申請の充実
児童福祉	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・保育体制の充実 ・待機児童なしのPR ◎ 曜日ごとのクラブ活動運営 ・保育施設や交友施設等の利用条件のさらなる見直し
防災	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自助、共助、公助の取組強化の為に講座、訓練の実施
文化・芸術	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ◎ 町の歴史に関する行事の開催

【その他に上がった分野及び取組】

- 防犯 ⇒ ・防犯ボックスを核とした犯罪の無い町づくり
- ⇒ ・街灯に監視カメラを設置
- ⇒ ・町民協力型の防犯パトロール実施
- 公共交通 ⇒ ・バス事業者へ本数や路線数の増加を要望
- ⇒ ・町内循環バスの運営
- 商業 ⇒ ・中心市街地へ商業施設の企業誘致
- 行政運営 ⇒ ・電子申請等の整備・個人デスクの廃止

■ 「1」「2」を踏まえたまとめ



■ 取組の内容

事業A	・ JR酒々井駅及び京成酒々井駅周辺の整備
事業B	・ オンライン申請の充実
事業C	・ 曜日ごとのクラブ活動運営
事業D	・ 自助、共助、公助の取組強化の為の講座、訓練の実施
事業E	・ 町の歴史に関する行事の開催

(補足) 非効率的だと思われる業務

○住民への情報伝達 (HP、SNS等) の掲示及び更新方法

現状

- ・ ホームページの決裁方法：課内 (班内) 決裁→総務課情報推進班
 - ・ twitter の決裁方法：課内 (班内) 決裁→広報広聴班
- 情報発信の際、課内決裁後に他課の決裁が必要となっている。
⇒課を超えた決裁の為、情報発信速度が遅く、緊急度が高い情報発信の時に迅速な情報発信が出来ていない。

○決裁方法

現状

- ・ 決裁の際、紙面での決裁及び押印、同じ課で他班の決裁 (業務内容が違う)、休暇職員の決裁が必要となっている。
- ⇒紙面での決裁や、業務外の職員の決裁、休暇に入っている職員の決裁が必要となっており、決裁されるまでのスピードが遅い。

○押印制度

現状

- ・ 出勤簿やサービス整理簿等、書留等の郵便物、公印使用簿を印鑑で管理している。
- ⇒印鑑制度による業務量の増加。

○各課の打ち合わせ

現状

- ・ 教育委員会は毎週金曜日に打合せを実施。1週間の各課の行事予定を学校教育課がとりまとめ、教育長・次長及び各課長で実施
- ⇒打合せの頻度が高く時間が割かれることから、業務時間が少なくなっている。

■Bグループ 検討結果



第1回 「町の10年後のあるべき姿（将来都市像）を考える」

【WSの目的】 ①議論の結果を総合計画策定に役立てる
②若手職員の育成
↓
1人ひとりが考え、話す

【検討内容】

1. 「酒々井町が将来重視すべき方向性」の検討
2. 「将来の酒々井町の姿をイメージするキーワード」の検討
3. 「将来都市像」の検討

1. 今後重視したい方向性

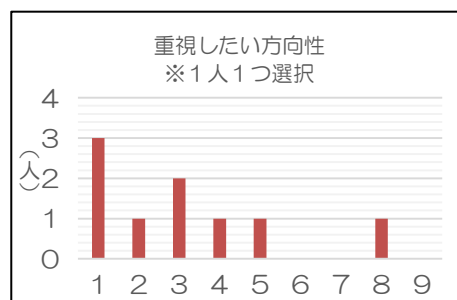
方向性（候補）	それを重視すべき根拠(理由・意見)
1. 子育てがしやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の移住促進 ・子育てがしづらいと世帯ごと町外へ ・子供(若い世代)が増加する ・明るい未来のイメージ ・促進世代→子育て世代の確保
2. 高齢者にやさしいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の充実
3. 安全・安心なまち	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して住める町 ・災害に強い町→住みやすさ
4. 便利なまち	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は便利があたりまえ
5. 活力があるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・活力がある→来訪者、転入者の増加
6. 都市・自然・文化が調和するまち	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と文化の両立 ・田舎＝自然、文化の調和が魅力
7. 都会的なまち	(意見なし)
8. コンパクトなまち	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段の確保 ・行政サービスの質の向上 ・Low costで細かい行政サービス
9. その他	(意見なし)



☆「今後重視したい方向性」グループの結論

① 子育てがしやすいまち

② 安全・安心なまち



2. メンバーが考えた酒々井町の将来の姿をイメージさせるキーワード

キーワード	該当する方向性	説明
ライフスタイル	1、2	駅周辺はアクセスが良く、郊外は緑豊かで子育てに最適
日常	1、2	ベッドタウンというイメージ
日本一	9	「日本一」古い町
豊かな	4	都心へのアクセスも良く、自然環境に恵まれている
生活しやすい	1、4	町民に住み続けてほしい
穏やか	3	子どもや高齢者が多いイメージ
アットホーム	6、8	個人経営の店が多く、近所づきあいが盛んなイメージ
家族で住みたい	1、2	ひとりではなく子どもや孫と一緒に暮らしたい町
便利	4	通勤通学やレジャーに出かけやすく、新しい病院もある
安全	3	地震・台風などの災害に強い町
元気	1、5	活気のある町
交流	1、5	祭りなど交流行事に力を入れている
コンパクト	4、8	狭い町域なのに移動手段が多くて便利
活気	1、5	子育て世代が多く移り住んで活気がある
つながり	9	人との繋がりや思いやりの広がる町
歴史香る町	6	文化資源と都市的な施設が融合している町



☆「グループが重視したい方向性」に沿うキーワード

方向性		キーワード
1. 子育て	⇒	「ライフスタイル」「家族で住みたい」「日常」「元気」「活気」「生活しやすい」「交流」
3. 安全・安心	⇒	「安全」「穏やか」
9. その他	⇒	「日本一」

3. 「1」及び「2」を基に作成した将来都市像

豊かな日常と未来を大切にすまちは ～家族で住んでしすイイネ！～

(理由)

- 普段の生活を安全、安心に何事もなく穏やかに過ごせることが豊かな日常である。
- “子育て” というワードではありきたり→ “未来” という単語に置き換える。また、子育ては一部の人にしか関係しないが、未来は誰にでも関係する。広い意味で環境や高齢者も含めることができる（多様性）。
- 親しみを込めた“しすイイネ”。



第2回 「人口減少によるデメリットと町がとるべき人口対策を考える」



【検討内容】

1. 人口が減少することによるデメリット
2. 人口減少対策について



1. 人口減少によるデメリット

◇メンバーの意見

切り口	回答数	考えられる影響	その結果
①生産年齢人口の減少	7	・ 税収の減少 ・ 労働力の減少	⇒ ・ 行政サービスの低下 ・ 産業の縮小により、町内の供給量の減少
②老年人口の増加	1	・ 若者への高齢者一人あたりの負担割合の増加	⇒ ・ 社会保障費の増加 ・ 少子高齢化に拍車がかかる
③年少人口の減少	2	・ 子どもが減少	⇒ ・ 町の学校の統廃合
④総人口の減少	2	・ 地域経済の縮小	⇒ ・ 町内の需要量が減少し、行政サービスの質の低下の恐れがある ・ 公共施設の過剰配分になり、ランニングコストの増加
⑤世帯数の増加⇒減少	4	・ 空き家の増加	⇒ ・ 地域の目が少なくなり、秩序が保てなくなる

2. 人口減少対策について

- 「出生数の増加」「転入数の増加」「転出数の減少」のうち、どの項目を特に優先していくべきか

◇メンバーの意見

区分	理由
A 出生数の増加	・ 郷土愛の醸成が図れる
	・ 中長期的にみて、最も将来性がある
	・ 他の項目と違って、他市町村の動向に左右されない
B 転入数の増加	・ 労働人口を確保することにより、経済への即効性が期待できる
	・ 世代の代謝が活発化される
C 転出数の減少	・ 親子（多世代）による定住・・・相対的に容易に可能



○検討の結果、Bグループでは、「PRする際にイメージアップが見込める」という観点から、出生数の増加に重点を置き（中心として）、5つの対策案を提案します

■区分別 有効と考えられる取組（メンバーからの意見の中から10個を抽出）

区分	有効と考えられる取組
A 出生数の増加	・子育て手当の拡充
	・0円で出産できる制度の充実
	・ママ友のコミュニティづくり （母親同志で話ができるコミュニティの設定）
	・妊婦者向けの家事代行サービス（負担の軽減）
B 転入数の増加	・空き家バンク制度の充実
	・魅力的な商業施設の誘致
	・起業者への支援
C 転出数の減少	・土地利用区分における市街化区域化の促進
	・千葉しずい病院との連携による町民サービスの充実
	・近隣自治体への就職口の斡旋要請（成田空港関連事業所等）

コストや有用性を考慮して検討した結果・・・

■より有効と考えられる5つの取組を抽出

区分	理由
A 出生数の増加	・0円で出産できる制度の充実
	・ママ友のコミュニティづくり
B 転入数の増加	・空き家バンク制度の充実
	・魅力的な商業施設の誘致
C 転出数の減少	・近隣自治体への就職口の斡旋要請

第3回 「将来都市像実現に向けて重点的に推進すべき事業を考える」



【検討内容】

1. 将来都市像を実現するために重視する分野
2. 重点的に推進したい具体的な取組

【第1回で提示した将来都市像】

豊かな日常と未来を大切にすまち ～家族で住んでしすイイネ！～

1. 将来都市像を実現するために重視する分野の検討

※将来都市像に組み入れた「日常」「未来」「家族」という3つのキーワードに着目して、それぞれが主に当てはまる分野を、第5次総合計画の43分野の中から選び出す。

	分野	キーワード			理由
		日常	未来	家族	
①	児童福祉		○	○	・町の「未来」を担う子どもの育成や、「家族」で住みたい町づくりを推進するため
②	健康づくり	○	○	○	・健康であることは全てにおけるベースであるから
③	防災	○			・安全・安心な「日常」を送るために必要不可欠
④	防犯	○			・安全・安心な「日常」を送るために必要不可欠
⑤	都市計画・都市基盤	○	○		・豊かな「日常」を送るためには環境整備が必要

⇒該当する分野として「児童福祉」「健康づくり」「防災」「防犯」「都市計画・都市基盤」の5分野を抽出。



2. 重点的に推進したい具体的な取組

・「2」で選択した分野の中で、重要性や実現可能性の観点から重点的に推進したい取組を提示

(視点) ①実際にやることわかるような言葉を使った具体的な内容

②コスト面を考慮。カネを極力かけずにできるもの

③できれば、町民と一緒にやって取り組めるもの(協働事業)

○優先度 A

	分野	事業名	具体的な内容
1	児童福祉	子育て支援施設見学ツアーの実施	・妊婦や乳幼児の親子を対象に見学ツアーと題して子育て支援施設を案内し、利用の促進を図る
2	児童福祉	出産・子育ていろは講座の開催	・子育て支援施設にて子育て経験者の話を聞く機会を設け、施設の周知と支援の充実を図る
3	防災	防災知識を学ぶ防災謎解き講座の開催	・子どもも含め楽しく防災知識を学べる講座を開催し、自助意識の醸成を図る
4	防犯	見守りパトロールの強化	・犬の散歩を兼ねたパトロール隊を募集し、ポイ捨ての防止及び子どもの見守り体制を強化する
5	防犯	街灯探索ウォークラリーの開催	・街灯の場所を確認するウォークラリーを開催し、防犯意識向上と街灯必要箇所の把握につなげる
6	その他	ボランティア登録制度の実施	・ボランティアに意欲的な町民を事前に募り、必要に応じて草刈り等の協力を求める仕組みを構築

○優先度 B

	分野	事業名	具体的な内容
1	健康づくり	妊婦検診・出産費用補助の拡充	・持ち出し金ゼロ円にすることで出産のハードルを下げ、子育ての支援及び出生数の増加を図る
2	健康づくり	病院受診時に使えるタクシー利用券の配布	・家が病院から遠い人や交通弱者が適切に病院を受診できるようタクシーの利用券を配布
3	都市計画 都市基盤	複合施設の誘致を検討するサークルの設立	・町民が求める施設や誘致方法について町民同士が話し合う場を提供し、意見を募る

(補足) 非効率と思われる業務

- ・業務量のバランスが悪い、偏っている
- ・業務に関する情報がほぼ全て紙ベースで管理されている
- ・課内共有ファイルの中が整理されていない
- ・HPの公開までに時間がかかりすぎる
- ・お茶くみ

⇒効率的な行政運営のために、業務の課題、問題、改善点を職員が提案できる制度が必要(前例踏襲では組織としての成長が期待出来ない)。

VI. 議員ヒアリング

■ 取組の概要

1. 趣旨

酒々井町に関して豊かな知見を有する町議会議員から、町の課題や将来の方向性などについて、意見をうかがう

2. 調査時期 令和3年1月12日～15日

3. 調査手法 面談方式

4. 調査対象 町議会議員 16名

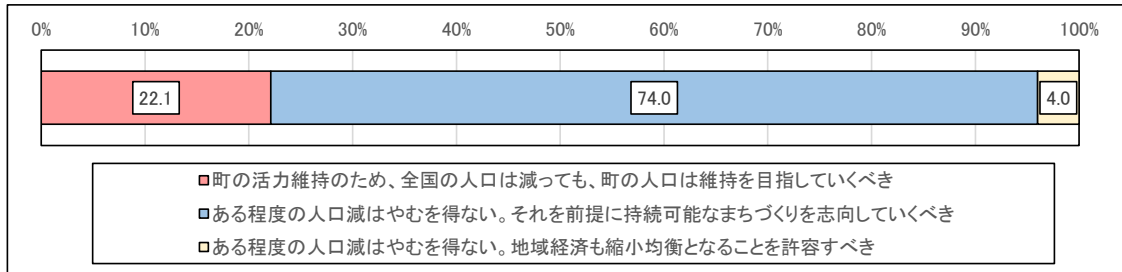
5. ヒアリング項目

- 今後の人口見通しとそれを踏まえた酒々井町の方向性
- 現在の酒々井町の課題と考えられる対応策
- 今後5年間で重点的に推進していくべき分野と具体的取組

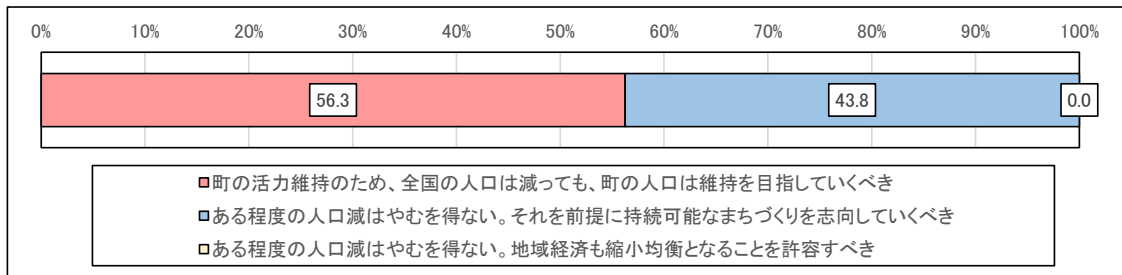
1. 今後の人口見通しとそれを踏まえた酒々井町の方向性

○以下の町民意識アンケート調査結果を提示し、3つの選択肢のうち、どの方向性が妥当かと、それについての具体的方向性について意見をうかがう。

◇「町は今後どのような方向性を目指していくべきか」（町民意識調査結果、無回答は按分済）



◇同質問に対する議員ヒアリングの結果



①「町の活力維持のため、全国の人口は減っても町の人口は維持を目指していくべき」

・・・9人（56.3%）

（主な理由）

- ・酒々井町の立地は他自治体と比較して好条件。町の施策次第では、他地域から酒々井町への転入増加による人口の維持は可能だ。
- ・JR酒々井駅及び京成酒々井駅の周辺は、ある程度の開発などを実施しているが、京成宗吾参道駅とJR南酒々井駅の周辺は、まだ手がつけられていないのが現状。それら周辺地域の開発によって、酒々井町の人口維持及び増加は出来る。
- ・酒々井町の人口は2万人を維持していくことが必要。人口減少対策となる施策、酒々井町に住み続けたいと思える施策が必要だ。
- ・全国的に人口が減少している以上、結果的に目標より下振れする可能性は高い。町の人口を維持しようとするためには、人口増加を目標としなければならない。

（具体的な方向性）

- ・富里市や八街市、山武市といった、近隣自治体に住んでおり転出意向のある若い人を酒々井町に呼び込むような施策を実施していくべきだ。
- ・酒々井町の出生率を上げようとしても、それが人口増加につながるのに何十年もかかる。近隣地域の若者の転入を促進し、暮らしやすく活発で魅力あるまちづくりをしなければならない。
- ・人口を増加させる施策として、子育て支援が重要であり、流山モデルを参考にして

実施すべき。

- 人口維持及び増加の具体的施策の一つとして、一番実施して欲しい施策は、京成宗吾参道駅の開発。
- 町の人口維持や増加のためには、安定的な税収が見込める財政基盤が必要。成田空港第3滑走路設置により増加する雇用者に住んでもらうようにしていくべき。
- 人口維持のためには住宅政策が必要となるが、大規模開発ではなく、中央台と東酒々井の空き家対策を実施すべき。推進するにあたっては、発信力や行動力が必要。
- 高齢者への施策を重視しながらも、若い人を呼び込めるような施策が必要。新たな住宅開発ではなく、今ある住宅を活用していくことが重要だ。町から出た若い人が、酒々井町に戻ってきたいと思えるような施策を実施すべき。

②「ある程度の人口減はやむを得ない。それを前提に持続可能なまちづくりを志向していくべき・・・7名（43.8%）」

（主な理由）

- 日本全国の人口減少が避けられない以上、酒々井町の方向性として、人口減少を前提とした施策を検討していくべき。
- まちづくりの方向性は人口減少を前提として持続可能なまちづくりを志向していくべき。人口の維持や増加を目指す場合、過剰投資になってしまう可能性があり、余計な出費を出しても仕方ない。
- 人口減少は避けられないため、酒々井町の子どもからお年寄りまで、全ての年代の人が住みやすいまちづくりを推進し、充実した福祉サービスを進んで取り組んでいくべき。
- 子育て世代の増加を目指すことを意識しながらも、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりを志向したい。

（具体的な方向性）

- 今後は少子高齢化により高齢者が増加していく。高齢者増加に合わせ、福祉分野での充実が必要だ。
- 子育て世代の転入を増やし、酒々井町に住んでもらうことで、町の人口の新陳代謝がスムーズに行われるようにしたい。酒々井町内の空き家や空き家になりそうな家をいかに少なく出来るかについて検討していったほうが良い。
- 人口減少を前提とした方向性であっても、酒々井町的生活環境は縮小ではなく維持することで、酒々井町が住民にとっての「終の棲家」にして、町から他地域への転出を防ぎたい。
- 酒々井町的生活環境を良くするためにも、最低限やらないといけないことは実施しないといけない。

③「ある程度の人口減はやむを得ない。地域経済も縮小均衡となることを許容すべき」
・・・0名（0.0%）」

2. 現在の酒々井町の課題と考えられる対応策

(1) 健康福祉分野

①健康づくり

- 各管轄（国・県・町）が連携した重層的支援体制確立に向けた取組の実施
 - ・重点的に取り組んでもらいたいこととして、健康福祉全般について重層的支援体制整備事業を町で実施してほしい。医療介護について、その内容によって管轄が町や県と別れているため、複雑化するニーズに上手く対応できていない。

②児童福祉

- 切れ目のない子育て支援の実施
 - ・酒々井町では、妊娠後から子どもが義務教育を終了するまで、切れ目のない補助をしていくべき。
- 「あいあい」での子育て相談サービス内容の吸い上げ
 - ・町内の子育て支援センターである「あいあい」で、子育てについて気軽に相談できるサービスは実施出来ているが、その相談内容を吸い上げて、町づくりや施策に活かしていければ良い。
- 待機児童ゼロの実現
 - ・子育て世代は住む場所を決める際、子どもの保育環境を重視する傾向があるので、税金をしっかりと納めてもらう以上、子どもを町で見守る保育環境を整備する必要がある。町の保育環境として待機児童ゼロは当然であり、ただ子どもを預かるのではなく、預かった子どもの教育内容、ソフト面の充実が必要だ。
- 保育園での教育支援
 - ・また、子育て支援の施策として、子どもの医療費補助だけではなく、保育園での教育も手厚く支援していきたい。
- 子どもが遊べるような施設の充実
 - ・子育て世代が、天気に係わらず休日も酒々井町内で過ごせるような施設があればいい。
 - ・町内に子どもの遊び場が少ない。公園の遊具設置基準が厳しくなり、今まであった遊具が撤去されている。酒々井総合公園のアスレチックも撤去される予定であり、撤去後に作られるのは、高齢者向けの健康器具が予定されているなど、町の方向性は子育て世代を対象としていないように感じる。子ども達が遊べるような施設を充実させることが必要だ。

③高齢者福祉・介護保険

- 一人ひとりに応じた高齢者向けサービスの実施
 - ・高齢者対策として、高齢者が自立して生活するために、一人ひとりに応じた医療や住まい、生活支援サービスなどの、切れ目のない支援を実施すべき。
- 介護施設設置への支援
 - ・現在の町づくりの課題として、高齢化社会の中で、介護の問題がある。町内に特

別養護老人ホームが1施設あるが、高齢者が今後増加していくことが見込まれる以上、介護施設への支援を実施していく必要がある。

○地域包括ケアの充実

- ・町内の医療・介護環境の充実が必要。特に地域包括ケアの充実として、在宅医療や介護がしっかり整備されている環境にする必要がある。
- ・酒々井町に千葉しすい病院が転院されて、町の医療と介護を受け入れていると聞いている。今後は、町全体の在宅医療や在宅介護まで手が届くような施策を推進していくべき。

④障がい者（児）福祉

○町全体のバリアフリー化

- ・町は、中央公民館などの公共施設のバリアフリー化を推進しているが、建物のバリアフリー化だけではなく、町全体をバリアフリー化しないといけない。例えば、町内の歩道で段差があるところが多い。今後10年で、町全体のバリアフリー化を推進すべきだ。

（2）教育・文化分野

①生涯学習

○酒々井学を通じた郷土愛の醸成

- ・子どもの郷土愛の醸成として、酒々井学を活かしていきたい。町内の小学校にある、酒々井町の歴史資料を展示している資料室を活かしたい。酒々井学を通じて、子どもの郷土愛を醸成すれば、今後酒々井町を出て行ったとしても、後々酒々井町にUターンで戻ってくる。

②学校教育

○学校の人員配置等の検討

- ・子育て支援に特化していった方が、子育て世代への転入につながるのではないかと、現在、町内には小学校が2校、中学校が1校となっているため、町独自の色が出せると思っている。教育の質向上のため、学校の人員配置等を検討してもらいたい。独自の教育環境の整備は、人口減少の対策となる。

○子育て世代の負担軽減（給食費の無償化等）

- ・給食費の無償化など、子育てをしている世帯における負担の軽減を検討すべき。他自治体と比較して、目立つ魅力的な施策が必要。

③文化・芸術

○本佐倉城跡周辺の国史跡追加指定

- ・本佐倉城跡は、本丸の一部しか国指定になっていないため、他部分についても追加指定されるよう国に働きかけてもらいたい。土地について個人所有となると手入れが十分にされず、荒れてしまう可能性がある。

(3) 生活環境分野

①防災

○防災計画の改善

- ・防災対策は完璧とは思っていない。酒々井町で一番多いのが水害だ。実際に災害が起きて、防災組織はあるが役割分担がないため、防災計画は改善の必要がある。また、災害の資格をもっている人をもっと取り立てる必要がある。

(4) 都市基盤分野

①都市計画・都市基盤

○JR酒々井駅、京成酒々井駅周辺の開発

- ・京成酒々井駅周辺、特に成田方面の開発については、駅の周辺に農地があるなど、活用できていない。地域住民からも駅周辺地域を活用しないのかという声がある。
- ・行政としては、土地開発に対する方向性を町民に周知させることが必要である。町として方向性を示しているものの、町民まで届いていない。

○JR南酒々井駅周辺の開発

- ・JR南酒々井駅は現在、無人駅となっており、周辺地域は開発されてない。人口増加のためにも開発したら良いのではないか。

○京成宗吾参道駅周辺の開発

- ・宗吾参道駅周辺開発を一番優先してやるべき。財政の問題もあり、開発主体は民間となるが、町としてその開発事業をコーディネートすることが必要。駅に近接するちびっこ天国も合わせて開発する必要がある。ちびっこ天国の土地については、東京学館や京成が保有したいとの意向があると聞いているが、土地を渡すためには、まず建物を解体し更地にする必要がある。

○空き家対策の推進（空き家バンク、専門部署の設置等）

- ・佐倉市では、空き家対策専門の職員がいて、年間10件くらい空き家との契約につながっていると聞いている。酒々井町でも職員が年間5件でもやってくれば、人口に大きな影響がある。担当できる職員が不足しているのは理解しているが、空き家対策について、町役場の職員が対応した方が良い。
- ・空き家の活用方法として、賃貸で貸すようなスキームがある。事業者が空き家を管理し、リフォームしてから入居希望者に貸す。実際にフリーランスの人が借りていると聞く。まずは、町が空き家情報について発信していく必要がある。そのためにも、町が実態調査や意識調査を通じて、売買ニーズや賃貸ニーズなどを把握する必要がある。

②道路

○中央台と東酒々井地区を結ぶ都市計画道路の整備

- ・中央台と東酒々井地区の住宅地については、道路とJRで分断されている。前から都市計画にあるプリミエール酒々井の近くにある都市計画道路の整備が必要。

○国道から本佐倉城跡までの道路整備

- ・本佐倉城跡の周辺道路整備の早期実現が必要。特に国道51号から本佐倉城跡までをつなぐ道路整備が必要だ。

○既存の生活道路の整備の推進（主に旧市街地の道路）

- ・町内に新しい道路を作れとの声もあるが、それよりも、町道02-009号線（下台から国道296号線まで）といった既存の道路の整備を優先し、安全安心な生活道路の確保をすべきだ。

○道路の無電柱化

- ・成田街道の拡幅工事に合わせて無電柱化し、成田街道の魅力を高める整備を実施し、酒々井プレミアム・アウトレットに来た600万人を町内に呼び込むようにすべきだ。このままだと酒々井プレミアム・アウトレットと酒々井町が分断されているようになっている。

③公共交通

○しすいふれ愛タクシーの充実

- ・以前、町内の業者が循環バスのようなサービスを実施しており好評であったが、近年無くなった。町では、高齢者の移動支援策としてしすいふれ愛タクシーを3台整備している。自宅前まで来てくれるのは便利だが、利用者の中にはタクシーを呼ぶために電話で連絡することや、電話してもふれ愛タクシーがすべて利用中で、利用できないことに使いづらさを感じている人もいる。
- ・循環バスの話があるが、公共交通は制限なく使いやすいことが第一であり、デマンド交通を増やすことが必要だ。ふれ愛タクシーをもっと増やした方が良い。酒々井町のような小さい地域での循環バスは、町の負担が増える。

④上下水道

○上下水道の普及率100%達成

- ・例えば、総合計画に記載する施策の一つとして、上下水道の普及率を100%にすることが掲げたらどうか。酒々井町の強みの一つとして、上下水道の普及率が95%と他自治体と比較して高いことがある。整備されていない市街化調整区域の残りの5%を満たすためにも、例えば成田空港が整備している下水道を町が使わせてもらえるよう、県に交渉すべきだ。

⑤河川

○中川の治水対策の早期実現

- ・河川問題として、町内を流れる中川が、大雨や台風などにより氾濫し水害が発生しているため、中川の治水対策の早期実現を望んでいる。

○馬橋川の治水対策

- ・馬橋川の治水対策も課題だ。平成10年頃に窪地に残土を入れてしまったことにより、大雨が降るとその残土が崩落し馬橋川をふさいでしまい、排水が難しくなる。その排水が住宅地に流れ込んで床上浸水してしまう。令和元年10月の豪雨

でも近くの団地に水が流れ込んでしまい被害が出た。

(5) 産業経済分野

①農業

○小規模農業への支援

- ・大規模農業の推進より、小規模農業へのサポートを推進していきたい。

②工業

○墨工業団地への企業誘致

- ・酒々井町の課題として企業誘致が挙げられる。墨工業団地には、現在二つの空き地があり、十分に活用できているとは言い難い。

③商業

○町内の起業支援

- ・商業では、町の起業支援が弱く、駅前に店が並んでいないのが現状。駅前が駐車場になっているところが多い。

④観光

○本佐倉城跡整備の推進

- ・本佐倉城跡の整備が進んでいない。整備が進んでいないから人が本佐倉城跡に行こうと思えないのではないかと。本佐倉城跡の整備については、戦略的に実施してほしい。

○国史跡の墨古沢遺跡の活用

- ・日本最古の居住跡であり、去年国指定となった墨古沢遺跡を観光資源として活用してほしい。

○古民家の戦略的な活用

- ・酒々井町には古民家などの地域資源があるので、アウトレット客を呼び込むためにも、古民家活用はもっと積極的に戦略的にやるべき。

○観光客を町内に呼び込むランドマークの設置

- ・現在の町は、酒々井プレミアム・アウトレットへの来場者を町内に誘導して町を活性化させようという方向性を持っているが、具体的に町内のどこに誘導するかといった策がない。酒々井町には人を呼び込むランドマークが欠けており、町内のランドマークを考える必要がある。

(6) 地域社会と行財政分野

①コミュニティ

○自治会運営維持の支援

- ・高齢化により町内の自治会が運営できていないように思われる。地域のコミュニティとなっている自治会の運営維持のために、町がどのように支援していくか考えていく必要がある。

○町民交流の場の充実（施設・機会）

- ・住みやすいまちと感じてもらうためには、暮らしに根付いた施策を実施しているかがポイントとなる。現在の高齢化社会では、住民同士の交流を促進する施策が必要となる。

②広報・広聴

○情報発信専門部署の設置

- ・酒々井町は情報を発信する部署がない。県と連携してやるべきだ。人材として、酒々井町役場で定年退職する人が年間6～7人いるので、そういった人達が情報発信をして企業誘致をする部署を作るべきではないか。

③行政運営

○民間との連携強化

- ・今後のまちづくりについて、町役場の意向だけでまちづくりを進めるのではなく、民間業者と連携して検討実施していく必要がある。

④財政運営

○国に頼らない自主財源の増加

- ・酒々井町の歳出のうち、福祉・厚生費、教育費が30%超を占めている。コロナ禍もあり、国からの補助金が期待できないため、国に頼らない自主財源を増やす必要がある。自主財源を増やすためには、墨工業団地に限らず企業誘致を行い、町内を活性化させなければならない。

3. 今後5年間で重点的に推進していくべき分野と具体的取組

(1) 健康福祉分野

①健康づくり

○地域医療の充実（開業医の減少対策・かかりつけ医の推進）

- ・酒々井町の開業医が少なくなってきた。町外には北総病院などの大きな病院があり、町内の千葉しすい病院や虎の門病院は評判がいいが、小さい所に目が届く地域医療の充実が必要。地域包括ケアの充実のためにも、町内の医療や福祉施設への支援が必要だ。
- ・酒々井内の医療環境を整備することが必要だ。酒々井町内の医師の高齢化や、町外の病院に行く人も多いことから、地元のクリニックが閉院している。町内の医療環境を整備するためにも、かかりつけ医の推進が必要であり、そのためには地元の病院をまず使ってもらうことが必要だ。
- ・医療環境について、酒々井在住の開業医が少なくなっており、個人病院がどんどんなくなっていることが不安だ。町内の医療環境の充実が必要だ。

②高齢者福祉

○高齢者向け施設・サービスの充実

- ・高齢化社会を意識して、酒々井町に暮らして良かったと思える施設やサービスを充実させてほしい。

○介護への重点投資

- ・今後10年間として考えたとき、最も重点的に取り組んでいくべき課題は、高齢者福祉。必要なところへ必要なお金をもっていくべきと考えれば、介護に重点的に取り組むべき。
- ・町の介護保険は1億2千万円程度、剰余金がある。介護保険料を上げる必要があった際にそれを使えばいいと言っているが、剰余金はなかなか減らない。在宅介護をしたいと思っている人に支援をするべき。
- ・国の制度で在宅介護の人に対する制度はあるが、デイサービスを受けていないことが条件となっている。在宅介護は施設に入った人に比べて1/3くらいの手当しか受けていない。
- ・介護施設を一市町村で作るのは難しい。今後高齢者が増加していく以上、介護施設だけでは立ち行かなくなる。それを見越して在宅介護をしている人に補助金対応をすべき。

(2) 教育・文化分野

- ・特になし

(3) 生活環境分野

①環境保全

○自然環境を活かしたまちづくり

- ・自然を活用したまちづくりを推進したい。町内にはカブトムシやホタルがいるので自然を活用したまちづくりもできる。酒々井町でブルーベリー園、農園、体験観光施設ができれば良い。

○残土の違法廃棄対策の強化

- ・南酒々井の課題は馬橋川があること。町から馬橋川の改修で用地を買いたいと話があった。残土について県が許可したこともあり違法廃棄が相次ぎ、残土の処理をしないと改修はできない。まずは県と違法残土の処理について話し合うべき。

②防災

○非常時対策の充実（井戸の設置、家庭のソーラー発電設置への支援）

- ・防災について、停電になると水道が使えなくなるので、町内の主要な公園などに井戸を設置してほしい。
- ・停電対策として、各住宅にソーラー発電ができるような支援ができればいい。被害が大きかった馬橋地区は1週間程度停電してしまった。防災の備蓄についても対応が必要だ。

③防犯

○防犯カメラの設置

- ・犯罪の抑止力として、道路に防犯カメラの設置が必要だ。

○防犯活動団体員の高齢化への対応

- ・防犯については、団体員の高齢化が進んでいることや駅前の防犯ボックスが出来たことで、今まで防犯活動を実施してきた人がいなくなっており、今後の活動の継続が難しくなっている。活動継続のために人を呼び込む必要がある。

(4) 都市基盤分野

①都市計画・都市基盤

○中長期的ビジョンの作成

- ・今後住民の高齢化やコロナの影響、町内での失業者の増加、企業の倒産などにより、酒々井町の税収は2~3割減ってくる。令和3年度の事業ができるか不安だ。雇用にしても失業者が増えている。税収を中長期的に増やしていくことを考えると、住宅政策や都市計画は、町の財政に関わらずに出来ることであり、ビジョンの構築をすることなので中長期的に考えて今取り組むべき。

○生活に必要な施設の設置

- ・今後は、他自治体と比較し、違ったものを作るのではなく、生活に必要なものは作って欲しい。

○京成宗吾参道駅前整備の実施

- ・京成宗吾参道駅前整備の実施を進めてほしい。

○町民体育館の設置

- ・町民活動のために町民体育館を作って欲しい。町のインフラ設備が不足している。
- ・酒々井町には現在、利用できる町民体育館がない。既存の町民体育館は、東日本大震災の際、建物が傷んだため使用されていない。町の方針として減築政策を取っていると思うが、町内の土地をかうんだったら、町民体育館の建設ができるのではないか。

○公共用地の有効活用（プリミエール酒々井隣接地）

- ・プリミエール酒々井の横の公共用地は一等地なので、現在は野球場となっているが、有効に活用すべきではないか。有効活用方法としては、酒々井町のプールなどの総合的な体育館を作るべきだ。

②道路

○生活道路の計画的な整備（舗装・維持補修）

- ・生活道路は舗装されていない。東酒々井地区は路面も舗装されているが、旧市街地の道路は昔のままで放置されている。道路の整備は計画的に実施すべきだ。生活道路の維持補修が必要。
- ・財政面の問題もあるが、町内道路の無電柱化も提言している。酒々井町の道路は、樹木もあり道路がせまくなっているので、計画的に実施してほしい。

○通学路の安全対策

- ・酒々井町内の通学路には危険なところが多いので安全対策も必要だ。実際に、中学生がすれ違いできないほど狭い町道を自転車で通っている。県の管轄になるが、酒々井小学校前の県道の歩道の整備が進んでいない。

○県道における右折レーンの設置

- ・県道に右折レーンを付けるよう要望を出している。右折レーンが無いことで、朝の通勤時に渋滞している。

○道路計画への柔軟な発想の取入れ

- ・東酒々井と中央台をつなげるJR線路の跨線橋が必要だったが、現状完成の見込みはない。完成の見込みがない計画は取り下げて、道路用地の有効活用を考えて欲しい。代わりに国道51号と国道296号をつなげるために、消防署前と千葉しすい病院を通る道路の整備をすればよいのではないか。道路網の整備が地域内の発展につながっていく。道路網の整備も第6次総合計画にも明記すべき。

③公共交通

○ふれ愛タクシーの充実

- ・高齢者の交通手段の確保が必要だが、ふれ愛タクシーを1台減らすなど、町の方角性は逆行している。ふれ愛タクシーは家の前まで来てくれるなどメリットがある。循環バスよりふれあいタクシーの方が便利なので、ふれ愛タクシーの台数を増やすべき。

④上下水道

○上下水道の更なる充実

- ・一番簡単に取り組めるのは、上下水道の普及率を100%にすること。現在は90%後半なので、100%にしやすいだろう

⑤河川

○中川の治水対策の強化

- ・中川の治水対策について、前から提言しているが財政の問題もあり、町は動いてくれない。内水による床下浸水への対策を実施してほしい。
- ・中川の水路の治水問題は対策が必要だ。財政の問題を考えると、対策としては、田んぼなどを調整池にし、家をかさ上げするなどの方法しかないだろう。

(5) 産業経済分野

①農業

○農業経営体の法人化・組織化の支援

- ・農業には耕作にかかる機械購入など、大きなお金がかかる。個人での農業は難しい以上、法人対応にならざるを得ないので、法人化への支援が必要だ。高齢化が進んでいるので、現在の農業は10年後の継続は見えない。組織化や法人化を推進し、高齢者を雇用していかないと継続はできない。

○特産品開発の推進

- ・酒々井町の特産品の開発を商工課中心にチャレンジしたが、上手く行かなかった。中学生、高校生の発想を借りて、どういうものを売り出すべきかについて、もう一度町を挙げてアイデアを作りだしたらどうか。

○他自治体との連携による販路の拡大

- ・農作物について、販路としてはまるごとしすいで販売しようとしているが、規模は小さい。酒々井町単体で販路を探す力はないので、他自治体と協力をすべき。

○農業のICT化の促進

- ・農業の後継者不足、耕作放棄地の増加に対応するためにも、ICT化などを支援し、酒々井町の農業の魅力を高め、支援する必要がある。

②観光

○2つの国史跡を活用した観光の推進

- ・本佐倉城跡、墨古沢遺跡などの国史跡が2つある自治体は、なかなかない。現状として、町内に観光施設として見せられる様な場所はないので、二つの国史跡を千葉市加曾利貝塚博物館のように、施設内で見せられるような整備をしたい。そうすればアウトレットの来場者も寄ってくれるのではないかな。観光事業をすすめるためにも観光協会が作った方が良い。

(6) 地域社会と行財政分野

- ・特になし

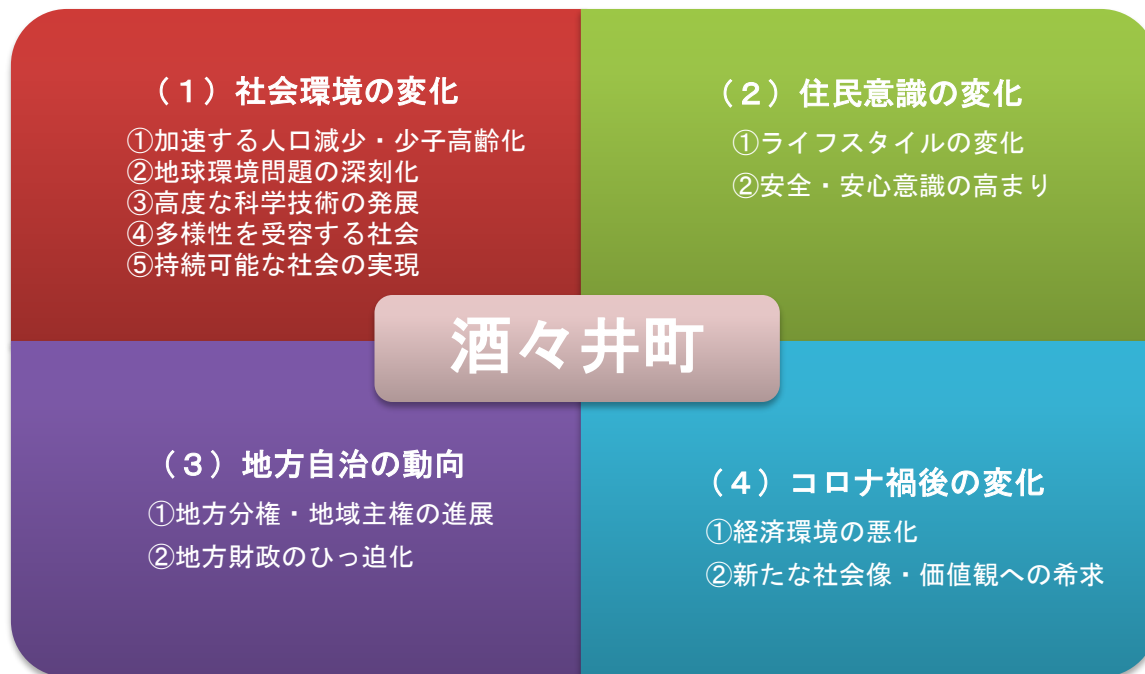
Ⅶ. 外部環境の整理

■取組の概要

総合計画、総合戦略の策定にあたって、今後の酒々井町に影響を与える「時代の潮流」、及び国、千葉県の方角性について整理する

1. 酒々井町を取りまく時代の潮流

◇酒々井町を取り巻く時代の潮流



(1) 社会環境の変化

①加速する人口減少・少子高齢化

○日本の人口は2010年の1億2,806万人をピークに減少に転じ、出生数の低下や高齢化の進行などによる少子高齢化が急激に進んでいる。

- ・日本の出生数は、1973年の209万人をピークに年々減少しており、2019年には86.5万人まで減少している。
- ・日本の高齢化率は上昇の一途を辿っており、2020年10月1日現在では28.7%と世界最高の水準となっている。

②地球環境問題の深刻化

○CO₂などの温室効果ガス排出量増加による地球温暖化をはじめとした環境問題は、年々深刻化しており、世界全体にとって喫緊の課題となっている。

- ・2015年に採択されたパリ協定において、日本は温室効果ガス排出量を2030年までに2013年度比26.0%を削減するなどの目標を掲げていたが、2020年12月に「2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにするを旨とする」という新たな方針を打ち出した。
- ・再生可能エネルギーの利用拡大を図るなど、脱炭素社会の到来、循環型社会の実現に向けた取り組みが求められている。

③高度な科学技術の発展

○人工知能（AI）、情報通信技術（ICT）などの高度技術は年々進化しており、私たちの日常生活に浸透してきている。今後更に進展する、行政も含めた社会のデジタル化に向けて、課題解決のためのAIやICTの活用が求められる。

- 世界でのインターネットにつながる機器数は、5億台（2003年）から500億台（2020年）にまで増加している。
- 日本では、2016年の「第5期科学技術基本計画」において、サイバー空間とフィジカル空間をAIやICTを活用によって連携する、超スマート社会（Society5.0）を目指している。

④多様性を受容する社会

○世界全体で、性別や年齢、宗教、国籍などの多様性を認める社会への流れが、今後加速していくことが予想される。

- 日本ではいまだLGBTQへの対応が不十分とされているが、例えば県内の千葉市など、同性カップルを正面から認めるパートナーシップ制度を導入する自治体も増えてきている。
- 多くの民間企業では、多様な人材を活用していこうという「ダイバーシティ経営」が常識となりつつある。

⑤持続可能な社会の実現（SDGs意識の高まり）

○2015年9月に国連サミットにて2016年から2030年までの15年間の国際社会共通の目標として持続可能な開発目標（SDGs）が採択された。各国は、持続可能な世界の実現を目指して、SDGsの達成に積極的な取り組みが求められている。

- SDSN（国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク）によると、2020年の日本のSDGsの達成度の順位は166か国中17位であり、「ジェンダー平等」「不平等をなくす」「気候変動対策」「海の豊かさ」に課題がある指摘された。
- SDGsという目標を達成するための手段として、「環境」「社会的責任」「企業統治」に配慮したESG経営を志向する事業者が増えている。ESGに積極的な取組を行う先に投資するESG投資の残高も増加しており、企業の成長のためにはこの3つの考え方が必要との考え方が広がっている。

(2) 住民意識の変化

① ライフスタイルの変化

○ 社会が成熟し、人々の生活水準が一定レベルに達したことにより、価値観は多様化し、それに伴い、ライフスタイルも多様化している。

- ・ 人々の価値観が、家電や自動車などのモノを「購入」することに価値を置いていた「モノ消費」から、「体験」することに価値を置いた「コト消費」を重視する傾向に変化してきている。
- ・ ライフスタイルが多様化したことにより、地域の間人間関係が希薄化し、コミュニティが衰退していくことが懸念されている。

② 安全・安心意識の高まり

○ 近年、凶悪犯罪や子どもの安全を脅かす犯罪の多発、また地震、津波、台風、豪雨など多くの自然災害の発生により、わたしたちの防犯・防災への危機意識が年々高まっている。

- ・ 国内児童相談所での児童虐待相談対応件数は、平成 20 年度（2008 年度）の 42,664 件から、令和元年度（2019 年度）には 193,780 件へと急増している。
- ・ 令和元年（2019 年）9 月の令和元年房総半島台風、10 月の令和元年東日本台風は、酒々井町にも大きな被害をもたらした。
- ・ 東日本大震災の発生から 10 年が経過した令和 3 年（2021 年）2 月に、福島県沖で M7.3 の地震が発生した。今後 30 年以内に、首都圏直下地震や南海トラフ沿いの大規模地震（M8～M9 クラス）が 70～80% と高い確率で発生するとみられている。

(3) 地方自治の動向

① 地方分権・地域主権の進展

○ 中央から地方へ権限を委譲することで、地方がそれぞれの特色を活かし、主体的に責任をもって自らのまちづくりに取り組むことを目指す、地方分権・地域主権に向けた動きが進展している。

- ・ 国から都道府県へ（看護師などの各種資格者の養成施設等の指定・監督等）、都道府県から指定都市へ（病院の開設許可、都市計画区域マスタープランに関する都市計画の決定等）の事務・権限の委譲が進んでいる。

②地方財政のひっ迫化

○人口減少、高齢化の進展などの構造的な要因により、自治体の歳入は減少傾向、歳出は増加傾向が続いている。

- ・社会の中心として「付加価値を生み出す層」である生産年齢人口の減少により、市税収入は減少傾向にある。一方で高齢者の増加により、高齢者を支える扶助費は増加傾向にある。
- ・歳入の減少、歳出の増加により、財政状況が厳しくなっている中で、各自治体には効率的で持続可能な財政運営が求められている。

(4) コロナ禍後の変化

①経済環境の悪化

○平成20年(2008年)秋に起きたリーマンショックの後、国内景気は緩やかな回復基調にあったが、令和2年(2020年)初以降に全世界で新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したことにより、世界の経済活動が滞り、国内の経済環境も大きく悪化した。

- ・令和2年(2020年)4~6月期の国内総生産(季節調整後、年率換算実質GDP)は▲29.3%で、リーマンショック後の平成21年(2009年)1~3月期の▲17.8%(同)を超える、戦後最大の落ち込みとなった。
- ・その後国内経済は、国による政策的な支えもあり回復基調で推移したが、新型コロナウイルスの感染の再拡大により令和3年(2021年)1月に再度非常事態宣言が発令され、今後の経済動向についても不透明感が強く残っている。

②新たな社会像・社会的価値観への希求

○新型コロナウイルスの流行は、わたしたちの今までの生活様式に、大きな変化を引き起こしている。感染拡大対策として、「新しい生活様式」の確立が求められている。

- ・日常生活において、人との物理的な距離をとるソーシャルディスタンスの確保など、「ウィズコロナ」を意識した行動が求められている。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大は、企業の勤務形態の多様化を加速させており、新たな働き方として、テレワークの導入等が促進されている。またこれを契機とした、企業によるDX(デジタル・トランスフォーメーション、ITの活用によるビジネスモデルや組織の変革)が進展しつつある。

2. 国・千葉県の動向

(1) 国の方向性

我が国の地方創生にかかる方向性は、2020年度からスタートした第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に示されている。その中では、「将来にわたっての活力のある地域社会の実現」、「東京圏への一極集中の是正」という2つの目指すべき将来像に向けて、4つの基本目標と、2つの横断的目標が掲げられている。

こうした中で、町の次期総合計画、総合戦略策定に影響を与えられ、国全体として注力している2つの方向性について、以下に整理する。

① Society 5.0 の実現

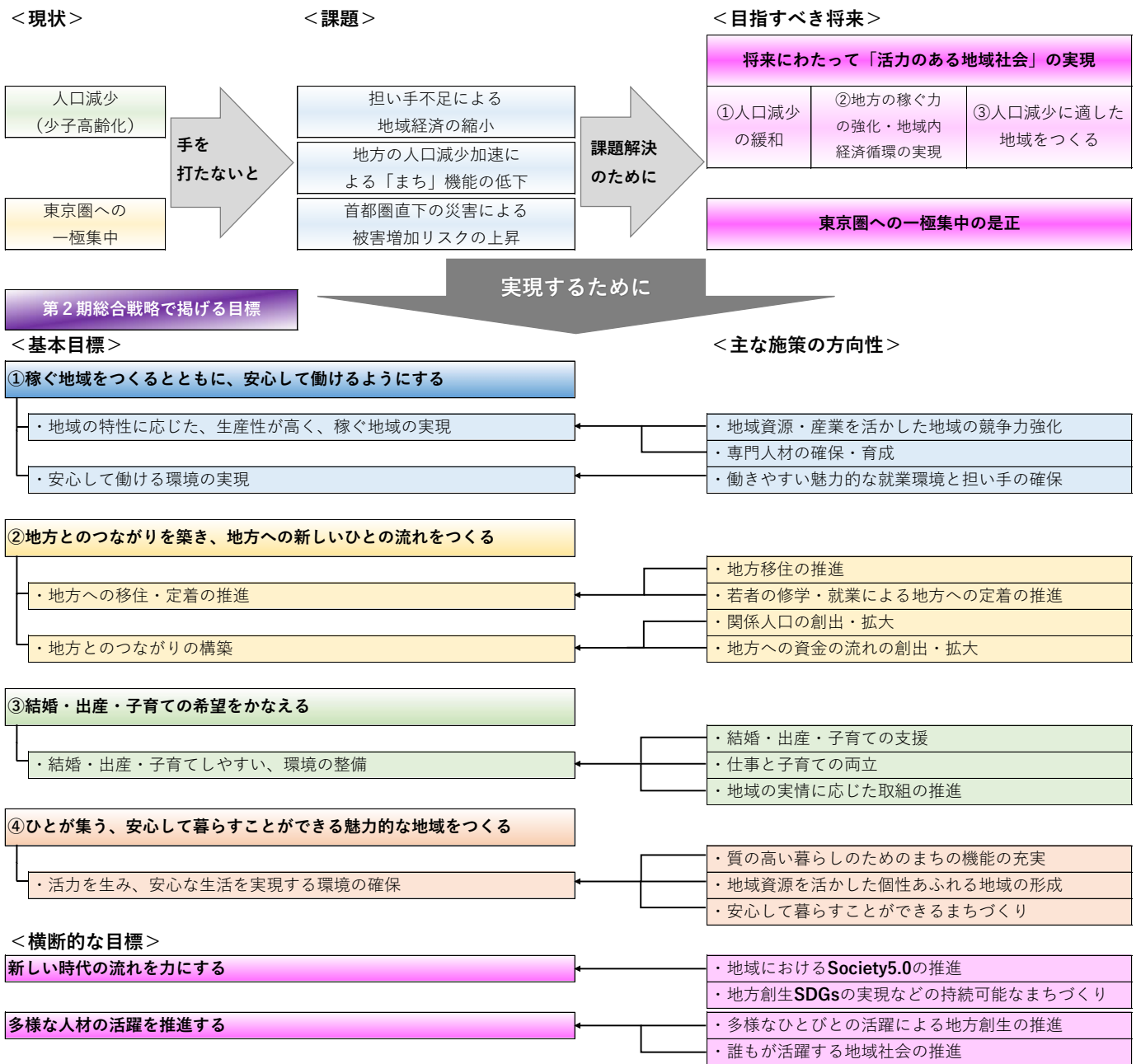
情報通信技術（ICT）の浸透、IoTや人工知能（AI）の発展などが飛躍的なスピードで進む中で、こうした新技術がもたらす未来の社会像として、国は「Society5.0（超スマート社会）」という概念を提唱している。2019年6月に閣議決定された「成長戦略」の実行計画では3つのポイントが掲げられているが、その1つ目のポイントが「Society5.0の実現」であり、現時点で国が成長戦略として最も注力している方向性だといえる。

② SDGs の浸透

SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で、国際社会全体が2030年までに達成すべきとされた国際目標である。17の国際目標（ゴール）と169のターゲットから構成されており、これらを「地球上の誰一人として取り残さず達成する」ことを目指している。



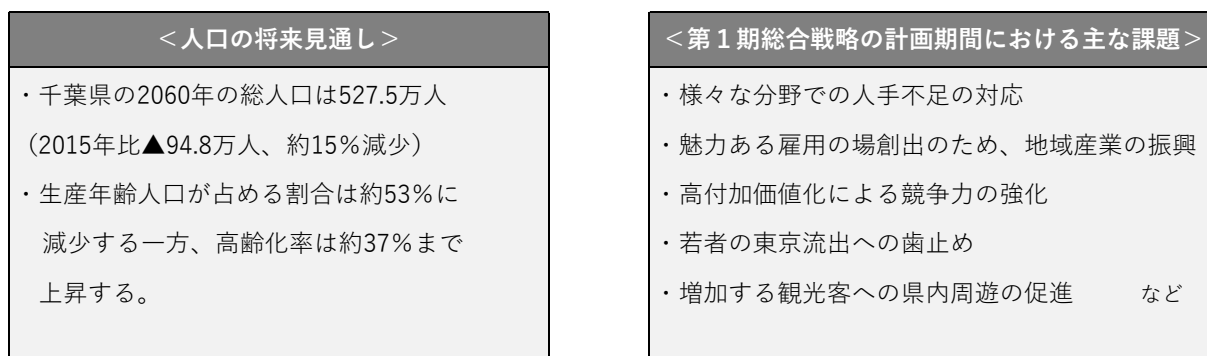
◇国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全体像



2. 千葉県の方向性

千葉県の地方創生にかかる方向性は、2020年11月に公表された第2期千葉県地方創生総合戦略に示されている。千葉県の目指すべき将来像として、3つの項目を掲げ、それを実現するための4つの基本目標と、2つの横断的目標が掲げている。

◇千葉県の「第2期千葉県地方創生総合戦略」の全体像



課題解決のために

<目指すべき将来像>

①誰もが希望を持って地域に住み働ける千葉の実現～次世代を牽引する千葉づくり～

- ・AI・IoTやドローンなどの先端技術の利活用促進 ・テレワーク普及と副業・兼業に関する環境づくりの進展による本県への移住促進
- ・県内道路ネットワークの整備、成田空港機能強化による生活利便性の向上、経済の活性化
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック開催効果の波及などによる地域産業の成長

②親子の笑顔溢れる千葉の実現～少子化への挑戦～

- ・子ども一人ひとりを地域全体で大切に育むという意識の浸透により、結婚・妊娠・出産・子育てに係る希望を叶えられる地域社会の実現
- ・誰もがそれぞれの希望に沿ったライフスタイルを実践しやすい環境の実現

③オール千葉で支え合う安全・安心に暮らせる千葉の実現～人口減少に対応した県づくり～

- ・令和元年房総半島台風、令和元年10月25日の大雨などの被害、新型コロナウイルスの感染拡大による影響からの復興・回復
- ・県と市町村・国・民間等の連携強化やインフラの強靱化、医療提供体制の充実による、災害に強い生活基盤、あらゆる世代が活躍できる社会の実現
- ・行政と学校、県民、事業者との連携充実による地域防犯力向上
- ・高齢になっても、仕事・趣味を楽しみつつ、互いに支え合いながら、安心して暮らし続けることができる地域社会の実現
- ・ICT等の進展による、在宅医療の高度化、安全性の高い自動運転技術、MaaSの普及による安全・快適な生活環境の実現

VIII. 人口フレームの検討

■取組の概要

過去の人口動向を整理するとともに、その背景についての分析を行う。あわせて、現在入手できるデータに基づいた仮の将来推計を行う（令和3年度に公表される国勢調査結果の結果を踏まえて、改めて推計を行う予定）

1. 過去の人口動向

- 本町の総人口は、成田国際空港の開港や町内の住宅団地の整備により、増加を続けてきたが、1985年以降その勢いは弱まっており、2010年以降は減少傾向に。
- 年齢階層別では、年少人口、生産年齢人口は減少している一方、老年人口は増加。老年人口比率は、1985年の6.9%から2015年に28.7%へ急激に上昇。

(1) 長期的な人口推移

本町の総人口は、成田国際空港開港や町内住宅団地の整備を背景に増加を続けてきたが、1995年以降人口増加の勢いは弱まっており、2010年以降はわずかながらも減少傾向となっている（1975年:8,465人→2005年:21,385人→2015年:20,955人）。

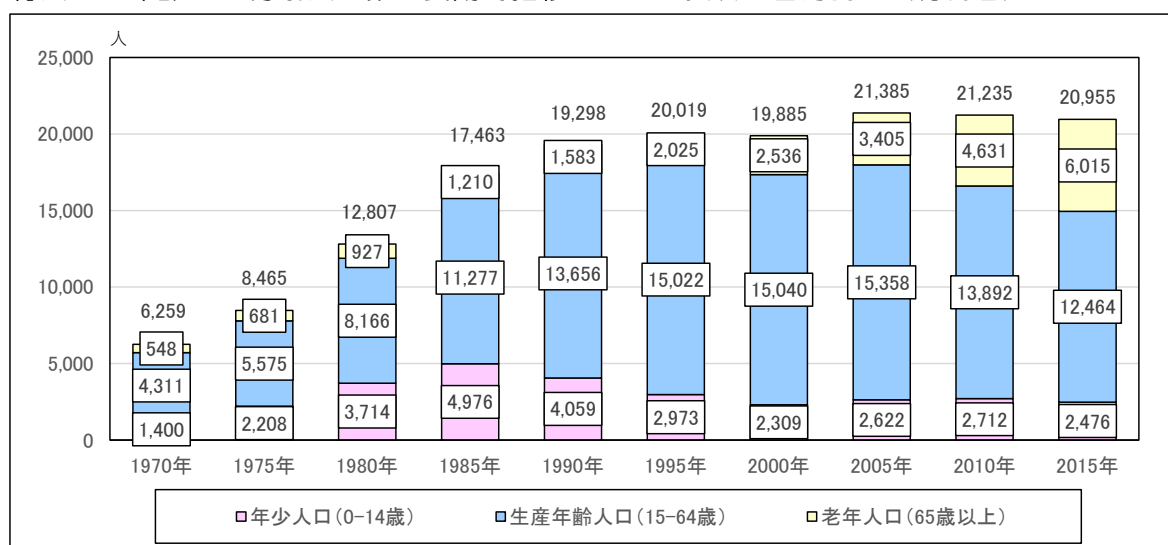
年齢3区分別にみると、年少人口は、1985年の4,976人をピークに減少に転じ、近年では振れを伴いながらも横ばい基調で推移している。年少人口比率も1985年の28.5%から2000年の11.6%まで低下し、その後横ばいにて推移している。

生産年齢人口は、2005年（15,358人）まで増加していたが、その後は減少基調で推移している。生産年齢人口比率は、2000年の75.6%をピークに低下傾向となっている。

老年人口は、一貫して増加基調を辿っており、1985年に1,210人であったのが、2015年には6,015人と約5倍に増加している。老年人口比率は、1985年の6.9%から、2015年には28.7%と、急激に上昇している。

◇総人口と年齢3区分別人口数の長期的推移

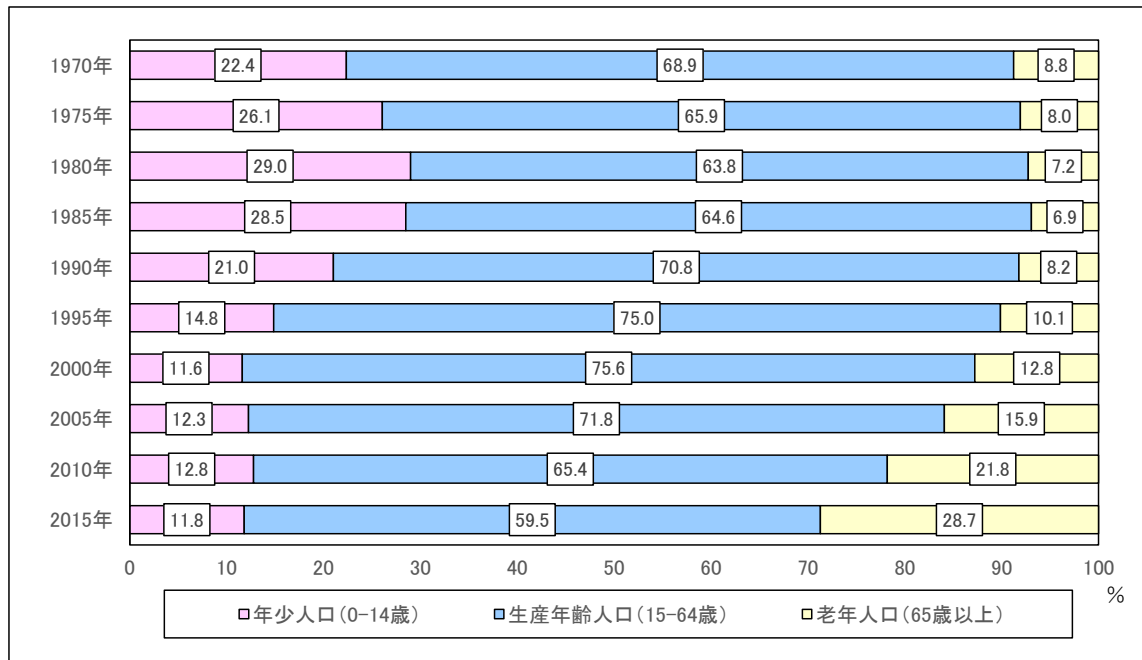
資料：国勢調査（総務省）



(注) 年齢不詳分人口を3区別に按分しているため、総人口と3区別の合計が一致しない年がある。

◇年齢3区分別人口比率の長期的推移

資料：国勢調査（総務省）



(2) 近年の人口推移

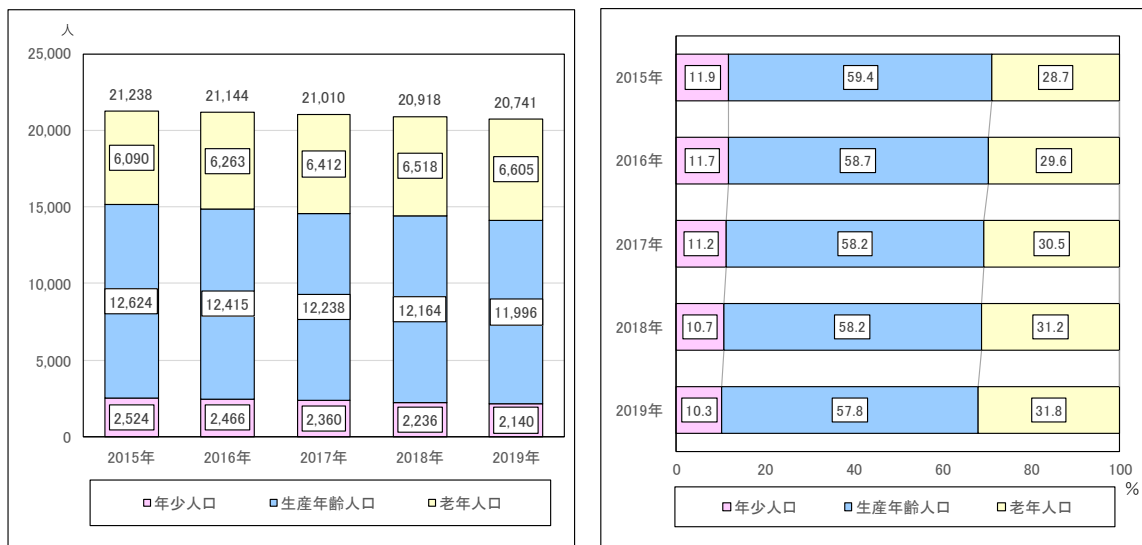
2015年以降も、本町の総人口は減少基調にある。

(2015年：21,238人→2019年：20,741人・住民基本台帳に基づく人口)

2015年から2019年にかけて、年少人口、生産年齢人口とも減少し(年少人口:▲384人、生産年齢人口:▲628人)、老年人口は515人増加した(老年人口比率 28.7%→31.8%)。

◇総人口と年齢3区分別人口数・構成比の最近の推移

資料：住民基本台帳（酒々井町）



(注) 住民基本台帳に基づく人口は、住民票の届出に基づき算定されているため、実際の居住に基づき算定される国勢調査の数値とは一致しない。

2. 過去の人口の動態

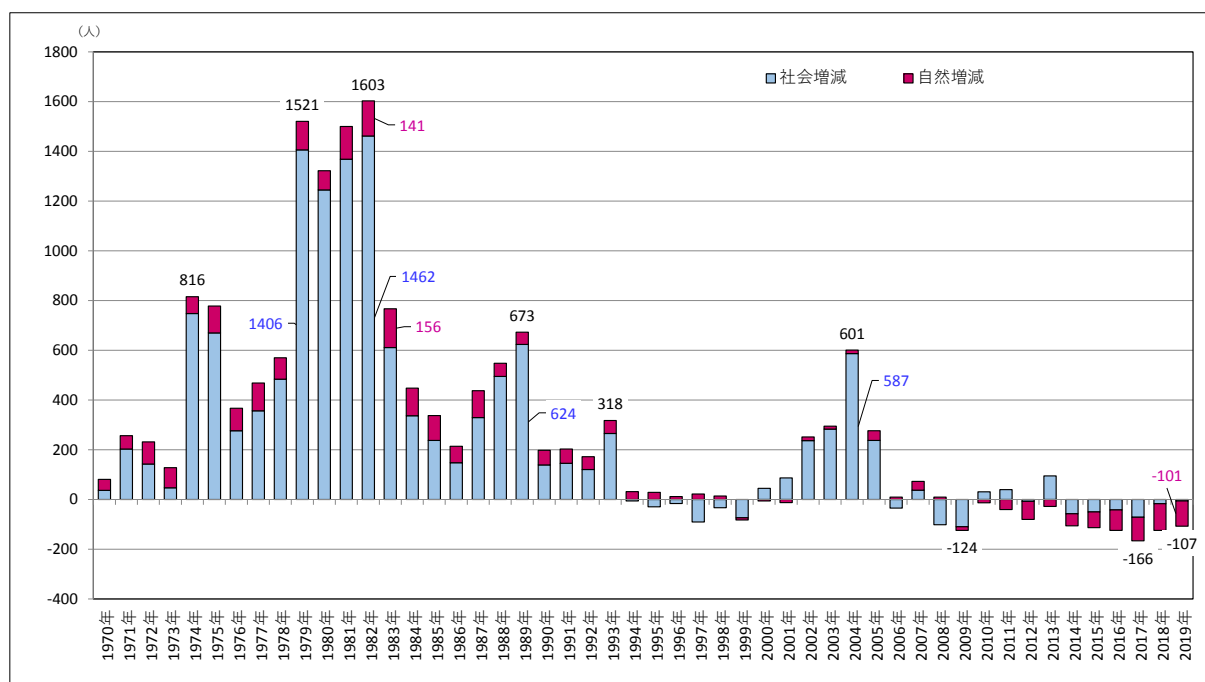
- 自然増減数は、1983年の156人の増加をピークとして増加幅が徐々に縮小し、2009年に減少に転じて以降、減少幅は年々拡大している。
- 社会増減は、1970～1980年代において社会増となっており、79～82年には毎年1,000人以上増加した。ただし近年は、社会減が続いている。
- 本町の年齢階級別の純移動数は、15-19歳⇒20-24歳では大幅な転入超過、20-24歳⇒25-29歳では大幅な転出超過となっている。

(1) 自然増減・社会増減

1970年以降の本町の自然増減・社会増減の動向をみると、自然増減数は、1983年の+156人をピークとして増加幅が徐々に縮小している。2009年に▲15人と減少に転じて以降は、その減少幅は年々拡大している。

社会増減は、1970～1980年代において大きな社会増となっており、1979～1982年においては、毎年1,000人以上増加している。その後は1989年には624人増、2004年には587人増と、ピークとなる山があったが、2014年以降は社会減が続いている。

◇自然増減・社会増減の動向



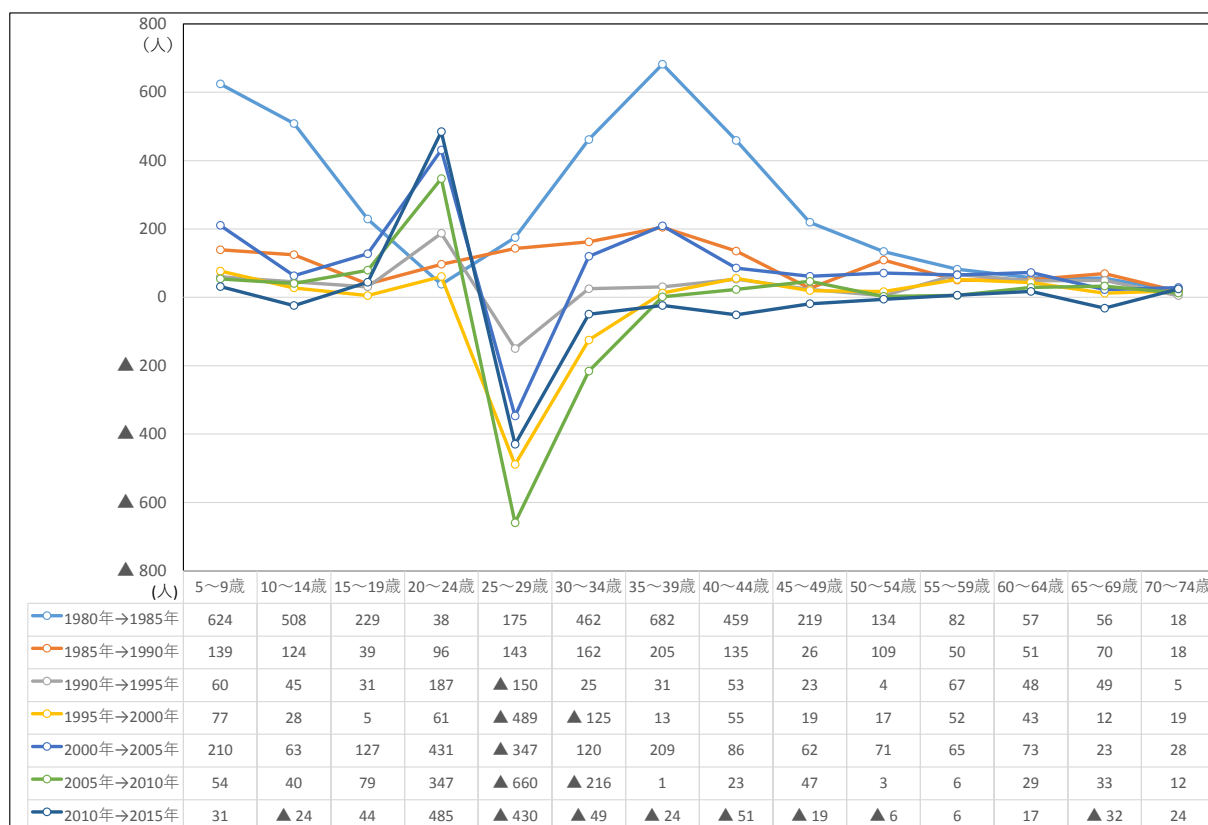
資料：毎月常住人口調査（千葉県）

(2) 人口移動状況

本町の年齢階級別純移動数をみると、15-19歳⇒20-24歳においては2000年以降、300人を超える転入超過となっている（5年単位の増減数。以下同様）一方で、20-24歳⇒25-29歳においては、1995年以降、300人を超える転出超過となっており、若年層での転出入が多いことが特徴といえる。要因として、印西市の順天堂大学さくらキャンパスの開設（1988年）以降の、学生の移動が大きいことがあげられる。

ファミリー世帯の年齢層である30～40歳代は、1985年までは相当な転入超過となっていたが、その後、増加幅は縮小し、2015年には転出超過となっている。

◇年齢階級別純移動数（時系列）



資料：まち・ひと・しごと創生本部「RE S A S」（2000年～2015年）

3. 将来の人口推計

○住民基本台帳データを用いて今回実施した推計によると、2019年からの30年で町の人口は6,600人減少し、2/3になる見込み。

○この間、特に生産年齢人口の減少傾向が強い（▲4,869人、▲40.6%）。

本町の人口は2019年の20,741人から減少を続け、30年後の2049年には14,141人となる。30年間の減少幅は6,600人、減少率は33.0%で、今後30年で人口は2/3となる。

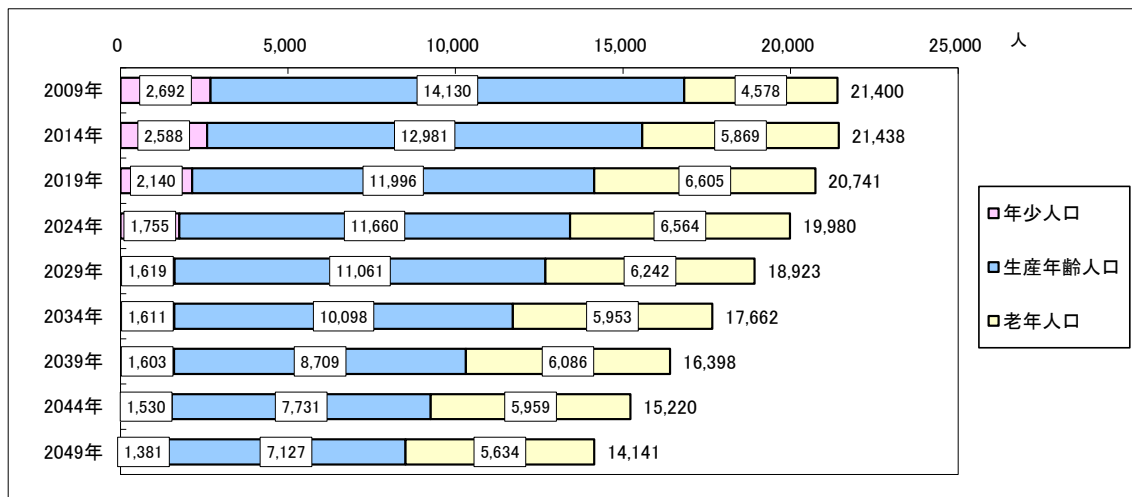
（注）2019年までの住民基本台帳データを使用した推計。2020年国勢調査データが公表された後に、再度それにもとづく推計を実施する予定。

年齢3区分別で見ると、これまでも減少基調にあった年少人口と生産年齢人口は、今後も一貫して減少を続ける。今後30年で、年少人口は2,140人から1,381人へ、生産年齢人口は11,996人から7,127人へ、それぞれ759人、4,869人減少する。特に、社会の中心となって活躍することが期待される生産年齢人口の減少率は40.6%に達する（年少人口の減少率は35.5%）。

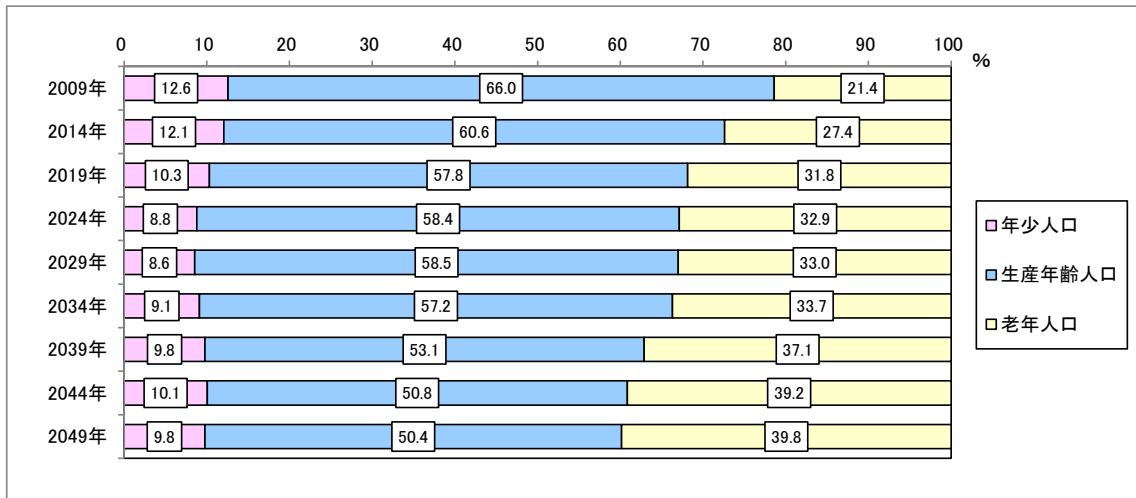
一方、増加を続けてきた老年人口も、今後は振れを伴いながら少しずつ減少傾向となる。高齢化は進むものの、1980年代に転入してきた大きな塊の層が今後死亡していくことがその要因としてあげられる。30年間の減少数は971人、減少率は14.7%となっている。

年齢3区分の構成比をみてみると、各区分とも減少していく中で、減少率がより高い生産年齢人口の比率の低下幅が大きく、2019年の57.8%から2049年には50.4%まで低下する。相対的に減少率が小さい老年人口の比率は、数は減少するものの31.8%から39.8%に上昇する。その結果、町全体としての高齢化はさらに進むといえる。

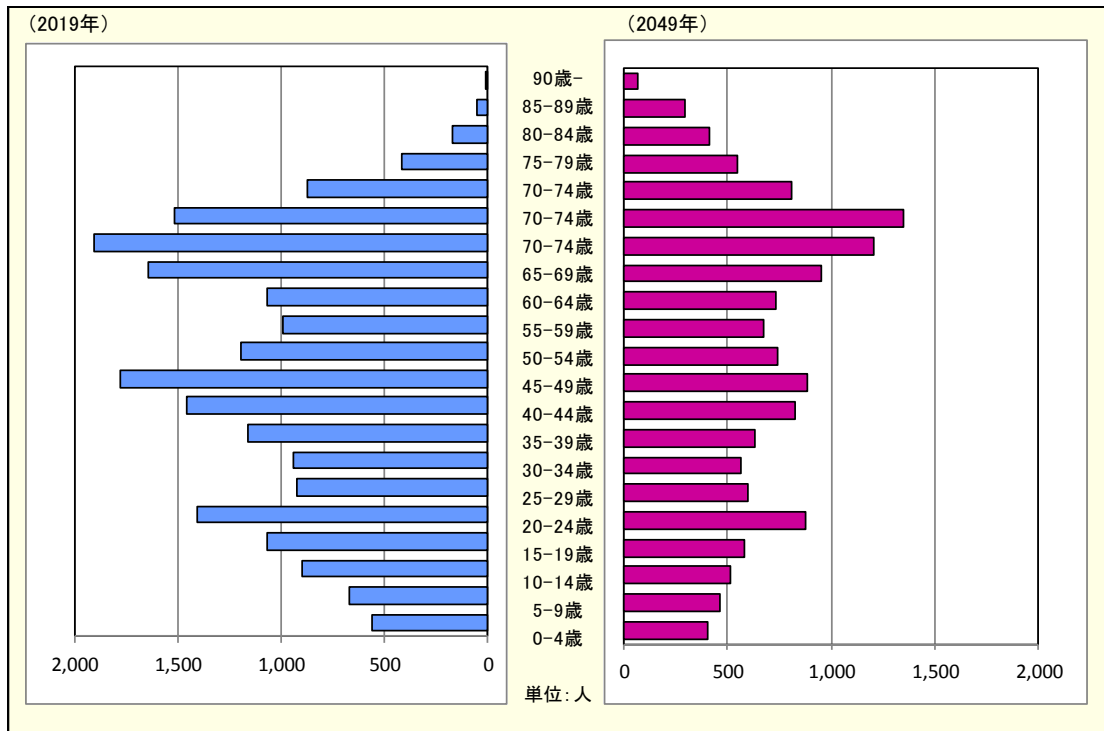
◇総人口と年齢3区分別人口数の推移（2024年以降は推計値）



◇年齢3区分別人口比率の推移（2024年以降は推計値）



◇2019年と2049年の人口ピラミッド



Ⅸ. 社会指標分析

■ 取組の概要

周辺自治体と比較して、酒々井町がどのような水準にあるのか、各種統計データから、客観的に分析する（＝酒々井町の強み・課題の明確化）

【分析手法・内容】

①就業者数や公共施設数など、市町村別に公表されている社会指標等の 58 項目のデータを、分野別に整理。

②各データを人口 1 人あたりに引き直し、近隣 10 自治体の中での偏差値として数値化。

(注) 対象とする近隣自治体 (酒々井町以外)

～成田市、佐倉市、八街市、印西市、富里市、栄町、多古町、芝山町、横芝光町

※偏差値が 50 を超えていれば近隣地域の中で相対的に勝っている、50 未満であれば相対的に劣後していることとなる。

⇒酒々井町がその分野で、近隣地域の中でどの程度の水準にいるかを明らかにする。

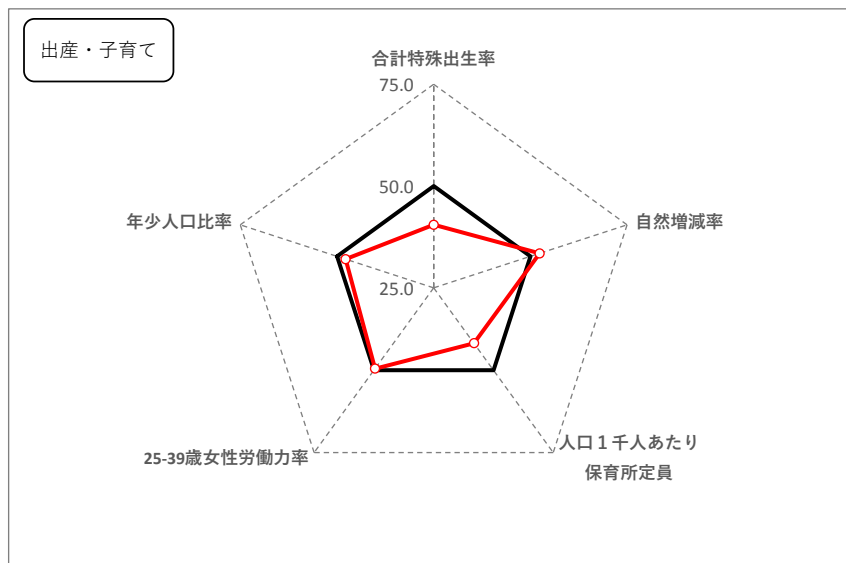
【比較対象指標】

・以下の 11 つの切り口で指標を分析する。

①出産・子育て ②教育 ③就業環境 ④産業 ⑤自然・文化 ⑥住環境

⑦安全安心・都市基盤 ⑧健康・福祉 ⑨老後 ⑩観光 ⑪行財政

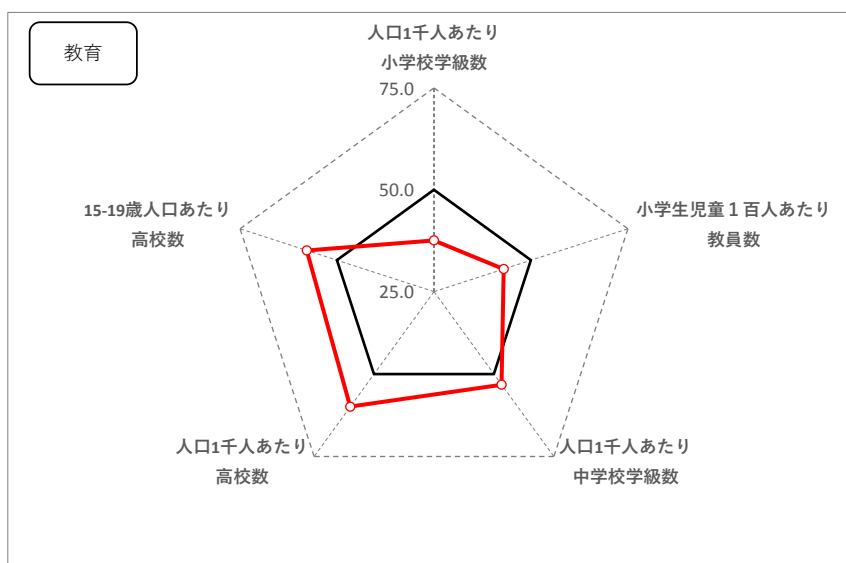
(1) 「出産・子育て」分野



<ポイント>

・合計特殊出生率、人口1千人あたり保育所定員の偏差値は低くなっている。

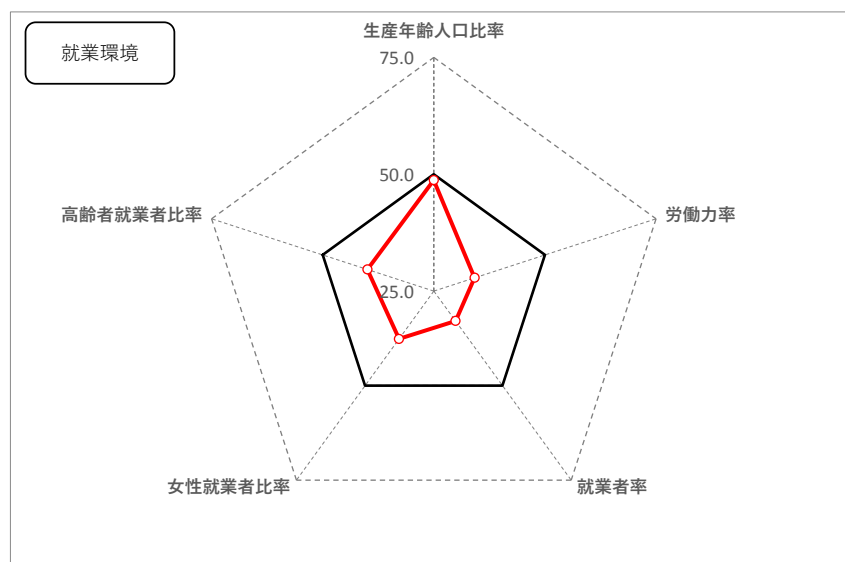
(2)「教育」分野



<ポイント>

- 人口 1 千人あたりの高校数、15-19 歳の人口あたりの高校数の偏差値は高くなっている。
- 人口 1 千人あたり小学校学級数、小学校児童 1 百人あたり教員数の偏差値は低くなっている。

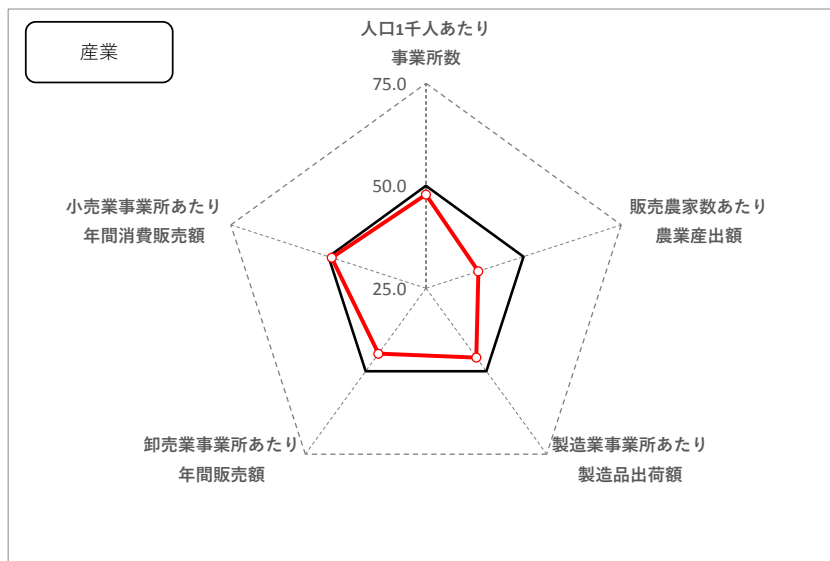
(3)「就業環境」分野



<ポイント>

- 労働力率、就業者率、女性就業者比率、高齢者就業者比率の偏差値は低くなっている。

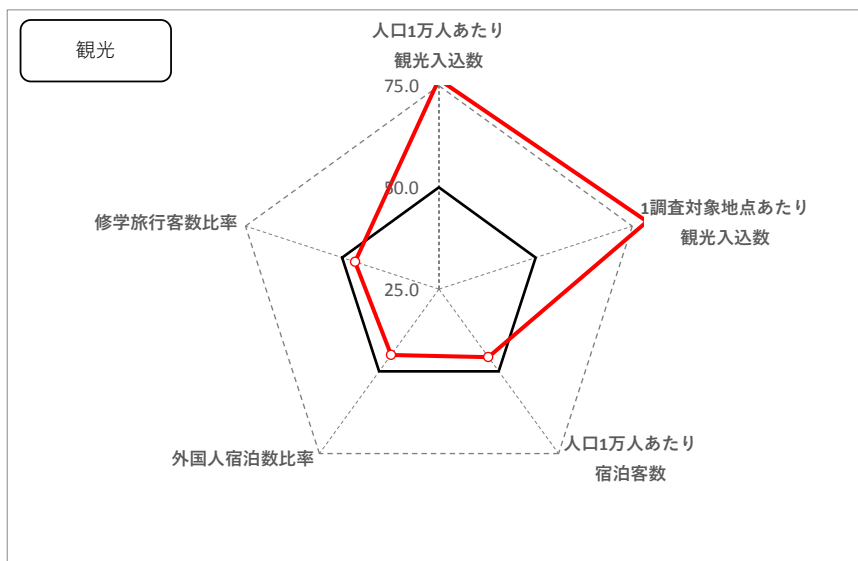
(4)「産業」分野



<ポイント>

- 販売農家数あたり農業産出額、製造業事業所あたり製造品出荷額、卸売業事業所あたり年間販売額の偏差値は低くなっている。

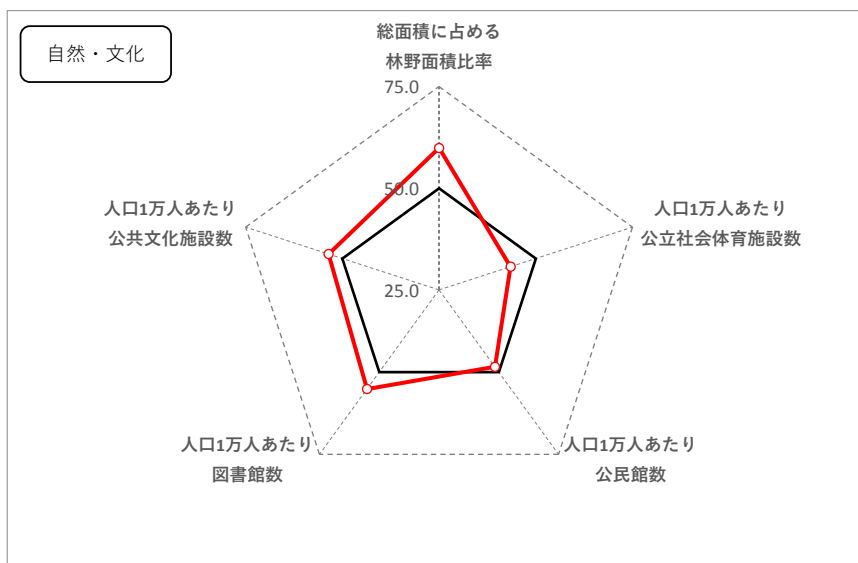
(5)「観光」分野



<ポイント>

- 人口1万人あたり観光入込数、1調査対象地点あたり観光入込数の偏差値は突出して高くなっている。酒々井プレミアム・アウトレットの来場客数が大きく寄与しているものと思われる。

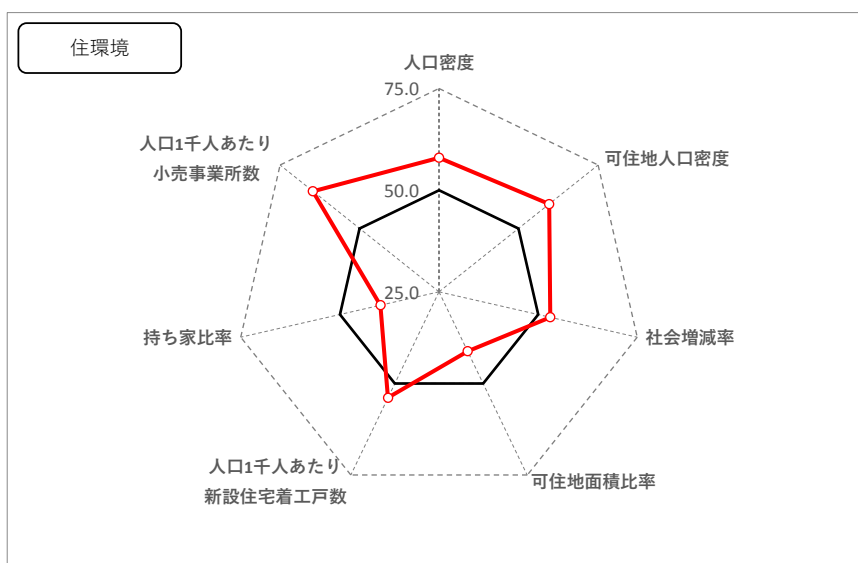
(6) 「自然・文化」分野



<ポイント>

- 総面積に占める林野面積比率、人口1万人あたり図書館数、人口1万人あたり公共文化施設数の偏差値は高くなっている。
- 人口1万人あたり公立社会体育施設数の偏差値は低くなっている。

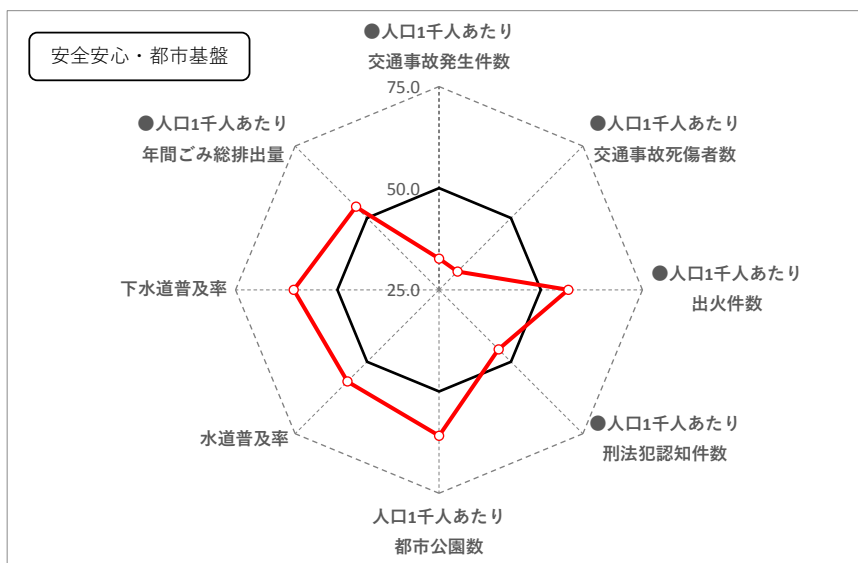
(7) 「住環境」分野



<ポイント>

- 人口1千人あたり小売事業所数、人口密度、可住地人口密度、社会増減率、人口1千人あたり新設住宅着工戸数の偏差値は高くなっている。
- 可住地面積比率、持ち家比率の偏差値は低くなっている。

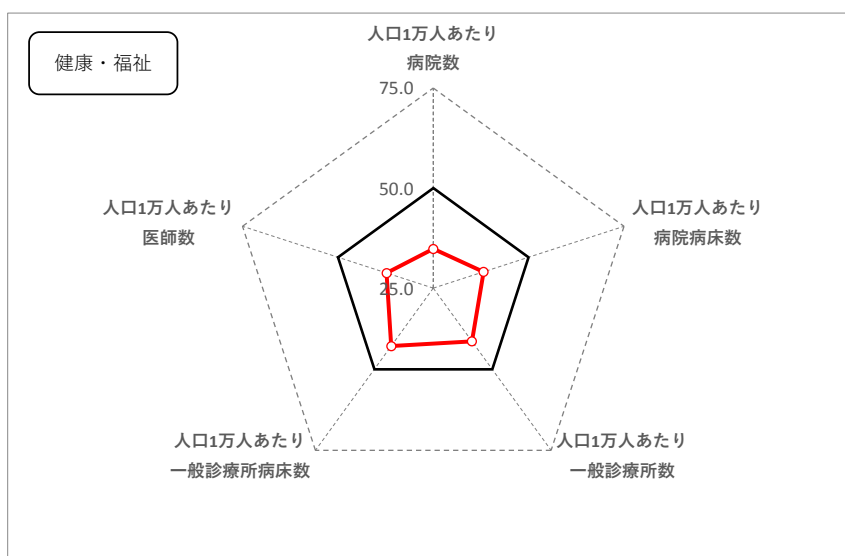
(8)「安全安心・都市基盤」分野 ※●がついている項目は数値が低いほど偏差値が高くなるもの



<ポイント>

- ・人口1千人あたり都市公園数、水道普及率、下水道普及率の偏差値は高くなっている。
- ・人口1千人あたり年間ごみ総排出量、人口1千人あたりの出火件数は、他自治体平均を下回っているため、偏差値は高くなっている。
- ・人口1千人あたり交通事故発生件数、人口1千人あたり交通事故死傷者数、人口1千人あたり刑法犯認知件数は、他自治体平均を上回っているため、偏差値は低くなっている。

(9)「健康・福祉」分野

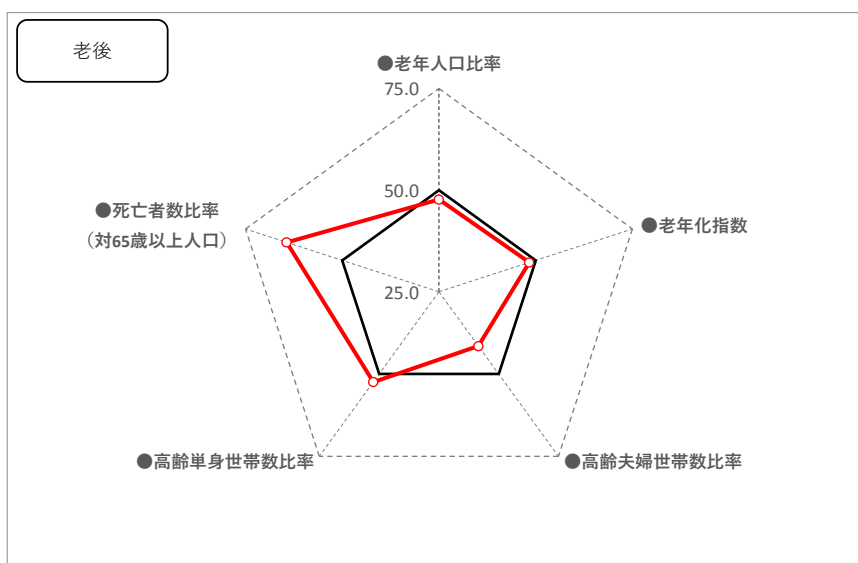


<ポイント>

- ・全ての項目（病院関連）で偏差値は低くなっている。

(注) 本データは、2019年12月に千葉しすい病院が開設される前の時点のもの

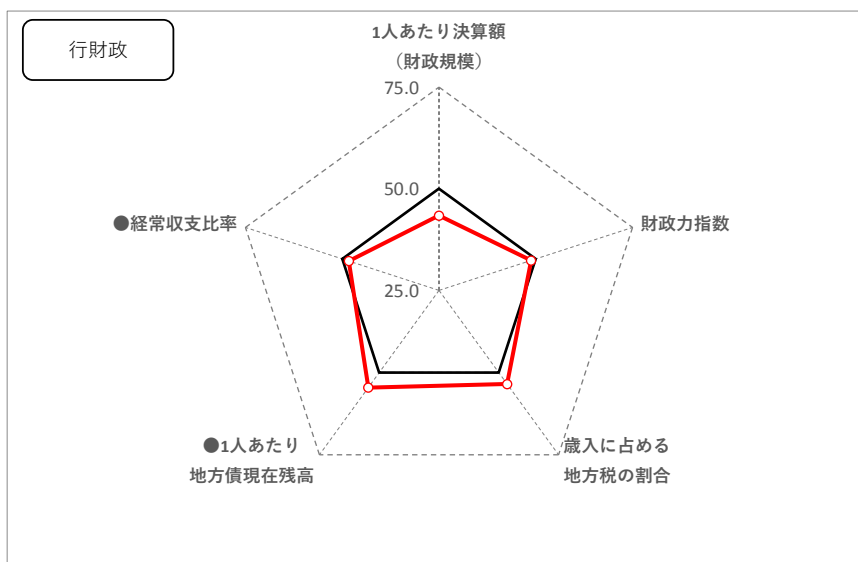
(10)「老後」分野 ※●がついている項目は、数値が低いほど偏差値が高くなるもの



<ポイント>

- ・死亡者数比率（対 65 歳以上人口）は他自治体平均より下回っているため、偏差値は高くなっている。
- ・高齢夫婦世帯数比率は他自治体平均より上回っているため、偏差値は低くなっている。

(11)「行財政」分野 ※●がついている項目は、数値が低いほど偏差値が高くなるもの



<ポイント>

- ・1人あたり地方債現在残高は、他自治体平均より少ないため、偏差値は高くなっている。
- ・1人あたり決算額は他自治体平均より下回っているため、偏差値は低くなっている。

◇使用統計一覧

分野	項目	使用統計
出生・子育て	合計特殊出生率	千葉県衛生統計年報（平成30年）
	自然増減率	総務省・住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数人口動態（平成26年～30年） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	人口1千人あたり保育所定員	千葉県統計年鑑・186.市町村別保育所の状況（平成31年4月1日）
	25-39歳女性労働力率	国勢調査（平成27年10月1日）
	年少人口比率	住民基本台帳（平成31年1月1日）
教育	人口1千人あたり小学校学級数	千葉県統計年鑑・219.市区町村別小学校（令和元年）（統計課「学校基本調査結果報告書」） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	小学生児童1百人あたり教員数	千葉県統計年鑑・219.市区町村別小学校（令和元年）（統計課「学校基本調査結果報告書」） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	人口1千人あたり中学校学級数	千葉県統計年鑑・219.市区町村別中学校（令和元年）（統計課「学校基本調査結果報告書」） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	人口1千人あたり高校数	千葉県統計年鑑・220.市区町村別高等学校（令和元年）（統計課「学校基本調査結果報告書」） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	15-19歳人口あたり高校数	千葉県統計年鑑・220.市区町村別高等学校（令和元年）（統計課「学校基本調査結果報告書」） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
就業環境	生産年齢人口比率	住民基本台帳（平成31年1月1日）
	労働力率	国勢調査（平成27年10月1日）
	就業者率	国勢調査（平成27年10月1日）
	女性就業者比率	国勢調査（平成27年10月1日）
	高齢者就業者比率	国勢調査（平成27年10月1日）
産業	人口1千人あたり事業所数	千葉県統計年鑑・33.市区町村別，産業大分類別（平成28年6月1日） （総務省「経済センサス-基礎調査」）
	販売農家数あたり農業産出額	千葉県統計年鑑・39.（1）市町村別農業産出額（平成29年） （関東農政局千葉農政事務所「千葉県生産農業所得統計」）
	製造業事業所あたり製造品出荷額	千葉県統計年鑑・36. 市区町村別，経営耕地面積規模別農家数(平成29年) 千葉県統計年鑑・81. 市区町村別事業所数，従業者数及び製造品出荷額等(平成29年)
	卸売業事業所あたり年間販売額	千葉県統計年鑑・137. 市区町村別，産業中分類別事業所数，従業者数及び年間商品販売額等 (平成29年)
	小売業事業所あたり年間消費販売額	千葉県統計年鑑・137. 市区町村別，産業中分類別事業所数，従業者数及び年間商品販売額等 (平成29年)
自然・文化	総面積に占める林野面積比率	千葉県統計年鑑・55.市町村別林野面積（平成27年）
	人口1万人あたり公立社会体育施設数	教育庁「千葉県公立社会体育施設調査結果」（令和元年9月1日） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	人口1万人あたり公民館数	総務省「統計でみる市町村のすがた」（平成28年） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	人口1万人あたり図書館数	総務省「統計でみる市町村のすがた」（平成28年） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	人口1万人あたり公共文化施設数	県HP・県内の公立文化施設

分野	項目	使用統計
住 環 境	人口密度	㈱東洋経済新報社「都市データバック2020」
	可住地人口密度	㈱東洋経済新報社「都市データバック2020」
	社会増減率	総務省・住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数人口動態（平成26年～30年） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
	可住地面積比率	統計で見る市町村のすがた（平成30年）（国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調」、 総務省「国勢調査報告」） 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（平成30年）
	人口1千人あたり新設住宅着工戸数	県HP・建築着工統計（令和元年）住民基本台帳（平成31年1月1日）
	持ち家比率	国勢調査（平成27年10月1日）
	人口1千人あたり小売事業所数	千葉県統計年鑑・137.市区町村別、産業中分類別事業所数、従業者数及び年間商品販売額等 （平成29年） 住民基本台帳（平成31年1月1日）
安 全 心 ・ 都 市 基 盤	人口1千人あたり交通事故発生件数	千葉県統計年鑑・277.市町村別交通事故件数及び死傷者数（平成30年） （千葉県警察本部「交通白書」）
	人口1千人あたり交通事故死傷者数	千葉県統計年鑑・277.市町村別交通事故件数及び死傷者数（平成30年） （千葉県警察本部「交通白書」）
	人口1千人あたり出火件数	千葉県統計年鑑・284.市区町村別火災損害状況（平成30年） （防災危機管理部「消防防災年報」）
	人口1千人あたり刑法犯認知件数	千葉県統計年鑑・267.市区町村別刑法犯認知件数（平成30年） （千葉県警察本部「犯罪の概要」）
	人口1千人あたり都市公園数	県HP「みどりの現況値」（平成31年3月31日） （国土交通省「都市公園整備水準調書」）
	水道普及率	千葉県統計年鑑・105.市町村の水道普及状況（平成30年度） （水政課「水道統計調査」）
	下水道普及率	千葉県統計年鑑・106.市町村別公共下水道の普及状況（平成30年度）（下水道課）
	人口1千人あたり年間ごみ総排出量	統計で見る市町村のすがた（平成29年度） （環境省「一般廃棄物処理実態調査」都市公園整備水準調書）
健 康 ・ 福 祉	人口1万人あたり病院数	千葉県統計年鑑・246.市区町村別医療施設及び薬局数（平成30年度）（健康福祉指導課）
	人口1万人あたり病院病床数	千葉県統計年鑑・247.市区町村別病床数（平成30年度） （健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報」）
	人口1万人あたり一般診療所数	千葉県統計年鑑・246.市区町村別医療施設及び薬局数（平成30年度） （健康福祉指導課）
	人口1万人あたり一般診療所病床数	千葉県統計年鑑・247.市区町村別病床数（平成30年度） （健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報」）
	人口1万人あたり医師数	千葉県統計年鑑・248.市区町村別医師・歯科医師・薬剤師数（平成30年12月31日） （健康福祉指導課「千葉県衛生統計年報」）
老 後	老年人口比率	住民基本台帳（平成31年1月1日）
	老年化指数	住民基本台帳（平成31年1月1日）
	高齢夫婦世帯数比率	国勢調査（平成27年10月1日）
	高齢単身世帯数比率	国勢調査（平成27年10月1日）
	死亡率数比率（対65歳以上人口）	千葉県衛生統計年報（平成30年）住民基本台帳（平成31年1月1日）
観 光	人口1万人あたり観光入込数	千葉県観光入込調査報告書（平成30年）
	1調査対象地点あたり観光入込数	千葉県観光入込調査報告書（平成30年）
	人口1万人あたり宿泊客数	千葉県観光入込調査報告書（平成30年）
	外国人宿泊数比率	千葉県観光入込調査報告書（平成30年）
	修学旅行客数比率	千葉県観光入込調査報告書（平成30年）
行 財 政	1人あたり決算額（財政規模）	統計で見る市町村のすがた（平成29年度）
	財政力指数	統計で見る市町村のすがた（平成29年度）
	歳入に占める地方税の割合	統計で見る市町村のすがた（平成29年度）
	1人あたり地方債現在残高	統計で見る市町村のすがた（平成29年度）
	経常収支比率	統計で見る市町村のすがた（平成29年度）